MAKE THE WORLD SEE

Milestone Systems

XProtect[®] Smart Client 2025 R2

ユーザーマニュアル



内容

著作権、商標、および免	2責条項	
基礎		
はじめに		
XProtect Smart Clie	ent:基礎	20
XProtect Smart Clie	entとは?	20
新機能		21
XProtect VMS の重要な	な概念	
使用可能な機能		
利用可能な機能に	について	
ユーザー権限		26
組織の XProtect	t 製品と拡張機能	27
XProtect Smart C	Client 設定のデフォルト値	
ビューとビューアイ	イテム	
ビューアイテムのコ	コンテンツ	29
ライブモード、再生	Eモード、設定モード	
ルール		
インシデント、イベ	ベント、アクション、アラーム	
ブックマーク、エビ	ごデンスロック、ビデオ制限	
マップとスマートマ	マップ	
バウンディングボッ	ックス	
プライバシーマスク	ל	36
アダプティブストリ	リーミングとハードウェアアクセラレーション	
一般的なタスクを解決	:	
ビデオの表示とビュ	ューの操作	
カメラをナビゲート	~	39
状況認識の向上		
ビデオを共有する		
ビデオの共有につ	ついて	
組織内の同僚とヒ	ビデオを共有	
組織外の警備員と	とのビデオ共有	

調査および文書化インシデント	46
インシデントの調査と文書化	46
シナリオ:ライブビデオを見ている時にインシデントに気づいた	47
シナリオ:発生後にインシデントに気づいた	47
すべてのユーザーにXProtect Smart Clientを設定する。	48
コンピュータのパフォーマンスの最適化	49
個人情報保護法の遵守	50
システムの健全性を監視	51
ユーザーインターフェイスを理解する	52
ユーザーインターフェイスの概要	52
デフォルトのタブ	53
グローバルツールバー	54
ワークスペースのツールバー	56
タイムライン	57
複数のタイムライン	57
メインタイムライン	58
タイムライン追跡	58
縦線	59
タイムラインからの録画の操作	59
タイムライン コントロール	59
コンテキスト固有タイムライン	61
拡張機能	62
拡張機能全般	62
XProtect Access	63
XProtect Hospital Assist	63
XProtect Incident Manager	64
XProtect LPR	65
XProtect Rapid REVIEW	66
XProtect Smart Wall	67
XProtect Transact	68
XProtect Smart Client の使用方法を学ぶ	69
ユーザーアシスタンスへのアクセス	69
追加のヘルプリソース	70

導入とログイン	71
XProtect Smart Client:導入とログイン	
ライセンスとシステム要件	
最低限のシステム要件	71
最大ディスプレイ数	
ライセンス	
インストールとアップグレード	72
XProtect Smart Clientをインストールする	72
XProtect Smart Client のアップグレード	73
現在のバージョンの XProtect Smart Client の検証	73
トラブルシューティング:インストールの試み	74
ログインとログアウト	75
ログイン	75
利用可能な追加ログインオプション	76
ログイン時のウィンドウとタブの復元	
認証してログイン	
入退室管理システムへのログイン	76
HTTP 接続を許可	76
トラブルシューティング:ログインの試み	77
ログアウト	
パスワードの変更(基本認証のみ)	79
XProtect Smart Client システムのカスタマイズ	80
XProtect Smart Client 設定のデフォルト値	
XProtect Smart Client の言語の変更	
ログイン時のウィンドウとタブを復元すべきか定義する	81
ビデオとユーザーインターフェースナビゲーションのためにジョイスティックを追加する	
音声通知の音を変更する	
HTTP 接続を許可しない	
XProtect Smart Client の使用方法を学ぶ	83
ユーザーアシスタンスへのアクセス	83
追加のヘルプリソース	83

ビ	デオの表示とビューの操作	
	XProtect Smart Client:ビデオの表示とビューの操作	
	ビデオの表示	
	表示と録画	
	ビューを開き、ビューアイテムを最大化する	
	ウィンドウを全画面表示モードで表示する	85
	ビデオをホットスポットへ送信する	85
	画面自動切替ビューアイテムのビデオを見る	
	ライブビデオのステータスを表示する	
	録画したビデオをメインのタイムラインとは別に表示	88
	録画ビデオ内で時間を前後に移動する	
	カメラおよびビューの検索	89
	複数のオープンビューを操作	
	追加のウィンドウと表示タブ	
	追加の表示タブを開く	
	ビューをサブウィンドウに送信する	
	サブウィンドウの時間をメインウィンドウの時刻と同期させる	
	他の開いているビューを選択し、次にビューアイテムを選択します。	
	すべてのビューのカメラチルトバーとカメラインジケーターを表示/非表示にする	95
	カメラツールバー(カメラビューアイテム)	96
	カメラツールバーを最小化する	
	カメラツールバーに表示された時刻を変更する	
	タイムラインの構成オプション	
	録画間のギャップの再生を設定する	
	タイムライン追跡に表示するものを設定	
	メインタイムラインを非表示にする	
	音で通知	
	音声通知の消音	
	デフォルトのキーボードショートカット	
	トラブルシューティング:ビデオやバウンディングボックスがない	
	ビューを一時的に変更	
	プライベートビューと共有ビュー	

同じカメラからの別のビデオストリームを表示する 10 カメラビューアイテム内のビデオを置き換える 10 ビュー内でカメラビューアイテムを移動/交換する 10 カメラビューアイテムを別の開いているビューに送信する 10 検索を通して一時的なビューを作成する 10 ビューアイテムまたはビューをリセットする 10 ビデオのパン、チルト、ズームイン 10 光学ズームとデジタルズームの違い 10 カメラビューアイテムでデジタルにズームする 10 アイブビデオでパン、チルト、ズームインする 10 アてフトマトロ置を定義する 10
カメラビューアイテム内のビデオを置き換える 10 ビュー内でカメラビューアイテムを移動/交換する 10 カメラビューアイテムを別の開いているビューに送信する 10 検索を通して一時的なビューを作成する 10 ビューアイテムまたはビューをりセットする 10 ビデオのパン、チルト、ズームイン 10 光学ズームとデジタルズームの違い 10 カメラビューアイテムでデジタルにズームする 10 アイブビデオでパン、チルト、ズームインする 10 アTZカメラのプリセット位置を定義する 10
ビュー内でカメラビューアイテムを移動/交換する 10 カメラビューアイテムを別の開いているビューに送信する 10 検索を通して一時的なビューを作成する 10 ビューアイテムまたはビューをりセットする 10 ビデオのパン、チルト、ズームイン 10 光学ズームとデジタルズームの違い 10 カメラビューアイテムでデジタルにズームする 10 ライブビデオでパン、チルト、ズームインする 10 PTZカメラのプリセット位置を定義する 10
カメラビューアイテムを別の開いているビューに送信する 10 検索を通して一時的なビューを作成する 10 ビューアイテムまたはビューをリセットする 10 ビデオのパン、チルト、ズームイン 10 光学ズームとデジタルズームの違い 10 カメラビューアイテムでデジタルにズームする 10 ワイブビデオでパン、チルト、ズームインする 10 アてZカメラのプリセット位置を定義する 10
検索を通して一時的なビューを作成する 10 ビューアイテムまたはビューをリセットする 10 ビデオのパン、チルト、ズームイン 10 光学ズームとデジタルズームの違い 10 カメラビューアイテムでデジタルにズームする 10 ライブビデオでパン、チルト、ズームインする 10 PTZカメラのプリセット位置を定義する 10 PTZカメラのプリセット位置を定義する 10
ビューアイテムまたはビューをリセットする 10 ビデオのパン、チルト、ズームイン 10 光学ズームとデジタルズームの違い 10 カメラビューアイテムでデジタルにズームする 10 ライブビデオでパン、チルト、ズームインする 10 PTZカメラのプリセット位置を定義する 10
ビデオのパン、チルト、ズームイン
光学ズームとデジタルズームの違い 10 カメラビューアイテムでデジタルにズームする 10 ライブビデオでパン、チルト、ズームインする 10 PTZカメラのプリセット位置を定義する 10
カメラビューアイテムでデジタルにズームする
ライブビデオでパン、チルト、ズームインする
PTZカメラのプリセット位置を定義する
PTZカメラのノリセット位直を編集する
プリセット位置でビデオをパン、チルト、ズームインする11
お気に入りの魚眼レンズの位置の定義11
お気に入りの魚眼位置でビデオをパン、チルト、ズームインする11
パトロール
パトロール
手動パトロールセッションの開始および停止11
ルールに基づくパトロールセッションの停止と開始11
ルールに基づくパトロールセッションまたは手動によるパトロールセッションを停止する11
DT7セッシュンの予約とリリーフ 11
プライバシーマスクを外す
プライバシーマスクを外す
112ビアンヨンの予約ビデック、X
 パンピッションの予約とうう へ
 デライバシーマスクを外す
 デジーマスクを外す
パンピアンヨンのFride ワック へ
パンピッションの予約ビッシッス パシーマスクを外す パシーマスク パシーマスクの除去と再適用 パシーマスクの除去と再適用 パロシーマスクの除去と再適用 <pパロシーマスクのための< p=""> <pパロシーマスクの< p=""> <pパロシーマスク< p=""> パロシーマンプロシーレーマンプロシーレーマンプロシーレーマンプロシーレーマンプロシーレーマンプロシーレーマンプロシーレーレーマンプロシーレーレーレーレーレーレーレーレーレーレーレーレーレーレーレーレーレーレーレ</pパロシーマスク<></pパロシーマスクの<></pパロシーマスクのための<>
パンセーマスクを外す 11 プライバシーマスク 11 プライバシーマスクの除去と再適用 11 マップで地理的な概要を把握 11 マップとスマートマップ 11 スマートマップの操作 12 スマートマップ 12 スマートマップ上のデバイスとアラームの表示 12 スマートマップ上でのアイテムの表示 12

スマートマップ上の移動	
スマートマップ上でズームインおよびズームアウトを行う	
スマートマップ上で定義されたロケーションへ移動する	
スマートマップ上で前のロケーションに戻る	
スマートマップ上のデバイスへ移動する	
スマートマップ上でカスタムオーバーレイへ移動する	
スマートマップからビデオや音声を視聴	
1台のカメラからライブビデオをプレビューする	
複数のカメラからライブビデオをプレビューする	
ホットスポットとスマートマップを両方含むビューからのビデオを表示	
ホットスポットを含むが、スマートマップを含まないビュー内のビデオを見る	
スマートマップで音声を聞く	
レイヤーの非表示と表示	
スマートマップのレイヤー	
スマートマップ上のレイヤーを表示または非表示にする	
トラブルシューティング:スマートマップ	
マップの操作	
マップ	
マップの外観	
マップからビデオを視聴し、録画を開始する	
マップのカメラから録画されたビデオを表示	
エレメントとマップの関係	
マップにあるマップ階層を理解するようにしてください。	
マップからフロートウィンドウヘカメラを送信	
マップにステータスの詳細情報を表示する	
マップをナビゲートする	
音声の再生とブロードキャスト	140
音声	
音声を聴く	140
音声ブロードキャスト	
ブロードキャスト	
一台のスピーカーに音声をブロードキャストする	141

複数のスピーカに音声をブロードキャストする	
選択した音声デバイスへロック	142
オープンビューに関連付けられた音声デバイスだけをリスト表示する	
音声ボリューム音量の調整	
オーディオ設定概要	
エビデンスの収集と共有	144
インシデントの調査と解決に対する貢献	
ビデオの手動録画	
スナップショットを撮って共有する	
ビデオにブックマークを付ける	145
Matrix ビューアイテムを含む共有ビューへのビデオの送信	
Matrixのコンテンツの表示	145
Matrixビューアイテムにビデオを送信する	
インシデントへの対応	
XProtect Smart Client:インシデントへの対応	147
アラームとイベントの操作	
イベントおよびアラーム	147
アラーム	
イベントおよびアラームの関係	
アラームリストの使用	
アラームリストのサーバー	
アラームのステータス	
アラームのフィルター	
FAQ:アラーム	
アラームへの応答	
アラーム詳細の表示および編集	
アラームを確認	
選択したイベントタイプで新規アラームをすべて無効にする	
マップでアラームを無視する	
アラームを処理済みにする	
アラームレポートを印刷する	
アラームの統計を取得する	

スマートマップ上のアラーム	156
マップ上のアラーム	
イベント	157
イベントを手動で有効化する	157
ブックマークの追加	
ブックマーク	
詳細なブックマークを有効にする	
ブックマークの追加	
ブックマークウィンドウ	159
ブックマークを追加または編集する	
ブックマークを削除	
ブックマークされたビデオの検索またはエクスポート	163
FAQ:ブックマーク	
ビデオへのアクセス制限	164
ビデオ制限	164
ビデオ制限とさまざまなサイト	164
再生制限を作成	
ライブ制限を作成	165
ビデオ制限とエビデンスロック	165
ライブビデオまたは録画ビデオに制限を作成する	
ライブ制限の作成	
再生制限を作成する	
すでに制限のあるカメラへの新たな制限の作成	
ライブ制限	
再生制限	167
制限付きビデオを表示する	
ビデオ編集の制限	168
1つ以上のライブ制限を編集する	
1つ以上の再生制限を編集する	
ビデオ制限を解除する	169
再生制限の削除	169
ライブ制限の削除	

制限付きビデオのエクスポート	
ビデオ制限リスト	
ビデオ制限リスト	
ライブ制限の非表示または未表示	
リストの検索とフィルター	
ビデオ制限リストの設定	
ビデオ制限ステータスのメッセージ	
調査および文書化インシデント	
XProtect Smart Client:調査および文書化インシデント	
インシデントの調査	
録画された映像の閲覧	
再生モードで録画したビデオを表示する	
録画したビデオをメインのタイムラインとは別に表示	
検索タブで録画ビデオを表示します。	
検索中	
検索中	
ビデオシーケンスで複数の条件を検索します	
定義されたエリアで動作を検索	
モーション検索いき値	
モーション検索いき値 ブックマークの検索	
モーション検索いき値 ブックマークの検索 アラームの検索	
モーション検索いき値 ブックマークの検索 アラームの検索 イベントの検索	
モーション検索いき値 ブックマークの検索 アラームの検索 イベントの検索 人物の検索	183
モーション検索いき値 ブックマークの検索 アラームの検索 イベントの検索 人物の検索	183
モーション検索いき値 ブックマークの検索 アラームの検索 イベントの検索 人物の検索 車両の検索 特定のロケーションで録画されたビデオを検索	183
モーション検索いき値 ブックマークの検索 アラームの検索 イベントの検索 人物の検索 車両の検索 特定のロケーションで録画されたビデオを検索 検索結果、設定、アクション	
モーション検索いき値 ブックマークの検索 アラームの検索 イベントの検索 人物の検索 車両の検索 特定のロケーションで録画されたビデオを検索 検索結果、設定、アクション 検索結果の調査	
モーション検索いき値 ブックマークの検索 アラームの検索 イベントの検索 し 車両の検索 特定のロケーションで録画されたビデオを検索 検索結果、設定、アクション 検索結果の調査 検索タブでタイムラインを検索	
 モーション検索いき値 ブックマークの検索 アラームの検索 イベントの検索 人物の検索 車両の検索 特定のロケーションで録画されたビデオを検索 検索結果、設定、アクション 検索結果の調査 検索結果から利用できるアクション 	
 モーション検索いき値 ブックマークの検索 アラームの検索 イベントの検索 人物の検索 車両の検索 特定のロケーションで録画されたビデオを検索 検索結果、設定、アクション 検索結果の調査 検索結果の調査 検索結果から利用できるアクション マージされた検索結果 	183
 モーション検索いき値 ブックマークの検索 アラームの検索 イベントの検索 人物の検索 車両の検索 特定のロケーションで録画されたビデオを検索 検索結果、設定、アクション 検索結果の調査 検索系結果から利用できるアクション マージされた検索結果 検索条件の一部またはすべてに一致 	183

サブウィンドウで検索結果を開く	
検索結果からビデオをプレビュー	
検索中にバウンディングボックスを表示/非表示にする	
検索並べ替えオプション	
マップでカメラの位置を特定する	
検索中にカメラの位置を特定する	
カメラアイコン	
検索結果のブックマーク	
検索結果のスナップショットを撮る	
検索結果のブックマークを編集する	
検索時間をメインタイムラインに転送	
検索を保存して開く	
検索の管理	
検索条件の保存	
保存した検索条件を探して開く	
保存した検索条件の詳細を編集	
検索条件の構成を変更	
保存した検索条件を削除	
検索を通して一時的なビューを作成する	
FAQ: 検索	
トラブルシューティング:検索	
エラーメッセージと警告	
エッジストレージと Milestone Interconnect の録音の操作	
エッジ ストレージ およびMilestone Interconnectからの録画	
メインタイムラインとエッジ取得	
録画を手動で取得する	
すべてのエッジ取得ジョブを表示する	
エビデンスロックの使用	
エビデンスロック	
再生モードでエビデンスロックを作成する	
検索タブでエビデンスロックを作成する	
エビデンスロックの表示	

	エビデンスロックを編集する	. 217
	エビデンスロックのあるビデオを再生する	. 217
	ロックされたエビデンスビデオのエクスポート	.218
	エビデンスロックを削除する	. 218
	エビデンスロック設定	. 219
	エビデンスロックフィルター	. 220
	エビデンスロックのステータスメッセージ	. 221
I	クスポート	. 223
	ビデオ、音声、静止画像のエクスポート	. 223
	エクスポート形式の種類	223
	エクスポートリストにビデオシーケンスを追加	.224
	エクスポート設定の調整	225
	エクスポートを作成する	226
	エクスポートリストを復元	. 228
	エクスポート中にプライバシーマスクを録画に追加	228
	ストーリーボード	229
	ストーリーボードのエクスポート	. 229
	ロックされたエビデンスビデオのエクスポート	.229
	エクスポートされたビデオの表示	.230
	監視レポート	. 231
	監視レポートの印刷または作成	. 231
	単一カメラから監視レポートを印刷	231
	検索結果からレポートを作成	232
	画像をクリップボードにコピー	233
	エクスポート形式と設定	233
	エクスポート形式	. 233
	XProtectフォーマットの設定	234
	メディアプレーヤー形式の設定:個別ファイル	. 236
	メディアプレーヤー形式の設定:統合されたファイル	. 237
	静止画像形式の設定	. 239
	エクスポートタブで設定する	239
	XProtectフォーマットでエクスポートされたデータベースの修復	. 240

FAQ:エクスポート	
トラブルシューティング:エクスポート中	
システムの健全性を監視	
XProtect Smart Client:システムの健全性を監視	
サーバー接続を確認しています	
サーバー接続のステータスをチェック	
XProtect Smart Client のシステムを監視	
システムの監視	
Milestone Federated Architectureのある [システムモニター] タブ	
クライアントリソースのモニター	245
ビューの作成	
XProtect Smart Client:ビューの作成	
セットアップモード	
セットアップモード	
ビューの作成	
プライベートビューと共有ビュー	249
ビューの作成	
コンテンツをビューに追加	
ビューグループの作成	
ビューの作成	
検索を通して一時的なビューを作成する	251
ビューまたはビューグループをコピーします。	251
ビューヘショートカット番号を割り当てる	
ビューアイテムにビデオを追加	
ビューにカメラを追加する	
ビューアイテムでビデオの寸法を定義する	
カメラタイトルバーとインジケーターを表示/非表示にする	253
重要なオブジェクトの周囲にバウンディングボックスを表示する	
ライブビデオからジッタを取り除く	
カメラビューアイテムにカメラコマンドを追加	255
オーバーレイボタン	
カメラビューアイテムにオーバーレイボタンを追加する	

カメラは交換するが、その設定は維持する	
画面自動切替をビューに追加する	
ビューにホットスポットを追加する	
ビューにMatrixのコンテンツを追加する	
PTZクリックモードを変更する	258
音声通知を再生	
音で通知	259
モーションに関する音声通知を再生する	
イベント発時に音声通知を再生する	
帯域幅、CPU、GPUの使用率の向上	
帯域幅、CPU、GPUの使用率の改善	
固定されたライブストリームを選択する	
モーションのあるライブストリームのみを更新する	
カメラ設定(プロパティペイン)	
ビューアイテムに他のコンテンツを追加	
アラームの追加	
ビューにアラームリストを追加する	
アラームリストの設定	
アラームプレビューの設定	
ビューにスマートマップを追加する	
Smart Mapをビューに追加する。	266
ビューにウェブページを追加する	
Webページのプロパティ	
トラブルシューティング:ビューにウェブページを追加する	
ビューにテキストと画像を追加する	
すべてのユーザーの機能を設定する	
XProtect Smart Client:すべてのユーザーの機能を設定する	
セットアップモード	
セットアップモード	
アダプティブストリーミングの有効化	
アダプティブストリーミングの利点と要件	
アダプティブストリーミングを有効にする	

利用可能なビデオストリームの確認	
ハードウェアアクセラレーションの有効化	
ハードウェアアクセラレーションの利点と要件	276
ハードウェアアクセラレーション設定をチェックします	
CPU Quick Syncのサポート確認	278
デバイスマネージャの確認	
NVIDIAハードウェアアクセラレーションを確認します。	
BIOSでIntel ディスプレイ アダプタを有効にする	
ビデオドライバを更新します	280
モジュール設定の確認	
パトロール設定の設定	
パトロールプロファイル	
パトロールプロファイルを追加する	
パトロールプロファイルで位置を指定する	
パトロール設定の各位置における時間を指定します	
パトロール設定の終了位置を指定してください	
パトロールプロファイルの削除	
地理的概要の作成	
マップとスマートマップの違い	
スマートマップの作成	285
スマートマップの使用	
ビューにスマートマップを追加する	
地理的背景	
地理的背景の種類	
スマートマップの地理的背景を変更する	
Milestone Map Serviceを有効にする	
OpenStreetMapタイルサーバー	
OpenStreetMapタイルサーバーの変更	
スマートマップでレイヤーを表示または非表示する	
スマートマップのレイヤー	
レイヤーの順番	
スマートマップ上のレイヤーを表示または非表示にする	

スマートマップのデフォルト設定を指定する	291
カスタムオーバーレイの追加、削除および編集	
カスタムオーバーレイ	
カスタムオーバーレイおよびロケーション	
スマートマップにカスタムオーバーレイを追加する	
カスタムオーバーレイヘロケーションを追加する(スマートマップ)	293
スマートマップ上のカスタムオーバーレイを削除する	294
シェープファイル上のエリアをより見やすくする(スマートマップ)	294
カスタムオーバーレイの位置、サイズ、または配置の調整をする	
スマートマップ上のデバイスの追加、削除、編集	296
スマートマップ上のデバイス	
スマートマップにデバイスを追加する	
カメラの視野および方向を変更する	
デバイスアイコンを選択または変更する	
デバイス情報を表示または非表示にする	
スマートマップからデバイスを削除する	
スマートマップ上のリンクの追加、削除および編集	
スマートマップ上のリンク	
スマートマップのロケーションまたはマップヘリンクを追加する	
スマートマップ上のリンクを編集または削除する	
スマートマップ上のロケーションの追加、削除および編集	
スマートマップ上のロケーション	
スマートマップのホームロケーション	305
スマートマップにロケーションを追加する	
スマートマップ上のロケーションを追加、編集または削除する	
ロケーション同士のリンク	
スマートマップへの建物の追加、削除および編集	
スマートマップ上の建物	307
スマートマップに建物を追加する	
スマートマップ上の建物を編集する	
スマートマップ上の建物を削除する	
建物の階とデバイスの管理(スマートマップ)	309

建物のデバイスと階	
建物の平面図とデバイス	
建物の階を追加または削除する	
建物内の階の並べ替え(スマートマップ)	
建物のデフォルトの階を設定する(スマートマップ)	
平面図を階に追加(スマートマップ)	
平面図の削除(スマートマップ)	
建物にデバイスを追加する(スマートマップ)	
FAQ:スマートマップ	
トラブルシューティング:スマートマップ	315
マップの作成	
マップをビューに追加	
マップ設定	
マップツールボックスの中のツール	
マップの右クリックメニュー	
マップの背景を変更する	
マップの削除	
マップのエレメントの追加と削除	
ホットゾーンをマップに追加	
マップのエレメントの外観の変更	
マップ上でのラベルの編集と回転	
マップのテキストを追加/編集	323
FAQ:マップ	
マップからスマートマップへの移行	
マップからスマートマップへの移行	324
マップ移行ツールを用いたマップからスマートマップへの移行	
スクリプトの作成	
ログインスクリプト	
XProtect Smart Clientヘログインするためのスクリプト	
ログインのスクリプト-パラメータ	
ナビゲーション用のHTMLページスクリプト	
ナビゲーション用のHTMLページのスクリプト	

ボタンを使ったHTMLページのナビゲーション例	
画像マップ付きのHTMLページのナビゲーション例	
HTMLページのインポート	
システム管理者のためのチェックリスト	332
ユーザーアシスタンスへのアクセス	333
ユーザーアシスタンスへのアクセスを有効または無効にする	
XProtect Smart Client 設定の概要	
XProtect Smart Client:設定の概要	
設定ウィンドウを開く	334
[設定] ウィンドウが表示されます。	334
異なる設定タブ	334
アプリケーション設定	334
ペイン設定	
機能設定	
タイムライン設定	
エクスポート設定	
スマートマップ設定	
検索設定	
ジョイスティック設定	
キーボード設定	
アラームマネージャー設定	
拡張設定	
言語設定	
入退室管理の設定	353
用語集	

著作権、商標、および免責条項

Copyright © 2025 Milestone Systems A/S

商標

XProtect は Milestone Systems A/S の登録商標です。

Microsoft および Windows は、Microsoft Corporation の登録商標です。App Store は Apple Inc. のサービスマーク です。Android は Google Inc. の商標です。

本文書に記載されているその他の商標はすべて、該当する各所有者の商標です。

免責条項

本マニュアルは一般的な情報を提供するためのものであり、その作成には細心の注意が払われています。

この情報を使用することにより発生するリスクはすべて、使用者が負うものとします。また、ここに記載されている 内容はいずれも、いかなる事柄も保証するものではありません。

Milestone Systems A/S は、事前の通知なしに変更を加える権利を有するものとします。

本書の例で使用されている人物および組織の名前はすべて架空のものです。実在する組織や人物に対する類似性は、 それが現存しているかどうかにかかわらず、まったく偶然であり、意図的なものではありません。

この製品では、特定の規約が適用される可能性があるサードパーティー製ソフトウェアを使用することがあります。 その場合、詳細はMilestoneシステムインストールフォルダーにあるファイル**3rd_party_software_terms_and_** conditions.txtをご参照ください。

基礎

はじめに

XProtect Smart Client:基礎

XProtect Smart Client: 「基礎」は、接続されたデバイスからビデオおよびオーディオの表示・管理のために XProtect Smart Clientを使用する方法についてのガイドです。

対象のトピック

このガイドの目的は、XProtect Smart Clientの使用を最適化し、状況認識と応答時間を向上させることです。

このガイドでは、以下の主要なタスクを取り上げています。

- ユーザーインターフェイスの参照
- ビューの設定
- 検索の実行
- インシデントおよびアラームの管理

このガイドでは、より高度な作業環境を実現するために、XProtect Access、XProtect Incident Manager、XProtect Rapid REVIEWなどの拡張機能を統合する方法についても説明します。

対象者

このガイドの対象者には、XProtect Smart Clientの管理と操作に責任を負うセキュリティ担当者、オペレータ、技術 スタッフが含まれています。

XProtect Smart Clientとは?

XProtect Smart Clientは、XProtect VMSシステムに接続されたカメラやその他のデバイスのビデオを表示したり、 音声を聞いたりすることができるデスクトップアプリケーションです。XProtect Smart Clientを通じて、ライブおよ び録画されたビデオ、音声、メタデータにアクセスしたり、カメラやその他のコネクタデバイスを制御したりするこ とができます。高度な検索を実行して、サーバーに保存されているビデオデータや音声データ、サポートされている メタデータを見つけることができます。

XProtect Smart Clientは、複数の言語でご利用いただけます。適合性のあるユーザーインターフェースで、個々の ユーザーのスキルに合わせて最適化され、特定のスキルや権限レベルに応じて調整できます。



新機能

XProtect Smart Client 2025 R2

スナップショットにタイムスタンプとカメラ名を追加する

 XProtect Smart Clientのスナップショットにタイムスタンプとカメラ名を表示することを選択できるように なりました。オプションで各オプションを有効にします。これらの詳細は、印刷したりクリップボードにコ ピーしたりしたスナップショットにも表示されます。

アプリケーション設定 on page 334をご参照ください。

XProtect Smart Client2025 R1の新機能

メディアプレーヤー形式での統合されたファイルのエクスポートに関する追加設定

 エクスポートされたビデオの再生方法に関するフォーマットとレイアウトの種類。タイムスタンプやカメラ 名をオーバーレイとして含めることできます。メディアプレーヤー形式の設定:統合されたファイル on page 237をご参照ください。

同じビューアイテムにテキストと画像を追加する

• 以前は、ビューアイテムにテキストまたは画像のみを追加できました。これが、両方追加できるようになり ました。ビューにテキストと画像を追加する on page 269をご参照ください。

ジョイスティックボタンのより柔軟な使用をサポート。

 デバイスの製造元がキーシーケンスサポートのためにボタンを設定しており、選択したアクションがそれを サポートしている場合、設定ウィンドウのパラメータフィールドは空白のままにすることができます。ボタ ン設定:パラメータ on page 346をご参照ください。

ポスターを印刷・掲示

 XProtect Smart Clientユーザー向けに新しいタイプのガイドを導入しています。印刷用にデザインされた1 ページのポスターで、インフォグラフィックと短いステップバイステップの説明が含まれているポスターを 印刷・掲示します。すべての印刷・掲示されたポスターには、関連するeラーニングビデオを視聴できるQR コードが含まれています。ポスターの印刷・掲示は、ビデオの閲覧と検索に利用できます。さらに、さまざ まなシナリオやすべてのエクスポート形式でエクスポートする方法を示す一連のポスターの印刷・掲示を作 成しました。

XProtect Smart Client2024 R2

ユーザーアシスタンスの再構築

- XProtect Smart Clientユーザーの様々な役割やタスクによりよく対応するために、ユーザーアシスタントの プレゼンテーションが再構築されました。この再構築は、今後のいくつかのリリースでも継続します。今回 のリリースでは、ビデオの表示とビューの操作およびビューの作成セクションが充実し、これらの目標に関 連するタスクを解決することで得られるすべてのメリットと解決方法が重点的に説明されています。
- Milestone XProtect VMSのすべてのバージョンでスマートマップが利用できるようになりました。一部の バージョンではGoogle Maps、Bing Maps、CAD ファイルだけが使用できます。
- 従来のマップ機能からスマートマップへの切り替えプロセスをサポートするため、マップ移行ツールが追加 されています。このツールをガイドとして使用し、オーバーレイとデバイスを追加します。
- XProtect Smart Clientで人を検索する際、髪や服の色、服の柄の種類、ひげの種類などで検索できるように なりました。車両の検索についてもいくつかのアップデートがあり、車両の種類などの検索オプションが増 えました。

XProtect Access

• アクセスリクエスト通知の表示/非表示の方法もアップデートされています。

XProtect Smart Client 2024 R1

ユーザーアシスタンスのインストール

 以前は、XProtect Smart Clientのインストール時にユーザーアシスタンスもインストールされ、インストー ラ起動後に利用できるようになっていました。このアップデートにより、ユーザーアシスタンスはソフト ウェアのインストール時に一緒にインストールされず、ユーザーアシスタンスのみを個別にインストールで きるようになりました。SECTION AND PAGE REFERENCEをご参照ください。

ビデオシーケンスのエクスポート

 メディアプレーヤー形式でビデオシーケンスをエクスポートする際は、ビデオシーケンスを個別ファイル(1 つのビデオシーケンスを含む)または統合ファイル(複数の統合されたビデオシーケンス)としてエクス ポートできます。

「基礎」のセクションの更新内容は以下の通りです。

- 重要な XProtect VMS の概念
- 一般的なタスクを解決。
- XProtect Smart Client の使用方法を学ぶ。

新しい**展開とログイン**についてのセクション

新しい展開とログインについてのセクションには、XProtect Smart Clientのインストール、アップグレード、最低要件、ライセンス、ログインについてのすべての既存のコンテンツに加え、XProtect Smart Clientシステムの初期カスタマイズについてのコンテンツが含まれています。

XProtect Smart Client 2023 R3 の新機能

複数の表示タブ:

• XProtect Smart Client のメインウィンドウおよびサブウィンドウには、ビューを持つタブをいくつでも作る ことができます。ビューのあるタブには、選択したビューの名前が付けられます。

ログイン時のウィンドウとタブの復元:

 機能と説明を改善しました。ログイン時のウィンドウとタブの復元 on page 76とログイン時のウィンドウと タブを復元すべきか定義する on page 81をご参照ください。

スマートマップ上のデバイスの追加、削除、編集:

• 入力デバイスと同じように、出力デバイスを追加して有効にすることができます。スマートマップ上のデバ イス on page 296をご参照ください。

スマートマップ上のカスタムオーバーレイの追加、削除および編集:

シェープファイルでは、塗りつぶしや線の色を追加して、シェープファイルをよりシャープに見せることができます。シェープファイル上のエリアをより見やすくする(スマートマップ) onpage294をご参照ください。

XProtect Smart Client 2023 R2 の新機能

メインタイムラインの再設計

- メインのタイムラインに関するドキュメントは、再設計を反映して更新しました。メインタイムライン on page 58もご参照ください。
- ビデオ閲覧ディスプレイを最適化するために、非アクティブ中のメインタイムラインを非表示にする新しい2 つの機能が追加されています。メインタイムラインを非表示にする on page 100をご参照ください。
- タイムラインのさまざまな構成オプションのドキュメントが更新されました。タイムラインの構成オプション on page 99をご参照ください。

特定の視聴者向けの2つの新ガイド

- 新規ユーザーを対象とした XProtect Smart Client 入門ガイドです。
- XProtect Smart Client Player クイックガイドは、XProtect Smart Client Player 形式でエクスポートされ たビデオを受け取る、組織外のオペレータ、権限者、またはその他のセキュリティ専門家を対象としたク イックガイドです。

プライバシーマスク:

 プライバシーマスクの追加と削除は、エクスポートリストで選択するカメラからのエクスポートにすべての ビデオシーケンスが摘要するようになりました。

XProtect Smart Client 2023 R1 の新機能

新しい[表示]タブでは、[ライブ]タブと[再生]タブが置き換えられています。

- [表示]タブでは、新しいトグルスイッチを使用してライブまたは再生モードでビデオを表示する選択ができ ます。
- 再生モードでは、[再生]タブと同じ特徴と機能を使用できます。
- ライブモードでは、**ライブ**タブと同じ特徴と機能を使用できます。

エクスポート、エビデンスロック、ビデオ制限のボタンが、XProtect Smart Clientの右下隅から右上隅にあるワー クスペースツールバーに移動しました。

XProtect Incident Manager:

• GDPR または個人データに関するその他の適用法を遵守するために、XProtect Management Client のシステム管理者はインシデントプロジェクトの保存期間を定義できます。

XProtect Smart Client 2022 R3 の新機能

XProtect Incident Manager :

- 現在、XProtect Incident Manager 拡張機能は、XProtect Expert、XProtect Professional+、および XProtect Express+のバージョン 2022 R3 以降とも互換性があります。
- XProtect Incident Manager は 10,000 件以上のインシデントプロジェクトを表示できるようになりました。

XProtect Smart Client 2022 R2 の新機能

XProtect Incident Manager :

- この拡張機能の最初のリリース。
- XProtect Incident Manager 拡張機能は、XProtect Corporate のバージョン 2022 R2 以降、およびXProtect Smart Client のバージョン 2022 R2 以降と互換性があります。

XProtect LPR :

• [LPR]タブでは、LPRイベントに関連付けられたナンバープレートスタイルを表示できるようになりました。

ブックマーク:

 キーワードを入力してブックマークの検索結果をフィルターする場合、すべてのブックマークフィールド、 ヘッドラインのみ、または説明のみの中からキーワードを検索する場所を指定できるようになりました。 ブックマークの検索 on page 183をご参照ください。

XProtect Smart Client 2022 R1 の新機能

エクスポート:

• ビデオデータのエクスポートに関連するものは、すべてエクスポートという専用タブに残ります。

XProtect Smart Client 2021 R2

エクスポート:

セキュリティを強化するために、このXProtect形式はデフォルトのエクスポート形式です。他のエクスポート形式を有効にするには、システム管理者に連絡してください。

新しいカメラアイコン:

• 新しいカメラアイコンを使用すると、固定カメラとPTZカメラを区別できます。

ビューとカメラの垂直スクロール:

• Shiftキーをスクロールホイールと組み合わせて使用して、ナビゲーション領域を左または右に移動します。

削除された機能:

- カメラナビゲーター
- 簡易モード:この機能は、ビデオのエクスポートを表示するために使用されるXProtect Smart Client Playerでも削除されました。

XProtect Smart Client 2021 R1

検索中:

- 関連性で検索結果を並べ替えます。検索並べ替えオプション on page 195もご参照ください。
- 管理者は1回の検索で許可されるカメラの数を制御できます。

スマートマップ:

- スマートマップの地理的背景としてMilestoneMapServiceを使用します。MilestoneMapServiceを有効にすると、それ以上の設定は必要ありません。MilestoneMapServiceを有効にするonpage287をご参照ください。
- クラスタ内のさまざまな種類のデバイスの概要を確認してください。ズームアウトしてクラスタをクリック すると、特定のエリア内のデバイスの種類と数が表示されます。クラスタアイコンによって共有される情報 on page 122をご参照ください。
- 異なるタイプのデバイスをスマートマップに追加します。カメラのほか、入力デバイスやマイク、MIP SDK で追加されたエレメントも使用できます。スマートマップ上のデバイス on page 296もご参照ください。
- ズーム機能が改善されました。クラスタをダブルクリックすると、グループ化されたデバイスにズームイン できます。スマートマップ上でズームインおよびズームアウトを行う on page 125もご参照ください。

セキュリティ:

• 基本ユーザーは、自主的に、または管理者に変更するよう指示された場合にパスワードを変更できます。パ スワードの変更(基本認証のみ) on page 79をご参照ください。

XProtect VMS の重要な概念

使用可能な機能

利用可能な機能について

ログインして XProtect Smart Client を使用できるようになったからといって、ソフトウェアのすべての機能に自動 的にアクセスできるわけではありません。

なぜですか?XProtect Smart Client のどの機能を使用できるかは、以下に依存します。

- 組織が購入した XProtect VMS 製品
- 組織が購入した XProtect 拡張機能またはその他のサードパーティーソリューション
- システム管理者から付与されたユーザー権限
- システム管理者によって定義されたXProtect Smart Client設定、またはユーザー自身が定義した設定のデフォルト値

ユーザー権限

XProtect Smart Client には、多数の機能が含まれています。ユーザーが特定の機能にアクセスできるかどうかを制 御するのは、XProtect VMS システムのシステム管理者です。

システム管理者がXProtectVMSシステムでユーザーを作成する時、デフォルトではユーザーには権限はありません。

通常、機能に対するユーザー権限がない場合、その機能に関連するすべてのユーザーインタフェース要素は XProtect Smart Client で非表示になります。例えば、ビデオをエクスポートする権限がない場合、すべての [エクス ポート] ボタンとデフォルトの [エクスポート] タブは非表示になります。

各ユーザーがXProtectSmartClientで表示、使用できる機能は、同じ組織内であっても大きく異なる場合があります。

例えば、以下の機能は管理者がお客様にユーザー権限を付与しない機能である場合があります。

- XProtect Smart Client へのログイン
- アラーム、ライブビデオ、または録画ビデオの表示
- ビデオの検索
- ビデオのエクスポート
- 設定モードへのアクセス

- 共有ビデオの作成
- 特定のカメラからのビデオの表示
- ブックマークまたはエビデンスロックの適用

ユーザー権限は、時刻、曜日、および複数の要因の組み合わせによっても異なります。例えば、月曜日から金曜日ま での勤務時間中は、特定のカメラからのライブビデオのみを表示できますが、勤務中は、ビデオがいつ録画されたか に関係なく、カメラからすべての録画ビデオを確認することができます。

ビデオ制限機能を使用すると、調査員は特定のカメラからのビデオに対するユーザー権限を特定の期間、一時的に無効にすることができます。

組織の XProtect 製品と拡張機能

XProtect Smart Client で使用できる機能は、組織が購入した XProtect VMS 製品、XProtect 拡張機能、およびサードパーティーソリューションによっても異なります。

複数の XProtect VMS 製品があります。最上位の XProtect VMS 製品ではすべての機能が使用できますが、それ以外の XProtect VMS 製品で使用できる機能はそれより少なくなっています。

組織が最上位の XProtect VMS 製品を1つ購入すると、1つ以上の XProtect 拡張機能が含まれます。拡張機能は、 XProtect Smart Client に機能を追加します。同様に、XProtect Smart Client に機能を追加する他の XProtect 拡張機 能やサードパーティーソリューションを購入している場合もあります。

興味がある場合は、システム管理者に問い合わせて、組織が所有しているXProtectVMS製品と拡張機能を確認して ください。また、製品比較チャートを参照して、組織が購入した製品に含まれている機能一式を確認することもでき ます。

XProtect Smart Client 設定のデフォルト値

XProtect Smart Client は、さまざまな方法でカスタマイズできます。

XProtect Smart Client 設定では、XProtect Smart Client の動作の一部と使用可能な機能を変更できます。

システム管理者は、特定またはすべての設定のデフォルト値を設定したり、設定の責任をユーザーに委任したりする 場合があります。特定の設定のデフォルト値を変更する権限がある場合もありますが、変更が許可されないこともあ ります。

設定はいつでも変更できますが、一部の設定を変更するとXProtectSmartClientの再起動が必要になる場合がありま す。

定義した設定は、コンピュータのローカルユーザーアカウントに保存されます。

XProtect Smart Client 設定の例をいくつか示します。

- ビデオの境界ボックスを表示/非表示にできます。
- メインタイムラインのタイムライン追跡の音声録音を表示/非表示にできます。
- スナップショットのデフォルトのパス。
- 前回のログインからビューを復元できます。

すべての XProtect Smart Client 設定は、以下で見つけることができます。

• グローバルツールバーで [設定とその他] メニュー、次に [設定] を選択します。

ビューとビューアイテム

XProtect Smart Client でビデオを表示するには、ライブモードまたは再生モードのビューを選択して切り替えます。

ビューはテーブルに似ています。XProtect Smart Client では、テーブル内のセルをビューアイテムと呼びます。 ビューには、さまざまなコンテンツを表示するために、1~100 個のビューアイテムを含めることができます。

多くの場合、コンテンツはカメラからのビデオですが、マップ、Web ページ、静止画像、テキスト、ホットスポット、画面自動切替、Matrixなどもあります。



必要な数のビューを作成し、同じカメラまたは他のコンテンツからのビデオを必要な数のビューとビューアイテムに 追加できます。

魚眼カメラからデワープしたビデオを複数のビューアイテムに追加して、各ビューアイテムにビデオの異なる領域を 表示できます。ライブビデオと録画ビデオの両方で、デジタルズームを使用してカメラビューアイテムのビデオ内を 移動できます。

ビューには、共有ビューとプライベートビューがあります。

- 共有ビュー:複数のユーザーが利用できます。通常はシステム管理者またはスーパーバイザーによって作成されます。
- プライベートビュー: 作成したユーザーのみが利用できます。

設定モードに切り替える権限がある場合は、プライベートビューを作成できます。プライベートビューは**プ ライベート**フォルダーに保存され、お客様がXProtect Smart Clientにログインすることでどのコンピュー ターからでも利用できます。

また、デフォルトのペインから常に新しいコンテンツをドラッグして、既存のビューにアイテムを表示することもで きます。ただし、ビューを編集する権限があり、最初から設定モードになっていない限り、変更は一時的なものにす ぎません。

さまざまなエリアを網羅する、または特定の目的やタスクのために、カメラからのコンテンツやビデオを含むビュー を作成することをお勧めします。例えば、すべてのカメラが網羅するビューは次のようになります。

- 建物1の受付エリア
- 駐車場 A
- 建物1のすべての廊下
- すべての建物のすべての入口
- 周辺エリア

ビューアイテムのコンテンツ

ビューアイテムには多くの場合、カメラからのビデオが含まれているため、何が起こっているかを確認できますが、 他の種類のコンテンツをビューアイテムに追加することもできます。

コンテンツ の種類	目的とメリット
アラーム	優先順位を付けたアラームのリストを共有することで、XProtect Smart Clientユーザーはア ラーム関連のインシデントに集中して対応することができます。
カメラ	カメラのライブビデオや録画ビデオを表示します。
画面自動切 替	カメラグループ内の各カメラからのライブビデオを順番に表示するので、自分の地域で何が 起こっているかを把握できます。
ホットス	同じビュー内の他のビューアイテムでカメラを選択すると、ホットスポットビューアイテム

ポット	でより高画質でビデオを見ることができます。
マップとス マートマッ プ	地理マップを使用して、XProtect VMSシステム上のカメラおよびデバイスにアクセスできま す。マップにより、ご自分の地域の状況認識が向上します。
Matrix	同僚同士が、インシデントの認識とコラボレーションを向上させるために、お互いにライブ ビデオストリームを送信することができます。
静止画像	例えば、容疑者のスナップショットや非常避難経路を共有します。
テキスト	例えば、メッセージの送信、指示の共有、警備員の勤務スケジュールをポストしたりしま す。
HTMLページ	リンクやオンライン指示を提供したり、会社のウェブページを表示します。

組織にXProtect拡張機能がある場合は、これらの拡張機能に関連するコンテンツを追加することもできます。

コンテンツの種 類	目的とメリット
アクセスモニ ター	XProtect Access が必要です。例えば特定のドアのビューにアクセスモニターを追加でき ます。
ナンバープレー ト認識	XProtect LPR が必要です。ナンバープレート認識カメラをビューに追加します。
Smart Wallコン トロール	XProtect Smart Wall が必要です。カメラや他のタイプのコンテンツからのビデオをビデ オウォールにプッシュします。
Transact	XProtect Transact が必要です。PoS システムなどのメタデータをビューに追加すること ができます。

ライブモード、再生モード、設定モード

XProtect Smart Client には、以下の3つのモードがあります。

- ライブ
- 再生
- 設定

ライブモードおよび再生モードは、ライブおよび録画ビデオを表示するためのモードです。再生モードとライブモー ドは、メインタイムライン上のPLAYBACK LIVE スイッチで切り替えます。

プライベートビューと共有ビューは、設定モードで作成および編集できます。例えば、PTZ プリセット位置、PTZ パトロール設定、およびマップまたはスマートマップを設定することもできます。

設定モードを開始するには、ワークスペースツールバーの[設定]を選択します。

Export 💙	Evidence lock 💙	6	Ŧ	Video restrictions 💙	Setup	
					Тор	ggle setup mode

ルール

XProtect Smart Client の動作を定義するルールは、システム管理者が作成および定義します。

適切に定義されたルールは、重要な業務への集中、作業負担の軽減、状況認識の向上、応答時間の短縮、インシデン ト発生時の社内コミュニケーションの向上に役立ちます。

例えば、一部のルールでは、インシデントの発生時にイベントとアラームが自動的に生成されます。手動で有効化で きるその他のルールとしては、カメラビューアイテム内のオーバーレイボタンなどがあります。

その例をいくつか示します。

ルールの例	ルールの動作の例	XProtect Smart Client ユーザーにとってのメ リットの例
何かが起こったときに 録画を開始し、何も起 こっていないときに録 画を停止する	例えば、XProtect VMS は、誰かがゲートを開く 30 秒前とゲートが再び閉じられた 30 秒後など、関連す る録画のみを保存します。	録画ビデオの件数が少な いと、関連する録画を見 つけやすくなります。

何かが発生したときに ビューアイテムに表示 されるビデオ画質を向 上	XProtect VMS は、最も重要なインシデントのビデオ を高画質で表示します。例えば、誰かがドアを開け ると、ドアを監視するカメラからのビデオが、それ 以外の場合よりも高画質でビューに表示されます。	これにより、誰が建物に 立ち入っているかが特定 しやすくなります。
何かが発生したときに イベントとアラームを トリガー	 XProtect VMS は、特定のイベントが発生すると通知 します。例えば、自動車がエリア内に進入してきた ときなどです。 通知の方法はルールによって異なりますが、次のような方法が考えられます。 XProtect Smart Client内:アラームリストの イベントとアラーム、マップ上の表示、ブッ クマークの配置など。 XProtect Smart Client外:電子メール、テキ ストメッセージ、サイレンの作動など。 	何かが発生すると、ユー ザーとその同僚に通知さ れます。
PTZ カメラを一時的に 特定の位置に移動し、 何が起こっているかを ズームインし、指定し た時間が経過したら PTZ カメラを元の位置 に戻します。	 XProtectVMS は、PTZ カメラを移動してインシデントが発生した領域をカバーし、詳細が見やすくなるようにズームインします。PTZ カメラが初期位置とズームレベルに戻ると、全体像が再び表示されます。 例: ドアが開くと、通常は受付エリア全体を監視する PTZ カメラがわずかに動き、ドア付近の領域にズームします。 PTZ カメラは 30 秒後に元の位置とズームレベルに戻ります。 	最も関連性の高いビデオ が表示されるため、ユー ザーとその同僚はすばや く対応できます。
何かが発生したときに Matrix ビューアイテム でライブビデオを共有	XProtect VMS は、1 つ以上の共有ビューのMatrixコ ンテンツを含むビューアイテムに、インシデントを 示すライブビデオを送信します。例えば、誰かがあ なたのエリアの境界線に侵入したときなどです。	ユーザーとその同僚は重 大なインシデントを認識 し、必要に応じて迅速に 対応できます。
時間帯に応じてカメラ の昼モードと夜モード を切り替える	XProtect VMS は、特定のカメラグループのカメラの 昼/夜モードを切り替えて、最高画質のビデオを表 示します。	最高画質のライブおよび 録画ビデオをユーザーと その同僚に確実に提供し ます。

インシデント、イベント、アクション、アラーム

XProtect VMS について言及する際、インシデント、イベント、アクション、アラームは異なる意味を持ち、ルール 内でそれぞれの役割を担っています。

用語	説明	シナリオ:
インシデ ント	インシデントとは、実世界で起こる出来事です。	誰かがドアを開ける。このシナリオでは、 ドアを「Door1」と呼ぶことにします。
イベント	XProtect VMS において、イベントとは、インシ デントを識別するためルールを定義するタイミン グです。それによって、実世界のインシデントが XProtect VMS のイベントになります。 イベントのソースは、とりわけ、ビデオでとらえ られたモーション、外部センサー、他のアプリ ケーションから受信したデータおよびユーザーに よる入力となります。	Door1 に取付られたドアセンサーが、誰 かがドアを開けたことを登録します。ルー ルは Door1Opened(Door1 が開いた)イ ベントとして登録されます。
アクショ ン	アクションとは、XProtect VMS 内のルールが、 イベントを使用して起こったことを XProtect VMS で起こったこととして定義するタイミング です。 アクションとしては、録画開始、PTZ カメラの動 き、カメラからのビデオの Matrix コンテンツと しての共有などが挙げられます。	ルールが Door1Opened イベントを登録す ると、ルールは Door1 から近いカメラか らの XProtect VMS による 2 分間の高画 質ビデオ録画開始をトリガーします。
アラーム	アラームとは、XProtect VMS 内のルールが、イ ベントを使用して関係者に起こったインシデント を通知するタイミングです。 通知は出力デバイス、電子メール、テキストメッ セージを通じて、またはその他の方法で行われま す。	ルールが Door1Opened イベントをオフィ スの営業時間外に登録すると、ルールはサ イレンを作動し、セキュリティ責任者にテ キストメッセージを送信します。

すべてのイベントとアラームは、XProtect Smart Client のアラームリストで確認できます。

ブックマーク、エビデンスロック、ビデオ制限

ビデオシーケンスには、ブックマーク、エビデンスロック、およびビデオ制限のタグを付けることができます。

ブックマーク

ブックマークを使用すると、ビデオシーケンスを社内外で共有しやすくなります。

- 社内では、タグ付けされたシーケンスに関する追加情報を追加したり、同僚と一緒に検索したりできるためです。これは、例えば、インシデントや調査の処理を支援することができることを意味します。
- 社外では、タグ付けされたビデオシーケンスを簡単にエクスポートすることができるためです。

エビデンスロック

エビデンスロックを使用してビデオシーケンスにタグを付けると、ブックマークと同じメリットがありますが、タグ 付けされたビデオシーケンスが定義された期間削除されないように保護することもできます。

ビデオシーケンスを削除されないように保護することは、訴訟や重要な調査などにおいて重要なエビデンスを通常よ りも長くこれらのシーケンスを保持する必要がある場合に役立ちます。

ビデオ制限

調査員は、ビデオシーケンスにビデオ制限タグを付けて、定義された期間中のビデオシーケンスへのアクセスを制限 できます。ライブと録画ビデオの両方。

通常、調査員は、ビデオがプライバシー保護の対象である、重要なインシデントに関連している、またはその両方で ある場合に、ビデオ制限タグを適用します。

次に、ビデオへのアクセスを一時的に制限する理由の例を示します。

- インシデントの内容がメディアに漏えいしないようにするため。
- インシデントの調査と詳細を、数人の主要な調査員のみが知ることができるようにするため。
- 警察が安心して徹底的な捜査を行えるようにするため。
- ビデオに映った人物のプライバシーを保護するため。

ビデオシーケンスにビデオ制限とエビデンスロックを同時に適用できます。

マップとスマートマップ

状況認識を向上させるために設計された2つのマップ機能があります。マップとスマートマップ。

両方の機能を使用することで、関心のあるエリアをバーチャルに再現できます。カメラやその他のデバイスが取り付けられているロケーションに、個々のカメラやその他のデバイスを示すアイコンを配置することができます。

マップとスマートマップの例はそれぞれ以下の通りです。



これらを示すマップ上のアイコンを選択して、カメラまたはデバイスと対話できます。ルールによりイベントが登録 された場合、またはアラームがトリガーされた場合、関連するカメラまたはデバイスを示すアイコンが強調表示さ れ、どこでインシデントが発生しているか特定しやすくなります。

スマートマップ機能は、マップ機能よりも高度です。マップ機能では、エリアや建物を視覚化するために静止画像の み使用できます。

マップの場合はエリアや建物を仮想的に示すのに静止画像が使われますが、スマートマップの場合は、Google Map、BingMap、OpenstreetMapなどの地理情報システムを静止画像およびCAD図面と組み合わせることができま す。この追加の機能により、1つまたは複数のロケーション全体でカメラのオーバービューがより正確なものになり ます。

バウンディングボックス

オブジェクトの位置を識別して XProtect VMS にメタデータを送信できるカメラまたは統合システムがある場合、 XProtect VMS はビデオ内のオブジェクトの周囲に境界ボックスと呼ばれる視覚的なインジケータを配置できます。

境界ボックスは、組織や企業にとって重要なオブジェクトの場所を監視するのに役立ちます。

バウンディングボックスとは、XProtect Smart Clientのカメラの画像にあるオブジェクトを囲む長方形の境界です。 ボックスのデフォルトの色は黄色ですが、システム管理者は別の色を選択することもできます。



設定モードに入ることができれば、個々のカメラのバウンディングボックスの表示/非表示を選択できます。設定 モードに入れなくてもバウンディングボックスが表示される場合は、XProtect システム管理者がバウンディング ボックスを有効にしています。

プライバシーマスク

システム管理者は、カメラの視野内の領域をぼかしたり隠したりすることで、個人住宅の窓などのプライベートまた は公共エリアを保護できます。XProtect Smart Clientでは、プライバシーマスクはライブ、再生、およびエクスポー トに適用されます。

プライバシーマスクは、永続的または解除できるようにすることができます。永続的なプライバシーマスクはデフォルトでは完全に塗りつぶされた状態になりますが、解除可能なマスクの場合は50%ぼかした状態になります。システム管理者は、いずれのタイプのプライバシーマスクをカメラに表示するかを定義します。

次の画像は、隣接する建物の5つの窓が永続的なプライバシーマスクで覆われていることを示しています。


システム管理者がプライバシーマスクを解除可能にすると定義し、適切なユーザー権限を持っている場合は、 XProtect Smart Client ですべてのプライバシーマスクを一時的に解除することができます。

この例のプライバシーマスクは2種類のです。灰色の塗りつぶされた領域は永続的なプライバシーマスクで、ぼかさ れた領域は解除可能なプライバシーマスクです。



ビデオのエクスポート時に、エクスポートしたビデオにプライバシーマスクを追加できます。

アダプティブストリーミングとハードウェアアクセラレーション

XProtect Smart Client には、ビデオフィードを配信するネットワーク負荷を軽減し、コンピュータのデコーディン グ性能とパフォーマンスを向上するために使用できる2つの設定があります。

アダプティブストリーミングと再生

システム管理者は、複数のビデオストリームを録画できるよう、複数のビデオストリームを異なる解像度でXProtect SmartClientに送信する複数台のカメラを設定することができます。その場合、XProtectSmartClientでビューアイ テムに表示するストリームの切り替えを定義でき、ビデオ画質と帯域幅の最適なバランスに保つことができます。

同じカメラから同じビューアイテムで複数のライブビデオストリームを表示するには、アダプティブストリーミング を使用します。アダプティブ再生も同様ですが、録画ビデオの再生にのみ使用します。これにより、ビューアイテム で要求されるストリームの解像度に最も近いビデオストリームがXProtectSmartClientによって自動的に選択されま す。

ハードウェアアクセラレーション

ハードウェアアクセラレーションは、GPU リソースを使用して、XProtect Smart Client が稼働するコンピュータの デコーディング性能およびパフォーマンスを向上させます。ハードウェアアクセラレーションは、複数のビデオスト リームを高速フレームレート、高解像度で視聴するのに役立ちます。



すべての GPU リソースをハードウェアアクセラレーションに使用することはできません。詳 細については、スーパーバイザーまたはシステム管理者にお問い合わせください。

一般的なタスクを解決

ビデオの表示とビューの操作

XProtect Smart Client のユーザーにとって最も基本的なタスクには、次のようなものがあります。

- カメラで撮影したビデオの表示
- マイクの音声を聞く
- XProtect VMS システムに追加されたデバイスから他のデータにアクセスする

これらのタスクを実行する方法をいくつかご紹介します。

ビューの選択

ビデオやその他のコンテンツを表示するには、さまざまなビューを選択します。音声があれば、聞くことができま す。以下を実行してビューを選択します。

- **ビュー**ペインを選択します。
- ワークスペースツールバーのビュー選択リストを選択します。
- ビューにキーボードショートカットを割り当てている場合は、キーボードショートカットを使用します。

New View (1	Exports	Search	Alarm Ma
		K New View (1 x 1)	Ÿ
III Views	^	• - C	amera 1 - 9/12/2023
Search views and cameras	. Q 🗞		
Default group			
Limited			
Operators			

ビューアイテム、コンテンツ関連のメニュー、オーバーレイボタン

ビューでビューアイテムを選択すると、ビューアイテムのコンテンツに関連するメニューがビューアイテムの下部に 表示されます。

🗟 🛤 📕 🖶 🖆 🌒 🛛 More 🗸

例えば、オーバーレイボタンを使用すると、ビデオのパンやズームにすばやくアクセスできます。

ビューアイテムのコンテンツの詳細を表示するには、ビューアイテムをダブルクリックして最大化します。

ビデオのナビゲート

メインタイムラインでは、ライブビデオと録画ビデオの表示を切り替えたり、録画ビデオ内を前後に移動することができます。ビデオやその他のコンテンツを検索することもできます。

{=} {¤}		≪ ∢	• •	⊢ ▶ ▶	▶I ≫ I		1x 🗸
РМ	4:01 PM		4:02 PM 🔯 5/1/2023 4	:02:29.155 PM 4:03 PM		4:04 PM	
All cameras in the view							?
			PLAYBAC	K LIVE		5 minutes – 🗨	+

複数のウィンドウとタブ

複数のビューから同時にビデオを表示するには、サブウィンドウにビューを送信します。開いているすべてのウィン ドウに複数の表示タブを表示することもできます。

次回 XProtect Smart Client にログインしたときにすべてのウィンドウとタブを復元するには、それらを復元する設 定を有効にしてください。

カメラをナビゲート

XProtect Smart Client には、ライブビデオや録画ビデオを表示したり、録画ビデオの時間の前後に移動したり、ビデオの詳細をズームインしたりする機能があります。

いくつかの要素に応じて、さまざまなナビゲーション機能を表示および使用できます。この機能には以下が含まれま す。

- カメラのタイプ
- カメラの機能
- ライブモードまたは再生モードでビデオを表示している場合
- ユーザー権限

ズームインとズームアウト

ライブモードおよび再生モードでは、サポートされている任意のカメラのビデオをデジタルでズームイン、ズームア ウトできます。



ライブビデオで光学ズームを使用できるのは、選択したカメラに可動カメラレンズが付いている場合だけです。光学的にズームインまたはズームアウトすると、録画内容にも影響します。

PTZ (パン/チルト/ズーム)

ライブモードおよび再生モードで、サポートされているカメラのビデオでデジタル PTZ を使用できます。

ライブビデオでは、PTZ カメラのビュー方向と焦点距離を物理的に移動(パン、チルト、ズーム)できます。PTZ カメラを動かすと、録画内容にも影響します。

魚眼カメラからデワープしたビデオを複数のビューアイテムに追加して、各ビューアイテムにビデオの異なる領域を 表示できます。ライブビデオと録画ビデオの両方で、デジタルズームを使用してカメラビューアイテムのビデオ内を 移動できます。

タイムナビゲーション

録画ビデオ内で時間を前後に移動できます。ビデオシーケンスを見つけるには、メインタイムラインのコントロール 機能を使用して、ビュー内のすべてのカメラのビデオの時間を変更します。また、1つのカメラビューアイテムに表 示されている録画ビデオ内で前後に移動することもできます。これを個別再生といいます。



パトロール

XProtect Smart Clientを使用すると、オフィスにいながら、異なる方向にPTZカメラの視野角を変えて異なるビュー を選択し、保護対象の建物やエリアを手動でパトロールすることができます。 システム管理者がパトロールのルールを作成している場合は、パトロール用に設定された専用のビューとビューアイ テムを使用できます。ルールベースのパトロールには、以下を含めることができます。

- PTZ カメラの方向転換
- エリアへのカメラのズームイン
- 画面自動切替ビューアイテムでのカメラからのビデオフィードの表示(カメラグループ内の各カメラからの20秒のビデオなど)。

状況認識の向上

XProtect Smart Client には、保護対象の建物やエリアで何が起こっているかを容易に把握するための多くの機能が 組み込まれています。

どの機能を使用できるかは、組織のXProtectVMS製品と利用可能な拡張機能、およびユーザー権限によって異なります。

XProtect Access

XProtect Access では、入退室管理システムと統合して、XProtect Smart Client内からエリアや建物への立ち入りが 許可されるユーザーを制御できます。

XProtect LPR

XProtect LPR は車両のナンバープレート情報を識別してキャプチャし、対応するビデオと組み合わせます。認識されたナンバープレートを定義済みリストと比較し、ルールを使用して自動アクションを開始できます。例えば、駐車券を発行したり、登録された車両がエリア内に進入できるようにゲートを開いたりします。

マップ

マップとスマートマップの2つのマップ機能を使用すると、保護対象のエリアと建物、および XProtect VMS システムに追加されたカメラやその他のデバイスの位置を視覚化できます。

どちらのマップ機能でも、カメラまたはデバイスに関連付けられたイベントまたはアラームがルールによって生成されたときに、カメラまたはデバイスを強調表示できます。この動作により、インシデントが発生した場所が瞬時にわかり、状況に応じた迅速な対応が可能になります。



パトロール

XProtect Smart Clientを使用すると、オフィスにいながら、異なる方向にPTZカメラの視野角を変えて異なるビュー を選択し、保護対象の建物やエリアを手動でパトロールすることができます。

システム管理者がパトロールのルールを作成している場合は、パトロール用に設定された専用のビューとビューアイ テムを使用できます。ルールベースのパトロールには、以下を含めることができます。

- PTZ カメラの方向転換
- エリアへのカメラのズームイン
- 画面自動切替ビューアイテムでのカメラからのビデオフィードの表示(カメラグループ内の各カメラからの 20 秒のビデオなど)。

Matrix

このMatrix機能は、インシデントを発見したときにライブビデオストリームを共有するのに便利です。同僚とMatrix ビューアイテムを含む共有ビューを通じて、ライブビデオストリームを送信し合うことができます。

システム管理者がルールを定義している場合は、イベントが発生したときにビデオの共有をトリガーすることもできます。

ホットスポット

ホットスポット機能は、ルールに基づいてインシデントのライブビデオを共有できる優れた状況認識機能です。

共有ビデオがホットスポットビューアイテムに表示されるタイミングは、システム管理者が定義したルールによって 決まります。

Matrix 機能と比較すると、ホットスポット機能には、ホットスポットコンテンツを含むビューアイテムが他の ビューアイテムのビデオよりも高画質でビデオを表示するように定義できるというメリットがあります。ホットス ポットコンテンツにビューアイテムが大きいビューを選択すると、ユーザーとその同僚は共有ビデオで何が起こって いるかを明確に確認できます。

イベントおよびアラーム

ルールはイベントとアラームを生成します。この動作により、発生中のインシデントを認識できるようになり、イン シデントによりすばやく対応できます。

ビデオを共有する

ビデオの共有について

コラボレーションは重要ですが、その性質上、容易ではありません。そのため、XProtect Smart Client には、組織 内外の同僚や警備員とのコラボレーションを促進するいくつかの機能があります。

どの機能を共有するのが最適かは、ビデオを共有する相手、シナリオ、およびプリファレンスによって異なります。

組織内の同僚とビデオを共有

組織内の同僚とビデオを共有するには、次の機能が最適です。

XProtect Smart Wall

この XProtect Smart Wall 拡張機能は、特にビデオを共有したいという組織のニーズを満たすために設計されていま す。複数のオペレータがいるコントロールセンターに最適です。

XProtect Incident Manager

XProtect Incident Managerのユーザーは、ビデオ以外にも、インシデントプロジェクトのすべてのインシデント情報を保存することができます。インシデントプロジェクトから、各インシデントのステータスとアクティビティを追跡することができます。このようにして、ユーザーはインシデントを効果的に管理し、内部的には同僚と、外部的には当局と強力なインシデントのエビデンスを簡単に共有できます。

Matrix

このMatrix機能は、インシデントを発見したときにライブビデオストリームを共有するのに便利です。同僚とMatrix ビューアイテムを含む共有ビューを通じて、ライブビデオストリームを送信し合うことができます。

システム管理者がルールを定義している場合は、イベントが発生したときにビデオの共有をトリガーすることもできます。

ブックマーク、エビデンスロック、および検索

ブックマークとエビデンスロックを検索できます。検索は、メインタイムラインのさまざまなコントロールを使用す るよりも高速で正確です。検索では、同じブックマークまたはエビデンスロックでタグ付けされたすべてのビデオ シーケンスも検索されます。

共有とコラボレーションを向上させるために、検索をパブリック検索として保存できます。保存されたパブリック検 索は、同僚がタグ付けされたビデオシーケンスを簡単に検索できるように使用できます。

Save as new search	<u></u>		×
Name			
Main entrance - people entering			
Description			
Outer cameras			
Private search			
Search filters included			
🖦 🖸 🗮 🕅			
Match any criterion			
Time is saved as a relative timespan.			
Last 2 hours			
	Save	Can	cei .

マップとアラーム

マップとアラームは、状況認識とビデオ共有の両方の機能を備えています。ただし、ビデオを表示するには、マップ 上のカメラの表示またはアラームリストのアラームを選択する必要があるため、ビデオの共有は間接的です。

マップ上のカメラが注意を必要とする何かが発生したことを示す、またはアラームリストにアラームを表示するなど の動作は、システム管理者が定義したルールによってトリガーされます。

組織外の警備員とのビデオ共有

組織外のユーザーとインシデントに関するビデオを共有するための最適な選択肢は、関連するビデオシーケンスでエ クスポートすることです。

訴訟を起こす必要がある重大なインシデントの場合は、デジタル署名を使用してエクスポートして、エクスポートの コピーを自分で保存し、XProtectVMS システム内のすべてのビデオに対して定義された保存期間後も、そのビデオ を使用できるようにします。XProtect VMS 製品がエビデンスロックをサポートしている場合は、インシデントを示 すビデオにエビデンスロックを適用することもできます。

この XProtect Incident Manager 拡張機能は、ビデオを保存・エクスポートしたり、それぞれのインシデントのアク ティビティについて文書付きのレポートを生成するという、組織のニーズを満たすよう設計されています。

調査および文書化インシデント

インシデントの調査と文書化

XProtect Smart Client には、インシデントの調査と文書化を容易にする多くのビルトイン機能があります。特にこれらの目的のために開発された XProtect 拡張機能もあります。

利用できる機能は、XProtect VMS 製品、利用可能な拡張機能、およびユーザー権限によって異なります。

最適な機能は、シナリオとプリファレンスによって異なります。

XProtect Rapid REVIEW

迅速な調査を可能にする XProtect 拡張機能。XProtect Rapid REVIEW on page 66をご参照ください。

XProtect Incident Manager

エビデンスビデオをキャプチャし、インシデントを文書化および管理するために開発された XProtect 拡張機能。 XProtect Incident Manager on page 64をご参照ください。

ブックマーク、エビデンスロック、および検索

インシデントを示すビデオシーケンスには、ブックマークとエビデンスロックのタグを付けることができます。

ブックマークとエビデンスロックを検索できます。検索は、メインタイムラインのさまざまなコントロールを使用す るよりも高速で正確です。検索では、同じブックマークまたはエビデンスロックでタグ付けされたすべてのビデオ シーケンスも検索されます。

共有とコラボレーションを向上させるために、検索をパブリック検索として保存できます。保存されたパブリック検 索は、同僚がタグ付けされたビデオシーケンスを簡単に検索できるように使用できます。

エビデンスロックを使用してビデオにタグを付けると、XProtect VMS システム内のすべてのビデオシーケンスに定 義された保存期間が経過しても、タグ付きビデオシーケンスは削除されません。

イベント、アラーム、およびアラームリスト

ライブビデオを表示している場合は、アラームリストの新しいイベントとアラームに注目することをお勧めします。 イベントとアラームは、調査が必要なインシデントによってトリガーされる場合があります。録画されたビデオのみ を表示する場合は、毎日数回アラームリストを開いて、調査する必要があるインシデントが発生していないかどうか を確認します。

エクスポート

ビデオを XProtect VMS システムの外部に保存し、エクスポートしたビデオを他のユーザーと共有します。

シナリオ:ライブビデオを見ている時にインシデントに気づいた



このシナリオの例では、ビルトインの XProtect Smart Client 機能を使用してインシデントを 調査および文書化する方法についてのみ説明します。

例えば、ライブビデオを見ている時、またはアラームがトリガーされたためにインシデントに気づいたとします。また、あなたはインシデントに対応するために現場に派遣されていないと仮定します。通常は次のようにします。

- 1. 現場の状況に対応する警備員を呼びます。
- 関連するビデオシーケンスへのブックマークの適用をすぐに開始できるため、同僚とビデオを共有したり、 検索によってビデオシーケンスを再度見つけたりすることが簡単にできます。
- 3. インシデントの経過を現場の警備員に継続的に知らせます。
- インシデントが他のビューアイテムまたはビューに切り替えて新しいエリアに移動または拡大した場合は、 その原因または結果を追跡し、これらのビデオシーケンスにもブックマークを追加します。

インシデントが収まったら、通常は次のようにします。

- 1. ブックマークを検索します。
- ブックマークの開始時刻と終了時刻を調整して、インシデントが録画されたすべてのビデオシーケンスが含まれるようにします。
- ブックマークしたビデオをドキュメントとしてエクスポートし、組織内外の関連するセキュリティ担当者と 共有することができます。
- エクスポートの代替(または追加)として、ビデオシーケンスにエビデンスロックを適用して、XProtect VMSシステム内のすべてのビデオで定義した保存期間中はビデオシーケンスが削除されないようにすること ができます。
- 5. 現場の警備員から、インシデントがどのようなものであったかについて証言を収集します。

シナリオ:発生後にインシデントに気づいた



このシナリオの例では、ビルトインの XProtect Smart Client 機能を使用してインシデントを 調査および文書化する方法についてのみ説明します。

例えば、職場で、誰かが窓にペンキをかけて窓ガラスを破壊したとします。あなたは、前日に職場に出勤した時に は、ペンキはついていなかったことを知っています。

このシナリオでは、通常、次のようにします。

- 1. 破壊された窓のある領域を録画しているカメラでビューを見つけます。
- 再生モードでは、メインタイムラインの機能を使用して、前日の退社時刻からのビデオを検索します。イン シデントによってトリガーされるアラームを設定している場合は、アラームのリストを確認することもでき ます。
- 窓ガラスが割られた時の動画を見つけてブックマークします。また、エリアにどのように人物が出入りした かを確認する方法もあなたは知っています。エリアでのこの人物の挙動を示すビデオを見つけて、それも ブックマークします。
- ブックマークしたビデオをドキュメントとしてエクスポートし、組織内外の関連するセキュリティ担当者と 共有することができます。
- エクスポートの代替(または追加)として、ビデオシーケンスにエビデンスロックを適用して、XProtect VMSシステム内のすべてのビデオで定義した保存期間中はビデオシーケンスが削除されないようにすること ができます。

すべてのユーザーにXProtect Smart Clientを設定する。

XProtect VMS システムの大部分はシステム管理者が設定しますが、XProtect Smart Clientのスーパーバイザーが XProtect Smart Client のすべてのユーザーに対して設定する必要がある要素もあります。

設定モードですべての XProtect Smart Client ユーザーの要素を設定できる場合は、以下の1つ以上を定義できます。

- 共有ビューの作成と編集
- ビューグループの作成
- ビューアイテムへのコンテンツ追加
- カメラ属性の定義
 - ビデオバッファリング

 - フレームレート
 - タイトルバー
- ビューアイテムに表示するカメラからのビデオストリームの定義(アダプティブストリーミング)
- 画面自動切替、ホットスポット、Matrixコンテンツとその動作の定義
- ショートカット番号のビューへの割り当て
- リンクとスクリプトを含む Web ページの作成
- マップの作成と編集
 - カメラやその他のデバイスのマップへの配置
- オーバーレイボタンの作成
- XProtect Smart Wallコントロールの定義

コンピュータのパフォーマンスの最適化

XProtect Smart Client 個人ユーザーのみが各自のコンピュータで設定できる XProtect Smart Client の要素がいくつ かあります。

キーボードのショートカットキー

XProtect Smart Client では、タスクをすばやく完了するために役立つキーボードショートカットキーをいくつか定 義できます。その例をいくつか示します。

- 新規タブを開く
- スナップショットの作成
- プライバシーマスクの除去/再適用
- すべてのサブウィンドウを閉じる
- 出力の有効化
- ズームイン/ズームアウト
- 特定のプリセット位置に移動
- メインタイムラインのさまざまな制御機能の有効化
- 特定のビューの選択

アダプティブストリーミングと再生

アダプティブストリーミング設定を有効にすると、ネットワーク経由でビデオストリームを送信するときのネット ワーク負荷を軽減できます。

コンピュータで**アダプティブストリーミング**のステータスを確認するには、以下を実行します。

設定とその他メニューを開き、[設定]、[詳細設定] タブの順に選択して、コンピューターでアダプティブストリーミング設定が有効になっているかどうかを確認します。有効でない場合は、有効にしてください。

ライブビデオでアダプティブストリーミングを使用するには、システム管理者が、異なる解 像度で少なくとも2つのライブビデオストリームをXProtect VMS システムに送信するよう にカメラを設定している必要があります。アダプティブ再生を使用するには、異なる解像度 の少なくとも2つのビデオストリームを録音します。また、XProtect Smart Clientスーパー バイザーは複数のストリームを使用するビューを定義します。

ハードウェアアクセラレーション

ハードウェアアクセラレーション設定を有効にすると、コンピュータのデコード機能とパフォーマンスを向上させる ことができます。

XProtect Smart Client でハードウェアアクセラレーションの設定を確認するには、以下を実行します。

[設定とその他] メニューを開き、[設定]、[詳細設定] タブの順に選択して、コンピューターでアダプティブストリー ミング設定が有効になっているかどうかを確認します。有効でない場合は、有効にしてください。



ハードウェアアクセラレーションは GPU リソースを使用します。コンピュータに GPU リ ソースがない場合は、ハードウェアアクセラレーションを使用できません。

すべての GPU リソースをハードウェアアクセラレーションに使用することはできません。詳細については、スーパーバイザーまたはシステム管理者にお問い合わせください。

個人情報保護法の遵守

システム管理者は、XProtectVMSシステムが各国の個人情報保護法に準拠していることを確認する必要がありま す。XProtect VMSシステムにどれくらいの期間ビデオを保存するか、ユーザーが正当なアクセス理由を持つビデオ とデータだけを見ることができるようになっているか、個人住宅の窓を覆うためにプライバシーマスクを適用する か、などがその例として挙げられます。

ただし、XProtect Smart Client ユーザーは、組織がその国の個人情報保護法を準拠し続けるための役割を担います。

エクスポートされたコンテンツ

以下を確実に行ってください。

- エクスポートしたファイルを保護する。
 - エクスポート時に、エクスポートしたファイルをパスワードで保護することを選択する。
 - 権限のないユーザーがアクセスできないように、エクスポートしたファイルを安全に保管する。
- エクスポートしたコンテンツは、正当な目的を持つ個人または組織とのみ共有する。
- エクスポートしたコンテンツは、目的のために必要な期間のみ保持する。
- エクスポート中にビデオに追加のプライバシーマスクを適用して、エクスポートの受信者がビデオ内の無関係なエリアやプライベートなエリアを表示しないようにする。

XProtect形式でエクスポートする場合にのみ、追加のプライバシーマスクを適用する。

エビデンスロック

エビデンスロックでビデオとデータを保護できる期間は、システム管理者が定義します。

ただし、ユーザーは以下を確実に行う必要があります。

- ビデオまたはデータを保持する必要があると予測される期間に対応するエビデンスロック期間を選択する。
- エビデンスとして不要になった場合は、ビデオまたはデータからエビデンスロックを削除する。

システムの健全性を監視

XProtect VMS システム内のカメラやその他の要素が故障したことを迅速に知ることは、エリアや建物を中断なく保護するために不可欠です。

[システムモニター] タブには、すべての XProtect VMS システムエレメントの健全性を表示するダッシュボードがあ ります。ダッシュボードでは、たとえばカメラが動作しなくなったことにすぐに気づき、状況の是正を開始できま す。また、コンポーネントが過負荷になっているかどうかを確認することもできます。例えば、レコーディングサー バーのいずれかがディスク容量またはメモリを使い果たしそうになっているかどうかを確認できます。



デフォルトで、すべての**レコーディングサーバー、すべてのサーバー、すべてのカメラ**を示すタイルが表示されま す。これらのデフォルトのタイルの監視パラメーターをカスタマイズしたり、新しいパラメーターを作成したりでき ます。例えば、単一のサーバー、カメラ、カメラグループ、またはサーバグループを示すタイルを作成できます。

ユーザーインターフェイスを理解する

ユーザーインターフェイスの概要

XProtect Smart Clientは、XProtect VMS システムに接続されているカメラのビデオを管理して表示できるよう設計 されたデスクトップアプリケーションです。

弊社ドキュメント内のユーザーインターフェイス要素の配置に関する記述では、XProtect Smart Clientは左から右に 読む言語のレイアウトで使用することを想定しています。

XProtect Smart Client デスクトップアプリから、以下のようなワークスペースや機能にアクセスできます。

- 1. XProtect Smart Client の左上にある、[ビュー]、[エクスポート]、[検索]、[アラームマネージャー]、[シス テムモニター] などのデフォルトのタブ。
- 2. デフォルトのタブの下にある、ビューとカメラを設定するデフォルトのペイン。
- 3. 右上にある、**エビデンスロック リスト、ユーザープロファイル、設定とその他**などにアクセスできるグロー バルツールバー。
- 4. グローバルツールバーのすぐ下にある、エクスポート、エビデンスロック、設定にアクセスできるワークス ペースツールバー。ワークスペースツールバーの機能は選択したタブにより変わります。
- 5. メインタイムライン。メインタイムラインは [表示] タブを選択した場合に使用できます。これはウィンドウの一番下にあります。



デフォルトのタブ

XProtect Smart Client には、日々のタスクに使用するデフォルトのタブー式が含まれています。

いくつかのXProtect拡張機能には、その機能に特化したタブがあります。拡張機能全般onpage62をご参照ください。

一部のタブは MIP SDK でカスタマイズし、それぞれの組織の XProtect VMS システムに固有のものにできます。この文書では、MIP SDK に依存する機能については扱っていません。



Habour Exports Search Alarm Manager Incidents System Monitor +

メイン表示タブ

XProtect Smart Client のメインウィンドウおよびサブウィンドウには、ビューを持つタブをいくつでも作ることが できます。ビューのあるタブには、選択したビューの名前が付けられます。

ライブモードでは、ライブビデオフィードを表示し、音声、画面自動切替、ホットスポット、Matrix、スマートマップ、PTZ(パン/チルト/ズーム)コントロール、デジタルズーム、個別再生などの機能を使用できます。

再生モードでは、録画したビデオを再生して調査ができます。メインタイムラインは、録画ビデオを検索するための 高度な機能を提供します。どのカメラやビューからでも検索を開始でき、見つけたものはエビデンスをエクスポート して文書化できます。エビデンスがデータベースから削除されないよう、録画ビデオにエビデンスロックをかけるこ とができます。

さらに、以下が可能です。

- 選択した XProtect VMS システムに接続されている時に音声を聴く
- XProtect VMS 製品がスマートマップをサポートしている場合に、地理情報インターフェイスで XProtect VMS システムに追加されたカメラにアクセスする
- ホットスポット、デジタルズーム、画面自動切替のいずれかを使用して、魚眼レンズ画像をナビゲートしたり、画像を印刷する

ライブまたは再生モードから、カメラや他のタイプのコンテンツのビューを設定する設定モードに切り替える

エクスポートタブ

ビデオデータをエクスポートするには、関連するシーケンスを**エクスポートリスト**に追加します。次に、開始時間と 終了時間を選択し、エクスポートリストの各シーケンスのタイムスパンを変更できます。ビデオ、音声、静止画像の エクスポート on page 223もご参照ください。

エクスポートに使用するフォーマットを選択できます。またフォーマットごとに**エクスポートの設定**を変更できま す。エクスポート形式 on page 233もご参照ください。

[エクスポート] ボタンを選択し、**[エクスポート名]** と **[エクスポート先]** を指定します。これで、エクスポートを作成できます。

[**エクスポートを作成**] ウィンドウと [**エクスポート先**] フィールドで指定したフォルダーにエクスポートが作成され、保存されます。エクスポートされたビデオの表示 on page 230も参照してください。

検索タブ

検索タブでは、すべての録画を検索し、フィルターを適用して検索を絞り込むことができます。例えば、フィルター を使用して、特定のエリアでモーションが検知された車両、人物、または録画を見つけることができます。

検索結果に対して、複数のアクションを実行できます。検索結果から利用できるアクションもご参照ください。

[アラームマネージャー] タブ

アラーム マネージャータブで、アラームをトリガーしたインシデントや技術的問題を表示し、対応できます。この タブには、アラームリスト、アラーム プレビュー、および利用可能なマップが表示されます。

システムモニタータブ

システムモニタータブの色分けされたタイルは、 XProtect Smart Client を実行している コンピュータ、システム サーバー、カメラ、および追加デバイスの現在のステータスの概要を提供します。

- 緑:正常ステータス。すべてが正常に動作しています。
- 黄色:警告ステータス。1つ以上のモニターパラメータが正常ステータスの定義済みの値を超えています。
- 赤:重大ステータス。1つ以上のモニターパラメータが、正常および警告ステータスとして定義された値を 超えています。

タイルの色が変わり、色が変わっているサーバーまたはパラメータを確認するには、対象のタイルを選択します。画 面下部に概要が表示されます。ステータス変化の理由を表示するには、[詳細]ボタンを選択します。



タイルに警告記号が表示される場合は、監視対象のサーバーまたはカメラのいずれかの Data Collector Server が稼働していない可能性があります。タイルの上にマウスを置くと、該当するタイルで最後にデータ が収集された日時が表示されます。

グローバルツールバー

XProtect Smart Client の右上にあるグローバルツールバーから、XProtect Smart Client に関する情報や設定の変更 方法にアクセスできます。これには以下が含まれます。



タイムゾーン

タイムゾーンを設定します。タイトルバーに現在の時刻を表示 on page 335をご参照ください。

エビデンスロックリストへのショートカット

エビデンスロックリストには、作成したエビデンスロックが表示されます。エビデンスロックのリストを並べ替え、 絞り込み、検索し、各エビデンスロックに関する詳細を確認できます。エビデンスロックの表示 on page 217もご参 照ください。

ユーザーメニュー

ユーザーメニューでは、**ログイン情報**を表示したり、XProtect Smart Client からログアウトできます。ログイン on page 75をご参照ください。**ログイン情報**には、 XProtectが接続されている XProtect Smart Client VMS サーバーの ステータスに関する情報が含まれています。



ログイン情報を選択して、サーバーのステータスを表示します。

- 使用可能なサーバーは、緑色で表示されます。
- 使用できないサーバーは、赤で表示されます。ログイン時にサーバーが使用できない場合、サーバーに接続しているカメラまたは機能も使用できなくなります。ステータスを表示すると、サーバーがまだ使用不可の場合でも、ボタンの赤い点滅が停止します。

表示されるサーバー数は、ログイン時に XProtect VMS システムから取得できるサーバー数を反映しています。特 に、大きな階層構造を持つサーバーと接続している場合には、ログイン後、より多くのサーバーが利用可能になりま す。サーバーのリストは、サーバーステータスの静的表示です。サーバーが使用できない場合、選択すると [ステー タス] フィールドに理由が表示されます。サーバーに接続するには、[サーバーをロードする] を選択します。その サーバーのステータスが更新されます。サーバーが長時間使用できない場合は、システム管理者に連絡して助言を求 めてください。

設定とその他ウィンドウ

設定とその他ウィンドウは、以下の機能を網羅します。



- テーマの切り替え—XProtect Smart Clientテーマの明暗を切り替えることができます。
- サーバージョブ―相互接続されたハードウェアデバイスまたはエッジストレージをサポートするカメラから データを取得するためのユーザー権限に応じて、これらのデバイスの各データ取得リクエストに対して作成 されたサーバーのジョブを閲覧できます。すべてのエッジ取得ジョブを表示するonpage213をご参照ください。
- 設定—XProtect Smart Clientの設定と動作、ジョイスティック、キーボードショートカット、言語などを設定します。[設定] ウィンドウが表示されます。 on page 334もご参照ください。
- ヘルプーヘルプシステムにアクセスし、オンラインビデオチュートリアルを再生したり、バージョン番号と プラグイン情報を表示したりできます。
- ビデオチュートリアル—Milestone Learning Portalを開きます。
- バージョン情報— 最新の XProtect Smart Client プラグインやバージョンに関する情報。

ワークスペースのツールバー

XProtect Smart Client のワークスペースのツールバーから、日々の業務に役立ついくつかの重要な機能にアクセス できます。これらの機能には以下が含まれます。

機能	説明
ビューを選択	左側の ビュー ペインへのショートカット。
ビューを再読み込み	元のビューを復元するには、 [ビューを再読み込み] を選 択します。

機能	説明
エクスポート	エビデンスビデオをエクスポートします。ビデオ、音 声、静止画像のエクスポート on page 223もご参照くだ さい。
エビデンスロック	エビデンスロックを作成すると、エビデンスが削除され るのを防ぐことができます。エビデンスロック on page 214もご参照ください。 ビデオシーケンスのエビデンスロックを表示します。エ ビデンスロックの表示 on page 217もご参照ください。
データを取得	接続されているハードウェアデバイスまたはエッジスト レージに対応するカメラから録画を取得します。
設定	設定モードに入ります。セットアップモード on page 271もご参照ください。
全画面表示モード切替 【】	全画面表示と、希望するサイズに調整できる小さいウィ ンドウの間で表示を切り替えられます。
プライバシーマスクを 除去	適切なユーザー権限があるユーザーは、一時的にプライ バシーマスクを外せます。プライバシーマスクの除去と 再適用 on page 116もご参照ください。

タイムライン

複数のタイムライン

XProtect Smart Client には、録画内での前後の移動に使用できるタイムラインがいくつかあります。

メインタイムラインの内容が最も豊富になっていますが、特定の状況では、内容はそれほど豊富ではないものの、他 のタイムラインも使用できます。

タイムラインの表示は若干異なる場合がありますが、多くの共通点があります。

メインタイムライン



メインタイムラインには、現在のビューにあるカメラとその他のデバイスからの録画期間の概要が表示されます。メ インタイムラインは表示タブから利用可能です。調査中に録画を操作したり、エクスポートする録画シーケンス、エ ビデンスロックによる保護、ブックマークの追加などを選択するために使用できるさまざまなコントロールがありま す。

表示タブを選択し、再生モードに切り替えると、すべてのタイムライン コントロールが表示されます。

タイムラインの見え方や挙動は調整できます。タイムライン追跡で、どの録画タイプやその他の要素を表示するかを 選択します。例えば、録音音声とブックマークを表示したい場合、録画間のギャップをどのように再生するかも選択 できます。また、非アクティブ時にメインタイムラインを非表示にすると、XProtect Smart Client でビデオを閲覧 するためにディスプレイの大部分を解放できます。タイムラインの構成オプション on page 99をご参照ください。

タイムライン追跡



• 上部のタイムライン追跡には、選択したカメラの録画期間が表示されます。

• 下部のタイムライン追跡には、選択したカメラを含む、ビューにあるすべてのカメラが表示されます。

メインウィンドウと時間的に同期しているサブウィンドウがある場合、これらのウィンドウ内のカメラやデバイスか らの録画も下のタイムライン追跡に表示されます。

色の凡例

タイムライン追跡では、異なるタイプの録画は異なる色で表示されます。知っておくべき最も重要な色は、以下の通りです。

- 明るい赤は録画を示します
- 赤はモーション付きの録画を示します
- ライトグリーンは発信音声付きの録画を示します
- グリーンは受信音声を示します

現在表示されているタイムライン追跡のすべての色の凡例を表示するには、タイムライン追跡の右側にある[カラー

コード凡例] ? を選択します。

ユーザーマニュアル | XProtect[®] Smart Client 2025 R2



ブックマーク

タイムライン追跡では、ブックマークは青いブックマークアイコン 🔽 で表示されます。ブックマークされたビデオを再生するには、マウスをアイコンの上に置きます。

追加マーカー

XProtect VMS システムで追加のデータソースを利用できる場合、これらのソースからのインシデントはマーカーとして青以外の色で表示されます。インシデントはタイムライン追跡のポップアップとして開きます。

4:02 PM	to 5/1/2023 4	4:03 PM	
		X	

縦線

縦線は、録画が現在再生されている位置から見た再生ヘッドの位置を示します。これはメイン再生時間と呼ばれま す。上のテキストは現在再生されているビデオの正確な日時を示しています。メイン再生時間は、一部のカメラから の個別の再生を表示している場合以外は、ビュー内のすべてのカメラおよび同期されているビューに適用されます。 メイン再生時間に一致するビューに1台以上のカメラの録画ビデオがない場合、メイン再生時間前のカメラデータ ベースからの最後のフレームが表示されますが、フレームはグレーアウトします。

タイムラインからの録画の操作

メインタイムラインコントロールを使用することで録画内を移動できます。

- タイムライン追跡を左または右にドラッグします。ゆっくり移動する場合は、CTRLキーを押しながらドラッ グします。
- タイムラインコントロール、マウスのスクロールホイールを使用するか、再生ヘッド上の日付を選択して、 特定の時間に移動します。

タイムライン コントロール

コントロール	説明
PLAYBACK LIVE	再生モードまたはライブモードに切り替えます。
O	ビデオ内を異なる速度で前後に移動します。横にコントロールをド ラッグするにつれて、再生速度は速くなります。
	時間内で逆再生 または順再生 します。再生ボタンの1つを 選択すると、ボタンは一時停止ボタン に変わります。
	現在表示されているフレームのすぐ前 🚺 _{または後} DD _{のフレー} ムに移動します。
	前のシーケンス 🚺 の開始、または次のシーケンス 🕨 へ移動し ます 。
[∢ ▶]	データベース内の最初のシーケンス 🐱 、または最後のシーケンス ऒ へ移動します。
	エクスポート、エビデンスロックの作成またはその他の操作のため に録画期間を選択する方法は、2 通りあります。
{=} { ⇔}	タイムラインで開始/終了時間を選択 : 選択すると、タイムラインとビューが選択モードに切り替わります。どのビューアイテムを含めるかを選択し、タイムライン追跡上の時間選択ブラケットをドラッグして、選択したいビデオシーケンスの開始時間と終了時間を変更します。
	カレンダーで開始/終了時間を選択 (): 選択して、カレンダーから 開始日時と終了日時を指定します。タイムライン追跡は選択した開 始時間にジャンプし、選択済みの期間は時間選択ブラケットで囲ま れます。

コントロール	説明
1x 💙	再生スピードを変更します。
20 minutes +	タイムライン追跡のタイムスパンを指定します。または、 Ctrl + マ ウスのスクロールも使用できます。

短いビデオチュートリアルを見ますか?



コンテキスト固有タイムライン

特定の状況において、調査や操作に役立ついくつかのタイムラインがあります。

これらのコンテキスト固有タイムラインには、多くの場合、タイムライン追跡は1つしかありません。また、メイン タイムラインで利用できるコントロールはほとんどありません。しかし、タイムライン コントロールがある場合 は、メインのタイムラインのものと同じように機能します。

タイムライン	場所	目的	詳細
個別再生	すべての表示タブ	ライブビデオ閲覧中に、ビュー のカメラの1台から録画を表示 したり、前後移動ができます。	録画した ビデオを メインの タイムラ インとは 別に表示 on page 176
ブックマーク	すべての表示タブ	録画のシーケンスにブックマー	ブック

タイムライン	場所	目的	詳細
		クがある場合、そのシーケンス を簡単に見つけ、開くことがで きます。	マーク ウィンド ウ on page 159
検索	検索 タブ	検索タブで検索をすると、タイ ムライン検索で一致する録画の 概要がわかります。見つけたさ まざまな録画を選択して表示で きます。	検索タブ でタイム ラインを 検索 on page 188
エクスポート	エクスポート タブ	エクスポートする録画を選択し た場合、選択済みの録画内を前 後に移動し、エクスポートの開 始時間と終了時間を変更できま す。	ビデオ、 音声、静 止画像の エクス ポート on page 223

拡張機能

拡張機能全般

Milestone はさまざまな拡張機能を開発してきました。拡張機能とは、XProtect VMS製品の機能を拡張し、さらに 特殊な機能を追加した製品のことです。

XProtect はオープンプラットフォームであるため、サードパーティーの拡張機能を XProtect VMS システムに統合 し、XProtect Smart Client に機能を追加することもできます。



XProtect Smart Client では、拡張機能へのアクセスは、ユーザー権限にも依存します。

XProtect Access

XProtect Access では、1 つ以上の入退室管理システムのイベントが XProtect ビデオ管理ソフトウェアの機能に統 合されます。XProtect Access 向けのベンダー固有のプラグインを提供するベンダーの入退室管理システムで、 XProtect Access を使用することができます。



XProtectSmartClientに**入退室管理**タブがあれば、XProtectAccess拡張機能にアクセスできます。



入退室管理システムにより登録されたインシデントにより、XProtect VMS システムでイベントが生成されます。

- ライブモードでは、ドアに関連付けられたカメラでリアルタイムで入退室管理イベントをモニターできます。設定モードでは、オーバーレイボタンを使用して、アクセスモニターのビューアイテムをカスタマイズできます。マップビューアイテムでは、入退室管理ユニットをマップにドラッグできます。
- 入退室管理タブでは、イベント、ドアのステータス、またはカードホルダーを表示および調査できます。イベントを検索またはフィルターして、関連する映像を表示できます。イベントのレポートを作成し、エクスポートできます。
- システムであらかじめ設定されている場合、ユーザーがアクセスをリクエストすると、カメラフィードの横に関連情報のリストとともに、別に通知ポップアップが表示されます。ドアのロックおよびロック解除などの入退室管理コマンドをトリガーできます。使用可能なコマンドはシステム設定により異なります。

XProtect Hospital Assist

XProtect Hospital Assistは、24時間365日、または経過観察が必要な患者を看護する病棟専用に設計されています。

この XProtect VMS 拡張機能は、患者を遠隔監視するための専用ソリューションで、医療機関で以下を実現します。

- スタッフの効率の向上
- インシデントへの迅速な対応
- 高品質な患者ケアの提供



XProtect Hospital Assist 機能へのアクセス権限がある場合は、付箋を追加したり、カメラ位 置からぼかし加工を有効にできます。人の転倒が検出された時に、**アラームマネージャー** ウィンドウから通知を受け取ることができます。



XProtect Incident Manager

XProtect Incident Manager は、組織がインシデントを文書化したり、XProtect VMS からのシーケンスエビデンス (ビデオ、音声の場合もあり)と組み合わせることを可能にする拡張機能です。



XProtect Incident Manager で XProtect Smart Client の機能にアクセスできる場合、[MIP プラグイン] ペインでインシデントプロジェクトを開始し、[インシデント] タブで既存のイ ンシデントプロジェクトを確認することができます。[インシデント] タブが存在するだけで は、XProtect Incident Manager 拡張機能が提供する機能にアクセスできるとは限りません。



XProtect Incident Managerのユーザーは、ビデオ以外にも、インシデントプロジェクトのすべてのインシデント情報を保存することができます。インシデントプロジェクトから、各インシデントのステータスとアクティビティを追跡することができます。このようにして、ユーザーはインシデントを効果的に管理し、内部的には同僚と、外部的には当局と強力なインシデントのエビデンスを簡単に共有できます。

XProtect Incident Manager は、調査対象の場所で起きているインシデントを概観および理解するのに役立ちます。 この知識により、組織は同様のインシデントが今後発生する可能性を最小限に抑えるための手順を実装できます。

XProtect Management Client では、組織の XProtect VMS のシステム管理者は、XProtect Incident Manager で使 用可能なインシデントプロパティを組織のニーズに合わせて定義することができます。XProtect Smart Client のオ ペレータはインシデントプロジェクトを開始、保存、管理し、インシデントプロジェクトにさまざまな情報を追加す ることができます。これには、フリーテキスト、システム管理者が定義したインシデントプロパティ、および XProtect VMSからのシーケンスが含まれます。完全なトレーサビリティを実現するために、XProtect VMSは、シス テム管理者がインシデントプロパティを定義および編集するとき、およびオペレータがインシデントプロジェクトを 作成および更新するときにログを記録します。

この XProtect Incident Manager の拡張機能は以下と互換性があります。

- XProtect Corporate バージョン2022 R2 以降
- XProtect Expert、XProtect Professional+、およびXProtect Express+ バージョン2022 R3 以降
- XProtect Smart Client バージョン2022 R2 以降

XProtect LPR

カメラのビデオフィードからナンバープレートを認識するために設計された Milestone 拡張機能。



XProtect Smart Client に**ナンバープレート認識**のタブがあれば、XProtect LPR 拡張機能に アクセスできます。



[ナンバープレート認識] タブでは、すべてのナンバープレート認識カメラからの ナンバープレート認識イベントを 調査し、関連付けられたビデオ録画とナンバープレート認識データを表示します。ナンバープレート一致リストを最 新の状態に保ち、レポートを作成します。

このタブには、ナンバープレート認識イベントリストとナンバープレート認識カメラプレビューが含まれています。 プレビューでは、ナンバープレート認識イベントの詳細に関するビデオを見ることができます。プレビューの下に、 ナンバープレートに関する情報が、ナンバープレート一致リストの詳細と関連付けられているナンバープレートスタ イルとともに表示されます。

イベントリストには、期間、国モジュール、ナンバープレート認識カメラ、ナンバープレート一致リストまたはナン バープレートスタイルでフィルターをかけることができます。[登録番号の検索]フィールドを使用して、特定のナン バープレート登録番号を検索することができます。デフォルトで、このリストには直近1時間のナンバープレート認 識イベントが表示されます。

関連するイベントを PDF 形式で指定し、エクスポートすることができます。

ナンバープレートー致リスト機能を使用すると、既存のナンバープレートー致リストを更新できます。

XProtect Rapid REVIEW

調査の迅速化のために設計された Milestone 拡張機能。



XProtect Smart Client に**Rapid REVIEW**のタブがあれば、XProtect Rapid REVIEW 拡張機能 にアクセスできます。



XProtect Rapid REVIEW 拡張機能の機能により、以下が可能になりました。

- VIDEO SYNOPSIS® で数時間のビデオを数分でレビュー
- 以下をベースにした堅牢な複数カメラ検索機能で、対象物を瞬時に見つけます。
 - 顏認識
 - 外見の類似性
 - 色と大きさ
 - 速度、経路、方向、滞留時間
- 調査に関するすべてのビデオ資産を迅速かつ効果的に整理
- 活動レベル、滞留時間、共通経路、背景の変化を迅速に可視化

XProtect Smart Wall

XProtect Smart Wall は、組織特有のセキュリティ要件を満たすビデオウォールを作成することを可能にする、高度 な拡張機能です。XProtect Smart Wall は、XProtect VMS システム上のビデオデータすべての概要を提供し、台数 や組み合わせを問わず、すべてのモニターをサポートします。



組織が XProtect Smart Wall 拡張機能を有する場合、複数の物理ディスプレイから成るビデ オウォールが制御室に設置されます。カメラのビューアイテムを選択し、[詳細]、[送信 先]Smart Wall の順に選択して、ビデオウォールにコンテンツを送信することもできます。



XProtect Smart Wallにより、オペレータは、カメラとモニターのレイアウトの固定セットを使用してシステム管理 者によって設定された静的動画を確認できます。ただし、ビデオウォールは、オペレータが表示されるコンテンツを コントロールできる、ある意味オペレータ主導のウォールです。これには以下が含まれます。

- カメラやその他のタイプのコンテンツ(画像、テキスト、アラーム、スマートマップなど)をビデオウォー ルにプッシュ
- ビュー全体をモニターに送信
- 特定のイベントの過程で、代替プリセットを適用

最後に、ディスプレイの変更は、特定のイベントまたはタイムスケジュールに応じてプリセットを自動変更するルー ルでコントロールできます。



XProtect Transact

XProtect Transact は Milestone の IP ビデオ監視ソリューションの拡張機能で、実行中のトランザクションを監視 し、過去のトランザクションを調査することができます。トランザクションは、詐欺を証明したり、犯人のエビデン スを提供するのに役立つよう、トランザクションをモニターするデジタル監視ビデオにリンクされます。トランザク ションラインとビデオ画像は1対1の関係になっています。



XProtectSmartClientに**Transact**タブがあれば、XProtectTransact拡張機能にアクセスできます。



トランザクションデータは、さまざまなタイプのトランザクションソースから発生します。典型的には、POS シス テムや ATM などです。トランザクションラインを選択すると、それぞれの関連付けられたカメラのビデオ静止フ レームがプレビューエリアに表示され、録画を確認できます。プレビューエリアの下には、選択されたラインに関連 付けられたトランザクションがレシートとして表示されます。

XProtect Smart Client の使用方法を学ぶ

ユーザーアシスタンスへのアクセス

XProtect Smart Client インターフェイスでは、**F1** を押すと、XProtect Smart Client ユーザーアシスタンス内の関連 するトピックが開きます。ユーザーアシスタンストピックは現在取り組んでいるタスクの遂行を支援するようカスタ マイズされています。

XProtect Smart Client 2024 R1 以降、ユーザーアシスタンスはソフトウェアと一緒にはインストールされず、別途 インストールできるようになりました。

XProtect Smart Client のインストールされているコンピュータがインターネットへアクセスできる場合は、ユー ザーアシスタントをインストールする必要はありません。**F1**を押せば、Milestone Systems のすべてのソフトウェ アのすべてのユーザーアシスタンスが含まれた Milestone Documentation ポータルが開きます。

インターネットにアクセスできず、ユーザーアシスタンスがインストールされていない場合は、**F1**キーを押すと、 Milestone Documentationポータルに誘導するQRコードとURLが表示されます。

追加のヘルプリソース

×

Milestone DocumentationポータルのXProtect Smart Clientユーザーアシスタンスまたはヘ ルプリソースで必要な情報が得られない場合は、https://www.milestonesys.com/support/ でセルフヘルプリソースを参照するか、リセラーにお問い合わせください。

Milestone は通常すべての XProtect 製品の e ラーニングコースを提供しています。eラーニングコースはXProtect Smart Client、XProtect Smart Clientトレーニングウェブページ (https://learn.milestonesys.com/tools/customer_ portal/index.html) で見つかります。

導入とログイン

XProtect Smart Client:導入とログイン

XProtect Smart Client: 「導入とログイン」は、XProtect Smart Clientのインストール、アップグレード、ログイン 方法に関する包括的なガイドです。

対象のトピック

このガイドは、XProtect Smart Clientのシームレスな導入とアクセスを確保するためのガイダンスを提供します。 このガイドでは、以下のトピックを取り上げています。

- システム要件
- ライセンス
- インストール手順
- アップグレード手順
- インストールおよびログイン時の一般的な問題に関するトラブルシューティング

対象者

このガイドの対象者には、組織内でのXProtect Smart Clientの導入、設定、保守に責任を負うシステム管理者、IT担当者、技術スタッフが含まれています。

ライセンスとシステム要件

最低限のシステム要件

さまざまな VMS アプリケーションおよびシステムコンポーネントのシステム要件についての情報は、Milestone ウェブサイト(https://www.milestonesys.com/systemrequirements/)をご覧ください。

コンピュータが要件を満たしているかどうかを確認

オペレーティングシステムと DirectX のバージョン、およびインストールされているデバイスおよびドライバなど、 お使いのシステムに関する情報を表示するには、以下を実行します。

- 1. [スタート] メニューを開き、「dxdiag」と入力します。
- 2. dxdiag のテキストを選択して、[DirectX診断ツール] ウィンドウを開きます。



dxdiag

Run command

3. [システム] タブでシステム情報を表示します。

最大ディスプレイ数

XProtect Smart Client では、コンピュータに取り付けるディスプレイの数に制限はありません。

最大数はハードウェア(ディスプレイアダプタなど)と Windows のバージョンによります。

ライセンス

所属する組織が XProtect VMS 製品と XProtect 拡張機能のライセンスを所有している場合、XProtect Smart Client をインストール、使用するのに追加のライセンスは必要ありません。

システム管理者が XProtect[®] VMS をインストールする際、組織の XProtect VMS 製品および XProtect 拡張機能のラ イセンスを登録し、アクティベートします。

インストールとアップグレード

XProtect Smart Clientをインストールする

Web ページから XProtect Smart Client を XProtect VMS システムのマネジメントサーバーにダウンロードし、コン ピュータにインストールします。

> XProtect VMS システムに含まれるすべての新しい特徴と機能に確実にアクセスするため に、お使いの XProtect VMS バージョンに見合ったバージョンの XProtect Smart Client をご 使用ください。より新しいバージョンの XProtect Smart Client を使用することもできます。 これにより、パフォーマンスの向上が期待できる場合があります。システム管理者に助言を お求めください。
- 1. ブラウザを開き、マネジメントサーバーの URL または IP アドレスを入力します。
 - XProtect Smart Clientをマネジメントサーバーにインストールする場合: http://localhost/installation
 - XProtect Smart Clientをマネジメントサーバーが稼働しているコンピュータとは異なるコンピュータ にインストールする場合: http://[IP_address]/installation。URLまたはIPアドレスがわからない場 合は、システム管理者に連絡してください。
- 2. オプションで、Web ページの言語を変更します。
- 3. Web ページで XProtect Smart Client インストーラを見つけ、[すべての言語] を選択します。
- 4. ダウンロードした XProtect Smart Client インストーラを実行し、以下のインストールの指示に従います。
- 5. インターネットにアクセスできない場合にXProtect Smart Client ユーザーアシスタンスにアクセスするに は、ダウンロードしてインストールします。

XProtect Smart Client のアップグレード

ほとんどの場合、XProtect Smart Client のアップグレードプロセスは最初のソフトウェアとユーザーアシスタンスのインストール時と似通っています。

例外と説明については、以下の情報をご参照ください。

メッセージ:新しいバージョンをご利用いただけます

ログインすると、新しいバージョンの XProtect Smart Client が入手可能であり、システム管理者が XProtect VMS システムをアップデートしたことを伝えるメッセージが表示されます。新しいバージョンをダウンロード、インス トールして、新しい特徴と機能に確実にアクセスできるようにします。

インストーラで示されるインストールパス

アップグレードを行う際に、インストーラで示されるインストールパスを使用してユーザー設定を維持します。他の パスを使用したい場合は、現在インストールされている XProtect Smart Client を削除し、新しいバージョンをイン ストールする必要があります。

XProtect VMS バージョンより新しいバージョンへの XProtect Smart Client のアップグレード

XProtect VMS システムのバージョンより新しいバージョンの XProtect Smart Client をインストールすることもで きますが、使用可能な特徴と機能は XProtect VMS システムで使用可能な特徴と機能に対応したものになります。現 在のバージョンの XProtect Smart Client の検証 on page 73 をご参照のうえ、スーパーバイザーまたはシステム管理 者に助言を求めてください。

現在のバージョンの XProtect Smart Client の検証

XProtectSmartClientのバージョンとXProtectSmartClientのプラグインを知ることは、以下を行う場合に重要です。

- アップグレード
- XProtect VMS のバージョンとの互換性の検証
- サポートにお問い合わせください

手順:

- 1. グローバルツールバーから、[設定とその他] メニューを選択します。
- 2. バージョン情報を選択します。



トラブルシューティング:インストールの試み

XProtect Smart Client のインストールを試みる際に表示される可能性のあるエラーメッセージは、以下の通りです。

このオペレーティングシステムには Milestone XProtect Smart Client をインストールできません。OS がサポート されていません。

XProtect Smart Client でサポートされていない Windows OS がインストールされているコンピュータに XProtect Smart Client のインストールを試みています。OS をアップグレードして再度お試しください。

システムエラーが発生しました。この製品は 64 ビット Windows システムにのみインストールできます。

64 ビットでない Windows OS がインストールされているコンピュータに XProtect Smart Client のインストールを 試みています。OS をアップグレードして再度お試しください。

ログインとログアウト

ログイン

1. XProtect Smart Client を起動します。ログインウィンドウが表示されます。

	-
Authentication	-
Basic authentication	*
User name	
MyBasicUser	
Password	
Change password	
Remember password	
🔲 Auto-login	

- 2. 接続したいマネジメントサーバーの名前またはアドレスを指定します。
- 3. 以下の認証方法のいずれかを選択します。
 - Windows認証(現行ユーザー):現在のログインと同じWindowsユーザー認証情報を使用してログ インします。
 - Windows認証:現在使用しているWindowsユーザー認証情報とは異なるユーザー認証情報を使って ログインします。
 - **基本認証**:基本ユーザーとしてログインします。XProtect Management Client の基本ユーザーはシ ステム管理者が設定します。
 - [外部IDPの名前]:このオプションを選択すると、外部IDPでログインします。
- 4. [接続]を選択します。

ログインにどれくらい時間がかかるかは、お客様の組織の XProtect VMSシステムの複雑さと設定によって異なります。

XProtectVMSシステムの設定と製品拡張機能によっては、追加でいくつかのステップと質問が表示されることがあります。

利用可能な追加ログインオプション

ログイン時のウィンドウとタブの復元

タスクを素早く開始するために、XProtect Smart Client から最後にログアウトしたときに開いていたウィンドウや タブをすべて復元することができます。

• ログインして [ウィンドウとタブの復元] ウィンドウが開いたら、復元するかどうかを選択します。

おそらく XProtectVMS のシステム管理者が、復元するかどうかを通知するようにすでに設定していると思われます が、自分で定義することもできます。ログイン時のウィンドウとタブを復元すべきか定義する on page 81をご参照 ください。

認証してログイン

XProtect Smart Client にログインする際に、追加のログイン認証が要求されることがあります。

ログインウィンドウで、あなたとスーパーバイザーの両者があなたのログイン資格情報を入力する必要があります。

誰から認証を得るべきか分からない場合は、スーパーバイザーまたはシステム管理者にお問い合わせください。

入退室管理システムへのログイン

所属する組織が入退室管理システムを有する場合、XProtect Smart Client にログインする際に、追加のログイン資格情報を尋ねられることがあります。

• 入退室管理システムのログインウィンドウで、ログイン資格情報を入力します。

入退室管理システムのログイン資格情報が分からない場合は、スーパーバイザーまたはシステム管理者にお問い合わせください。

HTTP 接続を許可

XProtect VMS システムに証明書がインストールされていない場合、XProtect の最新のセキュリティモデルへ接続す ることができません。セキュリティモデルは HTTPS ネットワークプロトコルをベースにしています。

• HTTP 接続を許可するには、次を選択します:この選択を記憶する。今後このメッセージを表示しない。

76 | 導入とログイン

XProtect Smart Client が古いセキュリティモデル(HTTP)を使用する XProtect VMS シス テムまたはフェデレーテッドサイトに接続している場合、**安全でない**という情報メッセージ がグローバルツールバーの左側に表示されます。

HTTP 接続を許可しない on page 82もご参照ください。

トラブルシューティング:ログインの試み

XProtect Smart Client にログインすると、以下のメッセージと警告が表示されることがあります。

現在のユーザー権限では、ログインが認められません。ユーザー権限は、時間帯や曜日などによって異なる場合があ ります。

ユーザー権限によりログインが許可されていない時間帯にログインを試みています。

解決方法:ログインが許可されるまでお待ちください。ユーザー権限についてご不明な点がある場合は、システム管 理者にお問い合わせください。

アプリケーションのどの部分にもアクセスする権限がありません。システム管理者にお問い合わせください。

現在、XProtect Smart Client のどの部分にもアクセスする権限がありません。

解決方法:必要に応じて、アクセス権限を変更できるシステム管理者に連絡してください。

2 台(以上)のカメラが同じ名前または ID を使用しているため、アプリケーションを起動できません...

このエラーメッセージは、誰かがバックアップを使用した、設定が他の XProtect VMS システムの 1 つの XProtect VMS システムで変更されていないなど、稀なケースでのみ表示されます。結果:異なる複数のカメラが同じ ID を使用しようとしているため、XProtect Smart Client ユーザーが XProtect VMS システムにアクセスできません。

解決方法:システム管理者にお問い合わせください。

認証失敗:自分自身を認証することはできません。

自分の資格情報を[承認者名]フィールドに入力しています。

解決方法:認証権限のある担当者にご連絡ください。これは、スーパーバイザーかシステム管理者になります。この 人物があなたのログインを認証するため、資格情報を入力する必要があります。

認証失敗:認証する権限がありません。

ユーザーを認証しようとしましたが、それを行うユーザー権限がありません。

解決方法:他のユーザーを認証するのに必要な権限があることを確認するようシステム管理者に依頼するか、もしく は必要な権限を持っている人にユーザーの認証を依頼してください。

接続できませんでした。サーバーのアドレスを確認してください。

XProtect VMS システムのマネジメントサーバーが指定されたサーバーアドレスに存在しません。

解決方法:入力したサーバーアドレスが正しいか確認してください。サーバーアドレスの一部として http://または https://のプレフィックスとポート番号が必要です(例: https://123.123.123.123.80、「:80」はポート番号)。ご 不明点がある場合は、システム管理者にお問い合わせください。

接続できませんでした。ユーザー名とパスワードを確認してください。

XProtect VMS システムが指定のユーザー名および/またはパスワードを認識できません。

解決方法:ユーザー名が正しいかを確認し、再度パスワードを入力します。ユーザー名とパスワードでは大文字と小 文字を区別します。例えば、Amanda と amanda は同じ文字として認識されません。

接続できませんでした。最大限の数のクライアントがすでに接続しています。

XProtect VMS システムへの同時の接続を許可されているクライアントの最大数に達しました。

解決方法:しばらく待ってからもう一度接続してください。至急XProtectVMSシステムへのアクセスが必要な場合 は、システム管理者にお問い合わせください。システム管理者は同時に接続可能なクライアント数を増やすことがで きます。

古いセキュリティモデルを使用した接続。最新のセキュリティモデルを使用して Web ページにアクセスすることが できません。

証明書がインストールされていない XProtect VMS システムへのログインを試みています。

解決方法:システム管理者に問い合わせるか、[許可]を選択し HTTP を使用してログインします。HTTP は証明書 を使用せずに機能するネットワークプロトコルです。

XProtect Smart Client が古いセキュリティモデル(HTTP)を使用する XProtect VMS シス テムまたはフェデレーテッドサイトに接続している場合、**安全でない**という情報メッセージ がグローバルツールバーの左側に表示されます。

この操作を行う権限がありません

時間帯によって変わるユーザー権限であるため、機能の使用が許可されません。ユーザー権限は、時間帯や曜日など によって異なる場合があります。そのため、後でその機能を使用できる可能性もあります。

解決方法:後でやり直すか、システム管理者に問い合わせます。

システムの設定により、XProtect Smart Client セッションは次の時間内に失効します[...]

XProtect Smart Client を使用する権限が時間帯や曜日などによって異なる可能性があります。

この場合、通常はセッションが終了する数分または数秒前にこのメッセージが表示されます。このメッセージをどの ような時に送信するかは、システム管理者が定義します。

解決方法:後でやり直すか、システム管理者に問い合わせます。

ユーザーアクティビティがしばらく検出されなかったため、XProtect Smart Client セッションは次の時間内に終了 します[...]

アプリケーションをしばらく使用しないと、セキュリティ上の理由により、XProtect Smart Client が終了します。 通常は、セッションが終了する数分または数秒前にこのメッセージが表示されます。このメッセージをどのような時 に送信するかは、システム管理者が定義します。

ログアウト

• グローバルツールバーで、[**ユーザーメニュー**]、次に [**ログアウト**] を選択します。

XProtect Smart Clientが再起動します。ログイン画面が表示されますので、再度ログインしてください。

パスワードの変更(基本認証のみ)

基本ユーザー(**基本認証**)としてログインし、XProtect VMS システムで 2021 R1 以降のバージョンをお使いの場合 は、パスワードの変更ができます。

異なる認証方法を選択すると、システム管理者しかパスワードを変更できなくなります。パスワードを頻繁に変更すると、XProtect VMS システムのセキュリティが向上します。

- 1. XProtect Smart Client を起動します。ログインウィンドウが表示されます。
- 2. ログイン情報を指定します。認証リストで、[基本認証]を選択します。「パスワード変更」と書かれたリン クが表示されます。

Authentication	
Basic authentication	•
User name	
MyBasicUser	
Password	1
Change password	
Remember password	
Auto-login	

3. [パスワード変更] を選択します。

- 4. 指示に従い、変更を保存します。
- 5. 新しいパスワードを使用して XProtect Smart Client にログインします。

XProtect Smart Client システムのカスタマイズ

XProtect Smart Client 設定のデフォルト値

XProtect Smart Client は、さまざまな方法でカスタマイズできます。

XProtect Smart Client 設定では、XProtect Smart Client の動作の一部と使用可能な機能を変更できます。

システム管理者は、特定またはすべての設定のデフォルト値を設定したり、設定の責任をユーザーに委任したりする 場合があります。特定の設定のデフォルト値を変更する権限がある場合もありますが、変更が許可されないこともあ ります。

設定はいつでも変更できますが、一部の設定を変更するとXProtectSmartClientの再起動が必要になる場合があります。

定義した設定は、コンピュータのローカルユーザーアカウントに保存されます。

XProtect Smart Client 設定の例をいくつか示します。

- ビデオの境界ボックスを表示/非表示にできます。
- メインタイムラインのタイムライン追跡の音声録音を表示/非表示にできます。
- スナップショットのデフォルトのパス。
- 前回のログインからビューを復元できます。

すべての XProtect Smart Client 設定は、以下で見つけることができます。

• グローバルツールバーで [設定とその他] メニュー、次に [設定] を選択します。

XProtect Smart Client の言語の変更

XProtect Smart Clientでは複数の言語が利用可能です。

1. グローバルツールバーから、[設定とその他] ボタンを選択します。



- 2. [設定]を選択します。
- 3. [言語] タブで、使用する言語を選択します。

右から左に読む言語

XProtect Smart Client は特定の右から左に読む言語に対応しています。このような言語を使用する場合、ユーザー インターフェースのレイアウトも右から左読みに変わります。例えば、ボタン、ツールバー、ペインは、英語とは反 対側に表示されます。右から左に読む言語の使用を選択した場合、レイアウトを左から右のままにしておくことを選 択することができます。

ログイン時のウィンドウとタブを復元すべきか定義する

最後に XProtect Smart Client からログアウトしたときに開いていたウィンドウやタブを復元するかどうかを指定で きます。ログイン時にすべてが復元され、ワークスペースがプリファレンスに従い整理されます。

1. グローバルツールバーから、[設定とその他] ボタンを選択します。



- 2. [設定]を選択します。
- 3. [アプリケーション] タブで、[ウィンドウとタブの復元] 設定のドロップダウンメニューを開きます。
- 4. あなたに最適なオプションをお選びください:
 - 最後:XProtect Smart Client からログアウトしたときに開いていたすべてのウィンドウとタブを常に 復元します。
 - 該当なし:XProtect Smart Clientからログアウトしたときに開いていたすべてのウィンドウとタブを 復元しません。
 - 尋ねる:ログインすると、前回のセッションから XProtect Smart Client ウィンドウとタブを復元す るかどうか尋ねられます。

ビデオとユーザーインターフェースナビゲーションのためにジョイスティックを追加す る

お使いのコンピューターのUSBポートにジョイスティックを接続すると、通常のジョイスティックはすぐにXProtect Smart Clientで機能します。

それ以外のジョイスティックについては、ドライバーをインストールし、手動でXProtect Smart Clientを追加しなければなりません。またこれは、ジョイスティックをシリアルポートに接続したりIPアドレスを介して接続した場合にもあてはまります。

ジョイスティックを手動で追加するには、次のことを行ってください。

1. グローバルツールバーから、[設定とその他] ボタンを選択します。



- 2. [設定]を選択します。
- 3. [ジョイスティック] タブで、[追加] を選択します。
- ジョイスティック用にインストールしたドライバーを選択し、ジョイスティックのプロパティを定義します。

ドライバーによって、プロパティの値が事前に入力されている場合と、手動で入力す る必要がある場合があります。正しいプロパティ値を入力した場合にのみ、ジョイス ティックを追加することができます。プロパティ値を確認する必要がある場合は、 ジョイスティックのベンダーにお問い合わせください。

5. [追加]を選択します。

A.C.

6. [ジョイスティック] タブで、異なる軸の動き、デッドゾーン、ジョイスティックのボタン設定を定義しま す。ジョイスティック設定 on page 344をご参照ください。

音声通知の音を変更する

XProtect Smart Clientを搭載したコンピューターごとに、異なるサウンド通知を設定すると便利です。イベントまた はモーションが検知されるたびに音声ファイルが再生されます。サウンドファイルを変えて、各コンピューターの通 知音声を異なるものにすることができますが、そのためには管理者権限が必要です。

音声ファイルは、Notification.wavと呼ばれ、XProtect Smart Clientインストールフォルダ内にあります。通 常:C:\Program Files\Milestone\XProtect Smart Client。

 別の.wavファイルを使用したい場合は、ファイルにNotification.wavという名前を付けて、XProtect Smart Clientインストールフォルダーにコピーするだけです。



カメラごとに異なるサウンドファイルを使用したり、イベント検知やモーション検知を区別 する機能はありません。

HTTP 接続を許可しない

古いセキュリティモデル(HTTP)を使用する接続を使用するネットワークプロトコルでXProtect VMS システムに ログインすることを許可する設定を解除できます。HTTP 接続を許可 on page 76をご参照ください。

- 1. グローバルツールバーで [**ユーザーメニュー**] を選択します。
- 2. [ログイン情報]を選択します。
- 3. [クリア]を選択します。
- 4. [OK] を選択します。

XProtect Smart Client の使用方法を学ぶ

ユーザーアシスタンスへのアクセス

XProtect Smart Client インターフェイスでは、**F1** を押すと、XProtect Smart Client ユーザーアシスタンス内の関連 するトピックが開きます。ユーザーアシスタンストピックは現在取り組んでいるタスクの遂行を支援するようカスタ マイズされています。

XProtect Smart Client 2024 R1 以降、ユーザーアシスタンスはソフトウェアと一緒にはインストールされず、別途 インストールできるようになりました。

XProtect Smart Client のインストールされているコンピュータがインターネットへアクセスできる場合は、ユー ザーアシスタントをインストールする必要はありません。**F1**を押せば、Milestone Systems のすべてのソフトウェ アのすべてのユーザーアシスタンスが含まれた Milestone Documentation ポータルが開きます。

インターネットにアクセスできず、ユーザーアシスタンスがインストールされていない場合は、**F1**キーを押すと、 Milestone Documentationポータルに誘導するQRコードとURLが表示されます。

追加のヘルプリソース

Ì

Milestone DocumentationポータルのXProtect Smart Clientユーザーアシスタンスまたはヘ ルプリソースで必要な情報が得られない場合は、https://www.milestonesys.com/support/ でセルフヘルプリソースを参照するか、リセラーにお問い合わせください。

Milestone は通常すべての XProtect 製品の e ラーニングコースを提供しています。eラーニングコースはXProtect Smart Client、XProtect Smart Clientトレーニングウェブページ (https://learn.milestonesys.com/tools/customer_ portal/index.html) で見つかります。

ビデオの表示とビューの操作

XProtect Smart Client:ビデオの表示とビューの操作

XProtect Smart Client:「ビデオの表示とビューの操作」は、XProtect Smart Clientでのライブビデオと録画ビデオの表示と管理に関する包括的なガイドです。

対象のトピック

このガイドは、ライブビデオと録画ビデオで以下を操作する方法について説明しています。

- ビューを開いて最大化する
- ビデオの全画面モードでの表示
- ホットスポットへのビデオの送信
- 画面自動切替ビューアイテムでの作業

このガイドは、デジタルズーム、PTZ(パン/チルト/ズーム)の制御、さまざまな種類のマップなどの高度な機能の 使用についても説明しています。

対象者

このガイドの対象者には、組織内でのXProtect Smart Clientの管理と操作に責任を負うセキュリティ担当者、オペレータ、技術スタッフが含まれています。

ビデオの表示

表示と録画

XProtectSmartClientでビデオを表示するには、ライブモードまたは再生モードの異なるビューを選択して切り替えます。

ビューが無い場合、それらを作成することができます。プライベートビューと共有ビューonpage249をご参照ください。

カメラにマイクや個別のマイクが追加されている場合は、ライブ音声や録音された音声を聞くことができます。カメ ラにスピーカーがある場合は、音声をブロードキャストすることができます。

カメラのビデオは常に録画されているわけではありません。通常、録画はモーション、スケジュール、イベントによ りトリガーされます。デバイスからのデータやマイクからの音声は通常継続的に録画されています。

ビデオにバウンディングボックスが表示される場合は、カメラに関連付けられたデバイスがシステムにメタデータを 送信しています。

ビューを開き、ビューアイテムを最大化する

ライブビデオまたは録画されたビデオを見る場合、関連するビデオを含むビューを選択します。

84 | ビデオの表示とビューの操作

- 1. メイン表示タブを選択します。
- 2. [ビュー]ペインで関連するビデオを含むビューを選択します。

または、ビューにショットカット番号が割り振られている場合は、テンキーの*+[ショートカット番号]+ Enterでビューを選択できます例えば、ショートカット番号1のビューを選択するには、*+1+Enterキーを 押します。



割り当てられた番号は、ビューペインのビュー名の前の括弧内に表示されます。

ビューアイテムを最大化してビューアイテム内のコンテンツの細部を見るには、[ビューアイテム]を選択してダブルクリック、またはEnterキーを押します。最小化するには、もう一度ダブルクリックするか、Enterキーを押します。

デフォルトのキーボードショートカット on page 101とビューへショートカット番号を割り当てる on page 252をご 参照ください。

短いビデオチュートリアルを見ますか?



ウィンドウを全画面表示モードで表示する

ビューを全画面表示モードに送ることによってメニューとコントロールを非表示にし、視聴のためのインターフェー スを最大化します。

- ワークスペースツールバーで、[全画面表示モードに切り替え]
 ☑ を選択します。
- 全画面表示を修了するには、マウスカーソルをウィンドウの上部へ移動させ、[全画面表示モードの切替]
 を選択します。

ビデオをホットスポットへ送信する

ホットスポットビューアイテムがある場合は、別のカメラビューから拡大された高品質のビデオをそこで表示することができます。

• ホットスポットビューアイテムにビデオを表示するためのカメラビューを選択します。



短いビデオチュートリアルを見ますか?



画面自動切替ビューアイテムのビデオを見る

ライブモードでは、画像自動切替ビューアイテムは定義された間隔でカメラフィード間を回転します。画像自動切替 ビュー時間により、関心のあるエリアをパトロールし、そこで起こっていることを把握することができます。

画像自動切替のタイミングは、ビューを開いた時に始まります。同じ画面自動切替ビューアイテムが開いている2つのビューがある場合、同じ画面自動切替の2つの独立したタイミングを見ていることになります。

チルトバーにある
のアイコンで、画像自動切替ビューアイテムを把握することができます。

- 1. 画像自動切替が含まれているビューを開きます。
- 2. 次のアクションの1つを実行してください。



• 画像自動切替ビューアイテム内の次のまたは前のカメラからのビデオを表示するには、[前のカメラ]



短いビデオチュートリアルを見ますか?



ライブビデオのステータスを表示する

ライブモードで、それぞれのカメラビューアイテムの上部にあるカメラインジケーターによってビデオのステータス が表示されます。



インジ ケータ	説明
ĕ ¢	モーションが感知されました。インジケーターは、ビューアイテムを選択しモーションインジ ケーターをリセットすることにより、インジケーターを見たことを承認するまで、表示されます
	カメラプロパティでは、モーションが検出された際の音による通知を加えることができます。
	カメラとサーバーの接続が切断されました。
•	カメラからビデオを録画中です。
-	カメラへの接続が確立されました。このアイコンはライブビデオ専用です。
	録画された動画を再生しています。
0	サーバーから2秒間以上新しい画像を受信していません。

録画したビデオをメインのタイムラインとは別に表示

ビューアイテム内でビデオを確認したい場合は、ビュー内の他のビデオとは独立してそのビデオを再生することがで きます。再生モードでは、再生は選択したメインのタイムラインとは無関係です。ライブモードでは、再生はライブ ビデオとは無関係です。



1. ビューアイテムを選択し、カメラツールバーから、[個別再生] 🎦 を選択します。

カメラのビューアイテムのトップバーが黄色に変わり、個別再生タイムラインが表示されます。

ି ଏ ଏ	2:36:52.450 PM	20 	
		 222	
	R 🖻 💌	🗎 💿 😫	More 🗸

- ライブモードでは、[個別再生]が選択された時刻の10秒前からビデオの再生が開始されます。
- 再生モードでは、再生した場合、ビデオは反対方向に10秒ジャンプします。一時停止された場合、ビ デオは現在時刻で一時停止します。
- 2. 別の時間に録画したビデオを見るには、個別再生タイムラインをドラッグします。
- 3. ビュー内のすべてのカメラからの録画ビデオを個別再生時刻に同期させるには、[再生タイムラインに選択し

た時間を使用] **「**を選択します。

これにより、再生モードで、個別再生用に最初に選択した時刻にビデオが同期化されて表示されます。

短いビデオチュートリアルを見ますか?



録画ビデオ内で時間を前後に移動する

メインタイムラインコントロールを使用することで録画内を移動できます。

- タイムライン追跡を左または右にドラッグします。ゆっくり移動する場合は、CTRLキーを押しながらドラッ グします。
- タイムラインコントロール、マウスのスクロールホイールを使用するか、再生ヘッド上の日付を選択して、 特定の時間に移動します。



メインタイムライン on page 58もご参照ください。

短いビデオチュートリアルを見ますか?



カメラおよびビューの検索

ビューまたはカメラの名前を知っている場合、またはカメラの特徴または説明を知っている場合は、すべてのビュー グループ内でそれらを検索できます。

例:

- カメラの説明:システム管理者はすべてのアウトドアカメラに**屋外**タグをつけています。
- カメラの機能: PTZ、音声、入力および出力

検索結果にはカメラと、そのカメラが属するビューが含まれます。

1. [表示] タブの[カメラとビューの検索] フィールドで、検索したいテキストを入力します。

または、検索フィールドの横の を選択し、一般的な検索キーワードの1つを選びます。

- 2. 検索結果から、次のものを選択できます。
 - ビューを開くためのビュー。
 - 一時的ビューにあるビデオを見るための1台または複数のカメラ。1台のカメラを選択するか、 Ctrl キーまたはShiftキーを押して複数のカメラを選択し、 Enterキーを押します。

複数のオープンビューを操作

追加のウィンドウと表示タブ

メインウィンドウに加えて、追加のサブウィンドウでビューを開くことがきます。メインウィンドウとサブウィンド ウの両方で複数の表示タブを開くこともできます。 ユーザーマニュアル | XProtect[®] Smart Client 2025 R2

追加の表示タブ

すべてのウィンドウにはメインの表示タブがありますが、追加の表示タブを開くことができます。



サブウィンドウ

フローティングウィンドウとディスプレイウィンドウの2つの種類のサブウィンドウにビューを送ることができます。



• フローティングウィンドウ:すべてのタブと制御が表示されているサブウィンドウ。

ディスプレイウィンドウ(プライマリ、セカンダリなど):すべてのタブと制御が非表示になっているフルスクリーンウィンドウ。このウィンドウを閉じるには、マウスカーソルをウィンドウの上部で動かし[閉じる]ボタンなど非表示にするためのボタンを表示します。



追加の表示タブを開く

異なるビューに切り替えるために、メインウィンドウやサブウィンドウで必要なだけ表示タブを開くことができま す。

1. デフォルトタブから、[新規表示タブ]を選択します。



- 2. 関連するビデオを含むビューを選択します。新しい表示タブの名前は、選択したビューの名前になります。
- 3. 追加した表示タブを再度閉じるには、[タブを閉じる]を選択します。



追加の表示タブの開閉にショートカットキーを割り当てることができます。[設定とその他] のメニューから、[設定]を選択します。[キーボード] タブから、[アプリケーション] カテゴ リを選択します。これで、[選択したタブを閉じる]と[新しい表示タブを開く]オプションに ショートカットキーを割り当てることができます。



デフォルトメニューではメインタブをとじることはできません。追加されたタブをとじるこ とのみ可能です。

短いビデオチュートリアルを見ますか?



ビューをサブウィンドウに送信する

いくつかのモニターがあり、同時に複数のビューからのビデオを表示したい場合は、ビューをディスプレイウィンド ウまたはフローティングウィンドウとしてサブウィンドウに送ることができます。

サブウィンドウは希望する数だけ開くことができ、コンピュータに接続されているあらゆるモニターにドラッグする こともできます。



- 1. [ビュー]ペインで、サブウィンドウに送信したいビューを右クリックします。
- 2. [ビューを送信]を選択し、次にビューを送信したいサブウィンドウを選択します。



追加のウィンドウと表示タブ on page 89もご参照ください。

93 | ビデオの表示とビューの操作

XProtect Smart Clientからログアウトすると、開いているすべてのウィンドウとタブの情報 がローカルコンピュータに保存されます。XProtect Smart Clientにログインした後すぐに、 ワークスペースを希望通りに配置するために、すべてのウィンドウとタブの復元を定義する ことができます。ログイン時のウィンドウとタブを復元すべきか定義する on page 81をご参 照ください。

短いビデオチュートリアルを見ますか?



۲

サブウィンドウの時間をメインウィンドウの時刻と同期させる

インシデントを調査している場合、メインウィンドウと同じ時刻のビデオがサブウィンドウに表示されるようにする ことができます。

- 1. サブウィンドウで、[メイン表示タブと時間を同期する] を選択します。
- 2. メインタイムラインは、サブウィンドウの中に隠されています。
- 3. メインウィンドウで、メインタイムラインを使用して、メインウィンドウとサブウィンドウの両方のビデオ 内を行き来します。

他の開いているビューを選択し、次にビューアイテムを選択します。

複数のビューを開いた場合、マウスまたはキーボードを使用してビューを容易に切り替えることができます。選択オ プションを組み合わせることもできます。例えば、マウスでビューを選択してから、キーボードオプションの1つを 使ってビューアイテムを選択します。 • 次の1つをやってみてください。

Û	ビューを選択し、次にビューアイテムを選択します。
	ショートカット番号が割り振られたビューを選ぶ場合は、テンキーの*+[ショートカット番号]+Enterキーを押します。 テンキーの矢印キー2、4、6、8で関連するビューアイテムを選択します。
	Altキーを押すと、開いているすべてのビューに番号が割り振られます。 選択したいビューの番号を押すと、選択したビュー内にあるすべてのビューアイテムに番号 が割り振られます。 選択したいビューアイテムの番号を押します。



キーボードのショートカットとマウスまたはジョイスティックを同時に使用すると、マルチ タスクを実行できます。たとえば、ジョイスティックでPTZカメラを移動し、キーボードの ショートカットでビューを開くことができます。

すべてのビューのカメラチルトバーとカメラインジケーターを表示/非表示にする

表示されたビデオのステータスを知っておくと便利です。例えば、このビデオは録画中だろうか?しかし、カメライ ンジケーターを表示したくない場合もあるかもしれません。

1. グローバルツールバーから、[設定とその他]を選択します。



- 2. [設定]を選択します。
- 3. [アプリケーション]タブの[カメラのタイトルバーの既定値]オプションで、[表示]または[非表示]を選択しま す。





タイトルバーを表示しないを選択した場合は、モーションやイベントの視覚的インジケータ は表示されません。代わりに、音声による通知を使用できます。

カメラツールバー (カメラビューアイテム)

すべてのカメラビューアイテムにはカメラツールバーが付いています。カメラツールバーはライブモードおよび再生 モードで使用でき、カメラビューアイテムの内側にカーソルを合わせると表示されます。



マウスをビューアイテムの間で移動させる際にカメラツールバーを一時的に非表示にしたい 場合は**Ctrl**キーを長押しします。

ツールバーに表示されるアイコンは以下によって異なります。

- お客様が利用可能な製品や機能。
- ライブモードまたは再生モードのどちらでビデオを表示しているか。
- ビューアイテムに表示されているカメラの種類で使用可能な機能。



機能	説明
94	スマートマップ上のデバイスへ移動する on page 127
R	カメラまたはビューから検索を実行 on page 192。
DA	録画したビデオをメインのタイムラインとは別に表示 on page 176。
	ブックマークを追加または編集する on page 161。
	スナップショットを撮って共有する on page 145。
e	単一カメラから監視レポートを印刷 on page 231。
ů.	画像をクリップボードにコピー on page 233。
۲	ビデオの手動録画 on page 144 。
+ ‡+	ライブビデオでパン、チルト、ズームインする on page 108。
	XProtect Incident Manager が必要です。インシデントプロジェクトを開始する
<i>\$</i> ?	XProtect Hospital Assist が必要です。一定時間、ビューアイテム内のビデオをぼ かします。
	XProtect Hospital Assist が必要です。カメラビューアイテムに付箋を付けます。
[詳細] > [カメラ]	カメラビューアイテム内のビデオを置き換える on page 104

機能	説明
[詳細] > [ウィンドウに送 信]	カメラビューアイテムを別の開いているビューに送信する on page 105
[詳細] > [に送信]Smart Wall	ビデオウォールの1つにカメラストリームを送信することによって、それを共有 します。
[詳細] > [に送信]Matrix	Matrixビューアイテムにビデオを送信する on page 146
[詳細] > [デジタルズー ム]	カメラビューアイテムでデジタルにズームする on page 106。

短いビデオチュートリアルを見ますか?



カメラツールバーを最小化する

ビューアイテムのカメラツールバーを最小化して、ビデオにさらに集中することができます。

- 1. [カメラビューアイテム]を選択します。
- 2. カメラのツールバーで、 を選択して、最小化します。

再びカメラツールバーを最大化して、 を選択します。



マウスをビューアイテムの間で移動させる際にカメラツールバーを一時的に非表示にしたい 場合は**Ctrl**キーを長押しします。

カメラツールバーに表示された時刻を変更する

サーバー側で設定されたタイムゾーンは、現在のタイムゾーンやお使いのコンピューターのタイムゾーンとは異なる 可能性があります。

98 | ビデオの表示とビューの操作

カメラのツールバーに表示されている時間を変更するには、[設定]ウィンドウで、[詳細]>[タイムゾーン]
 にアクセスします。

タイムラインの構成オプション

必要に応じてタイムラインをカスタマイズすることができます。

- タイムライン追跡に表示する録画タイプやエレメントを選びます(録音された音声、ブックマークなど)。
- 録画間のギャップの処理方法を選択します。
- 操作がない場合はタイムラインを非表示にして、ビデオを見るためのディスプレイを最大化します。

録画間のギャップの再生を設定する

メインタイムラインで録画間のギャップを再生する方法を調整できます。

例えば、あるビューのすべてのカメラで同じ期間録画がない場合、録画していないものを平均速度で再生する必要は ありません。従って、タイムラインは録画間のギャップの再生をデフォルトでスキップする構成になっています。こ の動作を変更したい場合は、以下のようにできます。

- 1. グローバルツールバーで設定その他を選択し、次に設定を選択します。
- 2. [設定] ウィンドウで、[タイムライン] を選択します。
- 3. 再生 オプションを、ギャップをスキップ または ギャップをスキップしないのいずれかで設定します。

タイムライン追跡に表示するものを設定

録画、ブックマーク、マーカーのオーバービューをよりクリアにするために、ライムライン追跡に表示されている内 容を調整することができます。

- 1. グローバルツールバーで設定その他を選択し、次に設定を選択します。
- 2. [設定] ウィンドウで、[タイムライン] を選択します。
- 異なるデバイスまたはソースからの録画の表示または非表示を選択します。録画の各タイプはタイムライン 追跡で違う色でコード化されています。
 - 受信音声
 - 送信音声
 - 追加データ(他のソースからのメタデータ)
 - 追加マーカ(他のソースから)
 - ブックマーク
 - 動作指示(モーションのある録画)
 - 全カメラタイムライン: (ビュー内の全カメラからの全録画の情報)

メインタイムラインを非表示にする

ビデオディスプレイを拡大するため、数秒間操作がない場合にメインのタイムラインを非表示にすることができま す。

メインタイムラインがどの程度非表示になるかは、ライブモードと再生モードのどちらでビデオを視聴するかにより ます。ライブモードではメインタイムラインは非表示になります。再生モードではタイムライン追跡以外が非表示に なります。コンピュータを再度操作すると、メインタイムラインが完全に表示されます。

- 1. グローバルツールバーで 設定その他を選択し、次に設定を選択します。
- 2. [設定] ウィンドウで、[タイムライン] を選択します。
- 3. メインタイムラインを非表示にするタイミングを選択します。
 - 操作がない場合はタイムラインを非表示にする-(Smart Wallビューを除くすべてのビュー)。デフォルトの値は「never(なし)」です。
 - Smart Wallビューでタイムラインを非表示(Smart Wallビュー)。デフォルト値は5秒後です。

音で通知

カメラビューアイテムの音声通知を有効化すると、ユーザーが積極的にライブビデオを見ていない時でも、モーショ ン検知やイベントトリガーなど特別な注意が必要な場合に警告を受け取ることことができます。これらの通知は現在 オープンな、表示されているビューでのみ有効です。

お客様、およびシステム管理者は次の場合に音声通知を再生するよう設定することができます。

- モーションが感知されました。
- イベントが発生した場合。



XProtect Smart Clientは、選択済みで、オープンな、表示されているビューからのサウンド 通知のみを再生します。ウィンドウを最小化しカメラビューアイテムを最大化した場合、非 表示のビューアイテムから音声通知を受信することはありません。

音声通知の消音

ライブモードで、一時的にカメラビューアイテムの音声通知を消音することができます。

- 1. [カメラビューアイテム]を選択します。
- 2. カメラツールバーで、[詳細] > [音声通知] > [消音] を選択します。
- 3. 消音を解除するには、[詳細] >[音声通知] > [消音] を再度選択します。

デフォルトのキーボードショートカット

XProtect Smart Clientには、ビューアイテムの移動/交換、ビューアイテムのリセット、ビューを開く、ビュー間の コンテンツ移動、が簡単にできるよう、デフォルトキーボードショートカットが搭載されています。例えば、ジョイ スティックまたはマウスを使用してPTZカメラを動かしたり、キーボードショートカットを使用してカメラビューア イテムをホットスポットまたはその他のビューに同時に送信することができます。



キーボードのショートカットとマウスまたはジョイスティックを同時に使用すると、マルチ タスクを実行できます。たとえば、ジョイスティックでPTZカメラを移動し、キーボードの ショートカットでビューを開くことができます。

XProtect Smart Clientでは、アクションにお客様のショートカットキーの組み合わせを割り当てることもできます。 キーボード設定 on page 346をご参照ください。

キーボード キー	実行される操作
入力	ビューを開き、ビューアイテムを最大化する on page 84。
Alt + [ビューの 数] + [ビューアイ テムの数]	他の開いているビューを選択し、次にビューアイテムを選択します。 on page 94。
/+ Enter (数字キー パッドの み)	ビューアイテムをデフォルトのコンテンツにリセットします。ビューアイテムまた はビューをリセットする on page 105をご参照ください。
/+/+ Enter (数字キー パッドの み)	ビューをデフォルトのコンテンツにリセットします。ビューアイテムまたはビュー をリセットする on page 105をご参照ください。

キーボード キー	実行される操作
2、4、6、8 (矢印 キー) (数字キー パッドの み)	現在のビューアイテムの横にあるビューアイテムを選択します(右、左、上、 下)。 他の開いているビューを選択し、次にビューアイテムを選択します。 on page 94。
<pre>/+<カメラ のショート カット番号 >+Enter (数字キー パッドの み)</pre>	カメラビューアイテム内のビデオを置き換える on page 104。 要件:システム管理者がカメラにショートカット番号を割り当てている。 割り当てられた番号は、[ビュー]ペインのカメラ名の前に ある括弧内に表示されます。
*+<ビュー のショート カット番号 >+Enter (数字キー パッドの み)	ビューを開き、ビューアイテムを最大化する on page 84。 要件:お客様がショートカット番号をビューに割り当てている。 割り当てられた番号は、ビューペインのビュー名の前の括 弧内に表示されます。

トラブルシューティング:ビデオやバウンディングボックスがない

ビデオがない理由

XProtect Smart Clientでカメラからのビデオを突然見ることができなくなるのには、いくつか理由があります。 考えられる原因には以下があります。

- カメラまたはネットワークでメンテナンスが進行中の場合。
- ネットワークの中断。
- システム管理者が、ある一定の時間に限ってお客様にビデオを見る権限を与えている場合。
- システム管理者がお客様がカメラからビデオを見る権限を取り消した場合。
- システム管理者がお客様のXProtectVMSの設定を変更した場合。

102 | ビデオの表示とビューの操作

バウンディングボックスが開けない。コンピューターのシステム時刻が正しいかを確認します。システム時刻に問題 が無い場合はシステム管理者に連絡してください。

このメッセージは、一つ以上のカメラビューアイテムがバウンディングボックスを表示できない場合に提示されま す。

バウンディングボックスとビデオが同期していない場合。

コンピューターシステムの時刻に問題がない場合、システム管理者はバウンディングボックスのメタデータとレコー ディングサーバーからのビデオが適切に同期しているか確認する必要があります。

ビューを一時的に変更

プライベートビューと共有ビュー

ビューには、共有ビューとプライベートビューがあります。

- 共有ビュー:複数のユーザーが利用できます。通常はシステム管理者またはスーパーバイザーによって作成されます。
- プライベートビュー: 作成したユーザーのみが利用できます。

設定モードに切り替える権限がある場合は、プライベートビューを作成できます。プライベートビューは**プ ライベート**フォルダーに保存され、お客様がXProtect Smart Clientにログインすることでどのコンピュー ターからでも利用できます。

[ビュー]ペインには以下が含まれます:

- プライベートフォルダー:ログインするとどのコンピュータからでもアクセスできるプライベートビューが 含まれます。これには、すべてのカメラからのビデオを含む自動で生成されたデフォルトのビューが含まれ る場合があります。
- **共有**フォルダー:共有ビューを含むビューグループが含まれます。保護されているフォルダーにはパドロックアイコンがついており、通常のユーザーには変更できません。

ビューを一時的に変更する

ビュー内のカメラを一時的に変更し、インシデント発生時や調査中に関連するビデオを素早く表示できます。

ビューの内容を恒久的に変更し新しいビューを作成するには、セットアップモードに入る必要があります。ビューの 作成 on page 249をご参照ください。

短いビデオチュートリアルを見ますか?



同じカメラからの別のビデオストリームを表示する

カメラが複数のストリームを送信するよう設定されている場合、一時的にビデオを高解像度で表示することができます。

- 1. [カメラビューアイテム]を選択します。
- 2. カメラツールバーで [詳細] を選択します。
- 3. [ライブストリーム]を選択し、次にストリームを選択します。

カメラビューアイテム内のビデオを置き換える

ビューを開いていて、そのビューではないところで何かが起きた場合、ビデオを一時的に別のカメラからのビデオに 置き換えることができます。

- 1. 置き換えるカメラビューアイテムを選択します。
- カメラツールバーから関連するカメラを選択するか、テンキーのショートカットを使用して、/+<カメラ ショートカット番号<+Enter キーを押します。
- 3. ビューを復元するには、[ビューの再読み込み ¹¹⁵⁰]を選択するか、テンキーの/+/+Enterキーを押します。

ビューを永続的に変更する場合は、ワークスペースのツールバーで設定を選択します。

短いビデオチュートリアルを見ますか?



Ì

ビュー内でカメラビューアイテムを移動/交換する

容易に比較できるよう、ビュー内のカメラビューアイテムを一時的に移動することができます。

- 1. 移動するカメラビューアイテムを選択します。
- 2. タイトルバーを使用して選択したカメラビューアイテムを別のカメラビューアイテムへドラッグします。
- 3. ビューを復元するには、[ビューの再読み込み ¹⁹⁹⁵]を選択するか、テンキーの/+/+Enterキーを押します。



カメラビューアイテムを別の開いているビューに送信する

別のビューにカメラからのインシデントのビデオを表示するには、一時的に1つのビューから別の開いているビュー にビデオを送信します。

- 1. 別のビューに含めるカメラビューアイテムを選択します。
- 2. カメラのツールバーで、[詳細]を、次に[ウィンドウに送信]を選択します。
- 3. 開いているビューと置き換えるビューアイテムを選択します。
- 4. ビューを復元するには、[ビューの再読み込み ¹⁰⁰]を選択するか、テンキーの/+/+Enterキーを押します。

ビューを永続的に変更する場合は、ワークスペースのツールバーで設定を選択します。

検索を通して一時的なビューを作成する

カメラの検索により一時的なビューを簡単に作成することができます。

1. [ビュー] タブで、[ビューおよびカメラの検索] フィールドを使ってカメラを検索します。

さらに、検索フィールドの横のを選択すると、一般的な検索キーワードを使用できます。

- 2. 検索結果からビューを選択します。
- 3. 1つまたは複数のカメラを選択し(複数のカメラを選択するにはCtrlまたはShiftキーを使います)、Enter キーを押して一時的なビューを作成します。

ビューを保存したい場合は、ワークスペースのツールバーで [セットアップ] を選択します。

ビューアイテムまたはビューをリセットする

一時的に変更した内容をもとに戻します。

- カメラビューアイテムをリセットする: /+Enterキーを押します。
- ビュー内のすべてのカメラをリセットする:ワークスペースで [ビューの再読み込み) を選択するか、テンキーで/+/+Enterキーを押します。

ビデオのパン、チルト、ズームイン

光学ズームとデジタルズームの違い

ズーム機能はお使いのカメラの種類によって異なります。固定されたカメラもパン/チルト/スーム(PTZ)カメラも ズームできますが、光学ズームとデジタルズームには重要な違いがあります。

光学ズーム

光学ズームの場合、カメラのレンズ部分が物理的に動作して、画質を低下させることなく必要なビューアングルを提 供します。光学的にズームインまたはズームアウトすると、録画内容に影響を及ぼします。

PTZカメラからライブビデオを見る場合、通常はPTZカメラの光学ズーム機能を使用します。

デジタルズーム

デジタルズームは光学ズームと同じように動作しますが、デジタルズームされた部分は元の画像よりも画質が低くなります。

デジタルズームの場合、画像の一部だけを切り取って拡大表示し、元の画像のピクセルサイズへ戻すことができま す。これは補間と呼ばれるプロセスです。

カメラビューアイテムでデジタルにズームする

ライブモードでも再生モードでも、細かい部分を見るためにデジタルにズームインすることができます。

やり方はすべてのカメラタイプで同じですが、重要な違いがいくつかあります。

- デジタルズーム:固定カメラと魚眼カメラで、すべての録画されたビデオに使用できます。
- **PTZカメラ**: PTZカメラからライブビデオでズームインする場合、カメラレンズが動き、焦点距離が変わり 録画内容が影響を受けます。

ズームインするには:

- 1. カメラビューアイテムを選択します。ビデオでズームインできない場合、カメラツールバーで [詳細] を、続いて [デジタルズーム] を選択します。
- 2. あるエリアにズームインする:
 - **マウスホイール:**スクロールしてズームイン、またはズームアウトを行ます。
 - **クリックしてドラッグ:**カーソルが十字形の場合、ズームインしたいエリアの角を選択し、反対の角 にドラッグし、ボタンを開放します。
 - キーボードショートカット:SHIFTキーを押しながらマウスを動かしてスライダーからズームレベル を選択します。



3. 別のエリアをズームインしたい場合は、オーバービューフレームで方向PTZナビゲーションボタンを使用して、ズームするエリアのフレームをドラッグするか、ズームするエリアのフレーム外の位置を選択します。



ズームの調整

- 1. 方向PTZボタンを使用して、ズームインしたエリアの位置を変更します。
- 2. オーバービューフレームで、ズームエリアをドラッグするか、ズームエリア外をクリックして、位置を変更 します。

通常のズームに戻る

- 1. マウスホイールか、マウスボタンの真ん中を押します。
- 2. マウスホイールをスクロールしてズームアウトします。
- 3. PTZナビゲーションボタンのホームアイコンをクリックします。

短いビデオチュートリアルを見ますか?



ライブビデオでパン、チルト、ズームインする

ライブビデオでパン、チルト、ズームインを行い、特定のエリアに焦点を絞ることができます。

PTZカメラと魚眼カメラの操作手法は似ていますが、PTZカメラでパン、チルト、ズームインを行う場合は物理的に カメラの方向やレンズを動かすことになり、表示される内容や録画に影響を及ぼします。
- 1. ライブモードで、PTZカメラまたは魚眼カメラのビデオを含むビューアイテムを選択します。
- 2. これらの異なる手法を使って調査を行います。
 - **PTZナビゲーションボタン:**これらのボタンを使ってパン、ズームインまたはズームアウト、チルト を行います。



バーチャルジョイスティック:マウスカーソルが黒い矢印である場合、ビューアイテムの内側をクリックし、左のマウスボタンを長押しすると、矢印が指している方向ヘカメラをパン/チルトすることができます。



 クリックして中央へ:マウスカーソルが十字形の場合は、ビューアイテムの内側をクリックすると、 選択した場所を中心にパン/チルトが行われます。十字形に四角がある場合は、マウスであるエリア にズームインできます。



- プリセット位置:魚眼カメラのお気に入り位置またはPTZカメラのPTZプリセット位置を定義している場合、これらの位置へカメラを移動することができます。お気に入りの魚眼位置でビデオをパン、 チルト、ズームインする on page 112とプリセット位置でビデオをパン、チルト、ズームインする on page 111を参照
- 3. PTZカメラのデフォルト位置に戻るには、[ホーム]を選択します。

すべてのズームオプションについては、カメラビューアイテムでデジタルにズームするonpage106を参照してください。

PTZカメラのプリセット位置を定義する

PTZカメラで同じパン、チルト、ズーム移動を頻繁に行う場合、素早くアクセスするためにこれらの位置をプリセットとして保存できます。

- 1. PTZカメラからのビデオを含むカメラビューアイテムを選択します。
- 2. カメラツールバーで、PTZアイコン ← を選択し、PTZメニューを開きます。
- 3. [PTZプリセットの管理]を選択してウィンドウを開きます。



- 4. プラスアイコン *を選択し、新しいプリセット位置に追加します。
- 5. プリセット位置を選択し、名前を付けます。
- 6. PTZボタンを使用して、関連する位置に移動し、[プリセットの更新]を選択して保存します。
- 7. プリセットを並べ替える場合は、上向き矢印や下向き矢印を使用してリストにあるプリセット位置を並べ替えます。

PTZカメラのプリセット位置を編集する

PTZカメラのプリセット位置の名前を変更したり、位置を変更したりすることができます。

- 1. PTZカメラからのビデオを含むビューアイテムを選択します。
- 2. カメラツールバーで、PTZアイコン ← を選択し、PTZメニューを開きます。
- 3. [PTZプリセットの管理]を選択し、編集したいPTZプリセット位置を選択します。
 - 名前を編集するには、それを選択し、新しい名前を入力します。
 - カメラ位置を変更するには、PTZボタンを使用して目的の位置へ移動し、[プリセットの更新]を選択 して保存します。
- プリセットを並べ替える場合は、上向き矢印や下向き矢印を使用してリストにあるプリセット位置を並べ替 えます。
- 5. [とじる]を選択してウィンドウを閉じます。

プリセット位置でビデオをパン、チルト、ズームインする

プリセット位置を使用することで、よく使う方向やズームレベルにPTZカメラを素早く移動することができます。 PTZカメラをプリセット位置に移動する。

- 1. PTZカメラからのビデオを含むビューアイテムを選択します。
- 2. カメラツールバーで、**PTZ** を選択し、PTZメニューを開きます。
- 3. PTZメニューで、リストからプリセット位置を選択しカメラを目的の方向とズームレベルに移動します。

カメラがプリセット位置に到達するまで、PTZアイコンは緑で表示されます。

プリセット位置のロック:システム管理者はプリセット位置をロックすることができます。その場合PTZメニューに あるパドロックアイコンが表示されます。ロックされた位置は変更できません。

ホーム位置:プリセット位置「ホーム」を選択すると、カメラはそのホームプリセット位置に移動します。

お気に入りの魚眼レンズの位置の定義

頻繁に使用する方向や焦点距離を魚眼カメラのお気に入り位置として保存することができます。



それそれの魚眼カメラに対し、一度に一つのお気に入り位置を保存できます。

- 1. 魚眼カメラからのビデオを含むビューアイテムを選択します。
- 2. カメラツールバーで、**PTZ** を選択し、PTZメニューを開きます。
- 3. ビデオをパン、チルト、ズームインして目的の位置に移動します。
- 4. [魚眼レンズ位置の保存] を選択します。

お気に入りの魚眼位置でビデオをパン、チルト、ズームインする

定義されたお気に入りの魚眼位置を選択することで、よく使用する方向や焦点レベルに素早く移動することができます。

- 1. 魚眼カメラからのビデオを含むビューアイテムを選択します。
- 2. カメラツールバーで、**PTZ** を選択し、PTZメニューを開きます。
- 3. 定義されたお気に入りの魚眼位置に移動するには、[魚眼レンズ位置の読み込み]を選択します。

パトロール

パトロール

XProtect Smart Clientには、PTZカメラのためのさまざまなパトロール機能があり、さまざまな状況下での状況認識 を高めます。

- ルール制御によるパトロール。
 - ルールに基づくパトロールセッションの停止と開始 on page 113
 - ルールに基づくパトロールセッションまたは手動によるパトロールセッションを停止する on page 113
- パトロールプロファイルをトリガーすることで、手動でパトロールを開始するのが手動パトロールです。
 - 手動パトロールセッションの開始および停止 on page 112
 - ルールに基づくパトロールセッションまたは手動によるパトロールセッションを停止する on page 113
- 重大なインシデントやカメラのメンテナンスの際に、PTZセッションを予約することで、お客様だけがPTZ カメラを制御できます。
 - PTZセッションの予約とリリース on page 114

手動パトロールセッションの開始および停止

ルールに基づくパトロールで部屋のある領域が適切に監視されない場合や、ルールに基づくパトロールが設定されていない場合などに、手動でPTZ カメラによるパトロールセッションを開始できます。

手動によるパトロールセッションを開始するには、ユーザーは、現在カメラを制御しているユーザーやルールよりも 高位のPTZ優先度を持っている必要があります。

- 1. パトロールを開始する必要のあるPTZカメラを含むビューアイテムを選択します。
- 2. カメラツールバーで、**PTZ** を選択し、PTZメニューを開きます。
- 3. [PTZプリセットの管理] エントリの下で、このカメラに設定されたパトロールプロファイルを見つけます。

4. 必要なパトロールプロファイルを選します。

PTZメニューでは、チェックマーク ✓ が付いている場合すべてのユーザーがパトロール プロファイルが実行中であることを確認できます。

5. 手動パトロールを停止するには、もう一度プロファイルを選択します。

XProtectVMSによりカメラによる定期パトロールが再開され、他のユーザーは再びカメラを使用できるよう になります。

ルールに基づくパトロールセッションの停止と開始

システム管理者がPTZカメラにパトロールをさせるルールを定義している場合、インシデントが起こった際にルール に基づくパトロールを停止することができます。例えば、カメラを特定の方向に維持したり、動かしたりします。

お客様が現在カメラを制御しているユーザーやルールよりも高位のPTZ優先度を持っている場合は、パトロールセッションを停止することができます。

- 1. ライブモードで、関連するPTZカメラを含むビューアイテムを選択します。
- 2. カメラツールバーで、**PTZ** を選択し、PTZメニューを開きます。

PTZアイコンが赤の場合は、PTZカメラがパトロール中か、別のユーザーが手動でカメラを制御しています。

- 3. [PTZパトロールの停止]を選択します。
- 4. これで手動でパン、チルト、ズームできる他、PTZカメラを現在の方向に維持できるようになりました。
- 5. ルールに基づくパトロールを再開するには、もう一度[PTZパトロールの停止] コマンドを選択します。

ルールに基づくパトロールセッションまたは手動によるパトロールセッションを停止す る

システム管理者がお客様にPTZ優先度権限を付与している場合、ルールに基づくパトロールセッションや他のユー ザーが開始した手動によるパトロールセッションセッションを一時停止することができます。

お客様が現在カメラを制御しているユーザーやルールよりも高位のPTZ優先度を持っている場合は、パトロールセッションを一時停止することができます。

- 1. ライブモードで、関連するPTZカメラを含むビューアイテムを選択します。
- 2. カメラツールバーで、**PTZ** を選択し、PTZメニューを開きます。

PTZアイコンが赤の場合は、PTZカメラがパトロール中か、別のユーザーが手動でカメラを制御しています。

3. [パトロールの一時停止]を選択します。



お客様のPTZアイコンがグリーンに、他のすべてのXProtectSmartClientユーザーのアイコンが赤になります。

1

カメラでパンやズームをすると、パトロールの一時停止が解除されます。

4. ルールに基づくパトロールを再開したり、カメラを開放し他のユーザーが制御できるようにするには、[パト ロールの一時停止]を選択します。

PTZセッションの予約とリリース

PTZカメラのメンテナンスが必要な場合や、PTZカメラを完全に制御することが求められるインシデントが発生した 場合は、システム管理者定義した時間内であれば、カメラを制御する権利を留保することができます。

PTZセッションを予約した場合、高位のPTZ優先権限を持っているユーザーも含め、他のユーザーはカメラを制御で きなくなります。PTZセッションの必要がなくなったら権利を手放し、他のユーザーがカメラを制御できるようにす るか、ルールに基づく通常のパトロールを再開します。手続きをし忘れた場合でも、システム管理者が定義した時間 が過ぎると、予約は修了します。



自分よりも高い優先度を持つユーザーがカメラを制御している場合や、別のユーザーがすで にカメラを予約している場合は、PTZセッションを予約できません。

PTZセッションの予約:

- 1. ライブモードで、予約するPTZカメラのビデオを含むカメラビューアイテムを選択します。
- 2. カメラツールバーで、**PTZ**を選択し、PTZメニューを開きます。
- [PTZセッションの保存]を選択します。手動でパトロールを開始した場合には、自動的に停止します。
 これでPTZカメラの予約ができました。タイマーにより、予約したPTZセッションの残り時間が表示されます。

PTZセッションのリリース:

- 1. ライブモードで、予約したPTZカメラを含むビューアイテムを選択します。
- 2. カメラツールバーで、**PTZ** を選択し、PTZメニューを開きます。

アイコンが緑色の場合は、現在自分がPTZカメラを制御していることを示しています。

3. メニューで[PTZセッションのリリース]を選択します。

プライバシーマスクを外す

プライバシーマスク

システム管理者は、カメラの視野内の領域をぼかしたり隠したりすることで、個人住宅の窓などのプライベートまた は公共エリアを保護できます。XProtect Smart Clientでは、プライバシーマスクはライブ、再生、およびエクスポートに適用されます。

プライバシーマスクは、永続的または解除できるようにすることができます。永続的なプライバシーマスクはデフォルトでは完全に塗りつぶされた状態になりますが、解除可能なマスクの場合は50%ぼかした状態になります。システム管理者は、いずれのタイプのプライバシーマスクをカメラに表示するかを定義します。

次の画像は、隣接する建物の5つの窓が永続的なプライバシーマスクで覆われていることを示しています。



システム管理者がプライバシーマスクを解除可能にすると定義し、適切なユーザー権限を持っている場合は、 XProtect Smart Client ですべてのプライバシーマスクを一時的に解除することができます。

この例のプライバシーマスクは2種類のです。灰色の塗りつぶされた領域は永続的なプライバシーマスクで、ぼかさ れた領域は解除可能なプライバシーマスクです。



×

ビデオのエクスポート時に、エクスポートしたビデオにプライバシーマスクを追加できます。

エクスポート中にプライバシーマスクを録画に追加 on page 228もご参照ください。

プライバシーマスクの除去と再適用

状況によっては、プライバシーマスクでカバーされた領域を見る必要がある場合があります。権限が付与されていない場合は、除去可能なプライバシーマスクを除去することはできません。





適切な権限が付与されている場合、除外可能なプライバシーマスクは表示されなくなります。常設のプライバシーマスクは、担当領域をカバーし続けます。



ユーザー権限が付与されていない場合、スーパーバイザーに問い合わせるよう求めるウィンドウが表示され ます。

Contact a supervisor that has the rights to auth for all cameras.	orize you to temporarily lift privacy masks
User currently logged in: 중約	
Authentication	
Windows authentication 🔹	
Domain:	
Authorized by	
Password	
	Authorize Cancel

2. 除去可能なプライバシーマスクを再度適用するには、[設定その他] および [プライバシーマスクの適用] を選 択します。

プライバシーマスクの再適用を忘れた場合、システム管理者によって定義された期間が経過すると、自動的 にプライバシーマスクが再度適用されます。デフォルトの時間は30分です。

短いビデオチュートリアルを見ますか?



マップで地理的な概要を把握

マップとスマートマップ

状況認識を向上させるために設計された2つのマップ機能があります。マップとスマートマップ。

両方の機能を使用することで、関心のあるエリアをバーチャルに再現できます。カメラやその他のデバイスが取り付けられているロケーションに、個々のカメラやその他のデバイスを示すアイコンを配置することができます。

マップとスマートマップの例はそれぞれ以下の通りです。



これらを示すマップ上のアイコンを選択して、カメラまたはデバイスと対話できます。ルールによりイベントが登録 された場合、またはアラームがトリガーされた場合、関連するカメラまたはデバイスを示すアイコンが強調表示さ れ、どこでインシデントが発生しているか特定しやすくなります。

スマートマップ機能は、マップ機能よりも高度です。マップ機能では、エリアや建物を視覚化するために静止画像の み使用できます。

マップの場合はエリアや建物を仮想的に示すのに静止画像が使われますが、スマートマップの場合は、Google Map、BingMap、OpenstreetMapなどの地理情報システムを静止画像およびCAD図面と組み合わせることができま す。この追加の機能により、1つまたは複数のロケーション全体でカメラのオーバービューがより正確なものになり ます。

スマートマップの操作

スマートマップ

Milestone XProtect VMSのスマートマップには、お客様の組織のロケーションのインタラクティブなリアルタイム ビューが表示されます。スマートマップでは、カメラ、アラーム、入退室管理ユニット、その他のアイテムがお客様 の組織のロケーションのデジタルマップに表示されるため、容易にインシデントをモニターして応答できるようにな ります。

スマートマップを使用すると次のことができます。

- お客様のロケーションの高度なオーバービューを取得:スマートマップ上にすべてのセキュリティアイテム がマッピングされているので、潜在的な問題をすばやく特定して対応することができます。
- ビジュアルフィードバックを直ちに取得:アラームがトリガーされるとスマートマップ上に正確なロケーションが表示されるため、状況をすばやく評価して対応することができます。
- アイテムを効率よく操作:スマートマップ上のアイコンを選択してライブカメラフィードにアクセスできます。リストを検索しなくても、さまざまなエリアに移動できます。
- スマートマップ上でセキュリティデバイスと入退室管理ユニットを直接的に制御:カメラの調整、アラームの承認、入退室管理ユニットのロックまたはロック解除の他、マップインターフェースから直接その他のタスクを実行できます。
- セントラルビューでロケーションをモニター:単一のマップで複数のロケーションを管理できます。スマートマップは、さまざまなロケーションでのセキュリティオペレーションを1つのビューにまとめることができるため、作業をより効率よく実行できます。

スマートマップ上で複数の都市、地域、国、および大陸のあらゆる場所をズームアウトで確認したり、それぞれにロ ケーションに迅速に移動して関連するカメラのビデオを表示したりできます。

例:スマートマップ上で様々な施設のカメラの録画を1つの場所で確認し、ズームアウトして、マウスで一度ドラッ グするだけで世界中を移動し、様々な地理的ロケーションにある施設内のカメラで拡大することができます。

スマートマップは、お客様の組織が監視を行っている場所を含むMilestoneMapサービス、 Google Maps、Bing Mapsなどのオンラインサービスに接続することができます。

ほとんどのスマートマップ機能を、Milestone XProtect VMSのすべてのバージョンで使用す ることができます。Google Maps、Bing Maps、CADファイルのオーバーレイに対するサ ポートは、XProtect® CorporateおよびXProtect Expertのみで利用可能です。

スマートマップ上のデバイスとアラームの表示

スマートマップ上でのアイテムの表示

Ì

スマートマップ上でのアイテムの表示は、お互いのデバイスの距離や、ズームインまたはズームアウトの程度によっ て異なります。また、アイテムの選択数にも影響を受けます。

ズームレベルとの相対的な関係で、互いに距離の近いアイテム

カメラ、入退室管理ユニット、他のデバイスが互いに近くにあるときにズームアウトすると、アイテムはクラスタに グループ化され、円状のアイコンで表示されます。クラスタアイコンには、クラスタ内のアイテムの数に関する情報 が表示されます。



ズームレベルとの相対的な関係で、互いに距離の遠いアイテム

クラスタをダブルクリックするなどしてズームインした場合、個々のアイテムとサブクラスタが表示されます。

121 | ビデオの表示とビューの操作

Select a location + ← 🛱	
•	
	Beauty shop HQ - main entrance HQ - parking lot
Train station Train station - Input 1 Wedeholz	2 HQ - storage room Wedeholz

クラスタアイコンによって共有される情報

クラスタに複数のタイプのアイテム(カメラや入力デバイス、マイクなど)が含まれている場合、クラスタアイコン にはアイテムの数が表示されます。クラスタに1種類のアイテムしか含まれていない場合は、クラスタはアイテムの タイプと数が両方とも表示されます。



クラスタアイコンをクリックすると、クラスタ内のさまざまな種類のアイテムの概要を見ることができます。



選択したアイテムとクラスタの表示

スマートマップ上でアイテムとクラスタを選択した場合、青色に変わります。アイテムとクラスタは、好きな組み合わせと数で選択できます。

このようなクラスタアイコンが表示された場合は、クラスタ内の一部のアイテムのみが選択されています。



MIPエレメントクラスタ

MIPエレメントは、他の種類のデバイスとはクラスタを形成しません。同じタイプのMIPエレメントのみとクラスタになります。

• 例1:2台のカメラと1つのMIPエレメントがある場合、クラスタは以下の画像にあるように表示されます。



• 例2:エリア内に異なる種類のMIPエレメントが2つある場合、クラスタは表示されません。

MIPエレメントには独自のレイヤーがあり、スマートマップのツールバーで **[レイヤーおよびカスタムオーバーレ イを表示または非表示にする**] を選択するとオンまたはオフにできます。

スマートマップ上でのアラームの表示

適切な権限が付与されている場合、スマートマップ上にアラームが表示されます。

デバイスがアラームをトリガーし、そのデバイスがスマートマップに追加されると、アラームはデバイスの周囲に赤 い円として表示されるか、デバイス内にあるクラスタのアイコンとして表示されます。



下のアイコンは、デバイスがアラームをトリガーしたかどうか、またはアラームがトリガーしたデバイスにのみ関連 しているかどうかに応じて、アラームがスマートマップにどのように表示されるかを示しています。

例としてカメラアイコンが表示されていますが、原則はすべてのデバイスとクラスタにおいて同様です。

アイコン	説明
0	これはソースカメラ(アラームをトリガーしたカメラ)です。
	これは関連カメラ(選択したソースカメラ(アラームを起動したカメラ)に関連付け られているカメラ)です。 このアイコンは、ソースカメラを選択した場合に表示されます。
	これは、ソースカメラと関連カメラの両方を指します。このカメラはアラームをトリ ガーし、そのカメラはアラームのある別のソースカメラにも関連付けられています。 このアイコンは、その他のソースカメラを選択した場合に表示されます。

スマートマップ上の移動

スマートマップ上でズームインおよびズームアウトを行う

スマートマップ上でズームインして、特定の場所にあるすべてのカメラ、入退室管理ユニット、その他のアイテムを 確認することができます。1つの場所からズームアウトしてすべてのロケーションの概要を把握し、別のロケーショ ンにズームインすることもできます。

スマートマップを選択した場合、以下の方法でズームできます。

- マウスのスクロールホイールを使用します。
- クラスタがある場合、クラスタをダブルクリックするか右クリックして、[ズーム] を選択します。スマートマップは、クラスタ内のあらゆるアイテムまたはサブクラスタが表示されているレベルにズームします。



• SHIFTキーを押しながら、ポインターをドラッグしてスマートマップ上のエリアを選択します。マップが拡大し、選択した場所が中心に表示されます。

以下のサービスを使用している場合は、マップ上でのズームインに制限が発生する場合があ ります。

- Bing マップ
- Google マップ
- Milestone Map Service
- OpenStreetMap

ズームの限度を超えると、スマートマップは地理的背景を表示できなくなります。デバイス とシェープファイル画像を含む他のレイヤーは引き続き表示されます。

スマートマップ上で定義されたロケーションへ移動する

スマートマップ上の定義されたロケーションへジャンプすることで、特定のエリアにすばやくアクセスすることができます。

- 1. スマートマップを含むビューを選択します。
- 2. ビューの左上で、[場所の選択] リストを開きます。ロケーションを既に選択している場合は、そのロケー ションがリストに表示されます。



3. リスト内で移動したいスマートマップ上の場所を選択します。

スマートマップ上で前のロケーションに戻る

スマートマップ上で一つのロケーションから別のロケーションへ移動する際、XProtect Smart Clientによる訪問履歴 が記録されています。このロケーション履歴には、パン/ズームし、クリックした場所が記録されます。パンまたは ズームしただけの場所は履歴に残りません。

後戻りすると、たった今閲覧していたロケーションが履歴から削除されます。前に進む動きだけが記録に残り、他の ビューを選択すると消去されます。

• 前のロケーションに戻るには、 둑 [戻る] を選択します。さらに戻るには数回クリックします。



スマートマップ上のデバイスへ移動する

システム管理者がデバイスのGPSロケーションを指定した場合、スマートマップ上でデバイスのある場所へ移動し、 地理的コンテキストでそれを表示することができます。これは、デバイスの場所を忘れてしまったり、近くのデバイ スをチェックしたい場合に便利です。

2通りの方法で、デバイスへ移動できます。

[ビュー]ペインを選択します。

- 1. **[ビュー**]ペインを開きます。
- 2. デバイスを検索します。デバイスが存在する場合は、検索結果に表示されます。
- 3. デバイスにマウスを置いてアクセスします。
- 4. を選択して、デバイスに移動します。スマートマップがフローティングウィンドウ上に現れます。

カメラツールバーから、以下を実行します。

1. スマートマップ上で移動したいカメラを含むビューおよびビューアイテムを選択します。



スマートマップ上でカスタムオーバーレイへ移動する

スマートマップにカスタムオーバーレイがある場合は(建物のCAD図面など)、簡単に移動することができます。

- 1. スマートマップで、 **レイヤーとカスタムオーバーレイを表示または非表示にする**] をクリックします。 ウィンドウが表示されます。
- 2. カスタムオーバーレイセクションへ移動します。
- 3. お探しのオーバーレイの横にある を選択して、スマートマップ上のそのロケーションへ移動します。

スマートマップからビデオや音声を視聴

1台のカメラからライブビデオをプレビューする

スマートマップ上で単一のカメラからプレビュービデオを見ることができます。ライブビデオはプレビューウィンド ウに表示されます。カメラから録画されたビデオを見るには、個別再生をスタートするか、ビデオを新しいフロー ティングウィンドウに送信します。

- 1. スマートマップを選択し、ビデオを見るカメラを見つけます。
- カメラをダブルクリックするか、右クリックして [ライブプレビュー] を選択します。ライブビデオフィード はプレビューウィンドウに表示されます。



- 3. ビデオを再生して詳細を調べる場合:
 - **プレビュー**ウィンドウで個別再生を選択します。
 - または、プレビューウィンドウで、詳細、ウィンドウに送信、新しいフローティングウィンドウの順に選択します。

複数のカメラからライブビデオをプレビューする

スマートマップ上で、最大25台のカメラからのライブビデオを同時にプレビューすることができます。録画されたビ デオを見るには、ビデオを新しいフローティングウィンドウに送信します。

- 1. スマートマップを選択し、ビデオを見るカメラを見つけます。
- 2. 以下のいずれかの方法でカメラを選択します。
 - カメラを選択する際、**Ctrl** キーを長押ししてください。
 - ツールバーで [複数のカメラを選択する] アイコンをクリックし、選択&ドラッグでエリア内のカメラを選択します。
 - クラスタアイコンをダブルクリックしてズームインし、クラスタ内のデバイスとサブクラスタ(適 宜)を選択します。
 - クラスタ内のすべてのカメラを一度に選択するには、少なくとも1つのクラスタを選択します。

3. 選択したカメラまたはクラスタを右クリックし、[**ライブプレビュー**]を選択するか、Enterキーを押します。





- 4. ビデオを再生して詳細を調べる場合:
 - **プレビュー**ウィンドウで個別再生を選択します。
 - または、プレビューウィンドウで、詳細、ウィンドウに送信、新しいフローティングウィンドウの順
 に選択します。

ホットスポットとスマートマップを両方含むビューからのビデオを表示

スマートマップとホットスポットビューアイテムの両方を含むビューがある場合、ホットスポットビューアイテムに あるスマートマップ上のカメラからビデオを見ることができます。スマートマップ上でカメラを選択するたびに、 ホットスポットビューアイテムにそのビデオが表示されます。この方法は、ホットスポットを含む別のビューでビデ オをプレビューしたりビデオを見たりするよりも素早く簡単です。

- 1. スマートマップおよびホットスポットビューアイテムを含むビューを開きます。
- 2. スマートマップ上でカメラを見つけます。
- 3. ビデオを表示するカメラを選択してください。カメラを選択すると、そのビデオがホットスポットビューア イテムに表示されます。

ホットスポットを含むが、スマートマップを含まないビュー内のビデオを見る

ホットスポットビューアイテムを含むビューがある場合、それらが別のビューにある場合でも、ホットスポット ビューアイテムでスマートマップ上のカメラからそのビデオを見ることができます。

1つのビューにあるスマートマップ上のカメラを選択すると、別のビューのホットスポットビューにあるそのビデオ が表示されます。

- 1. [ビュー]ペインで、ホットスポットを含むビューを右クリックします。
- 2. ビューを送信を選択し、フローティングウィンドウといったディスプレイオプションを選択します。
- 3. ホットスポットとスマートマップを含むビューをモニター上に配置すると、両方を見ることができます。
- 4. スマートマップ上でカメラを見つけます。
- 5. カメラを選択します。カメラを選択すると、そのビデオがホットスポットビューアイテムに表示されます。

スマートマップで音声を聞く

スマートマップにマイクを追加すると、ライブモードで一度に1つのマイクからの音声を聞くことができます。

- 1. スマートマップを選択します。
- 2. マップ上でマイクを見つけます。
- 3. マイクをダブルクリックすると、ミュート/ミュート解除ができます。

また、マイクを右クリックして、**[マイクのミュート]**または**マイクのミュート解除**を選択することもできま す。

レイヤーの非表示と表示

スマートマップのレイヤー

スマートマップには複数のレイヤーがあります。各レイヤーには異なる要素が含まれています。

スマートマップレイヤー上の要素は非表示にすることができます。この機能を使用すると、特定のエレメントに フォーカスしたり、スマートマップ上の表示を簡素化したりすることができます。

レイヤー	要素

システム要素	カメラ、入退室管理ユニット、その他のデバイス。 リンクとロケーション。
カスタムオーバーレイ	ビットマップ画像、CAD図面、およびシェープファ イル。
地理的背景	基本的な世界地図または以下のサービスのいずれか: • Bing マップ • Google マップ • Milestone Map Service • OpenStreetMap

スマートマップ上のレイヤーを表示または非表示にする

地理的背景を含め、スマートマップ上のレイヤーを表示または非表示にすることができます。この機能を使用する と、特定のエレメントにフォーカスしたり、スマートマップ上の表示を簡素化したりすることができます。

1. スマートマップを選択します。

- ツールバーで、 [[レイヤーとカスタムオーバーレイを表示または非表示にする] をクリックします。
- 3. [システムエレメント]と[カスタムオーバーレイ]を含むレイヤーを表示または非表示にするには、チェック ボックスを選択又は選択解除します。

システムエレメントレイヤーを非表示にすると、レイヤーを再度表示するまですべてのマイクがミュートされます。手動で消音されたマイクは消音されたままになります。

4. 地理的背景レイヤーを非表示にするには、なしを選択します。

地理的背景レイヤーが非表示になった場合でも、地理参照はスマートマップに適用されます。

トラブルシューティング:スマートマップ

スマートマップにデバイスが表示されていません

スマートマップにカメラやその他のデバイスが表示されていない場合、システム要素のレイヤーが非表示に設定されている可能性があります。有効にするには、スマートマップ上のレイヤーを表示または非表示にする on page 291を参照してください。

デバイスがスマートマップに表示されません

スマートマップに1つ以上のデバイスが表示されるはずなのに表示されない場合は、デバイスの地理的な位置が定 まっていない可能性があります。

この問題を解決するには次のいずれかを実行します:

- 階層表示されたデバイスのリストから、スマートマップにデバイスをドラッグしてください。このアクションは、ユーザープロファイルでデバイスの編集が有効になっている場合にのみ実行できます。
- または、XProtect Management Clientでデバイスプロパティの地理座標を指定するようシステム管理者に依頼してください

マップの操作

マップ

マップで、XProtectVMSシステムの物理的概観を把握できます。マップに追加されたカメラや他のデイバイス、そ してカメラが向いている方向を直ちに確認することができます。マップはナビゲーションに使用できます。マップは 階層にグループ分けすることができます。これにより、大まかな視点から詳細な視点へ(たとえば、市レベルから町 村レベルへ、建物レベルから部屋レベルへなど)と、ホットゾーンを掘り下げることができます。

マップにあるカメラのアイコンの上にマウスを移動させると、カメラからの録画済みビデオをプレビューウィンドウ で再生することができます。再生モードのステータス情報は、記録されたデータを基にして生成されたものでは**な** く、ライブモードで再生されるものと同様、エレメントの現在のステータスから取得されています。

カメラエレメントとホットゾーンのあるマップの例:



マップの外観

マップはXProtectVMSシステム内のカメラやその他のデバイスを表すエレメントが追加された静止画像です。マッ プの大半は地理的なマップですが、それ以外であっても構いません。組織のニーズによって異なりますが、写真およ びその他の種類の画像ファイルもマップとして使用できます。 ✓ 284

マップは、スマートマップと同じではありません。マップとスマートマップの違い on page 284をご参照ください。

マップで、デバイスの状況を確認することができます。ステータス表示は、マップに追加されたエレメントのステー タスを表示する機能です。マップが完全に操作可能で正常な状態ならば、ステータスは表示されません。



完全に操作可能なデバイスとホットゾーンを含むマップの例:

完全に操作可能ではないデイバイスを含んでおり、ステータスが表示されているマップの例:



ステータス可視化ウィンドウでは、マップのステータス表示の視覚的表現を定義できます。

インジ ケータ	説明
	要注意 —エレメントがまだ作動しているが、対処が必要な場合(たとえば、サーバーのディスクの 空き容量がなくなってきている場合)。問題のデバイスがマップに含まれているとは限らないこと に注意してください。デフォルトの表示色は黄色です。
	使用できません —エレメントにエラーがある場合(たとえば、サーバーがマイクやスピーカーに 接続できない場合)。デフォルトの表示色はオレンジ色です。
	アラーム —エレメントにアラームがある場合。デフォルトの表示色は赤色です。
	無効/ステータス不明 ―エレメントが監視サーバー上で無効になっているか、サーバーからステー タス情報を取得できない場合。デフォルトの表示色は紫色です。
	ステータスを無視する ―エレメントのステータスが対応を必要としない場合(例えば、すでに何 が問題であるか判明している場合)。デフォルトの表示色は青色です。

マップのステータスは、マップ上のすべてのエレメントのステータスと同じです。影響を受けたサーバーの名前は、 最高4つまでマップのタイトルバーに表示できます。使用できないサーバーがあるためにマップ上のエレメントが無 効になり、そのサーバー自体はマップに含まれていない場合は、マップに**無効な**エレメントしか含まれていない場合 でも、マップに使用できません状態で表示されます。使用できないサーバーがマップに含まれている場合は、マップ には単純に**無効/ステータス不明**と表示されます。ステータス情報については、マップ概要もあわせて参照してくだ さい。

マップからビデオを視聴し、録画を開始する

マップ上で単一のカメラからプレビュービデオを見ることができます。ライブビデオがプレビューウィンドウに表示 され、それをフローティングウィンドウに送信することができます。

- 1. マウスポインタをマップのカメラの上に置くと、カメラからのライブプレビューが表示されます。
- 2. プレビューウィンドウのタイトルバーを選択すると、そのウィンドウは別のフローティングウィンドウとし て開いたままになります。

録画を開始するには、必要なカメラを右クリックして、**手動録画の開始**を選択します。この機能を使用するには、特定のユーザー権限が必要な場合があります。

固定カメラは、関連付けられたビューゾーンと共にマップに表示され、カメラのビューアングルが表示されます。

PTZカメラは、監視システムのカメラに対して定義されているPTZプリセット位置を使用して、マップに表示されま す。プリセットは、PTZカメラのアイコンから放射状に広がる色付きの角度で図示されます。それぞれの角度は、特 定のプリセットを表しています。カメラのプリセット角度と一致するように、角度を調節する必要があります。角度 を調節するには、ドラッグして適切なサイズと位置にするだけです。カメラに25以上のプリセットがある場合、角度 が小さすぎるので最初は角度は表示されません。このような場合、エレメントの選択ウィンドウからマップへ、該当 するカメラからプリセットを個別にドラッグして必要な角度を追加することができます。マップ上のプリセットを選 択するだけで、PTZカメラのプリセットのいずれかに移行できます。これは、マップ自体のフローティングプレ ビューウィンドウおよびホットスポットビューアイテムで機能します。ビューにホットスポットを追加するonpage 257をご参照ください。または、カメラを右クリックし、PTZプリセットを選択してから、必要なプリセットを選択 します。

マップのカメラから録画されたビデオを表示

マップにあるカメラのアイコンの上にマウスを移動させると、カメラからの録画済みビデオをプレビューウィンドウ で再生することができます。再生モードのステータス情報は、カメラの現在のライブステータスから取得されます。

- カメラがサポートしている場合は、カメラプレビューからデジタルズームとPTZコントールを使用できます。プレビューウィンドウで、詳細ボタンを選択してデジタルズームを選択するか、表示されるPTZコントロール(ライブビデオでパン、チルト、ズームインする on page 108を参照)を使用します。特定のカメラでPTZプリセット位置が設定されている場合は、プレビューでプリセットを選択して、プリセット位置を有効にすることができます
- フロートウィンドウでマップ上で同時にすべてのカメラ(1つのビューに最大25台)を表示するには、マップの

タイトルバーの上部にある**[すべてのカメラをフローティングウィンドウに送信]**をクリックします。

マップ上にフローティングウィンドウに送信したカメラが25台以上ある場合、表示されるカ メラが常に同じになるとは限りません。

エレメントとマップの関係

以下の方法で、マップエレメントを使用して実際のデバイスを操作できます:

カメラ

マウスカーソルをマップのカメラの上に置くと、カメラからのライブプレビューが表示されます。プレビューのタイトルバーを選択すると、別のフローティングウィンドウにプレビューが表示されます。フローティングウィンドウのサイズは、その隅を引っ張って変更できます。録画を開始するには、必要なカメラを右クリックして、**手動録画の開始**を選択します。この機能を使用するには、特定のユーザー権限が必要な場合があります。

固定カメラは、関連付けられたビューゾーンと共にマップに表示され、カメラのビューアングルが表示されます。カ メラのビューアングルと一致するように、マップ上の角度を調節する必要があります。角度を調節するには、ドラッ グして適切なサイズと位置にするだけです。 PTZカメラは、XProtectVMSシステムのカメラに対して定義されているPTZプリセット位置を使用して、マップに表示されます。プリセットは、PTZカメラのアイコンから放射状に広がる色付きの角度で図示されます。それぞれの角度は、特定のプリセットを表しています。カメラのプリセット角度と一致するように、角度を調節する必要があります。角度を調節するには、ドラッグして適切なサイズと位置にするだけです。カメラに25以上のプリセットがある場合、角度が小さすぎるので最初は角度は表示されません。このような場合、エレメントの選択ウィンドウからマップへ、該当するカメラからプリセットを個別にドラッグして必要な角度を追加することができます。マップ上のプリセットを選択するだけで、PTZカメラのプリセットのいずれかに移行できます。これは、マップ自体のフローティングプレビューウィンドウおよびホットスポットビューアイテムで機能します。ビューにホットスポットを追加するのnpage 257をご参照ください。または、カメラを右クリックし、PTZプリセットを選択してから、必要なプリセットを選択します。

マイク

マイクの上にマウスを置き、左マウスボタンを押したままにすると、マイクからの受信音声を聞くことができます。 または、マイクを右クリックし、マイクの使用を選択します。再生モードのマップビューでマイクを使用することは できません。

スピーカー

スピーカーにマウスを置き、左マウスボタンを押したままにすると、スピーカーから話すことができます。再生モー ドのマップビューでスピーカーを使用することはできません。

イベント

これを起動するには、マップ上のイベント(アラーム on page 148を参照)を選択するか、イベントを右クリックして[**イベントをアクティブ化**]を選択します。イベントを左クリックすると、マウスカーソルが一瞬、稲妻の記号に変わり、イベントが起動中であることを示します。

アラーム

マップ上のアラーム(アラーム on page 148を参照)を選択するか、アラームを右クリックして[**アラームの有効化**] を選択します。右クリックして、アラームを確認します。

出力

マップにある出力を選択すると有効化されます。または、出力を右クリックし、[**出力の有効化**]を選択します。出力 を選択すると、マウスカーソルが一瞬、稲妻のアイコンに変わり、出力が起動中であることを示します。

ホットゾーン

ホットゾーンには通常色が付いており、識別しやすくなっています。ホットゾーンに関連付けられたサブマップに移 行するには、ホットゾーンを選択します。または、必要なホットゾーンを右クリックし、**[サブマップへ移行]**を選択 します。

ホットゾーンが点線で囲まれて表示された場合は、そのホットゾーンに関連付けられたマップはありません。

XProtectVMSシステムの種類によっては、複数の異なるサーバーからのマップが、マップ階 層に含まれることがあります。これは、ホットゾーンを選択した時に、サーバーが使用でき ないためにサブマップが使用できないことがあることを意味します。サーバーが使用できな い理由は、定期メンテナンスからネットワークの問題までさまざまです。問題が解決しない 場合は、システム管理者にお問い合わせください。

ホットゾーンが、ユーザーがアクセス権を持たないマップを指していることもあり、この場 合、XProtectSmartClientによってユーザーに通知されます。ユーザー権限は時間に基づいて いるため、以前にアクセスできたマップにアクセスできない場合もあります。これは、1日の 特定の時間帯、あるいは特定の曜日にアクセス権がないことが理由である可能性がありま す。ユーザー権限についてご不明な点がある場合は、システム管理者にお問い合わせくださ い。

プラグイン

プラグインエレメントは、XProtectVMSシステムで使用されている場合にのみ使用できます。プラグイン要素の 例:アクセスコントロールシステム、火災検知システムなど

相互接続されたハードウェア

Milestone Interconnectシステムの一部のInterconnectで接続されたハードウェアはオフラインのことがあるため、 Interconnectで接続されたハードウェア要素のエラーステータスが頻繁にマップに表示される場合があります。

マップにあるマップ階層を理解するようにしてください。

マップ概要ウィンドウは、XProtect Smart Clientで設定されたマップ階層の概要を示します。[マップ概要] ウィンド ウを開くには、マップを右クリックし、[マップ概要] を選択するか、マップのタイトルバーにあるアイコン ●を選 択します。

マップ名の横に + 記号が付いている場合は、マップに1つ以上のサブマップがホットゾーンとして含まれていること を示します。[マップ概要]のマップを選択すると、選択したマップがすぐにビューに表示されます。



多数のマップを含む大規模なXProtectVMSシステムに接続している場合、[マップ概要]のコ ンテンツを読み込むのに時間がかかる場合があります。 Milestone Federated ArchitectureをサポートしているXProtectVMSシステムに接続している 場合、追加できるのはログインしているXProtectVMSシステムサーバーからのマップだけで あることに注意してください。Milestone Federated Architectureは、関連していても物理的 に離れているXProtectVMSシステムのシステム設定です。このような設定は、独立運営しな がらも関連しているXProtect VMSシステムが多数ある店舗のチェーンなどに適しています。



Ì

どのXProtectVMS監視システムがMilestone Federated Architectureに対応しているかについ ては、https://www.milestonesys.com/products/software/xprotect-comparison/で XProtect比較表を参照してください。

マップからフロートウィンドウヘカメラを送信

フロートウィンドウで同時にマップ上にすべてのカメラを表示する方法(各ビューにつき最大25台):

1. ライブまたは再生モードで、フローティングウィンドウに表示するカメラを含むマップを選択します。

2. マップのタイトルバーの上部で、**[すべてのカメラをフローティングウィンドウに送信** フロートウィンドウでは、ビューに最大25台のカメラが表示されます。

マップ上にある25台以上のカメラをフローティングウィンドウに送信する場合、表示される カメラが常に同じになるとは限りません。

マップにステータスの詳細情報を表示する

カメラ(たとえば、解像度、画像サイズやビットレート、およびFPS)とサーバー(たとえば、CPU使用率、メモリ、 ネットワーク使用率)の詳細ステータスを表示できます。

• 詳細ステータスを表示するには、必要なエレメントを右クリックし、**詳細ステータス**を選択します。詳細ス テータスは、個別のフローティングウィンドウに表示されます



マップをナビゲートする

マップが、XProtect Smart Clientのビューエリアより大きい場合、またはマップでズームインしている場合は、マッ プをパンして、マップの隠れている部分を表示できます。追加されたエレメントの外側のマップの任意の場所をク リックすると、クリックした場所が中心になるようマップが移動します。マップを選択してパンし、任意の方向に マップをドラッグします。

 マップのズーム機能を使用するには、マップを右クリックし、必要に応じてズームインまたはズームアウト を選択します。または、[標準サイズへズーム]機能を使用して通常のサイズに戻します。



または、マウススクロールホイールを使用してズームします。上にスクロールするとズーム インし、下にスクロールするとズームアウトします。

マップを自動最大化が有効で、複数の位置があるビューの一部にマップビュー位置がある場合、セットアップモード で、プロパティペインで指定されている時間が経過すると、マップが画面全体に自動的に最大化されます。元の ビューに戻るには、任意の追加されたエレメントの外側にあるマップの場所をダブルクリックします。

音声の再生とブロードキャスト

音声

XProtect Smart Clientは入ってくる音声と出ていく音声の双方に対応します。

- 受信音声とはカメラに付けられたマイクから来る音声のことです。これは常に録音されており、ビデオが録 画されていない時でも録音されています。
- 送信音声とは、スピーカーを通してお客様がブロードキャストする音声のことです。これは、XProtect VMS システムが双方向音声をサポートしている場合にのみ録音されます。送信音声の録音は、オペレーターがス ピーカーを通して特定の指示を出したことを証明する必要がある場合に不可欠です。

お客様のユーザー権限と XProtect VMS製品に応じて、次のことができます。

- カメラに付けられたマイクから、ライブモードでライブ音声を聞く。
- カメラに接続されたスピーカーを使って、ライブモードで対象者と話す。
- 再生モードで、マイク、スピーカー、または両方が付いたカメラからの録画音声を聞く。

音声を聴く

メインの表示タブで、ライブモードまたは再生モードでカメラビューアイテムを選択する際、マイクを選択すること もでき、そうすることで、その音声を聞くことができます。

• ビューで音声を聞きたいカメラビューアイテムを選択します。

選択したカメラビューアイテムとは別個に録音された音声を聞くこともできます。

• [音声] ペインで、音声を聞きたいマイクを選択します。

音声とマップ

ビューにマイクの付いたマップが含まれている場合、関連するマイクエレメントを選択することで、音声を聞くこと ができます。

140 | ビデオの表示とビューの操作

• マイクエレメントを選択し、音声を聞く間、ずっとマウスボタンを押し続けます。



音声ブロードキャスト

ブロードキャスト

スピーカーの近くに立っている人物とコミュニケーションを取る必要がある場合は、音声を対象者にブロードキャス トすることができます。お客様がライブモードでカメラビューを選択すると、システムは同時に対応するスピーカー を選択し、それを通してお客様が音声をブロードキャストできるようにします。

[音声] ペインと[レベルメーター] にブロードキャストボリュームが表示されます。音量が低い場合は、マイクに近寄り、音量が表示されない場合は、マイクの接続と設定をご確認ください。

お客様がお使いの XProtect VMS製品によっては、送信される音声をシステムが録音できるものもあります。マイク がスピーカの近くにある場合は、ブロードキャストの音声を拾い録音することがあります。

一台のスピーカーに音声をブロードキャストする

カメラに取り付けられた一台のスピーカーの近くにいる人々と話したり、音声をブロードキャスすることができま す。

- 1. [音声] ペインで、音声をブロードキャストするスピーカーを選択します。
- [話す]を選択し、話す間ずっと押し続けます。話す ボタンが無効になっている場合、コンピューターにス ピーカーがインストールされていないか、スピーカーが無効になっています。リストにスピーカーソースな しと表示された場合は、カメラに付いているスピーカーが使用できないことを意味します。

または、カメラビューアイテムに音声をブロードキャストするためのオーバーレイボタンがある場合は、そのオーバーレイボタンを選択します。[音声]ペインで[スピーカー]リストが使用できない場合は、お使いの XProtect VMSシステムは双方向音声をサポートしていません。

マイクリストにローカルPCにハードウェアがありませんと表示されている場合、コンピュー タにマイクがインストールされていないか、無効になっています。マイクソースがありませ んと表示されている場合、カメラにマイクが接続されていません。

音声とマップ

ビューにスピーカーの付いたマップが含まれている場合、関連するスピーカーエレメントを選択することで、音声を ブロードキャストすることができます。

 スピーカーエレメントを選択し、話す、または音声をブロードキャストする間、ずっとマウスボタンを押し 続けます。

複数のスピーカに音声をブロードキャストする

カメラに取り付けられた複数のスピーカーの近くにいる人々と話したり、音声をブロードキャスすることができま す。

- 1. [音声] ペインの[スピーカー] リストで、[すべてのスピーカー] を選択します。
- 2. [話す]を選択し、話す間ずっと押し続けます。



[音声] ペインの [現在のビューのデバイスのみをリスト] を選択した場合、一部のデバイスは 表示されないことがあります。



マイクリストに**ローカルPCにハードウェアがありません**と表示されている場合、コンピュー タにマイクがインストールされていないか、無効になっています。**マイクソースがありませ** んと表示されている場合、カメラにマイクが接続されていません。

選択した音声デバイスへロック

ビューでカメラビューアイテムを選択した場合、カメラに取り付けられた音声デバイスも選択されます。カメラからの音声を聞いたり、カメラに対して音声をブロードキャストしたりすることができます。

場合によっては、特定のカメラから音声を聞いたりブロードキャストし、同時に他のビューとカメラからビデオを見 る必要があることがあります。

例:カメラAに取り付けられたマイクとスピーカを通して犯罪被害者から話を聞き、彼らに話しかけると同時に、カ メラX、Y、Zからのビデオを他のビューで表示して、犯罪者の居場所を追跡する必要があります。

- 1. [音声]ペインで、関連するマイクとスピーカーを選択します。
- 2. [選択した音声デバイスヘロック]を選択します。
- 3. インシデントが解決したら、[選択した音声デバイスヘロック]を忘れずに解除してください。

オープンビューに関連付けられた音声デバイスだけをリスト表示する

お使いのXProtectVMSシステムに大量のマイクやスピーカーが含まれる場合、[音声] ペインのマイクおよびスピー カーのリストは長くなる可能性があります。音声デバイスの台数が多いと、探している音声デバイスを見つけるのが 困難になります。 こうした事態を避けるため、現在オープン中のビューに関連するマイクやスピーカーを含むデバイスだけをリスト表 示することができます。

• [音声] ペインで、[現在のビューのデバイスのみをリスト] を選択します。

音声ボリューム音量の調整

XProtect Smart Client には音声ボリュームを変更するオプションはありませんが、別の場所で調整可能です。

- Windowsの音声設定。
- マイクの録音ボリューム、またはカメラデバイスの設定インターフェースを通して。
- スピーカーの出力ボリューム、またはカメラデバイスの設定インターフェースを通して。

音声ボリュームに問題がある場合は、システム管理者に問い合わせてください。

[音声] ペインの[レベルメーター] により入力ボリューム(ブロードキャストするもの)が表示され、出力ボリューム(スピーカーからの音声)の概要がわかります。

オーディオ設定概要

ライブまたは録画されたビデオを見る際、[音声]ペインには次の音声設定があります。

名前	説明
マイク	音声を聴く on page 140
消音	マイクまたはスピーカーのいずれかを消音に設定する場合に選択しま す。
スピーカー	音声をブロードキャストするスピーカーを選択します。
出力	ー台のスピーカーに音声をブロードキャストする on page 141 複数のスピーカに音声をブロードキャストする on page 142
レベルメー ター	音声ボリューム音量の調整 on page 143

名前	説明
選択した音 声デバイス ヘロック	選択した音声デバイスヘロック on page 142
現在の ビューのデ バイスのみ をリスト	オープンビューに関連付けられた音声デバイスだけをリスト表示する on page 142

エビデンスの収集と共有

インシデントの調査と解決に対する貢献

ライブビデオや録画されたビデオを見る場合、調査員のために証拠を確保したり、インシデントが発生した際に同僚 と情報を共有する重要な役割を担う可能性があります。システム管理者がXProtectVMSを自動的に録画するよう設 定した場合でも、場合によっては証拠をとらえるために録画を手動で開始する必要があることもあります。

インシデントやカメラ名を表示するビューを共有したり、インシデントをブックマークしたり、ビデオウォールまた は Matrixビューアイテムにビデオを送信したりできます。

ビデオの手動録画

ライブビデオの録画は、なにか関心を引くものを見つけた際に有益です。同時に複数のカメラから録画をスタートすることができますが、それぞれのカメラを個別に選択する必要があります。

- 1. 録画したいビデオを含むビューアイテムを選択します。
- 2. カメラのツールバーで、次のオプションから1つ選択します。
 - ╹ # 分/秒で録画を開始

録画が始まると、数分間続きます。システム管理者がどのくらいの分数かを定義しています。手動で 録画を停止することはできません。

・ 手動録画の開始 🎑

録画が始まると、システム管理者の定義に従って、数分間または数秒間録画が続くか、または[手動録 画の停止] を選択するまで、録画が続きます。
スナップショットを撮って共有する

ライブビデオまたは録画されたビデオを見る、またはビデオを検索する場合、インスタントスナップショットを撮って共有することができます。

ライブモードまたは再生モードで、以下を実行します。

• カメラ、ホットスポット、または画像自動切替ビューアイテムを選択し、カメラツールバーで[スナップ

ショットの作成]

[検索] タブで、

• 検索結果を検索して選択し、下部にある青いバーで [スナップショットの作成] を選択します。

スナップショットを共有します。ビデオ内のプライバシーマスクも、スナップショットに表示されます。

ビデオにブックマークを付ける

適切なユーザー権限をお持ちの場合は、ライブビデオにブックマークを付けることができます。これにより、同僚が ブックマーク済みビデオを検索できます。

1. カメラビューアイテムを選択し、カメラツールバーから、[ブックマークの追加] 🚺 を選択します。

または、[検索] タブで1つまたは複数の検索結果を選択し、[検索] タブの下部の青いバーにある[ブックマー ク] アイコンを選択します。

- オプションで、ブックマークに名前や説明をつけて、同僚が正しいビデオを見つけられるようにすることも できます。
- 3. [OK] を選択します。
- 同僚に、インシデントに関係するビデオシーケンスにブックマークを追加したことを伝えてください。同僚 は、お客様が作成したブックマークを、ブックマークID、または名前や説明のテキストで検索できます。同 僚が迅速にインシデントの映ったビデオを見つけられるよう、必要な情報を共有するようにしてください。

短いビデオチュートリアルを見ますか?



Matrix ビューアイテムを含む共有ビューへのビデオの送信

Matrixのコンテンツの表示

このMatrix機能は、インシデントを発見したときにライブビデオストリームを共有するのに便利です。同僚とMatrix ビューアイテムを含む共有ビューを通じて、ライブビデオストリームを送信し合うことができます。 システム管理者がルールを定義している場合は、イベントが発生したときにビデオの共有をトリガーすることもできます。

タイトルバーの アイコンで、Matrixビューアイテムを確認できます。ビューに複数のMatrixアイテムが含まれて いる場合は、プライマリアイテムが最初に受信したビデオストリームを表示します。次のストリームがプライマリア イテムに表示されると、前のストリームはセカンダリアイテムに押し出されます。

再生モードでは、Matrixアイテムは最後に送信されたビデオを表示します。

Matrixビューアイテムにビデオを送信する

同僚からの支援を要するインシデントが発生しているのを目にした場合、カメラからのビデオをMatrixビューアイテ ムのあるビューに送信することができ、同僚は直ちに何が発生しているか、見ることができます。

- 1. 共有するビデオを含むカメラビューアイテムを選択します。
- 2. カメラのツールバーで、[詳細] > [ウィンドウに送信] Matrix を選択します。
- 3. リストから、関連するMatrix受信者を選択します。
- 4. 手続きが終わったら、同僚に通知して、必ずそのMatrix共有ビデオを見るよう依頼することができます。

インシデントへの対応

XProtect Smart Client: インシデントへの対応

XProtect Smart Client:インシデントへの対応では、XProtect Smart Clientによるセキュリティインシデントを管理 および対応し、潜在的なインシデントを軽減する方法に関する包括的なガイドが提供されます。

対象のトピック

このガイドを使用して、潜在的なセキュリティの脅威に対処および対応するためのアラームを管理および維持しましょう。

このガイドでは、以下を取り上げています。

- アラームおよびイベントでの作業
- アラームマネージャーの使用
- アラームの詳細の表示および編集
- アラームの確認および終了
- アラームレポートの生成

対象者

このガイドの対象者には、組織内でのXProtect Smart Clientの管理と操作に責任を負うセキュリティ担当者、オペレータ、技術スタッフが含まれています。

アラームとイベントの操作

イベントおよびアラーム

XProtectでは、イベントおよびアラームがシステム内のカメラや他のデバイスを監視し、XProtect Smart Clientにお けるセキュリティインシデントに対応できるようにする主要な機能です。

- イベントとは、VMSが検知したモーション検知、カメラの変更、システムステータスの変更といった特別な インシデントを指します。これらのイベントは通常、カメラ、センサー、VMSなどの接続されたデバイスに より生成されます。それぞれのイベントは、時刻、場所、インシデントの種類といった関連する詳細情報と 共に記録されます。
- アラームは、事前定義されたイベントに対してトリガーされる応答です。特定のイベントがXProtectVMS内に設定された基準を満たした場合、アラームが有効化されます。セキュリティ担当者への通知、録画の開始、自動化されたシステム応答(ドアのロック、照明の点灯など)のトリガーといった様々なアクションを指示するために、アラームを設定することができます。インシデントによりアラームがトリガーされた場合、マップまたはスマートマップが表示され、インシデントが発生した場所を地理的に把握できるようになります。アラームがトリガーされた場合に表示されるデスクトップ通知や音声通知をWindowsに受信することができます。お客様のXProtect Smart Client設定で、マップやスマートマップ、デスクトップ通知が利用可能かどうかについては、システム管理者にお問い合わせください。

イベントおよびアラームが共にVMS内の潜在的なセキュリティ脅威を特定・分析し、それに応答するための強力な フレームワークが実現します。アラームへの迅速な応答を実現するため、マップ、スマートマップ、Windows通知 を利用することができます。

アラーム

Ì

この機能は、特定のXProtect VMSシステムでのみ使用できます。詳細については、製品比較 チャートを参照してください。 https://www.milestonesys.com/products/software/xprotect-comparison/

XProtect VMSサーバーでは、ほぼどのようなインシデントや技術的な問題(イベント)でもアラームをトリガーす るよう設定できます。アラームとイベントは**アラームマネージャー**タブで表示できます。ここには、VMSインシデ ント、ステータス、可能性のある技術的問題の概要が一元的に表示されます。

XProtect Smart Clientでは、お客様自身はアラームトリガーを設定できません。システム管理者がXProtectVMSシ ステムを設定する際に、アラームトリガーの設定を行います。アラームマネージャータブは、システム管理者の定義 した設定に応じて表示または非表示されます。

アラームマネージャータブは、アラームやイベントの処理専用のビューを提供します。このタブには、アクティブな アラームの数が表示されます。9件を超えるアラームは、■で表示されます。**アラームマネージャー**タブには、ア ラームリスト、各アラームまたはイベントに関連のあるビデオをプレビューするためのアラームプレビューのほか、 アラームに関連のあるカメラの地理的ロケーションを示すマップも含まれていることがあります。

イベントおよびアラームの関係

この機能は、特定のXProtect VMSシステムでのみ使用できます。詳細については、製品比較 チャートを参照してください。 https://www.milestonesys.com/products/software/xprotect-comparison/

XProtectシステムで発生したインシデントや技術的な問題は、イベントとして認識されます。イベントという用語 は、監視システムによって検出された、ユーザーの注意やアクションが必要になる可能性のある出来事やアクティビ ティを指します。例えば、カメラでモーション検知を有効にしているときに、何かまたは誰かが動くと、モーション が検知されたVMSに通知されます。これはイベントです。

イベントに応答するため、システム管理者はXProtectにアラーム設定を行います。インベントが検出されると、ア ラームがトリガーされ、XProtect Smart Clientに表示されます。

そのため、モーション検知イベントが有効にされた場合、対応するアラームがトリガーされてXProtect Smart Client に表示され、動きが検出されたことを示します。

アラームとイベントは [**アラームマネージャー**] タブに表示できます。ここには、インシデント、ステータス、可能 性のある技術的問題の概要が一元的に表示されます。XProtect Smart Clientのユーザーは、直接アラームトリガーを 設定できません。システム管理者は、XProtectVMSシステムを設定する際にアラームトリガーの設定を行うことが できます。 ◇ システム管理者が [アラームマネージャー] タブを表示するかどうか定義します。

アラームマネージャータブは、アラームやイベントの処理専用のビューをユーザーに提供します。このタブには、ア クティブなアラームの数が表示されます。9つを超すアラームがトリガーされた場合、これらは(9+) 「シンで示されます。

また、[**アラームマネージャー**] タブには、アラームリスト、各アラームまたはイベントに関連のあるビデオをプレ ビューするためのアラームプレビューのほか、アラームに関連のあるカメラの地理的ロケーションを示すマップも含 まれていることがあります。

アラームリストの使用

アラームリストには、受信したアラームが表示されます。最新のアラームは、一覧の一番上に表示されます。ア ラームリストには、いくつかの種類のアラームが表示されます。これには、MIP入退室管理やナンバープレート認識 から発生するプラグインおよびアナリティクスイベントなどによってトリガーされるアラームが含まれます。

ビデオが関連付けられているアラームまたはイベントは、ビデオが添付されていることを示すアイコン が表示され

ます (**ビ**)。

- アラームやイベントの発生時からの静止画をプレビューするには、アイコンの上にマウスを移動させます。
- アラームやイベントに関連のあるカメラからの録画ビデオをプレビューするには、リストでアラームまたは イベントを選択します。
- アラームの繰り返しを止めるには、リストからその音に該当するアラームを選択します。

アラームリストでは、次のことができます。

- リストの表示方法を決定する
- 列をフィルタリングする
- 列を別の位置にドラッグする
- 右クリックをして特定の列を表示/非表示する



イベントリストには、モーション検知やアーカイブ障害などのシステムやユーザーが生成す るイベントは表示されません。

リストは3秒ごとに更新されます。

1-100 >	Charther The pt
e Owner	Hennege
Mation Resmu	a C Mation Detected
nMaten Rasma	a C Mation Detected
nMution Rasmu	a C Mation Detected
Motion Resma	a C Mation Detected
Motion Resma	a C Mation Detected
Motion Resmu	a C Mation Detected
Matian Rasma	a C Midlion Detected
Mation Resna	a C Midlion Detected
Mation Resna	a C Mation Detected
Matian Resna	s C Mation Detected
Matian Rasma	s C Mation Detected
Matian Resma	s C Mation Detected
Matian Resma	s C Mation Detected
Mation Resma	s C Mation Detected
Mution Resmu	s C Mation Detected
Mution Resmu	s C Mation Detected
Mution Resmu	s C Mistion Detected
Mution Resmu	s C Mation Detexted
	en Mittian Paterna en Mittian Paterna Paterna Paterna

Ø

イベントのリストを表示するには、設定モードに入り、プロパティペインでイベント します。アラームリストの設定 on page 264もご参照ください。

アラームリストのサーバー

アラームリストの左側で、アラームが発生したイベントサーバーを表示できます。

多くのXProtect VMSシステムのイベントサーバーは1つのみですが、階層に複数のイベントサーバーが構成されてい るシステムもあります。アクセスできるすべてのイベントサーバーが一覧表示されます。アラームはイベントサー バーでフィルターできます。

アラームのステータス

アラームには以下のステータスがあります。

新規、処理中、保留中、処理済み。

各アラームのステータスは**ステータス名**列の**アラームリスト**で見ることができます。[フィルター] ペインを使用して、特定の条件に従ってフィルターできます。最初はすべてのアラームが新規ステータスですが、アラームの処理中にステータスが更新されます。

アラームのフィルター

アラームリストをフィルターする方法は複数あり、関心のあるデータのみを表示することができます。

1. アラームリストのツールバーで、**カスタム(フィルター適用済み)**または**フィルターなし**テキストをクリックします。選択したフィルターによっては、テキストが異なる場合があります。

Quick Filters	Alarms <i>In pr</i>	ogress (filter	rapplied) ^	Clear filter						Reports	1-4
T New (96)	Priority level:		77.	Source:			Message:		- From:		
Y in progress (4)	State level: 4		ID:			Exclude closed alarms		To:		STREET, STREET, BEE	
Y On hold (0)	State name:		а.	Owner:				Servers:	\checkmark	DKTA-1017CL0026	
T Closed (0)											
	🖾 Time		Priority Level	State Level	State Name	Message	Source	Owner	ID		
	15:49:11	25-10-2016			In progress	EventType1	Door 96		96		
	15:49:11	25-10-2016	1	4	In progress	EventType1	Door 95		95		
Servers	15:49:11	25-10-2016		4	In progress	EventType1	Door 92		92		
🚔 DKTA-1017CL0026	15:49:11	25-10-2016	2	4	In progress	EventType1	Door 86	Administr	86		

- 2. フィルターをかける列のフィルター条件を入力します。例えば、**ID**フィールドにユーザーIDを入力すると、 そのユーザーに割り当てられているアラームのみが表示されます。
- 3. 例えば、州名および所有者(割り当て済み)などのようにフィルターを組み合わせることができます。
- 4. フィルターなしのアラームリストに戻るには、フィルター解除ボタンをクリックします。
- 5. アラームリストの内容を並べ替えるには、列のタイトルをクリックします。



アラーム処理ビューにマップコンテンツが含まれる場合、マップ上の要素(カメラ、イベン トサーバーなど)を右クリックして、**アラームを表示**を選択することで、アラームリストを フィルターすることもできます。これにより、選択した要素からのアラームのみがアラーム リストに表示されます。

FAQ:アラーム

アラームのデスクトップ通知が表示されていますが、応答する前に消えてしまいます。どうすればアラームを再度表 示できますか?

アラームマネージャータブに移動し、アラームリスト内でアラームを探してください。アラームが見つからない場合 は、フィルターで除外されている可能性があります。フィルター設定を変更してみてください。



アラームではなくイベントが表示されるようアラームリストが構成されている場合は、セッ トアップボタンをクリックします。左側のプロパティペインのデータソースリストでアラー ムを選択し、再び設定をクリックします。

新しいアラームがXProtectVMSシステムで発生しても、デスクトップ通知を受け取れないのはなぜでしょうか?

アラームのデスクトップ通知は、システム管理者がXProtect Management Clientで有効にする必要があります。これを行わないと、どの通知も受け取れません。

数秒の間に複数のアラームが生じた場合、デスクトップ通知が複数表示されるのですか?

デスクトップ通知は画面に15秒間は表示され続けます。しかしながら、数秒の間に複数のアラームが連続して生じた 場合でも、1件のデスクトップ通知しか表示されません。デスクトップ通知をクリックすると、アラームウィンドウ に最新のアラームが表示されます。前のアラームを表示するには、アラームリストに移動します。

アラームへの応答

アラーム詳細の表示および編集

アラームに対しては、いくつかの方法で応答できます。

 アラームリストを追加したいずれかのビューに移動して、アラームをダブルクリックできます。アラームが 別のウィンドウで開き、ここでアラームインシデントとそれに関連するライブビデオのプレビューを表示で きます。

- XProtectVMSシステムの設定に応じて、アラームのデスクトップ通知を受信することも可能です。この通知は、画面に15秒間表示されます。通知をクリックすると、アラームマネージャータブに直接移動し、アラームウィンドウが開きます。
- また、以下のテーブルのフィールドを変更することで、アラームに応答することもできます。

フィールド	説明
ステータス	アラームのステータスは、誰かがイベントに対応したかどうかを示します。アラームのステー タスは変更できます。通常、 新規 から 処理中 にステータスを変更した後、 保留中 または 処理済 みに変更します。
優先度	アラームの優先度を変更します。
割り当て先	自分自身を含めて、組織内のユーザーにアラームを割り当てます。アラームを割り当てられた ユーザーがアラームの所有者になり、アラームリストの 所有者 列に表示されます。
コメント	アクティビティ セクションに追加されるコメントや備考を入力します。コメントは通常、ユー ザーが行ったアクションに関連します。例えば、「警備担当者が容疑者を拘束」、「容疑者を 警察に引き渡し済み」、「誤認アラーム」などです。 ウィンドウの最下部に コメント フィールドが表示されます。
アクティビ ティ	 アクティビティはユーザーがアラームをどのように処理したかを簡単に示します。[アクティビティ] セクションには自動的に次のものが含まれます。 アラームのステータスまたは優先順位に、自分または同僚が加えた変更 ユーザー間でのアラームの再割り当て 追加されたコメント。
	XProtectVMSサーバーの設定によって、アラームにアラーム受信時の対応手順を含めることができます。この手順は、アラーム定義の一環としてサーバー側で定義されます。この場合、アラームを編集するときにアクティビティが自動的に表示されます。
印刷	アラームに関する情報を含むレポートを印刷できます。アラーム履歴や、画像を利用できる場 合はアラーム発生時の静止画像などです。

アラームを確認

アラームを受信した場合、そのアラームを承認することで対処するつもりだと示すことができます。多くのユーザー が使用しているシステムでは、アラームを承認することで、そのアラームを誰が処理するかをすべてのユーザーが簡 単に確認できるようになります。確認できるのは新規のアラームのみです。

- 1. アラームリスト内でアラームを右クリックして**確認**を選択します。アラームのステータスは**処理中**に変更されます。
- 2. 複数のアラームを同時に確認することができます。Ctrlキーを押したまま、確認するアラームを選択します。
- アラームをダブルクリックすると、アラームの詳細を編集することができます。例えば、アラームを個人に 割り当て、指示を追加します。

選択したイベントタイプで新規アラームをすべて無効にする

あるイベントが誤認アラームをトリガーする場合は、一定期間、そのタイプのイベントで新規アラームをすべて無効 にすることもできます。

例えば、カメラの周辺に動きが多く、その動きによって何度も誤認アラームが発生している場合は、このカメラの モーション検知アラームを10分間、無効にできます。これにより、誤認アラームにわずらわされることなく、注意の 必要なアラームに集中できます。アラームを無効にすると、同じXProtect VMSシステムに接続しているオペレータ 全員に影響します。

アラームマネージャーまたはマップを使用して、新規アラームをすべて無効にできます。

1. アラームマネージャーを使用している場合:アラームリストでアラームを右クリックし、新規アラームをす べて無効にするを選択します。

マップを使用している場合:アラームを右クリックし、[新規アラームをすべて無効にする]および[無効にする]を選択します。

新規アラームをすべて無効にするウィンドウが表示されます。

Disable all new alarms	1 <u></u> 1		Х						
Disable for:									
1	Minutes		-						
Disable until:									
03:03:40 PM 🗢									
Comment 3									
To disable alarms, select the events that are triggering currently unwanted alarms. The events that you select will not trigger alarms for the time period that you choose.									
Motion Detected		1							
C	isable	Can	cel						

- アラームをトリガーしないイベントリスト●で、アラームをトリガーしないイベントのタイプを選択します。
- 3. いつまで、またはどれくらいの期間、選択したイベントのタイプがアラームをトリガーしないようにするの か指定します 2。
- 4. また、選択したイベントのタイプでアラームを無効にしている理由を追加することもできます

イベントを右クリックすると、無効なイベントの概要が表示され、どのイベントが無効になっているかと、そのイベ ントのタイムアウトを確認することができます。



アラームは、イベントサーバー毎に無効になります。あるイベントサーバーで障害が発生 し、別のイベントサーバーに引き継がれた場合、障害が発生したイベントサーバーで無効化 されたアラームは、再びアラームとして表示されます。

マップでアラームを無視する

マップで指定した期間、ある要素に対するアラームを無視することができます。例えば、カメラが修理中で接続が切 断されている場合、修理中はマップにエラーが表示されても無視する必要があります。マップでアラームを無視して も、アラームはマップから削除されるだけで、アラームリストには残ります。



アラームを処理済みにする

アラームを確認した後、通常は、調査担当者にアラームを割り当てます。この間、アラームのステータスは**処理中**に なります。アラームを処理した後、処理済みにできます。

アラームを処理済みにするには、アラームリストで以下のいずれかを実行します。

- アラームを右クリックして、処理済みを選択します。
- アラームをダブルクリックし、ステータスリストで、処理済みを選択します。

アラームレポートを印刷する

アラーム履歴や、利用できる場合はアラーム発生時の静止画像を含め、アラームに関する情報を記載したレポートを 印刷できます。ただし、アラームリストで複数のアラームを選択している場合は、この機能は使用できません。 GDPR規則に準拠するため、デフォルトではレポート作成者の名前は印刷したレポートには表示されず、そのレポー トを印刷した人の名前が表示されます。レポートに関連付けられた名前をすべて表示するには、**名前を表示**ボタンを 選択します。

- 1. アラームリストで、アラームを右クリックします。
- 2. 印刷を選択します。 ウィンドウが表示されます。
- 3. メモを追加するにはメモフィールドにテキストを入力します。
- 4. 印刷ボタンをクリックします。

アラームの統計を取得する

以下の期間にXProtect VMSシステムでトリガーされたアラームに関する統計データを取得します。

- 最後の24時間
- 最後の7日間
- 最後の30日間
- 直近6か月間
- 直近1年間

アラームレポートウィンドウには、カテゴリでフィルターされたアラーム数を示すグラフが2つ表示されます。例えば、**優先度やステータス**などで、2つのグラフを並べて比較できます。

手順:

- 1. **アラームリスト**でレポートボタンをクリックします。 ウィンドウが表示されます。
- 2. グラフの上でタイムスパンを選択します(例:直近24時間)。
- 3. レポートを選択リストで、次のカテゴリのいずれかを選択します。
 - ・ カテゴリー
 - ステータス
 - 優先度
 - 処理済みにする理由
 - ・ サイト
 - 対応にかかった時間
- 4. 各グラフでサブフィルターを選択します。例えば、ステータスを選択すると、最初のグラフで新規、2番目の グラフで処理中を選択できます。グラフは自動的に入力されます。
- 5. PDFレポートとしてグラフを印刷するには、 **同**をクリックします。

スマートマップ上のアラーム

デバイスがアラームをトリガーし、そのデバイスがスマートマップに追加されると、アラームはデバイスの周囲に赤 い円として表示されるか、デバイス内にあるクラスタのアイコンとして表示されます。

マップ上のアラーム

アラーム対応ビューに1つまたは複数のマップ位置が含まれている場合は、マップにもアラームを表示できます。 マップは、カメラ、イベントサーバーまたはアラームをトリガーする他のデバイスの地理的位置に基づいてアラーム を表示するので、アラームがどこで発生したのかすぐに確認できます。右クリックすることで、マップから直接ア ラームを確認、無効化、制限することができます。

カメラ要素は、マウスを置くと、サムネイル形式のビデオを表示します。アラームと併用すると、アラーム発生時に マップ上のグラフィック要素が赤い丸で囲まれます。例えば、特定のカメラに関連付けられたアラームが発生する と、そのカメラを表すグラフィック要素が即座に赤い丸で囲まれます。カメラ要素をクリックすると、そのカメラの ビデオを表示するだけでなく、表示されるメニューを介してアラームに対応できます。



アラームが関連付けられているカメラが番地レベルのマップにあるが、市レベルのマップを表示しているとします。 この場合、どのようにすれば、アラームに気づけるでしょうか?異なるマップ階層レベルをつなぐグラフィック表現 であるホットゾーンを使用すれば問題ありません。アラームが番地レベルのマップで検出されると、市レベルのマッ プ上のホットゾーンの色が赤に変わり、(これらの間に他のマップレベルが存在する場合でも)下位レベルのマップ にアラームが発生していることが示されます。

複数の要素からのアラームを表示できるアラームリストモードに戻るには、アラームリストに表示されている必要な イベントサーバー、優先度、またはステータスをクリックします。

スマートマップのアイコンの詳細については、スマートマップ上でのアラームの表示onpage124を参照してください。

イベント

XProtectVMS内のイベントは、アラームをトリガーするよう設定できる事前定義されたインシデントです。イベントは事前に定義されたシステムインシデント、またはユーザー定義のイベントです。アナリティクスイベント、ジェネリックイベントなどがあります。イベントとアラームのリンクは必須ではありませんが、リンクは可能です。

通常、イベントは、検知されたモーションやその他のアプリケーションからのデータを通し、バックグラウンドで自動的に有効化されます。また、手動でイベントを有効化することもできます。VMSはイベントを使用してアクションをトリガーします。録画の開始や停止、ビデオ設定の変更、出力の有効化、アクションの組み合わせなどのアクションがあります。

XProtect Smart Clientからイベントを有効にすると、VMSシステムでアクションが自動的にトリガーされます(特定の期間、特定のフレームレートで、特定のカメラで録画するなど)。手動でイベントを有効化した場合の処理については、システム管理者が決定します。

イベントを手動で有効化する

イベントは手動で有効にできます。イベントを有効にした場合、確認はありません。選択可能なイベントのリスト は、イベントサーバーと、イベントが関連付けられているカメラ/デバイスごとにグループ分けされています。

ライブモードで、[イベント]ペインを展開し、[起動]をクリックします。



関連するイベントサーバーの下にグローバルイベントが表示されます。イベントサーバーが 赤のアイコン付きでリストに表示されている場合は、そのイベントサーバーは利用不可で、 イベントを有効にできません。

ブックマークの追加

ブックマーク

ブックマークを使用すると、関連するビデオシーケンスをシステムの他のユーザーと素早く検索または共有できま す。

詳細なブックマークは、作成後のブックマークを簡単に見つけることができます。詳細なブックマークに名前と説明 を付けることができます。両方のプロパティは検索可能で、見つけやすくなっています。詳細なブックマークのデ フォルトの時間範囲を変更することもできます。



この機能は、特定のXProtect VMSシステムでのみ使用できます。詳細については、製品比較 チャートを参照してください。 https://www.milestonesys.com/products/software/xprotect-comparison/

詳細なブックマークを有効にする

ブックマークを効率的に管理および検索するために、ブックマークに名前と説明を付けたり、ブックマークのデフォルトの期間を変更できる設定を有効にすることができます。

1. グローバルツールバーで [設定とその他] 、次に [設定] を選択します



- 2. 機能タブを選択します。
- 3. ライブビデオの詳細なブックマークを有効にするには、**ライブ**モードで**ブックマーク**機能がある行を見つけ、設定を[**ブックマークの詳細を追加**]に変更します。
- 録画ビデオの詳細なブックマークを有効にするには、ライブモードでブックマーク機能がある行を見つけ、 設定を [ブックマークの詳細を追加] に変更します。
- 5. [閉じる]をクリックして変更を保存します。

ブックマークの追加

ライブまたは録画されたビデオのビデオシーケンスにブックマークを追加できます。シーケンスをブックマークする と、そのブックマークはIDと作成したユーザーに関する情報と一緒に保存されます。ブックマークには題名と説明を 付けることができます。ブックマークは検索可能なので、オペレータは後ほど容易に見つけられます。

ブックマークしたビデオシーケンスは以下の方法で検索および編集できます。

- 検索タブの検索機能。
- 再生モードのメインタイムライン。

💉 ブックマークを追加、あるいは表示する機能は、ユーザーの権限に依存します。

ブックマークウィンドウ

ブックマーク ウィンドウは、詳細なブックマークを有効にする場合にのみ表示されます。詳細なブックマークを有効にする on page 158をご参照ください。

ブックマークウィンドウのレイアウトは、XProtect Smart Client のどこにいるか、追加するブックマークが1つなの か複数なのかによっても変わります。以下をクリックするとウィンドウの画像が表示されます。

単一のブックマーク



複数のブックマーク

dd bookmark		- 0
d 2 bookmarks		
Search result	Start time End time	Library - book shelves - 21-06-2019 11:50:22:855
Suspect in library	11:50:18 11:50:52	
Suspect leaving the library	11:52:40 11:54:28	
		Bookmark ID Added by no.000015 Headline
		Suspect in library
		Apply headline to all in list
		The suspect puts something into her pocket 10 seconds into the video clip.
		Apply description to all in list
Help		ОК

ブックマークウィンドウのフィールド。

名前	説明
ブックマークID	ブックマークに自動的に割り当てられる数字。
追加者	ブックマークを作成した人物。
タイムラインをブッ クマーク	時間選択ブラケットは、ブックマークしたシーケンスの開始時刻と終了時刻を示しま す。開始・終了時刻を変更するにはブラケットをドラッグしてください。

名前	説明
見出し	題名は50文字以内で指定してください。
リスト内の全アイテ ムに見出しを適用す る	 を数のブックマークの作成時にしか表示されません。 すべてのブックマークに同じヘッドラインを使用するには、テキストをクリックします。
説明	説明を指定できます。
リストのすべてに説	複数のブックマークの作成時にしか表示されません。
明を適用	すべてのブックマークに同じ説明を使用するには、テキストをクリックします。

ブックマークを追加または編集する

ブックマークをライブおよび録画したビデオに追加することができます。詳細なブックマークを有効にしている場合 は、ブックマーク名と説明を指定できます。タイムスパンを調整することもできます。後でブックマークの詳細を検 索し編集することができます。

要件:

詳細なブックマークを有効にする必要があります。詳細については、詳細なブックマークを有効にする on page 158 をご参照ください。

手順:

- 1. ビューで使用するカメラを選択します。
- 2. ブックマークのアイコン をクリックします。詳細を有効にすると、 **ブックマーク**ウィンドウが表示され、インシデントの詳細な説明を追加することができます。
- 3. ブックマークの名前を入力します。

- ブックマークするシーケンスのデフォルトの長さは、監視システムサーバーで決定しますが、開始・終了時 刻ブラケットをドラッグして変更することもできます。
- 5. (オプション)インシデントについて説明します。
- 6. [**OK**] をクリックします。

ブックマークを後で検索/編集するには、**検索**タブに移動してブックマークを検索します。 ブックマークの検索 on page 183をご参照ください。

短いビデオチュートリアルを見ますか?



ブックマークを削除

自分または他の人が作成したブックマークを削除できます。ブックマークは削除されるとデータベースからも取り除かれ、それ以後は検索できなくなります。

要件

ブックマークを削除するにはユーザー権限が必要です。このユーザー権限は、システム管理者によって制御されま す。

手順:

- 1. 検索タブで、削除したいブックマークを探します。
- 2. 検索結果でそれぞれのブックマークにカーソルを当てて、青いチェックボックス を選択します。
- 3. 青いアクションバーで をクリックし、**ブックマークを削除**を選択します。ウィンドウが表示されます。

Delete	bookmarks	×
?	Are you sure you want to delete 2 bookmarks? 1. Suspect leaving the library 2. Suspect in library	
	Yes No	

4. はいをクリックしてブックマークを削除します。



システムによっては、特定のブックマークを削除できないよう制限がかけられている 場合もあります。その場合は通知が表示されます。

ブックマークされたビデオの検索またはエクスポート

ブックマークを作成すると、[検索] タブに再びブックマークが表示されます。カメラ1で6時間以内にブックマーク に追加したインシデントを検索したいと仮定します。この場合、期間を [**直近6時間**] に設定し、カメラ1を選択し、 [**ブックマーク**] の検索条件を選択します。ブックマークの検索 on page 183もご参照ください。

ブックマークされたビデオをエクスポートすることができます。検索結果から利用できるアクション on page 189も ご参照ください。

短いビデオチュートリアルを見ますか?



FAQ:ブックマーク

ブックマークが付いたインシデントを検索するには?

検索タブに移動して時間帯を設定し、インシデントを録画している可能性のあるカメラを選択してから、検索対象> ブックマークをクリックします。

特定のブックマークが見つかりません。なぜですか?

ブックマークを検索できない原因はいくつか考えられます:

- ブックマークを閲覧するユーザー権限がありません。
- ブックマークは、ブックマークを削除する権限があるユーザーにより削除されました。
- ブックマークしたビデオがデータベースにもう存在しない

検索結果にブックマークを付けることはできますか?

可能。検索を実行して検索結果のリストが返された後、これらの検索結果にブックマークを付けられます。検索結果のブックマーク on page 199をご参照ください。

ビデオへのアクセス制限

ビデオ制限

۲

選択したライブビデオや音声ストリーム、録画したビデオや音声シーケンスへのアクセスを制限し、権限のないオペレータによる機密資料の閲覧を防止できます。

ビデオ制限機能により、ビデオシーケンス(ビデオ、音声、およびデバイスメタデータ)へのアクセスを、制限付き ビデオの視聴を許可されたオペレータのみに制限できます。

ライブストリームと録画ビデオの両方に制限をかけることができ、ビデオ素材への一般的なアクセスを回復させる必要がある場合は、制限を解除する権限を持つオペレータによって制限を解除できます。

制限付きの素材であっても削除できるため、制限付きビデオの自動または手動削除も防止する場合は、シーケンスに もエビデンスロックを適用する必要があります。

ユーザー権限に応じて、ビデオ制限を作成、表示、編集、および解除できます。

ビデオ制限とさまざまなサイト

ビデオ制限は、異なるサイトにあるカメラも含め、アクセス可能なすべてのカメラに作成できます。

異なるサイトに配置された複数のカメラを選択し、選択したカメラに対してビデオ制限を作成した場合、選択したカ メラに対して複数の制限が作成されます。通常、再生制限ではサイトごとに1つ、ライブ制限ではサイトごとに複数 の制限が作成されます。実際のライブ制限数は、関連デバイスの数によって異なります。

これは、複数のサイトの複数のカメラに制限を適用すると、複数の制限が作成され、ビデオ制限リストに表示される ことを意味します。ビデオ制限リストに表示されている各制限は、個別の制限として編集、メンテナンス、解除が可 能です。

複数のサイトで作成されたビデオ制限の例

XProtectインストールは、3つのサイトにまたがります。

- サイトA:それぞれにマイク、スピーカー、およびメタデータのある3台のカメラで構成され、12個のデバイ スが利用可能。
- サイトB:それぞれにマイク、スピーカー、およびメタデータのある2台のカメラで構成され、8個のデバイスが利用可能。
- サイトC:マイク、スピーカー、およびメタデータのある1台のカメラで構成され、4個のデバイスが利用可能。

再生制限を作成

3つのサイトのすべてのデバイスにアクセスできるユーザーが、すべてのサイトのすべてのカメラに再生制限を作成 する場合、3つの再生制限が作成されることになります。各再生制限は、各サイトのそれぞれのデバイス(カメラ、 マイク、スピーカー、およびメタデータ)で構成されます。

ライブ制限を作成

以下のように、3つのサイトのすべてのデバイスにアクセスできるユーザーが、すべてのカメラにライブ制限を作成 した場合、24のライブ制限が作成されます(サイト上の各デバイスに対して1つ)。

- サイトA (12個のデバイス) に12のライブ制限
- サイトB(8個のデバイス)に8のライブ制限
- サイトC(4個のデバイス)に4のライブ制限

作成された制限は互いにリンクしておらず、各制限は個別に編集、メンテナンス、解除が可能です。

ライブ制限と再生制限を同時に作成することはできません。代わりに、まず1つの制限タイプ を作成し、次に別の制限タイプを作成する必要があります。

作成された制限はリンクしておらず、各制限は個別に編集、メンテナンス、解除が可能です。

ビデオ制限とエビデンスロック

ビデオ制限とエビデンスロックは、どちらも権限のないユーザーによるビデオ素材へのアクションを防ぐものですが、大きな違いがあります。

ビデオ制限では、権限のないオペレータによるビデオシーケンスまたは音声シーケンスの閲覧を防ぎ、エビデンス ロックでは、ビデオシーケンスまたは音声シーケンスが手動または自動で削除されることを防ぎます。

エビデンスロックを作成する場合は、**再生ビデオ制限を作成**チェックボックスをオンにして、エビデンスロックを適 用するのと同じビデオシーケンスにビデオ制限を作成することもできます。

ただし、ビデオ制限を作成する場合は、エビデンスロックの作成は同時にできません。代わりに、ビデオ制限を作成 したのと同じビデオシーケンスに手動でエビデンスロックを作成する必要があります。

作成されたエビデンスロックとビデオ制限は、個別に編集、メンテナンス、解除をしなければなりません。制限され ているビデオシーケンスと、同じビデオシーケンスに適用されているエビデンスロックの間には接続がありません。

ライブビデオまたは録画ビデオに制限を作成する

ライブストリームまたは録画映像に制限を作成し、権限のないオペレータによるコンテンツの閲覧を防止できます。 ライブ制限を作成する場合、デフォルトで、現在のビューにあるすべてのカメラが制限に含まれるように選択されま す。制限の作成時に含めたくないカメラを削除できますが、ライブ制限の作成後に削除はできません。

録画映像にビデオ制限(再生制限)を作成する場合は、制限を編集することでカメラの再生制限を解除できます。

複数のカメラに対してライブ制限を作成する場合、カメラ1台に付き、1つのライブ制限が作成されます。複数のカメ ラに対して再生制限を行う場合、選択されたすべてのカメラを対象とした1つの制限が作成されるだけです。

ライブビデオの制限の場合、**見出し**フィールドにはカメラ名が表示され、ユーザー入力は無効となります。また、**説** 明と**インターバル終了**のフィールドも空となり、ユーザー入力が無効となります。ライブ制限が有効である限り、ラ イブストリームの録画映像も、定義されたタイムインターバルのライブ制限の対象となります。実際には、ライブビ デオ制限を作成することで同じビデオシーケンスに再生制限も作成されます。ライブ制限を解除した場合、再生制限 を維持するか、再生制限を解除するかを選択できます。

再生制限付きビデオにエビデンスロックもしたい場合は、ビデオシーケンスに手動でエビデンスロックを作成する必要があります。

ライブ制限の作成

- 1. [**ライブ**]モードで、アクセスを制限したいカメラビューを選択し、[**ビデオ制限**]>[作成]をクリックして、[**ラ** イブ制限を作成]を開きます。選択したビューにあるすべてのカメラが、デフォルトで制限に追加されます。
- 2. [**ライブ制限を作成**]ダイアログ > [**インターバル開始**] フィールドで、制限の開始時刻を設定します。 制限開始時刻の初期値は、5分前です。
- 必要に応じて、ライブ制限を作成ダイアログの右半分で、カメラを追加をクリックし、制限に追加するカメ ラを選択します。また、制限をかけるべきでないカメラを除外することも可能です。
- 9イブ制限を作成をクリックすると、ライブ制限を作成ダイアログが開きます。制限の作成が完了したら、
 閉じるをクリックしてダイアログを閉じます。
 詳細をクリックすると、作成手順についてより詳しく知ることができます。

再生制限を作成する

録音/録画されたビデオ映像または音声映像は、権限のないオペレータによって、コンテンツが視聴されないように 制限できます。

作成する制限の開始時刻と終了時刻を定義する必要があります。

- 1. **再生**モードで、アクセスを制限したいカメラを選択し、メインタイムラインで、制限を作成したいインター バルの開始時刻と終了時刻を選択します。**タイムラインに開始時刻と終了時刻を設定**を選択し、タイムライ ン追跡から開始時刻と終了時刻を選択するか、**カレンダーに開始時刻と終了時刻を設定**を選択できます。
- 2. ツールバーで、[ビデオ制限] > [作成] をクリックして、[再生制限を作成] ダイアログを開きます。

- 3. 再生制限の作成ダイアログで、以下を実行します。
 - 1. **見出し**フィールドに、制限の見出しを入力します。短い一意の見出しをつけることで、他のオペレー タが、より早く制限を見つけることができます。
 - 2. 説明フィールドに、制限の説明を入力します。
 - インターバル開始およびインターバル終了フィールドで、定義された制限インターバルが、制限した いシーケンスに適切であることを確認します。また、インターバルの開始および終了時刻を新たに入 力することも可能です。開始および終了時刻が同じであれば、インターバル開始時刻は、自動的に5 分前に調整されます。
 - 4. **再生制限を作成**ダイアログの右半分で、**カメラを追加**をクリックし、制限に追加するカメラを選択し ます。
- 4. 制限を作成ボタンをクリックすると、再生制限を作成ダイアログが開きます。
- 5. 再生制限の作成ダイアログで、制限の作成をクリックし、選択を確認します。
- 制限の作成が完了したら、閉じるをクリックしてダイアログを閉じます。
 詳細をクリックすると、作成手順についてより詳しく知ることができます。

制限を作成したら、ビデオ制限リストで制限を開き、制限設定を編集してカメラを追加できます。

すでに制限のあるカメラへの新たな制限の作成

カメラ単体、現在のビュー内のカメラ、およびカメラグループに対して制限を適用できるため、すでに制限のあるカ メラに対して、新たに制限を作成することができます。

ライブ制限

すでにライブ制限のあるカメラに新たなライブ制限を作成する場合、新たなライブ制限の開始時刻が、既存のライブ 制限の開始時刻より早ければ、既存のライブ制限の開始時刻が更新されます。

新たなライブ制限の開始時刻が、既存のライブ制限の開始時刻と同じ、またはそれよりも遅い場合、既存のライブ制限の開始時刻は変更されません。

再生制限

すでに再生制限のあるカメラに新たな再生制限を作成すると、同じカメラに2つの再生制限が適用されます。

上記のシナリオは、すでに制限のあるカメラに、新たな制限を作成する場合にのみ該当します。既存の制限を編集し てインターバル時間を変更するのと同様に、いつでもカメラを追加または除外できます。

制限付きビデオを表示する

制限付きビデオまたは音声を視聴する権限が与えられているオペレータは、通常通り視聴できます。表示された映像 には、現在素材が制限されていることを示す警告が含まれます。 制限付きビデオまたは音声を視聴する権限が与えられていないオペレータは、映像を視聴できず、その素材を含むカ メラは、ユーザーインターフェイスで制限されていると表示されます。

制限付きビデオは、カメラビューを直接開いてビデオ素材を再生することで、**ライブ**モードまたは**再生**モードで視聴 できます。

また、リストにアクセスするのに十分なユーザー権限が割り当てられている場合、**ビデオ制限リスト**からカメラ ビューを開くことができます。

- [ライブ] モードまたは [再生] モードで、[ビデオ制限] > [表示] をクリックして、[ビデオ制限リスト] ダイア ログを開きます。
- 2. ビデオ制限リストで、フィルターと検索フィールドを使用して、表示したい制限を見つけます。
- 表示したい制限を選択し、ビューをクリックします。
 一部の制限には複数のカメラが含まれている場合があり、同時視聴できるカメラは100台までです。

ビデオ編集の制限

ユーザー権限に応じて、既存のビデオ制限を編集できます。例えば、制限開始時刻や制限終了時刻の変更、カメラの 追加、および制限の見出しや説明の更新などが可能です。

制限付きビデオの制限設定のみ編集可能です。制限付きビデオに作成されたエビデンスロック設定は、別途編集する 必要があります。

現在ログインしているサイトにあるカメラのみ、編集または制限の解除が可能です。

1つ以上のライブ制限を編集する

制限開始時刻の変更は、ライブ制限の場合のみ可能です。

ビデオ制限リストには、ライブモードまたは再生モードのどちらからでもアクセスできます。

- [ライブ] モードまたは [再生] モードで、[ビデオ制限] > [表示] をクリックして、[ビデオ制限リスト] ダイア ログを開きます。
- 2. ビデオ制限リストで、フィルターと検索フィールドを使用して、編集したい制限を見つけます。
- 3. 編集したい制限を選択し、編集をクリックすると、ライブ制限を編集ダイアログが開きます。
- 4. ライブ制限を編集ダイアログで、インターバル開始フィールドを更新し、変更を保存をクリックすると、ラ イブ制限を編集ダイアログに更新の進捗状況が表示されます。
- 5. **ライブ制限を編集**ダイアログで変更が更新されたら、**閉じる**をクリックしてダイアログを閉じます。 詳細をクリックすると、更新についてより詳しく知ることができます。

1つ以上の再生制限を編集する

複数の再生制限のすべての設定を更新でき、見出し、説明、インターバルの開始および終了時刻の変更、制限へのカ メラの追加も可能です。

ビデオ制限リストには、ライブモードまたは再生モードのどちらからでもアクセスできます。

- 1. [**ライブ**] モードまたは [再生] モードで、[ビデオ制限] > [表示] をクリックして、[ビデオ制限リスト] ダイア ログを開きます。
- 2. ビデオ制限リストで、フィルターと検索フィールドを使用して、編集したい制限を見つけます。
- 3. 編集したい制限を選択し、編集をクリックすると、再生制限を編集ダイアログが開きます。
- 4. **再生制限を編集**フォームで、関連する制限設定を更新し、**変更を保存** をクリックすると、**再生制限を編集**ダ イアログに更新の進捗状況が表示されます。
- 5. 再生制限を編集ダイアログで変更が更新されたら、閉じる をクリックしてダイアログを閉じます。 詳細をクリックすると、更新についてより詳しく知ることができます。

ビデオ制限を解除する

制限が解除されると、その下にあるビデオ素材(ライブおよび録画)は、通常通りオペレータが視聴できるようになります。

現在ログインしているサイトにあるカメラのみ、編集または制限の解除が可能です。

制限を解除しても、同じビデオシーケンスに適用されたエビデンスロックのステータスは変わりません。ビデオシー ケンスにロックがかかっている場合、ビデオを削除するには、ビデオのエビデンスロックを削除する必要がありま す。

再生制限の削除

複数の再生制限を、同時に解除できません。再生制限の選択と解除は、それぞれ1つずつ行う必要があります。

- [ライブ] モードまたは [再生] モードで、[ビデオ制限] > [表示] をクリックして、[ビデオ制限リスト] ダイア ログを開きます。
- ビデオ制限リストで、フィルターと検索フィールドを使用して、解除したい制限を見つけます。 ライブ制限はリスト上部に表示され、各ライブ制限は緑色のライブアイコンでマークされます。 再生制限は、ライブ制限の下に表示されます。
- 3. 解除したい再生制限を選択し、[解除] をクリックすると、[再生制限を解除] ダイアログが開きます。
- 4. 再生制限を解除 ダイアログで、制限を解除 をクリックすると、選択した再生制限が解除され、再生制限を解除ダイアログが開きます。
- 5. 再生制限を解除ダイアログで、解除処理が完了したら閉じるをクリックします。 詳細をクリックすると、解除ステータスの詳細が表示されます。

ライブ制限の削除

複数のライブ制限を選択して解除することはできますが、制限の種類を混在させること、つまり再生制限とライブ制 限の両方を同時に選択して解除することはできません。

ライブストリームの制限を解除した場合、同じビデオシーケンスの録画映像をデフォルトで制限できます。オペレー タは、ライブビデオストリームの制限を解除する際に、録画映像の制限を保持しないことを選択できます。 制限付きライブストリームの再生制限の作成過程では、カメラの追加または既存カメラの除外はできません。ただ し、制限を作成した後に、再生制限を編集して、カメラを除外したり追加したりすることは可能です。

- [ライブ] モードまたは [再生] モードで、[ビデオ制限] > [表示] をクリックして、[ビデオ制限リスト] ダイア ログを開きます。
- 2. ビデオ制限リストで、フィルターと検索フィールドを使用して、解除したい制限を見つけます。 ライブ制限はリスト上部に表示され、各ライブ制限は緑色のライブアイコンでマークされます。
- 3. 解除したいライブ制限を選択し、[解除] をクリックすると、[**ライブ制限を解除**] ダイアログが開きます。
- ライブ制限を解除ダイアログで、録画映像に制限を作成を選択して、解除するライブ制限に再生制限を作成 します。
 解除するライブ制限の再生制限を作成しない場合は、録画映像に制限を作成チェックボックスをオフにしま す。
- 5. **ライブ制限を解除**をクリックすると、選択したライブ制限が解除され、**ライブ制限を解除**ダイアログが開き ます。
- 6. **ライブ制限を解除** ダイアログで、解除処理が完了したら**閉じる**をクリックします。詳細をクリックすると、 解除ステータスの詳細が表示されます。

制限付きビデオのエクスポート

制限された映像の視聴権限を割り当てられたオペレータのみが、素材にアクセスし、映像をエクスポートできます。

ビデオ制限リスト

ビデオ制限リスト

ビデオ制限リストは、すべてのサイトのカメラデバイスのすべての既存ビデオ制限を表示します。リストの一番上に ライブ制限が表示され、次に録画映像の制限(再生制限)が表示されます。

ビデオ制限リストを開けるのは、制限の閲覧および管理権限が付与されているオペレータのみです。

1つ以上の制限を選択して、制限設定の編集または制限の解除ができますが、現在ログインしているサイトのカメラの制限のみ編集または解除が可能です。

例えば、異なる制限タイプ(ライブおよび再生)が選択されている場合、制限設定を表示することはできないなど、 一部のアクションは利用できません。

ライブ制限の非表示または未表示

ビデオ制限がカメラ以外のデバイスにのみ適用されている場合(カメラマイクまたはカメラスピーカーなど)、ビデ オ制限リストにはカメラデバイスの既存のビデオ制限のみが表示されるため、ライブ制限は存在しますが、ビデオ制 限リストには表示されません。 カメラにライブ制限をかけると、すべてのデバイスが制限対象になります。ライブ制限を解除すると、ハードウェア (マイク、カメラ、スピーカー、およびメタデータ)のすべてのデバイスで制限が解除されますが、ライブ制限の解 除が一部しか成功していない場合、一部のデバイスで制限が残っている場合があります。これらのデバイスが、マイ ク、スピーカーおよび/またはメタデータである場合、残りの制限は**ビデオ制限リスト**に表示されませんが、カメラ 自体は制限されたままです。

非表示のライブ制限を含むカメラに新しい制限を作成することで、非表示のライブ制限を**ビデオ制限リスト**に表示さ せることができます。これにより、既存のライブ制限が更新され、リストに表示され、非表示ではなくなります。

リストの検索とフィルター

リストに多くの制限がある場合、リストにフィルターを適用して、制限の数を絞り込むことができます。

また、**検索**フィールドを使用して、特定の制限を検索できます。**検索**フィールドは、すべての制限の見出しと説明文 に、検索条件を適用してリストをフィルターします。

検索

検索フィールドに制限の見出しや説明の一部を入力して、制限リストを検索します。

フィルター

1つ以上のフィルターを適用して、リストに表示される制限の数を絞り込んで減らします。定義されたフィルターは 累積されます。また、必要に応じて、フィルターされたリストを検索することもできます。

制限の種類

- **すべて**:リスト内のすべての(ライブと再生の)制限を表示します。
- **再生**:リスト内の再生制限のみを表示します。
- **ライブ**:リスト内のライブ制限のみを表示します。

インターバルまたは作成日

- 今日:今日作成されたすべての制限を表示します。
- 昨日:昨日作成されたすべての制限を表示します。
- 直近7日間:過去7日以内に作成されたすべての制限を表示します。
- すべて:インターバルの開始が設定されているすべての制限を表示します。
- カスタム:任意の日付インターバルをフィルターとして定義します。

作成者:

- すべて:自分を含むユーザーが作成したすべての制限を表示します。
- 自分のみ:自分が作成したすべての制限を表示します。

カメラ:

- **すべて**: すべてのカメラの制限を表示します。
- 選択:選択したカメラのみの制限を表示します。

ビデオ制限リストの設定

名前	説明
見出し	制限のタイトル。 ビデオ制限リスト をフィルターする場合、 見出し および 説明 フィールドの内容が検索フィル ターに含まれます。 編集時の再生制限にのみ有効です。
説明	制限の内容をより長く、より詳細に説明します。 ビデオ制限リストをフィルターする場合、見出しおよび説明フィールドの内容が検索フィル ターに含まれます。 編集時の再生制限にのみ有効です。
インターバル 開始	制限するビデオシーケンスの開始日時を調整します。
インターバル 終了	制限するビデオシーケンスの終了日時を調整します。
カメラを追加	クリックし、制限に追加するカメラをさらに選択します。 編集時の再生制限にのみ有効です。
すべて解除	クリックし、すべてのカメラの制限を解除します。 編集時の再生制限にのみ有効です。

ビデオ制限ステータスのメッセージ

メッセー ジ	説明および結果	シナリオおよびソリューション
制限の作 成 / 解除 / 更新に 成功	すべて成功しました。 結果 : ビデオ制限が作成、更新、または解除されました。	
制限の作 成 / 解除 / 更新に 成功	ビデオ制限の作成、更新、または解除が完全に成功し なかった場合、メッセージが表示され、プログレス バーは黄色になります。 [詳細]をクリックして、エラー内容を確認します。 結果: ビデオ制限は作成、更新、解除されましたが、選択し たカメラおよび/またはそれらの関連デバイスの一部が 含まれていません。一部のデバイスにはまだ制限が適 用されている可能性があります。	 シナリオ:ビデオ制限に含まれているデバイスでレコーディングサーバーの一部がオフライン。 解決策:レコーディングサーバーがオンラインになるまで待ちます。 シナリオ:ユーザーがにログインした後、システム管理者が当該ユーザーのビデオ制限のユーザー権限を変更したXProtect Smart Client。 解決策:システム管理者にお問い合わせください。
制限の作 成 / 解除 / 更新に 成功	ビデオ制限の作成、更新、または解除に失敗した場合 は、メッセージが表示され、プログレスバーは赤で表 示されます。 [詳細]をクリックして、エラー内容を確認します。 結果: ビデオ制限が作成、更新、または解除されていませ ん。	 シナリオ:ビデオ制限に含まれているデバイスでレコーディングサーバーがすべてオフライン。 解決策:レコーディングサーバーがオンラインになるまで待ちます。 シナリオ:マネジメントサーバーがオフライン。 解決策:マネジメントサーバーがオンラインになるまで待ちます。

調査および文書化インシデント

XProtect Smart Client:調査および文書化インシデント

XProtect Smart Client: 「調査および文書化インシデント」では、XProtect Smart Clientを使用してセキュリティインシデントを調査し、文書化する方法についての包括的なガイドを提供します。

対象のトピック

インシデントを管理および文書化し、徹底的かつ正確な調査プロセスを確実に実行するために本ガイドをお役立てく ださい。

このガイドでは、以下を取り上げています。

- 録画された映像の閲覧
- 高度な検索の実行
- エビデンスロックの作成
- ドキュメント作成のためのビデオおよびオーディオのエクスポート

対象者

このガイドの対象者には、組織内でのXProtect Smart Clientの管理と操作に責任を負うセキュリティ担当者、オペレータ、技術スタッフが含まれています。

インシデントの調査

録画された映像の閲覧

タイムラインを使用して録画済みビデオを閲覧し、主に再生モードでインシデントを調査します。録画ビデオを表示 するには、興味のあるカメラからのビデオが表示されているビューを見つけなくてはなりません。ビューは、**ビュー** ペインで利用できます。ビューに表示されるカメラごとに異なるアクションを実行できます(スナップショットを撮 る、検索を開始するなど)。カメラツールバー(カメラビューアイテム) on page 96をご参照ください。何か目に 留まるものがあれば、仮想ジョイスティックでズームインして、より詳しく見ることができます。

検索タブで詳細な検索を行い、さらなる調査やアクション(エクスポートやブックマークなど)の起点として検索結 果を使用できます。

インシデントがアラームと関連付けられている場合は、**アラームマネージャ**タブを選択するか、**アラームリスト**が追加さたビューを選択します。

に[インシデントXProtect Smart Client]タブがある場合は、XProtect[®] Incident Managerがあります。XProtect Incident Manager文書を参照してください。XProtect Incident Managerがない、または内蔵 XProtect Smart Client 機能でインシデントを調査する場合は、このセクションで説明している機能と方法を使用してください。

短いビデオチュートリアルを見ますか?



再生モードで録画したビデオを表示する

再生モードでは、ビューにあるすべてのカメラにメインのタイムラインで表示される同時刻のレコーディングが表示 されます。メインのタイムラインのコントロールと機能を使用して、レコーディングを再生、閲覧できます。



- 1. ツリー構造でビューを選択するか、キーボードのショートカットを使用します。デフォルトのキーボード ショートカット on page 101を参照
- 2. 再生モードに切り替えます。

- 3. メインのタイムラインを使用して閲覧します。タイムラインからの録画の操作onpage59をご参照ください。
- 4. 任意の操作。カメラ ツールバーでさまざまなアクションを行います。カメラツールバー(カメラビューアイ テム) on page 96をご参照ください。
- 5. 任意の操作。ビデオをエクスポートするタイムスパンを選択します。タイムライン コントロール on page 59 とビデオ、音声、静止画像のエクスポート on page 223もご参照ください。
- 6. 任意の操作。

エビデンスロックを作成する。

短いビデオチュートリアルを見ますか?



録画したビデオをメインのタイムラインとは別に表示

ビューアイテム内でビデオを確認したい場合は、ビュー内の他のビデオとは独立してそのビデオを再生することがで きます。再生モードでは、再生は選択したメインのタイムラインとは無関係です。ライブモードでは、再生はライブ ビデオとは無関係です。



ホットスポット、画像自動切替、またはMatrixコンテンツを含むビューアイテムにはこの機能は使用できません。

1. ビューアイテムを選択し、カメラツールバーから、[個別再生] 🎫 を選択します。

カメラのビューアイテムのトップバーが黄色に変わり、個別再生タイムラインが表示されます。



- ライブモードでは、[個別再生] が選択された時刻の10秒前からビデオの再生が開始されます。
- 再生モードでは、再生した場合、ビデオは反対方向に10秒ジャンプします。一時停止された場合、ビデオは現在時刻で一時停止します。
- 2. 別の時間に録画したビデオを見るには、個別再生タイムラインをドラッグします。
- 3. ビュー内のすべてのカメラからの録画ビデオを個別再生時刻に同期させるには、[再生タイムラインに選択し

た時間を使用] 🔤 を選択します。

これにより、再生モードで、個別再生用に最初に選択した時刻にビデオが同期化されて表示されます。

短いビデオチュートリアルを見ますか?



検索タブで録画ビデオを表示します。

検索結果は基本的に、再生可能なビデオ シーケンスです。

- 検索結果をプレビューします。検索結果からビデオをプレビュー on page 193もご参照ください。
- 全画面モード、またはサブウィンドウで検索結果を再生します。サブウィンドウで検索結果を開く on page 192もご参照ください。

検索中

検索中

多くのビューグループ、ビュー、カメラ、そして多くの録画されたビデオがある場合、関連するビデオを見つけるの が困難な場合があります。XProtect Smart Clientには、メインタイムラインのナビゲーション機能に加えて、役に立 つさまざまな検索機能があります。

以下の検索が可能です:

- ビューまたはカメラ。システム管理者がカメラに追加した特性や説明を含めます。
- ビデオシーケンスの内容とデータ。例えば、次のようなビデオシーケンスが含まれます。
 - モーション
 - ブックマーク
 - アラーム*
 - イベント*
 - 人物**
 - 車両**
 - ビデオが録画された場所に関するデータ**

177 | 調査および文書化インシデント

- *) XProtect CorporateまたはXProtect Expertが必要です。
- **) XProtect CorporateまたはXProtect Expertが必要です。また、システム管理者がその機能を有効にし、 ユーザーに権限を付与している必要があります。

検索機能は主に**検索**タブで使用できますが、これらはライブおよび再生モードでのビデオ表示に組み込まれていま す。

ビデオシーケンスで複数の条件を検索します

XProtect CorporateまたはXProtect Expertがある場合、ビデオシーケンス内で基準の組み合わせを検索できます。

関連するビデオシーケンスを見つけたら、ビデオシーケンスをエクスポートのために送信したり、ビデオシーケンス をブックマークしたり、その他の操作を行ったりすることができます。

- 1. 検索タブを開きます。
- 2. 開始時刻と終了時刻のフィルターセレクタで矢印をクリックするか、事前定義されたタイムスパンを選択して、独自のカスタムインターバルを定義します。

Search filters	•	
Start	End	
13:02	13:02	
01-07-2019	02-07-2019	
Last 2 hours		
Last 6 hours		
Last 12 hours		
Last 24 hours		
Yesterday		
Last 7 days		
Custom interval		

3. 選択したカメラのリストフィルターセレクタで、カメラまたはビューを見つけるためにカメラの選択検索 フィールドを使用し、検索したいビデオシーケンスのカメラを選択します。 4. 検索カテゴリを1つ以上選択するには、[検索]を選択してください。

Start			End								60 60	
07: 19-0	29 8-2019		09:29 19-08-2019	•	07:29:0 19-08-2) 019						
Duratio	on: 2 hours				s 🔊	uspect ent	ering build	ing				
Selecte	d cameras (1)		Clear list			-					
Entrar	nce							A				
Select	t camera						(00:00:34)	19-08-201	9 08:06:47			
	Bookma	Sear	ch for					×				
	Konnerde	0)	Alarms			Bookmar	ks					
			Events		Ĩ≮	Motion						
	Added by						New s	search				

5. 追加した検索カテゴリごとに、[**結果を絞り込むためフィルターを追加または削除**]を選択し、検索条件 を変えてください。FAQ: 検索 on page 208もご参照ください。



6. 検索結果のビデオのプレビューを表示するには、検索結果を選択し、プレビューペインにある [順方向再生
 ▶ を選択します。





全画面表示モードでビデオシーケンスを再生するには、検索結果をダブルクリックします。
7. アクションバーを表示するには、検索結果にひとつずつカーソルを当て、表示される青いチェックボックス を選択します。



青いアクションバーが表示されます:

X 10 results selected

🧿 📕 📲 🔜

定義されたエリアで動作を検索

定義された映像のエリア内でモーションのあるビデオ録画を検索できます。例えば、複数のカメラで監視されたドア の入り口で人が入ってくるのを見つけることができます。

- 1. 検索タブで、開始時刻と終了時刻を選択します。
- 2. 検索に含めるカメラを選択します。
- 3. [検索対象] > [モーション] > [新規検索] の順に選択します。選択に対応する録画は、検索結果ペインにサム ネイル画像として表示されます。

- 4. 選択したエリア限定でモーションを検出するには、以下を実行します。
 - 1. 下のモーションで、[モーションエリアを指定]を選択してください。



ダイアログが表示され、ステップ2で選択したカメラのリストが示されます。

 カメラを1台選択し、赤いプレビューエリア内を選択およびドラッグして少なくとも1つのエリアのマ スクを解除します。システムはそのエリアのみを検索します。



- 3. オプション。スライダーを使ってモーション感度を調整します。モーション検索いき値 on page 183 をご参照ください。
- 検索エリアを定義するすべてのカメラについて、ステップ2とステップ3を繰り返してください。選択 されたエリア内のモーションは、黄色のボックスで強調表示されています。
- 5. 検索結果を選択して、プレビューウィンドウでビデオを表示します。

- オプション。検索結果ペインの下部にある青いアクションバーで、1つ以上の検索結果に対して青い チェックボックス を選択し、次のアクションを実行します。
 - ビデオをエクスポートに追加する
 - ビデオにブックマークまたはエビデンスロックを適用します
 - 新しいビューでビデオを表示します
 - PDFレポートにスナップショットとビデオに関する情報を追加します
 - ビデオのスナップショットを撮ります

短いビデオチュートリアルを見ますか?



モーション検索いき値

カメラの選択エリア内のモーションを検索する際には、モーションしきい値を調整できます。モーションしきい値に より、モーション検知機能の感度が決まります。

- しきい値が高いほど、モーション検出の起動に必要なモーションが多く必要になります。これにより検索結果の数が減ります
- しきい値が低いほど、モーション検出の起動に必要なモーションが少なくなります。これにより検索結果の 数が増えます

ブックマークの検索

自分または他の人物によってブックマークが付けられたインシデントを検索できます(カメラの台数は無制限)。

- 1. 検索に含めるカメラを選択します。
- 2. [検索対象] > [ブックマーク] > [新規検索] の順にクリックします。データベースにブックマークをした録画 があれば、検索結果ペインにサムネイル画像が表示されます。
- 3. 必要に応じて、キーワードを入力して検索結果を絞り込みます。以下のキーワードを使用できます。
 - 完全なブックマークID。no.000004
 - 例:site\user2
 - 見出しまたは説明に表示される任意のテキスト

183 | 調査および文書化インシデント

Ì

デフォルトでは、システムは**見出し**および**説明**の両方にあるキーワードを検索しま す。これを変更するには、**以下でキーワードを検索**を使用します。

ビデオシーケンスとブックマークの詳細をプレビューするには、右側のプレビューペインで検索結果を選択してビデオを再生します。



5. 全画面表示モードで録画を表示するには、検索結果をダブルクリックします。

 6. その他のアクションを実行するには、例えば検索結果をブックマークする場合、検索結果の上にカーソルを 当ててチェックボックス
 ✓ を選択します。アクションバーが表示されています。



短いビデオチュートリアルを見ますか?



アラームの検索

アラームに関連したビデオ録画を検索する際には、検索フィルターを適用することで、特定のアラーム(特定のオペレータに割り当てられた特定の状態にあるアラームなど)を伴う検索結果のみを表示することができます。

- 1. 検索に含めるカメラを選択します。
- 2. [検索対象] > [アラーム] > [新規検索]の順にクリックします。
- 3. 検索フィルターを適用して検索結果を絞り込みます。以下に基づいてフィルターできます。
 - 優先度
 - ステータス
 - **ID**:検索したいIDをフルで入力します
 - 所有者
 - サーバー 以下を使用している場合にのみ利用できます: Milestone Federated Architecture™



Milestone Federated Architecture[™]を使用している場合、**優先度とステータス**フィ ルターは、接続されているすべてのサイトで適用されます。

短いビデオチュートリアルを見ますか?



185 | 調査および文書化インシデント

イベントの検索

イベントに関連したビデオ録画を検索する際には、検索フィルターを適用することで、特定のイベント(特定のソー スまたはサーバーから発生したイベントなど)を伴う検索結果のみを表示することができます。

手順:

- 1. 検索に含めるカメラを選択します。
- 2. [検索対象] > [イベント] > [新規検索]の順にクリックします。
- 3. 検索フィルターを適用して検索結果を絞り込みます。以下に基づいてフィルターできます。
 - ・ソース
 - **ID**:検索したいIDをフルで入力します
 - サーバー 以下を使用している場合にのみ利用できます: Milestone Federated Architecture™

人物の検索

この検索カテゴリと検索フィルターは、システム管理者によって有効にされている場合にし か使用できません。

人物に関連したビデオ録画を検索する際には、検索フィルターを適用することで、ある特徴を持つ人物(特定の年齢 または身長の人物など)を伴う検索結果のみを表示することができます。

- 1. 検索に含めるカメラを選択します。
- 2. [検索対象] > [人物] > [新規検索]の順にクリックします。
- 3. 検索フィルターを適用して検索結果を絞り込みます。以下に基づいてフィルターできます。
 - 年齢:検索対象を特定の年齢層の人物に絞り込みます
 - 性別:検索対象を男性または女性のいずれかに絞り込みます
 - 身長:検索対象を特定の身長範囲の人物に絞り込みます
 - 顔:チェックボックスを選択して、検索対象を顔が映っている人物に絞り込みます。

車両の検索

この検索カテゴリと検索フィルターは、システム管理者によって有効にされている場合にし か使用できません。

車両の検索は、システムにXProtect[®] LPRがインストールされている場合でも可能です。

詳細については、システム管理者にお問い合わせください

車両に関連したビデオ録画を検索する際には、検索フィルターを適用することで、特定の車両(特定の国で発行された特定のナンバープレートが付いた車両など)を伴う検索結果のみを表示することができます。

- 1. 検索に含めるカメラを選択します。
- 2. [検索対象]>[車両]>[新規検索]の順にクリックします。
- 3. 検索フィルターを適用して検索結果を絞り込みます。以下に基づいてフィルターできます。
 - 色:検索対象を特定の色の車両に絞り込みます
 - **ナンバープレート**:ナンバープレート番号の一部またはすべてを入力して絞り込みます
 - 国:検索対象を特定の国によって発行されたナンバープレートに絞り込みます

この検索フィルターは、システムにXProtect® LPRがインストールされている 場合のみ使用できます。

- **車両速度**:検索対象を特定の速度で走行している車両に絞り込みます
- 車種:検索対象を車種(トラックなど)に基づいて絞り込みます
- マッチリスト:特定のマッチリストに含まれるナンバープレートを絞り込みます

この検索フィルターは、システムにXProtect® LPRがインストールされている 場合のみ使用できます。

特定のロケーションで録画されたビデオを検索



この検索カテゴリと検索フィルターは、システム管理者によって有効にされている場合にし か使用できません。

Ì

特定の場所で録画されたビデオを検索する際には、検索フィルターを適用することで場所に基づいて検索結果を絞り 込むことができます。

- 1. 検索に含めるカメラを選択します。
- 2. [検索対象] > [ロケーション] > [新規検索] の順にクリックします。
- 3. 検索フィルターを適用して検索結果を絞り込みます。緯度と経度、そして検索半径を指定することで、地理 的座標に基づいて検索結果を絞り込むことができます。

検索結果、設定、アクション

検索結果の調査

[検索]タブで見つかったインシデントを調査する方法はいくつかあります。

- サブウィンドウで、検索結果を再生モードで開きます。サブウィンドウで検索結果を開く on page 192もご 参照ください。
- 詳細ビューで検索結果を開きます。以下のいずれか1つを実行します。
 - 検索結果リストで検索結果をダブルクリックすると、全画面モードで表示できます。再びダブルク リックすると、検索結果のリストに戻ります。
 - プレビューエリアで検索結果をプレビューする場合は、ビデオ画像の内側をダブルクリックします。
 検索結果が全画面モードで開きます。再度ダブルクリックすると、プレビューエリアに戻ります。

検索タブでタイムラインを検索

タイムラインを検索では、検索結果がどのように分布しているかの概要がわかります。検索結果をナビゲートすることもできます。

タイムラインを検索の範囲は、選択したタイムスパン、例えば、過去6時間などによって変わります。



白いマーカーは検索結果の場所を指しています。

それぞれのマーカーは、複数の検索結果があることを示している場合もあります。マーカーの上にカーソルを当てる と、イベントやインシデントが記録された時間とカメラに関する情報が表示されます。

検索結果間を移動するには、マーカーをクリックします。マーカーが青くなり、関連する検索結果が 青い境界線で 囲まれます。



選択したマーカーが複数の検索結果を示している場合は、最初の検索結果にマークが付きます。

×

マーカーが10件以上の検索結果を示している場合は、メッセージに検索結果の件数と関連するカメラの台数が表示されます。

検索結果から利用できるアクション

検索結果に基づき、複数のアクションを利用できます。青いアクションバーでは一部のアクションを利用でき、他の アクションはプレビューエリアで使用できます。

💉 可能なアクションは、ユーザー権限により異なる場合があります。

アクショ ン	説明
	[エクスポート] タブ>[エクスポートリスト] に選択したシーケンスを追加します。
C.	エクスポートリスト に追加するシーケンスはすべて、 エクスポート タブでエクスポートの準備が できています。ビデオ、音声、静止画像のエクスポート on page 223もご参照ください。

アクショ ン	説明
PDF	検索結果に関する情報(ビデオシーケンスから取得した静止画像など)が記されたPDFレポートを 作成します。
	複数の検索結果に同時にブックマークを付けます。
2	複数のブックマークを同時に編集します。
B	エビデンスロックをかけることで、関連デバイスに存在するビデオシーケンスとデータ(音声な ど)が削除されないようにします。
F	複数の検索結果をサブウィンドウで開きます。ここでは、ビデオのライブまたは再生モードでの 表示、エクスポート、エビデンスロックの作成、Interconnectで接続されたVMSシステムに属す るデバイスとカメラからの録画取得ができます。
	検索結果の複数のスナップショットを同時に撮ります。
) E	ビデオのプレビュー中、現在の時刻を個別再生タイムラインに転送できます。これは、たとえば インシデントが起きた時に、再生モードで関連するカメラを見る際に 便利です。

MIP関連のアクション

サードパーティ製ソフトウェアに関連するその他のアクションが可能な場合があります。MIP SDKは、こうした他のアクションを追加するときに使います。

マージされた検索結果

複数の検索カテゴリを使用しており、検索結果が重複することがある場合は、ひとつにまとめられます。複数の検索 結果になることもあります。これは、異なる検索条件が同じタイムスパン内の同じカメラからのビデオと一致する場 合に発生します。基本的には同じビデオ シーケンスであるさまざまな検索結果を返す代わりに、XProtect Smart Clientは、カメラメイやイベント時間、検索カテゴリといったあらゆる詳細が含まれた検索結果をひとつ返します。

例:

メモリー・レーン15の車両を見つける

過去2時間にメモリー・レーン15に駐車していたトラックのような車両を見つけたいとします。検索を構成するに は:

- 1. 適正なエリアに配置されたカメラ10台を選択します。
- 2. 期間を過去2時間に設定します。
- 3. [車両]の検索カテゴリを追加し、[トラック]でフィルタリングします。
- 4. [場所]の検索カテゴリを追加し、アドレスおよび検索範囲の地理的な座標でフィルタリングします。
- 5. [すべての条件に一致]チェックボックスを選択します。



詳細については、車両の検索 on page 187または特定のロケーションで録画されたビデオを 検索 on page 187をご参照ください。

ブックマークされたアラームを見つける

2日前、XProtect VMSシステムでアラームが鳴りました。アラームを容易に見つけられるようにするため、ブック マークを付けました。再びブックマークを見つけてエクスポートしたいとします。検索を構成するには:

- 1. どのカメラがインシデントを録画していたのか覚えている場合は、そのカメラを選択します。覚えていなけ れば、可能なカメラの範囲を選択します。
- 2. [期間]を[過去24時間]に設定するか、カスタム間隔を指定します。
- 3. [ブックマーク]と[アラーム]の検索カテゴリを追加します。
- 4. [すべての条件に一致]チェックボックスを選択します。



検索条件の一部またはすべてに一致

XProtect CorporateまたはXProtect Expertを使用している場合は、同じ検索で複数の検索カテゴリを使用できます。 検索を設定する際、検索カテゴリの一部またはすべてに一致する必要があるのかどうかを指定します。



すべての基準を満たすと、検索結果は少なくなりますが、より正確な結果が出ます。さらに、検索結果が重複する と、より少ない結果にまとめられます。マージされた検索結果 on page 190もご参照ください。

一部の基準を満たすと、数は多くなりますが、正確さの低い検索結果が出ます。

通常、アクションバーで利用できるアクションは、マージされた検索結果では使用できない 可能性があります。これは、実行しようとしているアクションを検索カテゴリのいずれかで 使用できない場合に発生します。検索結果を選択した後、青いアクションバーで特定のアク ションを利用できなくなることがあります。 on page 210も参照

カメラまたはビューから検索を実行

1つまたは複数のビデオストリーム内で何か具体的なものを検索する場合は、単一のカメラまたはビュー全体からの カメラを対象に検索を開始できます。検索ワークスペースが新しいフローティングウィンドウで開きます。

手順:

- 1. ライブまたは再生モードに切り替えます。
- 2. 単一のカメラで検索するには:
 - 1. ビューアイテムの上にカーソルを置きます。カメラツールバーが表示されます。
 - 2. **し** をクリックします。**[検索]**ウィンドウが開き、ビューアイテム内のカメラにおいて録画ビデオの 検索を開始できます。
- 3. ビュー内のすべてのカメラで検索するには:
 - 1. 適切なビューが開かれていることを確認します。
 - 2. ビュー上部にある をクリックします。 [検索]ウィンドウが開き、ビュー内のカメラにおいて録画 ビデオの検索を開始できます。
 - 3. 何を探しているかに応じて、時間帯、検索カテゴリ、フィルターなどを修正します。詳細について は、検索中 on page 177をご参照ください。

サブウィンドウで検索結果を開く

新しいウィンドウで検索結果を開くことができます。このウィンドウは再生モードで開き、メインのタイムラインを 使用してインシデントを調査し、ビデオのエクスポートなど他のアクションの実行を可能にします。 1. 検索結果にカーソルを当てて、表示される青いチェックボックスを選択します。



2. 青いアクションバーが表示されます:



3. 2. をクリックすると、再生モードで検索結果が新しいフローティングウィンドウに表示されます。

4. ウィンドウを別のモニターに移動するには、ウィンドウをクリック&ドラッグし、適切な場所で放します。

検索結果からビデオをプレビュー

探しているビデオシーケンスが見つかったかどうかは、クイックプレビューを実行することで確認できます。

1. [検索]タブで検索を実行し、検索結果を選択します。プレビューエリアに、関連するビデオシーケンスの静止画像が表示されます。



- 2. ▶ をクリックしてビデオを再生します。
- 3. ビデオシーケンスのプレビューを全画面表示モードで表示するには、個々の検索結果をダブルクリックしま す。再度ダブルクリックすると検索結果に戻ります。
- ズームイン/アウトするには、マウスホイールでスクロールします。クリック&ドラッグで特定のエリアを ズームすることも可能です。



検索中にバウンディングボックスを表示/非表示にする

検索中にバウンディングボックスを使用すると、(モーション検出などにもとづいて)オブジェクトを特定しやすく なります。境界ボックスはオン またはオフに切り替えることができます。

バウンディングボックスはたいてい、検索結果のサムネイル画像に表示されます。ただし、 VMSシステムがメタデータを検索するよう設定されている場合、検索結果のビデオをプレ ビューするとバウンディングボックスも表示されます。

- 1. [検索]タブに移動し、検索を実行します。
- 2. バウンディングボックスの右上で、次のことができます:
- 表示を選択すると、バウンディングボックスが表示されます。
- 非表示を選択すると、バウンディングボックスが非表示になります。



検索並べ替えオプション

検索結果は以下の基準で並べ替えることができます。

195|調査および文書化インシデント

名前	説明
関連性	この並べ替えオプションは、以下の製品のひとつを使用している場合にのみ利用できます。 XProtect Corporate XProtect Expert 関連性は、検索の設定方法に応じて異なることを意味します。 選択された検索カテゴリがない、またはひとつ:イベント時間が最新の検索結果が最初に表示されます 選択された複数の検索カテゴリ/すべての条件に一致:一致する検索カテゴリが最も多い検索結果が最初に表示されます。2つの検索結果に同じ数の一致検索カテゴリが含まれている場合は、イベント時間が最新の検索結果が最初に表示されます。
	 ・ 選択された複数の検索カテコリ/すべての条件に一致: イベント回数が最も多い検索結果が 最初に表示されます。2つの検索結果に同じ数のイベント回数が含まれている場合は、イベ ント時間が最新の検索結果が最初に表示されます。
最新の イベン ト時間	最初に最も直近のイベント時間の検索結果が表示されます。
ー番古 いイベ ント時 間	最初に最も古いイベント時間の検索結果が表示されます。
最新の 開始時 刻	最初に最も直近の開始時刻の検索結果が表示されます。
一番古 い開始 時刻	最初に最も古い開始時刻の検索結果が表示されます。

マップでカメラの位置を特定する

検索中にカメラの位置を特定する

VMSシステムがスマートマップを使用するよう設定されている場合は、ビデオや関連データの検索中にスマート マップのプレビューでカメラの位置を表示できます。

要件

- 以下のいずれかのXProtect製品を使用している:
 - XProtect Corporate
 - XProtect Expert



• カメラが地理情報と併せて配置されている。詳細については、システム管理者にお問い合わせください。

手順:

1. 関心のある検索結果を選択します。



- 2. プレビューエリアで [場所]を選択します。カメラが地理情報に応じて表示されます。
- 周囲の概観を把握するには、マウスのスクロールホイールでズームアウトするか、カメラがPTZカメラの場合はパンします。
- 4. カメラに戻るには (副再度中心に戻る) をクリックします。

198 | 調査および文書化インシデント

ソースカメラと関連カメラは、アラーム定義の一部としてXProtect Management Clientで定義されます。

カメラアイコン

このトピックで説明されているアイコンは、**検索**タブの**ロケーション**エリアにのみ表示されます。スマートマップの カメラアイコンについては、スマートマップ上でのアラームの表示 on page 124をご参照ください。

- 灰色の背景は、カメラが選択されていないことを示しています
- 青い背景は、カメラが選択されていることを示しています

アイコン	タブ/モード	説明
	[検索]タブ	カメラがどの検索結果にも関連付けられていません。
	[検索]タブ	カメラが関連付けられている検索結果が選択されまし た。

検索結果のブックマーク

検索して見つけたインシデントを文書化したり共有するために、複数の検索結果を一度にブックマークすることがで きます。インシデントをブックマークすると、自分や他のオペレータが後でインシデントを検索できます。

- ブックマークしたい検索結果それぞれについて、カーソルを当ててブルーのチェックボックス す。
- 2. ブルーのアクションバーでをクリックします。ウィンドウが表示されます。図は、2件の検索結果が選択された状態を示しています。

		- 0
d 2 bookmarks		
Search result	Start time End time	Library - book shelves - 21-06-2019 11:50:22:855
Suspect in library	11:50:18 11:50:52	
Suspect leaving the library	11:52:40 11:54:28	
		Bookmark ID Added by no.000015 Headline Suspect in library
		Apply headline to all in list
		The suspect puts something into her pocket 10 seconds into the video clip.

- 3. 検索結果を一つひとつ選択して詳細をブックマークに追加し、次のステップに従います:
 - 1. デフォルトのタイムスパンを変更するには、タイムラインを検索のハンドルを新しい位置までドラッ グします。



- 2. ヘッドラインと、例えばインシデントの説明も入力します。
- 3. すべてのブックマークに同じヘッドラインや説明を適用したい場合は、次をクリックします:
 - リスト内の全アイテムに見出しを適用する
 - リストのすべてに説明を適用
- 4. [OK]をクリックしてブックマークを保存します。進捗バーで、ブックマークがいつ できるかが分かります。



XProtect Smart Wallがシステム で設定済みの場合は、**[Smart Wallに表示**]を クリックして、Smart Wallのモニターにブック マークを送信します。

検索結果のスナップショットを撮る

複数のスナップショットを一度に撮れば、検索結果から静止画像を保存して共有することができます。

手順:

- 1. 検索を実行したら、検索結果にひとつずつカーソルを当て、 ビチェックボックスを選択します。
- 2. 青いアクションバーで、 ため をクリックして[スナップショットの作成]を選択します。進捗バーで、スナップショットがいつできるかが分かります。
- 3. コンピュータ上のスナップショットの場所を特定するには、[設定]ダイアログ>[アプリケーション]>[スナッ プショットへのパス]で指定された場所へと移動します。

検索結果のブックマークを編集する

システムでブックマークの詳細(タイムスパンやヘッドライン、説明など)を編集することができます。複数のブック マークを同時に編集することもできます。

要件

ブックマークを編集するには、ユーザー権限が必要です。これは、システム管理者が[役割]>[全体のセキュリティ] のManagement Client で 行ったものです。

- [検索]タブで、編集したいブックマークを見つけます。検索を実行するときは、必ず[検索対象]>[ブックマーク]の順で選択します。
- 2. 編集したいブックマークにそれぞれカーソルを当てて、青いチェックボックス を選択します。
- 3. ブルーのアクションバーで をクリックします。ウィンドウが表示されます。



- 4. 検索結果を一つひとつ選択し、詳細(タイムスパンやヘッドライン、説明など)を編集することができます。
- 5. [OK] をクリックして変更を保存します。慎重バーで、変更の保存がいつ完了するか分かります。



検索時間をメインタイムラインに転送

検索タブで検索結果をプレビューする際、メインタイムラインの時刻とタイムラインを検索の時刻を同期できます。 これは例えば、インシデントを見つけたとき、同じ時間に他のカメラで何が起きていたかを調べたい場合に便利で す。

- 1. [検索]タブで検索結果を選択します。
- 2. プレビューエリアで、 をクリックして、タイムラインを検索の現在の時刻をメインのタイムラインに転送します。引き続き検索タブが表示されます。



3. 他の関連するカメラをチェックするには、再生モードに切り替え、閲覧したいカメラを含むビューを選択し ます。メインのタイムラインは今検索結果と同期しています。

検索を保存して開く

検索の管理

Ì

この機能は、特定のXProtect VMSシステムでのみ使用できます。詳細については、製品比較 チャートを参照してください。 https://www.milestonesys.com/products/software/xprotect-comparison/

検索条件を保存すれば、後で同じ条件で検索を行ったり、他のオペレータと共有したりできます。ユーザー権限に よっては、個人情報でない限り、他者が作成した検索条件にもアクセスして使用することが可能です。検索条件が 保存されれば、以下が可能です:

- 名前と説明を変更する、ならびに検索をプライベートまたはパブリックに設定する
- 検索条件の設定内容を修正する(カメラの追加/削除や検索カテゴリの 調整など)
- 古くなった検索条件を削除する

検索条件の保存

検索条件を保存すれば、後で同じ条件で検索を行ったり、他のオペレータと共有したりできます。

要件

VMSシステムの他のユーザーも使用できるよう新しい検索条件を保存するには、**で、自身の役割に対して**パブリックサーチを作成するXProtect Management Clientのユーザー権限が有効になっていなければなりません。

203 | 調査および文書化インシデント

- 1. [検索]タブで検索条件を設定します。検索中 on page 177をご参照ください。
- 2. [検索フィルター]の右側にある をクリックします。

Views Exports	Search	Alarm Manager	
Search filters 🗄	4	results	

3. 表示されるリストで、[名前を付けて保存]をクリックします。ウィンドウが表示されます。

Save as new search		<u></u>		×
Name				
Main entrance - people entering				
Description				
Outer cameras,				
Private search				
Search filters included				
■ ◎ 月 該				
Match any criterion				
Time is saved as a relative timespan.				
Last 2 hours				
	Save		Cance	el

- 4. この検索条件を探すうえで役に立つ名前を付け、可能であれば説明も加えます。これで、後でキーワードを 用いて検索条件を探す際に、検索条件に**[名前]**と**[説明]**の両方のフィールドが示されます。
- 5. 検索が自分にしか表示されないよう設定するには、[非公開検索]チェックボックスをオンにします。
- 6. [保存]をクリックします。検索条件の保存状況が進捗バーに示されます。



短いビデオチュートリアルを見ますか?



保存した検索条件を探して開く

保存済みの検索結果を見つけて、開くことができます。

要件

パブリックサーチを検索して開くには、**で、自身の役割に対して**パブリックサーチを読み取るXProtect Management Clientのユーザー権限 が有効になっていなければなりません。

1. [検索]タブで、[検索フィルター]の右側にある をクリックします。



2. 表示されるリストで、 [開いて検索を管理] をクリックします。ウィンドウが表示されます。

Open and manage searches	×
Enter a keyword Q	Settings for 'Main entrance - people entering'
Search name	
Main entrance - people entering	Main entrance - people entering
Parked vehicles	Description
Warehouse entry	Outer cameras.
	Search filters included ■ ③ ■ 孫 Match any criterion
	Time is saved as a relative timespan. Last 2 hours
Only show my private searches	Delete search Save
	Open Cancel

3. 開きたい検索条件を探し、ダブルクリックするか[**開く**]をクリックして開きます。検索が即座に実行されま す。



4. 検索条件を修正できます (カメラを追加するなど)。 [保存]をクリックして変更を保存します。

短いビデオチュートリアルを見ますか?



保存した検索条件の詳細を編集

保存された検索の詳細を変更できます。

要件

XProtect Management Clientでは、自身の役割に対して 以下のユーザー権限が有効になっています:

- パブリックサーチを編集するには、パブリックサーチを編集するユーザー権限が有効になっていなければなりません
- 1. [検索]タブで、[検索フィルター]の右側にある をクリックします。

Views	Exports	Search	Alarm Manager
Search f	ilters 🗄	4	results

- 2. 表示されるリストで、 [開いて検索を管理] をクリックします。ウィンドウが表示されます。
- 3. 変更したい検索条件を探して選択します。
- 4. (検索条件の名前を入力するなど)変更を適宜加え、[保存]をクリックします。

検索条件の構成を変更

検索カテゴリなどの検索の設定を変更することができます。

要件

XProtect Management Clientでは、自身の役割に対して 以下のユーザー権限が有効になっています:

- パブリックサーチを編集するには、パブリックサーチを編集するユーザー権限が有効になっていなければなりません
- 1. [検索]タブで、[検索フィルター]の右側にある をクリックします。

Views	Exports	Search	Alarm Manager
Search fi	ilters 🗄	4	results

2. 表示されるリストで、 [開いて検索を管理] をクリックします。ウィンドウが表示されます。

3. 開きたい検索条件を探し、ダブルクリックするか[**開く**]をクリックして開きます。検索が即座に実行されま す。



4. カメラを追加するなどして、検索を修正したら、 [**保存**]をクリックします。

保存した検索条件を削除

古くなった検索条件は削除できます。

要件

XProtect Management Clientでは、自身の役割に対して 以下のユーザー権限が有効になっています:

- パブリックサーチを削除するには、パブリックサーチを削除する権限が有効になっていなければなりません
- 1. [検索]タブで、[検索フィルター]の右側にある をクリックします。

Views Exports	Search	Alarm Manager
Search filters 🗄	4	results

- 2. 表示されるリストで、[開いて検索を管理]をクリックします。ウィンドウが表示されます。
- 3. 削除したい検索条件を探して選択します。
- 4. [検索を削除]をクリックします。

検索を通して一時的なビューを作成する

カメラの検索により一時的なビューを簡単に作成することができます。

- 1. [ビュー] タブで、[ビューおよびカメラの検索] フィールドを使ってカメラを検索します。
 - さらに、検索フィールドの横の
- 2. 検索結果からビューを選択します。
- 3. 1つまたは複数のカメラを選択し(複数のカメラを選択するにはCtrlまたはShiftキーを使います)、Enter キーを押して一時的なビューを作成します。

ビューを保存したい場合は、ワークスペースのツールバーで **[セットアップ]** を選択します。

FAQ: 検索

個々のカメラから検索を開始することはできますか?

208 | 調査および文書化インシデント

可能。ライブまたは再生モードで特定のカメラを閲覧している際に、カメラを新しい検索ウィンドウに送ることがで

きます。検索を開始するには、カメラツールバーのをクリックします。

ビューにあるすべてのカメラから検索を開始することはできますか?

可能。ライブまたは再生モードでビュー内のカメラを閲覧している際に、これらのカメラを新しい検索ウィンドウに

送ることができます。検索を開始するには、ビューの上にあるをクリックします。

検索を行っていますが、しばらく待ってもXProtect Smart Clientはまだ検索しているようです。なぜですか?

期間に広範なタイムスパンが含まれている場合 (週間など)、または多くのカメラを選択している場合は、検索結果が 数千件にのぼり、XProtect Smart Clientが検索結果をすべて見つけるのに時間がかかる可能性があります。

Milestoneでは、検索結果を絞り込むには検索を微調整するようお勧めしています。

検索においてフィルタ-はどのように機能しますか?

O Alarms Apply filters to narrow down results	×
Priority High (Level 1) Medium (Level 2) Low (Level 3)	Clear
State New (Level 1) In progress (Level 4) On hold (Level 9) Closed (Level 11)	Clear
DI	Clear
Owner	Clear

[**優先度**]と[**状態**]の両方など、複数のフィルターを適用すると、これらのフィルターにすべて適合する結果が抽出されます。

1つのフィルター内で複数の値を選択した場合(**優先度**フィルター内で高、中、低の値を選択した場合など)、これらのいずれか1つの値と一致する結果が抽出されます。

一部のサムネイル画像がグレー表示されているのはなぜですか?

検索結果リストでグレー表示されているサムネイル画像は、起動された時点でカメラに利用できる録画が現在存在しないことを意味しています。これには、レコーディングサーバーがダウンしているなど、複数の原因が考えられます。

必要なアクションをアクション バーで利用できないのはなぜですか?

検索結果を選択した後、青いアクション バーで特定のアクションを利用できなくなることがあります。



これは、複数のカテゴリに同時に一致する検索結果を選択している場合に発生します。実行しようとしているアクションは、これらの検索カテゴリのいずれもサポートしません。

例:[**ブックマーク**]と[**モーション**]で検索すると、検索結果のひとつにモーションとブックマークが両方とも含まれ ていました。このような場合は、ブックマークの編集や削除が不可能になります。

このセクションで説明されているシナリオは、XProtect VMSシステムに統合されているサードパーティ ソフトウェアに関わるアクションにも該当する可能性があります。

必要なアクションが、検索結果の一部にのみ該当するのはなぜですか?

複数の検索結果で青いアクション バーのアクションのいずれかを使用しようとすると、ツールチップが表示され、 そのアクションは検索結果のサブセットにのみ適用される可能性があることを通知します。

× 10 results selected

これは、選択した検索結果のひとつ以上が、実行しようとしているアクションによってサポートされていない場合に 発生します。

询 📕 📲 🔜 ···

このセクションで説明されているシナリオは、XProtect VMSシステムに統合されているサードパーティ ソフトウェアに関わるアクションにも該当する可能性があります。

検索結果に表示されるサムネイル画像が小さすぎます。どうすれば大きくできますか?

サムネイルのサイズは、画像の右側にあるスライダーをドラッグすることで拡大できます。



新しい検索条件を保存しようとしています。[プライベートサーチ]チェックボックスが無効になっているのはなぜ でしょうか? [プライベートサーチ]チェックボックスが事前選択されたままグレー表示になっている場合は、[パブリックサーチの作成]を行う許可がないことを表しています。検索条件は、ご自身が利用できるものしか保存できません。

検索条件を検索または開こうとしています。 [自身のプライベートサーチのみ表示] チェックボックスが無効になっ ているのはなぜでしょうか?

[検索条件を開く]または[検索条件の管理]ウィンドウで、[自身のプライベートサーチのみ表示]チェックボックスが事前選択されたままグレー表示になっている場合は、[パブリックサーチの読み取り]を行う許可がないことを表しています。ご自身のプライベートサーチしか表示できません。

検索条件を変更しましたが、変更を保存できません。なぜでしょうか?

既存の検索条件の構成を変更した後(カメラの追加など)、**[保存]** ボタンが無効になっている場合、**[パブリック** サーチの編集] を行う許可がないことを表しています。また、名前や説明といった検索条件の詳細を変更することも できません。

なぜ検索条件を削除できないのでしょうか?

[検索条件の管理]ウィンドウで [削除] ボタンが無効になっている場合、 [パブリックサーチの削除] を行う許可 がないことを表しています。

スマート検索に加えられた変更とは?

シーケンスエクスプローラータブが廃止され、スマートサーチは**検索**タブに移動しました。スマート検索機能を使用 するには、[モーション]を選択し、最後に領域のマスクを解除します。定義されたエリアで動作を検索 on page 181 もご参照ください。

開始時刻とイベント時刻の違いは何ですか?

検索タブでビデオ録音/録画を検索すると、それぞれの検索結果には開始時刻、終了時刻、イベント時間が表示され ます。開始時刻と終了時刻は、それぞれイベントの開始と終了を表しています。イベント時刻は、ビデオシーケンス における最も重要な部分、または注目すべき部分を指します。たとえばモーションを探している場合、イベント時刻 とはモーションが開始した時点となります。あるいはオブジェクトを識別する際には、イベント時刻は最も信頼性の 高い識別が行われた時点となります。

現在ブックマークを検索しています。検索によって、開始/終了時刻が検索期間内にないブックマークが見つかるこ とはありますか?

可能。重なっている時間が存在する限り、ブックマークは検索されます。以下に例を示します。検索期間として今日の1:00~3:00 pmと設定した場合、開始時刻が今日の11:00 am、終了時刻が今日の2:00 pmのブックマークであれば 検索の対象となります。

「相対的な時間帯」とは何ですか?

既定の時間帯(過去6時間など)が選択された検索条件を保存する際には、時間帯に相対性があることが伝えられま す。つまり、「過去6時間」とは現在の時刻に相対したものです。そのため、どの時点で検索を行おうと、常に「過 去6時間」に該当する検索結果が返されます。

トラブルシューティング:検索

エラーメッセージと警告

レポートを作成できません

1件または複数の検索結果にもとづいて監視レポートを作成しようと試みましたが、レポートを作成できませんでした。これには、いくつかの理由が考えられます:

- 同じ場所に同じ名前のレポートがすでに作成されており、現在そのレポートが開かれている。この問題を解決するには、レポートを閉じてから再試行してください。
- レポート先にレポートを保存するためのユーザー権限がありません。この問題を解決するには、[レポートの 作成]ウィンドウで別のパスを指定してください。

特定のデータソースが利用できないため、この検索を開くことができません

検索を開けない理由として、いくつかの原因が考えられます:

- 検索を作成した人物が、あなたが利用できない1つまたは複数の検索カテゴリを使用していた。この問題を解 決するには、新しい検索を作成しください。
- 開こうとしている検索において、現在使用中のXProtect Smart Clientのバージョンでは利用できない検索カ テゴリが使用されている。この問題を解決するには、XProtect Smart Clientの新しいバージョンをダウン ロードしてください。
- 現在利用できない検索カテゴリに追加ライセンスが必要な可能性がある。システム管理者にご連絡ください。

このデバイスはまだスマートマップに配置されていません

検索結果が選択されていますが、関連デバイスがプレビューエリアのスマートマップに表示されていません。デバイ スが位置情報と併せて配置されていないためです。この問題を解決するには、以下のいずれかの処理を行ってください。

- スマートマップに移動してデバイスを追加します。スマートマップにデバイスを追加する on page 297をご 参照ください。
- XProtect Management Clientでデバイスプロパティの地理的座標を指定するようシステム管理者に依頼して ください。

エッジストレージと Milestone Interconnect の録音の操作

エッジ ストレージ およびMilestone Interconnectからの録画

エッジストレージを備えたカメラには、以下の2種類あります。

- 録画保存用のメモリーカード付きのカメラ。
- 別のXProtectVMSインストールの一部で、MilestoneInterconnect™からアクセスできる、相互接続されたカメラ。

必要なユーザー権限がある場合は、エッジストレージのあるカメラから録画を手動で取得できます。録画の取得は、 XProtectVMS管理者によって定義されたルールによっても自動的に行われます。 また、Milestone InterconnectVMS管理者マニュアルのXProtect設定セクションも参照してください。

メインタイムラインとエッジ取得

エッジストレージを備えたカメラを選択した場合、タイムライン追跡のライトグレーとミディアムグレーは、エッジ ストレージ上の録画がローカルのレコーディングサーバーに取得するかどうかを示します。

- ライトグレーで凡例が不明となっているものは、録画が取得されていないことを示します。取得を試す前は、エッジストレージから取得する録画があるかどうかは確認できません。
- ミディアムグレーで凡例が データ要求中 となっているものは、取得処理中であることを示しています。

} } ∤] €€	I	€ I	4 -		- 🕨	₽	M	₩	1x 🗸
12:01 PM		12:02 F	™ to 5/2/	2023 12:02:59.	242 PM 12	2:04 PM		12:05	5 PM
All cameras in the	view								?
			PI	AYBACK LIV	νE		5 r	ninutes	- +

録画を取得すると、タイムライン追跡はユーザーの他のすべての録画と同じ色になります。色の凡例 on page 58を ご参照ください。

録画を手動で取得する

手動で録画を取得して、レコーディングサーバーに保存できます。通常、調査したいインシデントが発生したとき、 および/または録画を長期間保存する必要がある場合にこれを行います。

- 1. エッジストレージのあるカメラを選択します。
- 2. メインタイムラインで、[タイムラインに開始・終了時刻を設定]を選択し、関連する録画の開始・終了 時刻を選択します。
- 3. 右上隅のワークスペースツールバーで、「データ を取得する]を選択します。
- 4. 必要に応じて、録画を取得するカメラをさらに選択します。
- 5. 取得を開始するを選択します。

上部の通知エリアでは、取得ジョブの進捗状況を表示したり、それを停止したりできます。

すべてのエッジ取得ジョブを表示する

ルール、自分、または他のオペレータによって開始されたすべての実行中および最近の取得ジョブを、右上隅の設定 およびその他のメニューで表示するには、サーバージョブを選択します。取得ジョブのステータスを表示し、必要に 応じて進行中のジョブを停止できます。

エビデンスロックの使用

エビデンスロック

エビデンスロック機能を使用すると、例えば調査や試行を行っているときに、ビデオシーケンスが削除されるのを防 ぐことができます。この保護は、選択したカメラに関係するデバイスからの音声やその他のデータをカバーします。

エビデンスロックを追加、編集、削除することができますが、エビデンスロックをエクスポートしてビデオを再生す ることもできます。再生モードまたは**検索**タブにいる場合、エビデンスロックを作成できます。

エビデンスロックがかけられると、システムで定めた保存期間が経過してもデータが自動的に削除されなくなります。

💉 ユーザー権限により、エビデンスロックを作成、表示、編集、削除できる場合があります。

再生モードでエビデンスロックを作成する

エビデンスロックを作成することで、ビデオ録画と関連データが削除されるのを防ぐことができます。

1. メインのタイムラインで、**タイムラインに開始・終了時間を設定**または**カレンダーに開始・終了時間を設定** を選択します。

{=} {=}

- 2. 削除から保護したいビデオシーケンスの開始時間および終了時間を選択します。
- 3. 関連デバイスから送られた、保護したいビデオシーケンスとデータが保存されているカメラを選択します。

4. 右上で、[エビデンスロック]>[作成]をクリックします。ウィンドウが表示されます。

Create evidence lock				<u>~</u> `		×
Create evidence lock						
Headline			Select camera			
Evidence lock			CAMERA NAME			
Description			Headquarters - back door			
Not to be deleted			Reception			
9/24/2022 11.21.29 AM	9/24/2022 11:22:29 AM	0				
0/24/2022 TI.21.36 AM	0/24/2022 11:25:30 AM					
Keep evidence lock for						
1 month 🗸						
Evidence lock expires: 9/24/2022 11:24 Help	ISO AM			Cancel	Create	

- 5. エビデンスロックに見出しを付け、任意で説明も添えます。
- 6. 残りのフィールドについては、エビデンスロック設定 on page 219を参照してください。
- 7. **作成**をクリックします。エビデンスロックの作成後、**詳細**をクリックすると、この操作の成否を確認できま す。エビデンスロックのステータスメッセージ on page 221をご参照ください。

検索タブでエビデンスロックを作成する

エビデンスロックを作成することで、ビデオ録画と関連データが削除されるのを防ぐことができます。

1. 検索結果リストで、削除されないように保護したいビデオシーケンスを選択します。アクションバーが表示 されます。関連デバイスに保存されているデータも保護されます。



2. **エビデンスロックの作成**の順にクリックします。ウィンドウが開き、選択した検索結果に関連して いるカメラがリストされます。

Create evidence lock				<u> </u>		×
Create evidence lock						
Headline			Select camera		Remove	e all
Evidence lock			CAMERA NAME			
Description			Headquarters - back door			
Not to be deleted			Reception			
Interval start	Interval end					
8/24/2022 11:21:38 AM	8/24/2022 11:23:38 AM	©				
Keep evidence lock for						
1 month 👻						
Evidence lock expires: 9/24/2022 11:24 Help	50 AM			Cancel	Create	,

- 3. エビデンスロックに見出しを付け、任意で説明も添えます。
- 4. タイムスパンは選択した検索結果をすべてカバーしています。タイムスパンを変更するには、**インターバル** 開始と**インターバル終了**フィールドを使用します。
- 5. 残りのフィールドについては、エビデンスロック設定 on page 219を参照してください。
- 6. **作成**をクリックします。ウィンドウが開き、エビデンスロックの進捗状況が示されます。[**詳細**] をクリック して、成否を確認します。エビデンスロックのステータスメッセージ on page 221をご参照ください。
エビデンスロックの表示

- 1. 再生モードに切り替えます。
- 2. 右上にあるワークスペースツールバーで、エビデンスロックをクリックして、ビューを選択します。
- 3. 再生モードではなくライブモードのままにしたい場合は、グローバルツールバーの**エビデンスロック**を選択 します。



ユーザー権限があるデバイスの既存のエビデンスロックのリストが表示されます。

- ヘッドラインと説明に含まれるテキストの検索、該当する列の並べ替え、フィルターオプションを用いた対象エビデンスロックの容易な検索が可能です。
- 5. エビデンスロックを選択し、**詳細**をクリックして、エビデンスロックに含まれるカメラやその他の情報を表示します。

エビデンスロックを編集する

エビデンスロックは、ユーザー権限に応じて編集できます。たとえば、タイムインターバル、カメラ、エビデンス ロックの持続時間などの編集です。

- 1. 再生モードに切り替えます。
- 2. 右上で**エビデンスロック**をクリックし、**ビュー**を選択するか、グローバルツールバーで**エビデンスロック**を 選択します。



- 3. エビデンスロックを選択し、詳細をクリックします。ウィンドウが表示されます。
- エビデンスロックのインターバルを短くするか長くするには、エビデンスロックインターバル開始およびエ ビデンスロックインターバル終了フィールドを使用します。
- 5. エビデンスロックの有効時間を変更するには、エビデンスロックを保持リストで値を選択します。
- 6. 完了したら、更新をクリックします。
- 7. 更新が成功すると、ウィンドウが表示されます。[**詳細**] をクリックして、成否を確認します。エビデンス ロックのステータスメッセージ on page 221もご参照ください。

エビデンスロックのあるビデオを再生する

ビデオが保護されているか否かに関わらず、いつでも再生モードでビデオを再生できます。特定のエビデンスロック に含まれているビデオシーケンスを再生したい場合は、次の操作を実行してください。

- 1. 再生モードに切り替えます。
- 2. 右上で、エビデンスロックをクリックし、ビューを選択します。
- 3. 再生モードではなくライブモードのままにしたい場合は、グローバルツールバーの**エビデンスロック**を選択 します。



ユーザー権限があるデバイスの既存のエビデンスロックのリストが表示されます。

- 4. エビデンスロックを選択し、[**再生**]をクリックします。新しいウィンドウが開き、エビデンスロックのすべてのカメラがあるビューが表示されます。
- 5. いずれかのタイムラインコントロールを使って、特定の時間へ移動するか、単に**順方向再生**をクリックしま す。

ロックされたエビデンスビデオのエクスポート

エビデンスロックをエクスポートする場合には、カメラに関連するデバイスからのデータもエクスポートに含まれま す。

- 1. 再生モードに切り替えます。
- 2. 右上にあるワークスペースツールバーで、エビデンスロックをクリックして、ビューを選択します。
- 3. 再生モードではなくライブモードのままにしたい場合は、グローバルツールバーの**エビデンスロック**を選択 します。



ユーザー権限があるデバイスの既存のエビデンスロックのリストが表示されます。

- 4. エビデンスロックを選択して、[エクスポートリストに追加]をクリックします。
- 5. エクスポートプロセスを続行します。エクスポート設定の調整 on page 225とエクスポートを作成する on page 226をご参照ください。

エビデンスロックを削除する

エビデンスロックを削除すると、ビデオシーケンスを削除するのではなく、その保護を削除することになります。ビ デオシーケンスがシステムのデフォルトの保存期間より古くなると、システムはこれをユーザーに通知します。ユー ザーはエビデンスロックの保持を選択することで、保護解除後にシステムによって自動的に削除されるのを防ぐこと ができます。

- 1. 再生モードに切り替えます。
- 2. 右上で、エビデンスロックをクリックし、ビューを選択します。
- 3. 再生モードではなくライブモードのままにしたい場合は、グローバルツールバーの**エビデンスロック**を選択 します。



ユーザー権限があるデバイスの既存のエビデンスロックのリストが表示されます。

- 4. 1つ以上のエビデンスロックを選択し、削除をクリックします。
- 5. 削除が成功すると、ウィンドウが表示されます。[**詳細**] をクリックして、成否を確認します。エビデンス ロックのステータスメッセージ on page 221もご参照ください。

エビデンスロック設定

名前	説明				
見出し	エビデンスロックの見出しです。				
説明	エビデンスロックの説明です。				
インターバル開始	保護したいビデオシーケンスの開始日時を調整します。				
インターバル終了	保護したいビデオシーケンスの終了日時を調整します。				
以下の期間エビデンス ロックを維持	エビデンスロックを保護しておく期間を指定します。 ユーザー権限に応じて、時間、日、週、月、年、期間指定なし、ユーザー指定の オプションがあります。 ユーザー定義 を選択する場合、カレンダーボタンをクリックして、日付を選択し てから、時刻を手動で調整します。 完了すると、エビデンスロックの有効期限が終了する日時が表示されます。				
カメラを選択	クリックすると、エビデンスロックにさらに含めるカメラを選択できます。				

名前	説明
再生ビデオ制限を作成	エビデンスロックを作成しているのと同じビデオシーケンスに再生ビデオ制限を 作成します。 ビデオ制限はエビデンスロックと接続しておらず、手動で編集、メンテナンス、 削除をしなければなりません。
削除/すべて削除	クリックすると、エビデンスロックから選択したカメラを1つ削除するか、すべて のカメラを削除できます。

エビデンスロックフィルター

名前	説明
ロックイ ンターバ ル	保護されるインターバルの開始時間に基づいて、エビデンスロックをフィルターします。使用で きるオプションは、本日、昨日、直近7日間、すべて、です。
作成日	作成日に基づいて、エビデンスロックをフィルターします。使用できるオプションは、本日、昨 日、直近7日間、すべて、カスタムインターバルです。カスタムインターバルを選択する場合、カ レンダーで開始と終了の日付を選択します。
有効期限	有効期限に基づいて、エビデンスロックをフィルターします。使用できるオプションは、本日、 明日、7日間、すべて、カスタムインターバルです。カスタムインターバルを選択する場合、カレ ンダーで開始と終了の日付を選択します。
ユーザー	すべてのユーザーが作成したエビデンスロック、または自分が作成したエビデンスロックのみを フィルターできます。
カメラ	すべてのカメラからのデータのあるエビデンスロックをフィルターするか、エビデンスロックに 含める必要があるカメラを1つ以上選択します。

エビデンスロックのステータスメッセージ

メッセー ジ	説明および結果	シナリオおよびソ リューション
成功	すべて成功しました。 結果: エビデンスロックは作成済み/更新済み/削除済みです。	
部分的に成功	エビデンスロックの作成、更新、削除が完全に成功したわけではない場 合、部分的に成功というメッセージが表示され、プログレスバーは黄色に なります。[詳細] をクリックして、エラー内容を確認します。 結果: エビデンスロックは作成/更新/削除されましたが、選択したカメラおよび /またはそれらに関連するデバイスの一部が含まれていません。 また、原因としてレコーディングサーバーがオフラインになっていること も考えられます。このような状況では、エビデンスロックの設定は済んで いますが、実際のビデオにはまだ適用されていません。この場合、エビデ ンスロックはレコーディングサーバーが利用可能になった時点でビデオに 適用されます。ロックが適用されたかどうかは、ロックのサイズを見ると 確認できます。サイズが表示されると、ロックが適用されたことを意味し ます。	 シナリオ:デバイ スがエビデンス ロックに含まれて いるレコーディン グサーバーの一部 がオフラインで す。 解決策:レコー ディングサーバー がオンラインにな るまで。 シナリオ:1つ以上 のデバイスで、 2020 R2以降に アップグレードされていないレコー ディングサーバー に録が保存されています。 解決策:レコー ディングサーバー に録したいないレコー ディングサーバー をバージョン2020 R2以降にアップグ レードしてください。 シナリオ:あなた がXProtect Smart

メッセー ジ	説明および結果	シナリオおよびソ リューション
		Clientにログインし た後、システム管 理者がエビデンス ロックのユーザー 権限を変更しまし た。 解決策 :システム 管理者にお問い合 わせください。
失敗しま した	エビデンスロックの作成、更新、削除が成功しなかった場合は失敗メッ セージが表示され、プログレスバーは赤になります。[詳細]をクリックし て、エラー内容を確認します。 結果: エビデンスロックが作成/更新/削除されていません。	 シナリオ:デバイ スがエビデンス ロックレコーティン グサントーボすべ マオンライン。 解ディンライン。 解ディンライン。 デオサーバーがすべてすべ での時代します。 シナリオ:マネジ メントサーンにない。 解決サーバーがすい。 解決サーバーがすい。 解ントオンライン。 ジナリオ:エビデンスにします シスロ複数するユー ガー権限がない。

メッセー ジ	説明および結果	シナリオおよびソ リューション
		解決策 :システム 管理者にお問い合 わせください。
		シナリオ :1つ以 上のデバイスで、 2020 R2以降に アップグレードさ れていないレコー ディングサーバー に録画が保存され ている。
		解決策 :レコー ディングサーバー をバージョン2020 R2以降にアップグ レードしてくださ い。

エクスポート

ビデオ、音声、静止画像のエクスポート

発生したインシデントを文書化する必要がある場合、例えば法的エビデンスを提出する場合などに、XProtect Smart Client からビデオシーケンスをエクスポートすることができます。エビデンスビデオが改ざんされていないことを証 明する必要がある場合は、XProtect形式でエクスポートできます。この形式を使用すると、エクスポートされたビデ オの信頼性を検証するデジタル署名の背後にあるエビデンスを「ロック」できます。

ビデオおよび関連する音声をさまざまな形式でエクスポートします。VMS システムによっては、静止画像や利用で きるその他の種類のデータもエクスポートできます。

エクスポート形式の種類

XProtect Smart Clientでは、次の1つまたは複数の形式でエクスポートできます。

フォーマット	説明
XProtect フォーマット	エクスポートに XProtect Smart Client – Player を含めるには、XProtect フォーマットを使 用します。XProtect Smart Client – Player は、このフォーマットを再生できる唯一のメディ アプレイヤーです。エクスポートされたエビデンスが改ざんされていないことを確認できる ようにするには、[エクスポート設定] > [XProtect形式] > [デジタル署名を含める] を選択 します。この操作により、XProtect Smart Client – Player で [署名の検証] ボタンが利用で きるようになります。
	XProtectの使い方を知らなくても、ほとんどのメディアプレーヤーが再生できる形式を使用 します。この形式を再生するのに必要なのは、インストールされているメディアプレーヤー のみです。
	メディアプレーヤー形式でエクスポートする方法は2つあります。
メディアプ レーヤーの フォーマット	 個別ファイル:エクスポートリストに追加した各ビデオシーケンスのファイルをエクスポートします。メディアプレーヤー形式の設定:個別ファイル on page 236もご参照ください。
	 統合されたファイル:エクスポートリストに追加したすべてのビデオシーケンスを 含む単一のファイルをエクスポートします。統合されたファイルには2つのレイアウ トタイプがあります。メディアプレーヤー形式の設定:統合されたファイル on page 237もご参照ください。
静止画像	選択した期間のフレームごとに静止画像ファイルをエクスポートします。

エクスポートリストにビデオシーケンスを追加

エクスポートを作成する前に、**エクスポートリスト**にビデオシーケンスを追加する必要があります。XProtect Smart Clientでは、複数の場所からファイルを追加できます。

- 1. [**エクスポート**]タブの[**エクスポートリスト**]で、[**アイテムを追加**]を選択してビデオシーケンスを追加しま す。
- 2. [検索]タブで、エクスポートする検索結果ごとに青いチェックボックス をオンにし、青いアクションバーの[**エクスポートリストに追加**]を選択します。すべての検索結果を選択するには、1つの検索結果を選択して

Ctrl+**A**を押します。表示される青いアクションバーで、**[エクスポートリストに追加**]を選択します。

3. [表示] タブの [再生] モードでは、エクスポートリストにビデオシーケンスを追加するための 2 つのオプショ ンがあります。

オプション1:

- 1. タイムラインで、[タイムラインに開始・終了時刻を設定]を選択し、エクスポートするシーケン スの開始・終了時刻を選択します。
- エクスポートに含めたいアイテムごとに、関連のあるチェックボックス ≤ を選択します。すべての検索結果を同時にエクスポートするには、右上のワークスペースツールバーにある [すべてを選択] ボタン ≤ を選択します。
- [エクスポート]>[エクスポート]を選択し、選択したビデオシーケンスをエクスポートリストに追加 します。この操作により、[エクスポート]タブが自動的に表示されます。または、[エクスポート]> [エクスポートリストに追加]を選択して、選択したビデオシーケンスをエクスポートリストに追加し ます。再生モードのままで、エクスポートリストにさらにシーケンスを追加できます。

オプション2:

- 1. エビデンスロックリストで、既存のエビデンスロックを選択します。
- [エクスポートリストに追加]を選択して、エビデンスロック含む選択したビデオシーケンスをエクス ポートリストに追加して再生モードのままにするか、[エビデンスロック]>[ビュー]>[エビデンス ロックリスト]を選択します。

エクスポートリストに含まれる同じカメラから複数のビデオシーケンスをエクスポートする には、シーケンスを選択し、カメラ分割アイコン ¹⁰⁰をクリックします。

短いビデオチュートリアルを見ますか?



エクスポート設定の調整

[**エクスポート**] タブ > [**エクスポートリスト**] で1つ以上のビデオシーケンスを追加した場合、1つ以上のエクス ポート形式を選択する必要があります。エクスポート形式の種類 on page 223をご参照ください。オプションで、エ クスポート設定を調整できます。エクスポート形式 on page 233をご参照ください。

View	Exports	Search	Alarm Mana	nager Incidents System Monitor +	113422 AM 🚹 🤱
Export list					3
Add item 👻					Clear privacy mask Hide privacy mask
ITEM	START	TIME END TIME		Export settings X	0
AccessGuard	11:14	LS6 AM 12:14:56 PM		Export settings	
SecurityGuard View	11:14	56 AM 12:14:56 PM	(H) 📋	XProtect format Individual files Combined file Still images	
CaskGuard Cam	11:14	ES6 AM 12:14:56 PM			
Admin Overwatch	11:14	ES6 AM 12:14:56 PM		You can export a video the in a media player format that is compatible with most computers, tablets, and mobile devices. The file contains the video sequences that you have selected for export.	
Export duration: 40000 Export formats A Coport a format . Reger House Export to media player house	nd, re-oport prevented, encypted with par	-	••	General settings Advanced settings Const FEINAL 2000 Landout regions Libbit FEINAL 2000 Landout regions Libbit FEINAL 2000 Landout regions Values and suido Image: Section Resident of the depoint and the disjoint type Comparison cavity Feinal Andre Values and suido Image: Section Resident of the depoint and the disjoint type Madation Darbotitity Fringing Camarias Harrison Madation Darbotitity Fringing Camarias Harrison Madation Darbotitity Madation Section Proj. Direction Treat Image: Section Resident operations Madation Darbotitity Franse per second Proj. Direction Treation Comparison Image: Section Resident operating Sections Hildre extensional vertings Image: Section Resident operating Sections	
video and audio Included, MICV	tomat			Help	
Video and audio included, H.264	, MP4 forest reduce (Default), UHD4K (38				
Export as still images				- *	
Event das herberstels COLETAN			County avant	838AM 1088AM 1038AM 11 3/15/2024 11:14:56:569 AM 1209PM	1230 PM 100 PM
export size (escandre): 576-57 MB			Create export	🖬 0 🛛 🔤 === Ф == Т = 4 == 🔤 = Т = 1 = 1 = 1 = 1	

エクスポートリストで、1つ以上のエクスポート形式を選択します。エクスポート形式の種類 on page 223をご参照 ください。

エクスポートリストの各ビデオシーケンスの開始時間と終了時間を変更できます。

ビデオの複数の領域をカバーするため、ビデオシーケンスにプライバシーマスクを追加できます。エクスポート中に プライバシーマスクを録画に追加 on page 228もご参照ください。

各形式のエクスポート設定を変更できます。エクスポート形式 on page 233をご参照ください。

エクスポートを作成する

エクスポートリストに少なくとも1つのビデオシーケンスを追加したら、ビデオを生成してエクスポートする準備が 整います。

- 1. エクスポート形式を選択します。
 - XProtect形式でエクスポート:エクスポートされたエビデンスが改ざんされていないことを確認する 必要がある場合は、XProtect形式でエクスポートします。XProtectフォーマットの設定 on page 234 もご参照ください。
 - 個別ファイルまたは統合されたファイル:ほとんどのメディアプレーヤーで再生でき、受取人が XProtectの使い方を知っている必要がないエクスポートファイルです。この形式を再生するのに必要 なのは、インストールされているメディアプレーヤーのみです。メディアプレーヤー形式の設定:個 別ファイル on page 236とメディアプレーヤー形式の設定:統合されたファイル on page 237もご参 照ください。
 - **静止画像としてエクスポート**:エクスポートのために選択した各フレームから静止画像ファイルをエ クスポートします。静止画像形式の設定 on page 239もご参照ください。
- 選択したエクスポート形式のエクスポート設定を調整するには、[エクスポートの設定]を選択してください。エクスポート設定の調整 on page 225もご参照ください。



3. [エクスポートの作成] を選択します。[エクスポートを作成] ウィンドウが開きます。

- 4. エクスポートには自動的に名前が付けられます。名前は変更できます。
- 5. 任意の操作。コメントを追加します。
- 6. **エクスポート先**でエクスポートされたファイルを保存する場所を指定してください。
- 7. [**エクスポート**]を選択して、エビデンスをエクスポートします。



エクスポートが完了する前に停止するには、[**キャンセル**]を選択し、表示されたウィンドウで[**キャンセル**]をク リックして確定します。エクスポートリストを復元 on page 228もご参照ください。

これで、ビデオを安全に保存、共有する準備が整いました。エクスポートデータの取り扱いについて詳しくは、 GDPR プライバシーガイドおよび MilestoneVMS オペレータ向け GDPR e ラーニングをご参照ください。

エクスポートリストを復元

[**エクスポートリストの復元**]を選択すると、キャンセルした後でもエクスポートリストをいつでも復元できます。同 様に、エクスポートの失敗または成功後にエクスポートリストを復元することもできます。

エクスポートリストを復元すると、順番は元のエクスポートリストと同じになり、ビデオシーケンスを並べ替える必要はありません。

エクスポート中にプライバシーマスクを録画に追加

ビデオをエクスポートするときには、プライバシーマスクを追加して、選択した領域を見えなくすることができます。エクスポートされたビデオが再生された場合、プライバシーマスクが追加された領域は塗りつぶされたブロック として表示されます。

ここで追加するプライバシーマスクは、**エクスポートリスト**で選択したカメラからの現在の エクスポートのすべてのビデオシーケンスに適用されます。プライバシーマスクをあるビデ オシーケンスから解除した場合、そのカメラのその他すべてのビデオシーケンスからも自動 的に解除されます。エクスポートには、システム管理者が特定のカメラに事前に設定してい るプライバシーマスクがすでに含まれている場合があります。プライバシーマスク on page 115もご参照ください。

- 1. エクスポート タブ>エクスポートリストで、プライバシーマスクを追加したいカメラを選択します。
- プライバシーマスクを追加したいそれぞれのエリアについて、 ボタンをクリックし、そのエリアにポイン ターをドラッグします。
- 3. プライバシーマスクの一部を解除するには、 ボタンをクリックし、プライバシーマスクを解除したいエリ アにポインターをドラッグします。解除したい位置ごとにこのステップを繰り返します。



プライバシーマスクを一時的に非表示にするには、**プライバシーマスクを非表示** ボタ ンを長押しします。

4. OKをクリックしてエクスポートタブに戻ります。

プレビュー画像には表示されないセルを持つグリッドがあります。選択するエリアにセルの 一部が含まれている場合、セル全体にプライバシーマスクが追加されます。その結果、想定 よりも若干多くの画像にプライバシーマスクが追加されることがあります。



プライバシーマスクが含まれるビデオをエクスポートすると、特にXProtect形式でエクス ポートする場合には、通常よりもエクスポートプロセスにかなりの時間がかかり、エクス ポートファイルの容量が多くなる可能性があります。

ストーリーボード

ストーリーボード機能は、1つのカメラから、または複数のカメラからのビデオシーケンスを一緒に1つの結合フロー に貼り付けるのに役立ちます。イベントのシーケンス、ストーリーボードを内部調査や法廷でのエビデンスとして使 用することができます。

関連性のないシーケンスをすべてスキップしたり、必要のないビデオの長いシーケンスを見て、時間を無駄にすることを避けられます。また、関連性のあるビデオが含まれていないシーケンスの保存でストレージを無駄にすることも回避できます。

ストーリーボードのエクスポート

ビデオ シーケンスを単一の結合フローに貼り付けてストーリーボードを作成し、エクスポートできます。

- 1. 再生モードで、まずストーリーボードに追加したいアイテムが含まれているビューを開きます。
- 2. タイムラインで かをクリックします。
- 3. ストーリーボードの開始時間と終了時間を選択します。
- 4. ビューで追加するアイテムごとに、該当するチェックボックス ■を選択し、[エクスポート] > [エクスポー トリストに追加[をクリックします。

ストーリーボードに必要なアイテムをすべて追加するまで、手順1~4を繰り返します。

5. エクスポートプロセスを続行します。エクスポート設定の調整 on page 225とエクスポートを作成する on page 226をご参照ください。

ロックされたエビデンスビデオのエクスポート

エビデンスロックをエクスポートする場合には、カメラに関連するデバイスからのデータもエクスポートに含まれます。

- 1. 再生モードに切り替えます。
- 2. 右上にあるワークスペースツールバーで、エビデンスロックをクリックして、ビューを選択します。
- 3. 再生モードではなくライブモードのままにしたい場合は、グローバルツールバーの**エビデンスロック**を選択 します。



ユーザー権限があるデバイスの既存のエビデンスロックのリストが表示されます。

- 4. エビデンスロックを選択して、[エクスポートリストに追加]をクリックします。
- 5. エクスポートプロセスを続行します。エクスポート設定の調整 on page 225とエクスポートを作成する on page 226をご参照ください。

エクスポートされたビデオの表示

[エクスポートを作成] ウィンドウと [エクスポート先] フィールドで指定したフォルダーにエクスポートが作成され、保存されます。

作成した直後にエクスポートされたビデオを表示するには、以下を実行します。

1. XProtect Smart Clientの右上で、エクスポートの詳細を選択します。

[エクスポートの詳細] ウィンドウ > **[エクスポートの場所]** フィールドで、出力フォルダーの場所がリンクで示されます。

2. リンクをクリックして出力フォルダーを開き、エクスポートされたファイルにアクセスします。

	3:32:08 PM 🥻 🦂
	Export details
Export details	× Privacy n
Export created	
	\Video Export\Export 1-4-2023 3-30
Export location: <u>C:\</u>	

過去のある時点のビデオをエクスポートした場合

- エクスポートを保存するフォルダーにアクセスします。デフォルトの場所は、C:\Users\[ユーザー 名]\Documents\Milestone\Video Exportです。エクスポートを作成ウィンドウ>エクスポート先フィール ドでフォルダーの場所を確認できます。これは、常に同じエクスポート先を使用している場合にのみ動作し ます。
- 2. 出力形式に応じて、該当するフォルダーを開き、ビデオファイルまたは静止画像をダブルクリックします。 形式が**XProtect形式**の場合、.exe拡張子のついたSmart Client – Playerファイルをダブルクリックします。

監視レポート

監視レポートの印刷または作成

必要に応じて、監視カメラがとらえた静止画像をもとに監視レポートをその場で印刷するか、コンピュータに保存可 能な監査レポートを作成できます。

アラームレポートを印刷する on page 155とアラームの統計を取得する on page 155もご参照ください。

単一カメラから監視レポートを印刷

ライブカメラまたは録画ビデオからは、単一の静止画像と関連情報を印刷できます。追加したメモも印刷されます。

- 1. 記録した静止画像を印刷するには、再生モードに移動します。
- 2. ライブ静止画像を印刷するには、ライブモードに移動します。
- 3. 確認したいカメラが含まれるビューを開きます。
- 4. ビューアイテムの上にカーソルを置きます。カメラツールバーが表示されます。

🗟 🛤 🖪 🗒 🚔 🖆 💿 🛛 More 🗸

5. アイコンをクリックします。ウィンドウが表示されます。



- 6. 必要に応じてメモを追加します。
- 7. 印刷をクリックします。Windowsの印刷ダイアログが表示されます。
- 8. 必要に応じて、印刷設定を変更してから印刷します。それ以外の場合は、そのまま印刷をクリックします。

組織でアラーム処理機能が使用されている場合は、アラームに関する情報も印刷できます。 アラーム on page 148をご参照ください。

検索結果からレポートを作成

検索結果をもとに、イベントまたはインシデントに関する情報(静止画像、イベント発生時刻、カメラに関する情報、メモなど)が含まれる監視レポートを作成することができます。レポートはPDFファイルとして保存されます。

- 1. [検索]タブに移動し、検索を実行します。
- 2. レポートに含めたいそれぞれの検索結果にカーソルを当て、青いチェックボックス 🗹 を選択します。
- 3. ブルーのアクションバーで === をクリックします。ウィンドウが表示されます。
- 4. デフォルトのレポート名を、意味のある名前に変更します。レポートにおいては、名前はページの見出しとして表示されます。

- 5. レポートの保存先フォルダーを変更するには、レポート先セクションでをクリックし、別のフォルダーを選択します。
- 6. オプションで、**レポートメモ**フィールドにメモを入力します。
- 7. 作成をクリックします。レポートが生成されるとプログレスバーが表示されます。

Creating 1 br	Creating PDF	port	Cancel	×
---------------	--------------	------	--------	---

- 8. レポートが生成されると、プログレスバーから詳細を選択します。
- 9. 開くを選択してレポートを開くか、リンクをクリックしてレポートの保存先フォルダーを開きます。

Report details		×
Completed Report location: <u>C:\Operator</u>		
	Open	Close

レポートのレイアウトを変更するには、**設定**ダイアログを開いて**詳細**をクリックし、**PDFレ ポートのフォーマット**リストで別の値を選択します。

画像をクリップボードにコピー

選択したカメラから1つの静止画像をコピーできます。コピーした画像は、ワープロソフトや電子メールクライアントなど、他のアプリケーションに(ビットマップ画像として)貼り付けることができます。1台のカメラからコピーできる画像は一度に1つだけです。

カメラのツールバーで、クリップボードにコピーするボタン
 をクリックして画像をコピーします



任意のアプリケーションに画像をペースト(CTRL+V)できます。

エクスポート形式と設定

エクスポート形式

[エクスポート]タブでは、エクスポートに使用する形式を選択できます。

233 | 調査および文書化インシデント

- XProtectフォーマットの設定 on page 234
- メディアプレーヤー形式の設定:個別ファイル on page 236およびメディアプレーヤー形式の設定:統合されたファイル on page 237
- 静止画像形式の設定 on page 239

各形式のエクスポート設定を変更できます。

View	Exports	Search	Alarm Manager Incidents	System Monitor		2:09:42 PM 🥻 🤱 🗄
Export list						
Add item						Clear privacy mask Hide privacy mask
пем	START TIME	E EN	🚔 Export settings		×	0
AccessGuard	2-22-56 P	М 3	Export settings			
AccessWatch	22256 P	м з				
AdminView Lens	2:22:56 P	м з	XProtect format Individual files <u>Combined file</u> Still images			
TransitGuard Cam	222561	PM 3	You can export a video file in a modia player format that is compatible with most computers, sideo sequences that you have relected for export.	tablets, and mobile devices. The file contains the		
Egort duvitor 40000 Eport formats A Protect Same Caller Anyo Includ Format Same Caller Anyo Includ Ford in a Vibrate format Include and protect format Include And Include Include vote and auto Include, MOV		, a constante	General setting: Cater Vote and auto Cater Vote and auto Cater Vote and auto Cater Vote and auto Cater Not in Bucklay Recards Not and Bucklay Not and Bucklay <td>ixyout type</td> <td></td> <td></td>	ixyout type		
video and audio included, the Deport as still images Export settings	, NPH format, Medium (Default), UHDHK (1840-2	1140), 30 FPS (De				
Deport size (estimate) - 🔹 🌒			Create export	130 M 230 M 1/22/201	4 222256.601 PM	300m 300m 400m (4 b) (b) (b) (b) (b) (b) (b) (b) (b) (b)

利用できるエクスポート形式とエクスポート設定はシステム管理者によって指定されていま す。

セキュリティ上の理由により、デフォルトではXProtect形式のみ利用できる設定になってい ます。他のエクスポート形式を有効にするには、システム管理者にお問い合わせください。

エクスポート設定が保存されます。これらの設定は、次にエクスポートするときに使用できます。使用できない設定 にはアクセスする権限がありません。

XProtectフォーマットの設定

Ì

WindowsコンピューターのXProtectでのみ開くことができるエクスポートを作成するには、XProtect Smart Client – Player形式を選択します。



名前	説明				
含める XProtect Smart Client – Player	エクスポートされたデータのあるXProtect Smart Client – Playerアプリケーションを含めま す。エクスポートされたデータは、XProtect Smart Client – Playerを使用してのみ再生でき ます。				
再エクスポー トしない	受信者がデータをどのような形式でも再エクスポートできないようにして、データが改ざん されないようにします。				
パスワードで 暗号化	暗号化標準AES-256を使用してエクスポートを暗号化します。[エクスポート]>[エクスポートを作成]を選択すると、8文字以上のパスワードの入力が求められます。 エクスポートされたデータを開くまたは表示するため、エクスポート受信者はパスワードを 入力する必要があります。				
	エクスポートしたデータベースにデジタル署名を含めます。監視システムの設定によって、 ビデオや音声にすでに署名が含まれていることがあります。この場合は、これらの署名はエ クスポート中に検証され、検証が成功するとエクスポートに含められます。検証に異常があ ると、そのエクスポートも完了しません。エクスポートされたファイルを開くと、受領者は XProtect Smart Client – Playerで署名を確認できます。				
デジタル署名	 デジタル署名を含めない場合、サーバーからの署名もエクスポートも 含められず、ビデオや音声が改ざんされていてもエクスポートが成功 することになります。 				
を含める	エクスポート プロセス中、デジタル署名は2つの異なる状況で除外できます。				
	 プライバシー マスクのあるエリアでは、レコーディング サーバーのデジタル署名が エクスポートから削除されます。 				
	 エクスポートしているデータが現在の日時と非常に近い場合、シーケンス全体でレ コーディングサーバーの電子署名が含まれない可能性があります。この場合、電子署 名はエクスポートの一部にのみ追加されます。 				
	エクスポートプロセスは完了しますが、署名を確認すると、レコーディングサーバーの電子 署名が削除されているか、部分的にOKになっていることが分かります。				
コメント	[エクスポートにコメントを追加する] ウィンドウを開きます。このウィンドウでは、個別の カメラやエクスポートプロジェクト全体にコメントを追加できます。				

メディアプレーヤー形式の設定:個別ファイル

標準のビデオまたはオーディオシーケンスを個別のファイルとしてエクスポートし、受信者が標準のメディアプレー ヤーがインストールされているコンピュータで再生できるようにするには、メディアプレーヤー形式の**個別ファイル** を選択します。コンピュータには、エクスポートで使用するコーデックもインストールしておく必要があります。

エクスポートの容量を可能な限り抑えるには、Media Player形式のMKV を選択してください。有効化できない場合 は、システム管理者までお問い合わせください。

名前	説明			
コンテンツ	ビデオのみ、音声のみ、またはビデオと音声の両方をエクスポートします。			
フォーマッ ト	AVI形式またはMKV形式でビデオをエクスポートします。			
	コーデックの選択は、AVIファイルの画質とサイズに影響します。			
コーデック	コーデックは変更できますが、Milestoneは変更する正当な理由がない限り、デフォルトのコー デック設定を維持するようお勧めします。			
	使用するコーデックは、エクスポートしたビデオを再生するコンピュー タにあるものと類似のコーデックである必要があります。			
タイムスタ ンプを含め る	VMSシステムからの日時をエクスポートされた画像に追加します。タイムスタンプは、エクス ポートされるビデオの最上部に表示されます。			
フレーム レートの低 減	エクスポートのフレームレートを下げます。すべての2番目の画像が含まれていますが、エクス ポートは依然としてリアルタイムで再生されます。			
ビデオのテ キスト	ビデオのテキスト ウィンドウが開き、AVIファイルのプリテキストとポストテキストを作成でき ます。これらのテキストは、そのエキスポートファイルですべてのカメラに追加され、ビデオ の前(プリスライド)または後(ポストスライド)に静止画像として表示されます。			



MKV形式:JPEGまたはMPEG-4/H.264/H.265形式で記録されたビデオでプライバシーマス キングを使用していない場合、エクスポートで記録されたビデオにトランスコーディングは 行われません。録画されたビデオは元の品質に保たれます。対照的に、プライバシーマスク を使用した場合、または他のコーデックを使用してビデオを録画した場合、録画されたビデ オはエクスポートでJPEGにトランスコードされます。

メディアプレーヤー形式の設定:統合されたファイル

さまざまなカメラからの複数のビデオまたはオーディオシーケンスを1つのファイルにまとめてエクスポートし、受 信者が標準のメディアプレーヤーがインストールされているコンピュータで再生できるようにするには、メディアプ レーヤー形式の**統合されたファイル**を選択します。

一般設定

名前	説明
コーデック	エクスポートされたビデオのコーデックを表示します。
コンテンツ	ビデオ、音声、またはその両方を選択します。
圧縮品質	圧縮品質は、エクスポートするファイルのサイズを決定します。エンコーダーに適用する圧 縮品質が高いほど、得られるファイルサイズは大きくなります。
解像度	選択したオプションによって、出力ファイルの最大解像度が決まります。 複数のビデオシーケンスが1つのビデオファイルに統合されるため、それぞれのカメラ解像度 とアスペクト比によって、再生中に解像度が変更されますが、選択した解像度よりも低い解 像度にしか変更されません。
フレーム数/ 秒(FPS)	フレーム数/秒(FPS)は、1秒間に表示されるフレーム数を示します。フレーム数が多いほ ど、ファイルサイズは大きくなります。

拡張設定

名前	説明			
形レウイプ	 フォーマット MKV形式またはMP4形式でビデオをエクスボートします。 レイアウトタイプ ・ 単一カメラビュー:エクスボートされたファイルは、エクスボートリストでカメラを配置した順序に従ってシーケンスを再生します。エクスボートを開始する前に、矢印を使ってエクスボートリスト内のファイルの順序を変更します。 「「「「「」」」「」」」「」」」「」」」「」」」「」」」「」」」」「」」」			
解像度 設定	出力解像度をコントロールし、エクスポートファイルのモバイルデバイスとの互換性を高めるに は、以下のオプションを使用できます。 • アップスケーリングを防止:低解像度のカメラのビデオが拡大されて粗く表示されるのを防 ぐには、このオプションを選択して、出力解像度を元のサイズ以上に上げないようにしま す。			

名前	説明
	 パディングを追加:異なるカメラからのビデオシーケンスを1つのファイルに統合すると、 再生中に解像度が変わることがあります。一部のメディアプレーヤーはこれをサポートして いません。このオプションは、解像度が全体で同じになるように、ビデオの周りにパディン グを追加します。
詳細情 報	 タイムスタンプを含める:ビデオの録画時刻をビデオにオーバーレイとして表示します。 カメラ名を含める:ビデオでカメラ名をビデオにオーバーレイとして表示します。

静止画像形式の設定

各ビデオシーケンスの各フレームの静止画像をエクスポートするには、静止画像形式を選択してください。画像は JPEG形式です。

名前	説明
タイムスタン	VMSシステムからエクスポートされた画像に日付と時刻を追加します。タイムスタンプは、
プを含める	エクスポートされた画像の最上部に表示されます。

エクスポートタブで設定する

名前	説明
エクス ポートリ	たとえばビデオシーケンスなど、エクスポートで選択したアイテムをリストします。 アイテムごとに、開始時刻または終了時刻をクリックしてタイムスパンを変更できます。新しい 日時を選択した後、 [移動] をクリックします。プレビューエリアの下にあるハンドルをドラッグし
スト	てタイムスパンを変更することもできます。 アイテムをクリックして、プレビューエリアでシーケンスのプレビューを確認します。

名前	説明
	横にある 削除 アイコン <mark>፤</mark> をクリックして、 エクスポートリスト からアイテムを削除することがで きます。1 つのアイテムを 2 つに分割したい場合は、プレビュー エリアで 分割 アイコン <mark>団</mark> をク リックします。
アイテム を追加	アイテムの追加 ボタンを使用して、エクスポートに含めたい別のアイテムを選択します。
すべて解 除	[エクスポートリスト] をクリアするには、[すべて削除] ボタンを使用してください。
エクス ポート名	プログラムが自動的にローカルの日付と時間を使って入力しますが、名前を変更することができ ます。
エクス ポート先	 パス:パスを指定する際、指定するフォルダーは既存ののものでなくても構いません。既に存在していない場合は、自動的に作成されます。 このフィールドではパスがすでに入力されている可能性があります。 メディアバーナー:エクスポートに送りたいバーナーを指定できます。この方法により、エクスポートを作成し、一度に光学メディアに直接書き込まれるようにします。
プライバ シーマス ク	クリックすると、ビデオにプライバシー マスクを追加できます。無地のブラックで選択された領 域を、プラバシーマスクがカバーします。 ここで追加したプライバシーマスクは、現行のエクスポート、および選択されたビデオにのみ適 応されます。エクスポートは、システム管理者によってプライバシーマスクが設定されたビデオ をすでに含んでいる可能性があります。詳細については、プライバシーマスク on page 115をご参 照ください。

XProtectフォーマットでエクスポートされたデータベースの修復

XProtectフォーマットのエクスポートしたデータベースが破損している場合は、XProtect Smart Client – Playerで開 くことで修復できます。

- 1. エクスポート済みビデオを含むフォルダーを開き、SmartClient-Player.exe ファイルを実行します。
- 2. エクスポート済みビデオがパスワードで保護されている場合はパスワードを入力します。
- 3. [接続]を選択します。
- 4. 右上の[セットアップ] ボタンを選択します。
- 5. 概要ペインを開き、[データベースを開く]を選択します。



XProtect Smart Client – Playerを使用してライブデータベースまたはライブアーカイ ブを開かないでください。録画のインデックス作成にダメージを与える可能性があ り、その結果、録画が利用できなくなります。

 関連するエクスポートされたデータベースを含むフォルダーを選択します。ビデオをエクスポートしたデー タベースのデフォルトフォルダは、C:\Users\[ユーザー名]\Documents\Milestone\Video Export\[エクス ポート名]\Client Files\Data\Mediadata\[デバイス名]です。エクスポートされたデータベースを選択す ると、カメラ、マイク、またはスピーカーフィールドの横にデバイス名が表示されます。

> システムがカメラを識別できない場合、例えば、、アーカイブされたレコーディング を開くと、デバイス名は**不明**になり、3種類のデバイスはすべて、エクスポートされ たデータベースファイル名が割り当てられた**不明**のデバイスとして(存在しない場合 であっても)追加されます。デバイスが存在しない場合、フィールドにはN/Aと表示さ れます。

7. 開こうとしているエクスポートされたデータベースが壊れている場合、ウィザードで修復できます。

FAQ:エクスポート

音声もエクスポートできますか?

MediaPlayer形式およびXProtect形式でエクスポートする際、お使いの監視システムがこの操作をサポートしている 場合、エクスポートに録音した音声を含めることができます。選択した監視システムに接続している場合のみ、 XProtect形式でのエクスポートが可能です。静止画像形式でエクスポートする場合、音声を含めることはできません。



ブックマークしたシーケンスをエクスポートする場合、エクスポートには何が含まれますか?

指定した開始時間と終了時間の間の、ブックマークしたシーケンス全体(ブックマークの追加 on page 158 参照)が 含まれます。

エクスポートにローカルのビデオクリップファイルを 含めることはできますか?

241 | 調査および文書化インシデント

いいえ。含めることができるのはVMSシステムに接続されたカメラまたはその他のデバイスからのシーケンスのみ です。

シーケンスをエクスポートする場合、エクスポートには何が含まれますか?

シーケンスの最初の画像からシーケンスの最後の画像まで、シーケンス全体が含まれます。

エビデンスロックのあるシーケンスをエクスポートする場合、エクスポートには何が含まれますか?

削除から保護されているすべてのデータが含まれます。選択した間隔の最初の画像から最後の画像まで、すべてのカ メラとカメラに関連するデバイスのデータです。

魚眼レンズ記録をエクスポートできますか?

はい。監視システムが魚眼レンズカメラ(例:360°のパノラマ画像を録画できる特殊カメラ)をサポートしている 場合は可能です。

エクスポートのファイルサイズを小さくするために できることはありますか?

エクスポートファイルのサイズを小さくするためにエクスポートファイルを圧縮することはできません。 エクス ポートの容量を可能な限り抑えるには、Media Player形式のMKV を選択してください。有効化できない場合は、シ ステム管理者までお問い合わせください。

エクスポートパスを指定できないのはなぜですか?

通常、ユーザーは独自のパスを指定できますが、特定のタイプの監視システムに接続している場合は、監視システム サーバーがエクスポートパス設定を管理する可能性があり、ユーザーは独自のパスを指定できません。組織の XProtect 製品と拡張機能 on page 27をご参照ください。

エクスポートしたビデオから、デジタル署名が削除されているのはなぜですか?

以下の2つのシナリオで、エクスポートプロセス中にデジタル署名が削除されます。

- プライバシーマスクのある領域がある場合、レコーディングサーバーのデジタル署名はエクスポートで削除 されます。
- エクスポートしているデータが現在の日時と非常に近い場合、シーケンス全体でレコーディングサーバーの 電子署名が含まれない可能性があります。

エクスポートプロセスを完了しますが、署名を検証すると、レコーディングサーバーのデジタル署名が削除されてい たり、一部だけが追加されていたりすることがわかります。

改ざんや悪意のあるユーザーから、エクスポートするエビデンスを保護できますか?

可能。XProtect形式でエクスポートすると、エクスポートしたエビデンスをパスワードで保護したり、エクスポート した要素にデジタル署名を追加することができます。また、受取った人が再エクスポートしないようにすることもで きます。XProtectフォーマットの設定 on page 234をご参照ください。

トラブルシューティング:エクスポート中

1つ以上のデータベース ファイルが、サポートされていない暗号化アルゴリズムを使用している

この警告が表示されると、現在のXProtect VMSシステムはAES-256を使用して、FIPS 140-2セキュリティ基準に準 拠するよう、エクスポートされたビデオデータを暗号化します。しかしながら、エクスポートの作成に使用されたシ ステムは、異なる標準暗号方式を使用しています。

この問題を解決するには:以下のいずれかを行ってください。

- XProtect Smart Clientのアップグレードされたバージョンを使用してビデオ データを再度エクスポートします。このバージョンは、現在使用しているバージョンよりも新しくなくてはなりません。
- Milestoneでは、常にXProtect Smart Clientの最新バージョンを使用するよう推奨していますが、オフライン モードでXProtect Smart Clientの旧バージョンを使用してエクスポートを開くこともできます。
- FIPSモードが無効になっているコンピュータでエクスポートを開きます。https://docs.microsoft.com/enus/windows/security/threat-protection/fips-140-validation#using-windows-in-a-fips-140-2-approvedmode-of-operationも参照



Milestoneでは、データをパスワードで保護するようお勧めしています。この操作を行うに は、エクスポートの設定ウィンドウ>XProtect形式でパスワードで暗号化のチェックボック スを選択します。

このプロジェクトの整合性を検証できませんでした...

ビデオのエクスポートにTamparing keyは含まれていません。Tampering keyが削除されたか、MIP SDK 2020 R2以 前のバージョンに基づくスタンドアロン型のサードパーティアプリケーションを使用してビデオのエクスポートが作 成されました。Tamparing keyがない場合、ビデオ プロジェクト ファイルの認証を確認する方法はありません。

この問題を解決するには、以下のいずれか、または複数を行ってください。

- 新しいビデオ エクスポートをリクエストし、Tamparing keyが含まれていることを確認してください。
- MIP SDK 2020 R3以降に基づくサードパーティのアプリケーションを使用してビデオ データを再度エクス ポートする

エクスポート結果ウィンドウには、完了(エラーあり)、失敗、または部分的に失敗と表示されます。

メディアプレーヤー形式で統合されたファイルとしてエクスポートする場合、エクスポートが準備できるまでエクス ポートリストのビデオシーケンスの1つを削除したり名前を変更したりしないでください。これを行うと、削除また は名前変更されたビデオシーケンスはエクスポートに含まれません。

新規エクスポートを作成する必要があります。

システムの健全性を監視

XProtect Smart Client:システムの健全性を監視

XProtect Smart Client:「システムの健全性を監視」では、XProtect Smart Clientの健全性とパフォーマンスを監視 する方法についての詳細なガイドが提供されます。

対象のトピック

このガイドを使用すると、システムの健全性を監視し、潜在的な問題を特定し、最適なパフォーマンスを維持できる ようになります。

このガイドでは、以下を取り上げています。

- サーバー接続の確認
- **システムモニター**を使用してシステムステータスをモニターする
- CPU、RAM、GPU負荷などのクライアントリソースの使用状況を観察する

対象者

このガイドの対象者には、組織内でのXProtect Smart Clientの管理と保守に責任を負うシステム管理者、IT担当者、 技術スタッフが含まれています。

サーバー接続を確認しています

サーバー接続のステータスをチェック

例えば、古いセキュリティモデル (HTTP) または最新のセキュリティモデル (HTTPS) のどちらを使用しているかを 確認するために、サーバー接続のステータスを確認できます。

Milestone Federated Architectureで複数のサイトが接続されている場合は、接続されているサイトもチェックでき ます。Milestone Federated Architecture により、関連するが物理的に分離されたXProtectVMSシステムを接続でき ます。たとえば、このような設定は、店舗のチェーンなどに適しています。

1. グローバルツールバーで**ユーザープロファイル**ボタンを選択します。



2. ログイン情報を選択し、接続のステータスをチェックします。ステータスはセキュア:接続済み、非セキュ アな:接続済み、または接続なしのいずれかの可能性があります。



XProtect Smart Client が古いセキュリティモデル(HTTP)を使用する XProtect VMS シス テムまたはフェデレーテッドサイトに接続している場合、**安全でない**という情報メッセージ がグローバルツールバーの左側に表示されます。

XProtect Smart Client のシステムを監視

システムの監視

システムモニタータブでは、サーバー、接続しているデバイス、XProtect Smart Clientを実行しているコンピュータの現在のステータス概要を確認できます。

詳細については、デフォルトのタブ on page 53をご参照ください。

Milestone Federated Architectureのある [システムモニター] タブ

Milestone Federated Architecture™を実行している場合、システムモニタータブは2つの部分に分割されます。

- 一方のペインにフェデレーテッドアーキテクチャを表す階層ツリー構造が表示されます。
- もう一方のペインは、選択したサーバー向けの関連するシステムデータが表示される、ブラウザベースのエリアです。

サイトペインで任意のサーバーをクリックすると、システムデータが表示されます。

タブから離れるか、システムからログアウトして戻ると、**システムモニター**タブは、フェデレーテッドアーキテク チャで選択されたサーバーを記憶し、そのサーバーからのシステムデータを引き続き表示します。

システムモニタータブを独立したウィンドウにドラッグして、複数のサーバーをモニターできます。

クライアントリソースのモニター

解像度、フレームレート、コーデックとともに、カメラの台数がXProtect Smart Clientを実行しているPCの負荷となります。**CPU、RAM**、NVIDIA GPUリソースにおける現行の負荷を確認するには、以下を実行します。

- 1. システムモニタータブをクリック&ドラッグし、サブウィンドウにアンドックします。
- 2. このコンピュータを選択します。
- 3. 現在のビューの負荷をモニターするには、ビューを選択します。

Servers	С	ameras	This computer		ir -	
CPU usage:	15%	GeForce	GTX 108	0	GeForce GTX 108	80
RAM usage:	11%	Decoding usage:		0%	Decoding usage:	0%
		Rendering	g usage:	12%	Rendering usage:	0%
		Memory u	isage:	9%	Memory usage:	3%



クライアントPCが、追加のNVIDIAディスプレイアダプタをインストールしている場合は、 それらのGPUにおける負荷も可視化されます。



もし負荷が高すぎる場合は、複数のNVIDIAディスプレイアダプタをインストールして、GPU リソースをPCに追加します。Milestoneは、NVIDIAディスプレイアダプタのスケーラブルリ ンクインターフェイス (SLI) 構成の使用を推奨していません。

ビューの作成

XProtect Smart Client:ビューの作成

XProtect Smart Client:ビューの作成では、XProtect Smart Client内でビューを作成および管理する方法について詳 しく説明します。

対象のトピック

このガイドは、ビデオ管理インターフェイスを整理およびカスタマイズし、アクティビティを追跡してスムーズな操作を実現するのにお役立てください。

このガイドでは、以下を取り上げています。

- プライベートビューと共有ビューを設定する
- カメラや地図などのさまざまな種類のコンテンツを追加する
- ビュープロパティを使用して、ビデオフィードの表示と機能を最適化する

対象者

このガイドの対象者には、組織内でのXProtect Smart Clientの管理と操作に責任を負うセキュリティ担当者、オペレータ、IT担当者、技術スタッフが含まれています。

セットアップモード

セットアップモード

セットアップモードでは、デバイスと他のタイプのコンテンツ向けにビューを作成できます。また、オーバーレイ ボタンを追加し、カメラや他のタイプのデバイスのプロパティを設定できます。

ユーザーマニュアル | XProtect® Smart Client 2025 R2



番号	名前	説明
1	設定	セットアップモードに入ると、ユーザー インターフェイスの一部がハイライトされ ます。
2	ビュー	ビューと、ビューのグループを作成します。ビューの作成 on page 249をご参照く ださい。
3	システム概 要	カメラと他のタイプのデバイスおよびコンテンツをビューに追加します。コンテン ツをビューに追加 on page 250をご参照ください。
4	オーバーレ イボタン	補助コマンドを起動するため、オーバーレイ ボタンをカメラに追加します。オー バーレイボタン on page 255をご参照ください。
5	プロパティ	カメラのプロパティを設定します。カメラ設定(プロパティペイン) on page 262 をご参照ください。

ビューの作成

プライベートビューと共有ビュー

ビューには、共有ビューとプライベートビューがあります。

- 共有ビュー:複数のユーザーが利用できます。通常はシステム管理者またはスーパーバイザーによって作成されます。
- プライベートビュー: 作成したユーザーのみが利用できます。

設定モードに切り替える権限がある場合は、プライベートビューを作成できます。プライベートビューは**プ ライベート**フォルダーに保存され、お客様がXProtect Smart Clientにログインすることでどのコンピュー ターからでも利用できます。

[ビュー]ペインには以下が含まれます:

- プライベートフォルダー:ログインするとどのコンピュータからでもアクセスできるプライベートビューが 含まれます。これには、すべてのカメラからのビデオを含む自動で生成されたデフォルトのビューが含まれ る場合があります。
- 共有フォルダー:共有ビューを含むビューグループが含まれます。保護されているフォルダーにはパドロックアイコンがついており、通常のユーザーには変更できません。

ビューの作成

ビューの作成には、通常は次の順序で行われる一連の手順を踏みます:

- 1. 新しいグループの下に新しいビューを保存したい場合は、まずグループを先に作成します。ビューグループ の作成 on page 250をご参照ください。
- 2. ビューそのものを作成します。ビューの作成 on page 250をご参照ください。

既存のビューをコピーし調整する方が新しいものを作るより早いかどうか、検討して ください。ビューまたはビューグループをコピーします。onpage251をご参照くださ い。

- 3. コンテンツをビューに追加します。コンテンツをビューに追加 on page 250をご参照ください。
- (オプション)ショートカット番号をビューに割り当て、ユーザーがビューを素早く切り替えられるように します。ビューヘショートカット番号を割り当てる on page 252をご参照ください。
- (オプション)オーバーレイボタンをビューの様々なカメラビューアイテムに追加して、ユーザーがビュー から直接アクションをトリガーできるようにします。カメラビューアイテムにオーバーレイボタンを追加す る on page 256をご参照ください。

コンテンツをビューに追加

カメラやマップからのビデオなど、さまざまなタイプのコンテンツをビューに追加できます。コンテンツタイプの完 全なリストは、ビューアイテムのコンテンツ on page 29でご覧ください。

ユーザーグループのために共有ビューを作成する場合、次のことを確認してください。

- ユーザーがコンテンツを見るのに必要な権限を持っていること。
- ユーザーがこの機能をサポートするXProtect Smart Clientと同じバージョン、またはそれ以降のバージョン を持っていること。

ビューグループの作成

これらをグループにまとめて整理することで、ビューをより簡単に見つけたり、管理したりすることができます。シ ステム管理者がすでにいくつかのグループを設定していることもありますが、通常は既存のビューグループ内に自分 自身のグループを作ることができます。

- 1. ワークスペースツールバーで、**セットアップ**を選択します。
- [ビュー]ペインで、グループを追加したい[プライベート]ビューグループまたは共有ビューグループを選びます。
- 3. [ビュー] ペインの下部で、[新しいグループの作成] 🚾 を選択します。
- 4. グループに名前を付けます。
- 5. もう一度[設定]を選択して設定モードを終了し、変更を保存します。

これで、新しいグループ内でビューを作成できるようになりました。

ビューの作成

異なるレイアウトとコンテンツを組み合わせた新しいビューを作成するには:

- 1. ワークスペースツールバーで、**セットアップ**を選択します。
- 2. [ビュー]ペイン内で、ビューを追加したいビューグループを選択します。
- 3. [ビュー]ペインの下部で、[新しいビューの作成] 🗰 を選択します。

4. ビューアイテムのレイアウトや数を選択します。



- 5. ビューに名前を付けます。
- 6. もう一度[設定]を選択して設定モードを終了し、変更を保存します。

システム管理者がXProtectVMSシステムのカメラのプロパティやユーザー権限を変更する場合、お客様は1つ以上のビューを再度作成する必要がある場合があります。

検索を通して一時的なビューを作成する

カメラの検索により一時的なビューを簡単に作成することができます。

1. [ビュー] タブで、[ビューおよびカメラの検索] フィールドを使ってカメラを検索します。

さらに、検索フィールドの横のとととなっていたので、一般的な検索キーワードを使用できます。

- 2. 検索結果からビューを選択します。
- 3. 1つまたは複数のカメラを選択し(複数のカメラを選択するにはCtrlまたはShiftキーを使います)、Enter キーを押して一時的なビューを作成します。

ビューを保存したい場合は、ワークスペースのツールバーで [セットアップ] を選択します。

ビューまたはビューグループをコピーします。

ビューまたはグループとそのすべてのビューをコピーし、それらを[ビュー]ペインの別の場所に貼り付けます。

権限がある場合は、プライベートビューを共有ビューグループにコピーし、より多くのユーザーがそれを使えるよう にすることができます。

- 1. ワークスペースツールバーで、**セットアップ**を選択します。
- 2. コピーしたいビューまたはグループを選択します。
- 3. [ビュー] ペインの下部で、[コピー] を選ぶか、Ctrl+Cを押します。

- 4. ビューを貼り付ける場所に移動して、[**貼り付け**] ^(些) を選択するか、もしくは**Ctrl**+**V**を押します。
- 5. コピーされたビューまたはグループの名前を変更するには、名前を右クリックして [名前の変更] を選択 します。

ビューヘショートカット番号を割り当てる

ビューにショートカット番号を割り当て、ビューの切り替えを素早くできるようにします。デフォルトのキーボード ショートカット on page 101をご参照ください。

- 1. ショートカット番号を割り当てたいビューを選択します。
- 2. ワークスペースツールバーで、**セットアップ**を選択します。
- 3. [ビュー]ペインの下部にある[ショートカット]フィールドに、ショートカット番号を入力し、[設定]を押しま す。

ビューの名前の前の括弧の中にショートカット番号が示されます。

4. もう一度[設定]を選択して設定モードを終了し、変更を保存します。

ビューアイテムにビデオを追加

ビューにカメラを追加する

カメラからのビデオを表示するには、まずはカメラをビューに追加する必要があります。

- 1. ワークスペースツールバーで、**セットアップ**を選択します。
- 2. ビューを選択します。
- 3. [システム概要] ペインで、サーバー を選択し、フォルダーを展開して関連するカメラを探します。



サーバーに赤いアイコンが付いている場合は利用できず、そのカメラはリストに表示 されません。

 カメラを選択しそれをビューアイテムにドラッグするか、フォルダーを選択して、その中にあるすべてのカ メラをビューに追加します。



共有ビューの権限を確認する:ユーザーがお客様の共有ビューにあるカメラからビデ オを見る権限を持っているか確認してください。不明な点は、システム管理者にお問 い合わせください。
- 5. [プロパティ] ペインで、カメラのプロパティを指定します(ライブストリームやPTZモードなど)。カメラ 設定(プロパティペイン) on page 262をご参照ください。
- 6. もう一度[設定]を選択して設定モードを終了し、変更を保存します。

ビューアイテムでビデオの寸法を定義する

ビデオの元の寸法を維持するか、ビューアイテムに合わせて拡大するかを選択できます。

- 1. ワークスペースツールバーで、**セットアップ**を選択します。
- 2. 調整したいビデオストリームが含まれたビューとカメラビューアイテムを選択します。
- 3. プロパティペインで、[画像のアスペクト比を維持]オプションを選択します。
 - 選択するともともとのビデオの寸法が維持されます。このオプションでは、ビデオ周辺のスペースを 黒くできます。
 - クリアすると、ビデオがビューアイテムに合わせて拡大されます。このオプションでは、ビューアイ テムいっぱいにビデオが表示されますが、ビデオが歪む可能性があります。

すべてのカメラ、ホットスポット、画面自動切替ビューアイテムに同じ設定を適用す るには、1つのビューアイテムの設定を定義し、プロパティペインですべてに適用を 選択します。

4. もう一度[設定]を選択して設定モードを終了し、変更を保存します。

カメラタイトルバーとインジケーターを表示/非表示にする

カメラタイトルバーとビデオジケーターにより、有益なステータス情報(録画ステータスなど)が提供されますが、 これらを非表示にするとビデオのためのスペースを空けることができます。

- 1. ワークスペースツールバーで、**セットアップ**を選択します。
- 2. 関連するビューとカメラビューアイテムを選択します。
- 3. [プロパティ] ペインの[表示設定] と[デフォルトの表示設定の使用]で、[タイトルバーの表示] を選択する か、選択解除します。



すべてのカメラ、ホットスポット、画面自動切替ビューアイテムに同じ設定を適用す るには、1つのビューアイテムの設定を定義し、プロパティペインですべてに適用を 選択します。

4. もう一度[設定]を選択して設定モードを終了し、変更を保存します。

タイトルバーを表示しないを選択した場合は、モーションやイベントの視覚的インジケータ は表示されません。代わりに、音声による通知を使用できます。

ライブビデオのステータスを表示する on page 87もご参照ください。

重要なオブジェクトの周囲にバウンディングボックスを表示する

オブジェクトの位置を識別して XProtect VMS にメタデータを送信できるカメラまたは統合システムがある場合、 XProtect VMS はビデオ内のオブジェクトの周囲に境界ボックスと呼ばれる視覚的なインジケータを配置できます。

境界ボックスは、組織や企業にとって重要なオブジェクトの場所を監視するのに役立ちます。

- 1. ワークスペースツールバーで、**セットアップ**を選択します。
- 2. 関連するビューとカメラビューアイテムを選択します。
- 3. [プロパティ]ペインの表示設定で、[バウンディングボックスレイヤーを表示する]を選択します。
- 4. [バウンディングボックスプロバイダー]を選択して、メタデータデバイスを有効化します。プロバイダーが 1つしかない時は、自動的にそれが選択されます。
- 5. もう一度[設定]を選択して設定モードを終了し、変更を保存します。

バウンディングボックスは次の時にも表示されます:

- XProtect 形式でビデオをエクスポートします。エクスポート形式 on page 233をご参照ください。
- 静止画像を印刷します。監視レポートの印刷または作成 on page 231をご参照ください。

バウンディングボックスが表示されない場合は、トラブルシューティング:ビデオやバウンディングボックスがない on page 102を参照してください。

ライブビデオからジッタを取り除く

ライブビデオはマイナーな帯域幅やネットワークの問題で、ジッタが発生することがたまにあります。ジッタは人が 歩いているときにビデオが途切れるなど、不規則な動きとして現れます。ライブビデオをスムーズなものにするた め、XProtect Smart Clientにライブビデオを表示する前にわずかなバッファリングを加えることができます。この バッファリングによりわずかな遅れが生じるものの、ビデオはよりスムーズに表示されます。

重要事項

- 応答の遅延:ジョイスティック操作のために即座に応答する必要がある場合は、遅延が顕著になるため、ビデオバッファリングをパン/チルト/ズーム(PTZ)カメラに使用するのは避けてください。
- メモリ使用率:ビデオバッファリングを使用するとメモリの使用量が増える場合があるため、できるだけ低く抑えてください。

ジッタを取り除くには:

- 1. ワークスペースツールバーで、**セットアップ**を選択します。
- 2. スムーズにしたいライブビデオストリームが含まれたビューとカメラビューアイテムを選択します。
- 3. [プロパティ] ペインの[ビデオバッファリング] で:
 - [デフォルトのビデオバッファリングを使用] を選択し、システム管理者によって設定されたバッファ リングを使用します。アプリケーション設定 on page 334もご参照ください。
 - [デフォルトのビデオバッファリングを使用] を解除し、[ビデオバッファリング] リストを展開し、 [無し]から[最大(2秒)]の範囲でバッファリングを選択します。



すべてのカメラ、ホットスポット、画面自動切替ビューアイテムに同じ設定を 適用するには、1つのビューアイテムの設定を定義し、プロパティペインです べてに適用を選択します。

- ビデオバッファリングが[プロパティ] ペインで見つからない場合は、[設定その他] メニューで[設定] を選択し、[機能] タブで、[セットアップ] > [ビデオバッファリングの編集] を [利用可能] に設定します。機能設定 on page 339もご参照ください。
- 5. もう一度[設定]を選択して設定モードを終了し、変更を保存します。

カメラビューアイテムにカメラコマンドを追加

オーバーレイボタン

カメラに補助コマンドがある場合は、オーバーレイボタンをビデオを表示しているカメラビューアイテムに追加する ことで、ライブモードでコマンドに直接アクセスできるようになります。オーバーレイボタンを追加すると、スピー カーの有効化、エベントのトリガー、PTZカメラの移動といったタスクを実行できます。

- 権限:補助コマンドを実行する権限がない場合でも、補助コマンド用のオーバーレイボタンを追加することができます。適切な権限を持ったユーザーはこれらのボタンを使用することができます。設定モードでは、 使用権限のないオーバーレイボタンは淡色表示され、ライブモードでは表示されません。
- **文書:**カメラの付属文書を参照して、どの補助コマンドが使用可能か確認してください。

オーバーレイボタンは、ライブモードでマウスを個々のカメラビューアイテムに合わせて動かすと表示されます。



カメラビューアイテムにオーバーレイボタンを追加する

オーバーレイボタンをカメラビューアイテムに追加して、スピーカーの有効化、イベントのトリガー、ビューから直接PTZカメラを動かす、といったタスクを実行できます。

オーバーレイボタンは、ライブモードでマウスを個々のカメラビューアイテムに合わせて動かすと表示されます。

オーバーレイボタンは必要なだけ追加できます。

- 1. オーバーレイボタンを追加したいビューを選択します。
- 2. ワークスペースツールバーで、**セットアップ**を選択します。
- 3. [オーバーレイボタン] ペインでコマンドを選択し、カメラビューアイテムにドラッグします。
- 4. オーバーレイボタンを配置し、サイズを調整します。



- 5. オーバーレイボタンのテキストを変更するには、ボタンをダブルクリックしてから、チェックボックス ✓ を 選択して変更を保存するか、 ✓ を選択して変更を破棄します。
- 6. もう一度[設定]を選択して設定モードを終了し、変更を保存します。

カメラは交換するが、その設定は維持する

ビューでカメラを交換しても、そのビューアイテムの設定は保持することができます。

- 1. ワークスペースツールバーで、**セットアップ**を選択します。
- 2. [ビュー]ペインで、交換するビューとカメラビューアイテムを選択します。
- 3. [プロパティ] ペインで、[カメラ名] フィールドの横にある楕円形のボタンを選択します。
- 4. 新しいカメラを選択します。
- 5. もう一度[設定]を選択して設定モードを終了し、変更を保存します。

画面自動切替をビューに追加する

画面自動切替ビューアイテムによりカメラグループ内の各カメラからのライブビデオを順番に表示されます。このた めお客様が監視するエリアで何が起こっているかを把握できます。

1. ビューを選択します。

Ì

- 2. ワークスペースツールバーで、**セットアップ**を選択します。
- 3. [システム概要] ペインで、[画像自動切替] アイテムをビューアイテムにドラッグします。
- 4. [画面自動切]ウィンドウの[カメラ]のところで、各カメラをダブルクリックして画面自動切替に追加します。
- 5. [選択されたカメラ] リストで、シーケンスを定義するためにカメラを配置します。
- 画面自動切替のカメラの表示継続時間を入力します。すべてのカメラ、またはそれぞれのカメラに対し値を 指定することができます。
- 7. (オプション)画面自動切替の設定を[プロパティ]ペインの[画像自動切替の設定]で調整できます。

[プロパティ] ペインの[ライブストリーム] 設定は、画像自動切替にあるすべてのカメ ラに適用されます。

8. もう一度[設定]を選択して設定モードを終了し、変更を保存します。

ビューにホットスポットを追加する

高解像度でビデオフィードを表示するホットスポットビューアイテムにより、ユーザーは細部をより明確に見ること ができ、それと同時にリモート接続の帯域幅を節約することもできます。

以下の2種類のホットスポットがあります。

- グローバルホットスポット:カメラがどのビューにあっても、選択したカメラを表示します。
- ローカルホットスポット:カメラが同じビュー内にある場合、選択されたカメラのみを表示します。

1+7ビューの大きなビューアイテムなど、ホットスポットを最大のビューアイテムに追加することをお薦めします。

- 1. ビューを選択します。
- 2. ワークスペースツールバーで、**セットアップ**を選択します。
- 3. [システム概要] ペインで、[ホットスポット] アイテムを関連するビューアイテムにドラッグします。
- 4. (オプション)[プロパティ]ペインで、ホットスポットのプロパティを修正します。
- 5. もう一度[設定]を選択して設定モードを終了し、変更を保存します。

ビューにMatrixのコンテンツを追加する

Matrixビューアイテムにより、ユーザーはお互いにライブビデオフィードを共有してインシデントに対する認識や連携を高めることができます。システム管理者が定義したルールで、特定のインシデントが発生した際に、 Matrixコンテンツの共有をトリガーすることもできます。

Matrixビューアイテムは必要なだけビューに追加できるため、同時に複数のビューアイテムでMatrix共有ビデオを見 ることができます。最初に追加するMatrixビューアイテムがプライマリで、2つ目がセカンダリ、というように順番 が付けられ、これによりビデオがどのように表示されるかが決定されます。この順位は、設定モードで変更できま す。

- 1. ビューを選択します。
- 2. ワークスペースツールバーで、**セットアップ**を選択します。
- 3. [システム概要] ペインで、Matrixアイテムを必要なビューアイテムにドラッグします。Matrixアイコン量が 表示されます。
- 4. [プロパティ]ペインでMatrixプロパティを決定します。
 - Windowインデックス:複数のMatrixビューアイテムがある場合は、プライマリMatrixビューアイテム、セカンダリビューアイテムなどを選択します。プライマリビューアイテムには最新のMatrixトリガービデオが、セカンダリにはその前のビデオ、というように表示されます
 - 接続設定:プライマリMatrixビューアイテムを選択して、MatrixトリガービデオをXProtectVMSサーバーからXProtect Smart Clientビューに転送するためのTCPポート(デフォルト12345)とパスワードを指定します。ビューの中のすべてのMatrixビューアイテムはこの設定を引継ぎます。お客様の組織で使用するポート番号またはパスワードについては、システム管理者にお問い合わせください。
- 5. もう一度[設定]を選択して設定モードを終了し、変更を保存します。

PTZクリックモードを変更する

PTZクリックモードは、マウスでどのようにPTZカメラを動かすかを決定するものです。カメラビューアイテムのためのデフォルトのPTZクリックモードを好みに合わせて設定できます。

- 1. ワークスペースツールバーで、**セットアップ**を選択します。
- 2. PTZカメラを備えたビューとカメラビューアイテムを選択します。
- 3. [プロパティ]ペインで、[PTZクリックモード] リストを展開し、選択します。
 - デフォルトの使用:システム管理者が定義したPTZクリックモードを使用する際に選択します。ユー ザーはこの設定を変更できません。
 - クリックして中央へ:ドアから窓へ、というように固定されたオブジェクトに頻繁にパンする場合は、これを選択します。
 - **仮想ジョイスティック**:移動しているオブジェクトを頻繁に追跡する場合はこれを選択します。

すべてのカメラ、ホットスポット、画面自動切替ビューアイテムに同じ設定を適用す るには、1つのビューアイテムの設定を定義し、プロパティペインですべてに適用を 選択します。

4. もう一度[設定]を選択して設定モードを終了し、変更を保存します。

音声通知を再生

音で通知

カメラビューアイテムの音声通知を有効化すると、ユーザーが積極的にライブビデオを見ていない時でも、モーショ ン検知やイベントトリガーなど特別な注意が必要な場合に警告を受け取ることことができます。これらの通知は現在 オープンな、表示されているビューでのみ有効です。

お客様、およびシステム管理者は次の場合に音声通知を再生するよう設定することができます。

- モーションが感知されました。
- イベントが発生した場合。

XProtect Smart Clientは、選択済みで、オープンな、表示されているビューからのサウンド 通知のみを再生します。ウィンドウを最小化しカメラビューアイテムを最大化した場合、非 表示のビューアイテムから音声通知を受信することはありません。

モーションに関する音声通知を再生する

常にライブビデオを積極的に見ているわけではない場合、XProtect Smart Clientを設定し、ビデオでモーションが検 知された際にシンプルな音声通知が再生されるようにすることができます。

- 1. ワークスペースツールバーで、**セットアップ**を選択します。
- 2. 音声通知を有効化したいビューとカメラビューアイテムを選択します。
- 3. [プロパティ]ペインの[モーション検知で音を鳴らす] リストで、次を選択します。
 - 常にオフ:モーション検知の音声通知を無効化します。
 - 常にオン:モーションが検知された際に音声通知を再生します。

音声通知の数は、システム管理者によって設定されたモーション検知の感度に 依存します。

すべてのカメラ、ホットスポット、画面自動切替ビューアイテムに同じ設定を 適用するには、1つのビューアイテムの設定を定義し、プロパティペインです べてに適用を選択します。

4. もう一度[設定]を選択して設定モードを終了し、変更を保存します。

イベント発時に音声通知を再生する

カメラに関連する特定のイベントが発生したときにサウンド通知を再生するようにXProtectSmartClientを設定できます。

前提条件:

システム管理者はXProtectVMSシステムサーバーでイベントに関連する通知を設定する必要があります。

- 1. ワークスペースツールバーで、**セットアップ**を選択します。
- 2. 2. 音声通知を有効化したいビューとビューアイテムを選択します。
- 3. [プロパティ]ペインの[モーション検出で音を鳴らす] リストで、次を選択します。
 - 常にオフ:イベントに関連する音声通知を無効化します。
 - 常にオン:イベントが検知されるたびに音声通知を再生します。



4. もう一度[設定]を選択して設定モードを終了し、変更を保存します。

帯域幅、CPU、GPUの使用率の向上

帯域幅、CPU、GPUの使用率の改善

XProtectVMSシステムとXProtect Smart Clientインストールの全体的なパフォーマンスを向上させるための最適な 方法は、システム管理者が複数のストリームを送るようカメラを設定し、XProtectVMSシステムがアダプティブス トリーミングを使用するように設定することです。

次の情報は、ビューを作成する際、XProtect Smart Clientにおけるネットワークの帯域幅、CPU、GPUの使用状況 を改善するその他の方法を説明しています。

固定されたライブストリームを選択する

システム管理者が複数のストリームを送るようカメラを設定した場合、帯域幅の使用量が少ないライブストリームを 選択することができます。

- 1. ワークスペースツールバーで、**セットアップ**を選択します。
- 2. [ビュー]ペインで、交換するビューとカメラビューアイテムを選択します。
- 3. [プロパティ]ペインで、[ライブストリーム]リストを展開し、希望するライブストリームオプションを選択します。



XProtectVMSがアダプティブストリーミングを使用している場合は、[**デフォルト**]を 選択します。

すべてのカメラ、ホットスポット、画面自動切替ビューアイテムに同じ設定を適用す るには、1つのビューアイテムの設定を定義し、プロパティペインですべてに適用を 選択します。

4. もう一度[設定]を選択して設定モードを終了し、変更を保存します。

モーションのあるライブストリームのみを更新する

ネットワークの帯域幅とCPUの使用を削減するために、XProtect Smart Clientを設定して、モーションが検知された 場合にのみカメラビューアイテムを更新することができます。モーションがない場合は、最後に検知されたモーショ ンの静止画像がグレーのオーバーレイで**モーションなし**というメッセージと共に表示されます。

この設定により、システム管理者によって設定されたモーション検知の感度に応じて、コンピューターのCPU使用が 大幅に削減されます。

- 1. ワークスペースツールバーで、**セットアップ**を選択します。
- 2. モーションがあった場合にのみ更新するビューとカメラビューアイテムを選択します。
- 3. [プロパティ]ペインで、[モーションで更新]を選択します。



すべてのカメラ、ホットスポット、画面自動切替ビューアイテムに同じ設定を適用す るには、1つのビューアイテムの設定を定義し、プロパティペインですべてに適用を 選択します。

4. もう一度[設定]を選択して設定モードを終了し、変更を保存します。

カメラ設定(プロパティペイン)

カメラビューアイテムで、ビデオをどのように表示するかの微調整、パンの調節、マウスやジョイスティックを使っ たズーム、モーション検知の音声通知を設定できます。

これらの設定をカスタマイズするには、[セットアップ] モードの[プロパティ] ペインで、選択したカメラのプロパティを確認し編集します。



設定	説明
カメラ名 の横にあ る楕円型ボタン	カメラは交換するが、その設定は維持する on page 256
ライブストリーム	固定されたライブストリームを選択する on page 261
PTZクリックモー	PTZクリックモードを変更する on page 258

設定	説明
Я	
縦横比を維持	ビューアイテムでビデオの寸法を定義する on page 253
モーションで更新	モーションのあるライブストリームのみを更新する on page 261
モーション検知で 音を鳴らす	モーションに関する音声通知を再生する on page 259
イベントで音を鳴 らす	イベント発時に音声通知を再生する on page 260
表示設定	カメラタイトルバーとインジケーターを表示/非表示にする on page 253 重要なオブジェクトの周囲にバウンディングボックスを表示する on page 254
ビデオバッファリ ング	ライブビデオからジッタを取り除く on page 254
すべてに適用	1つのカメラビューアイテムのために選択したプロパティをビュー内のすべてのカメラ ビューアイテムに素早く適用するために選択します。

ビューアイテムに他のコンテンツを追加

アラームの追加

ビューにアラームリストを追加する

オペレータが素早くインシデントに集中し応答できるようにするため、1つのビューアイテムに優先順位付けされた アラームリストを追加し、別のビューアイテムにアラームプレビューを追加することができます。

通常、アラームリストとアラームプレビューは同じビューに配置されます:

- アラームリストはいくつかのフィルターオプションでアラームに優先順位を付け表示します。
- アラームプレビューは選択したアラームに関連するビデオを表示します。

アラームリストを追加してプレビューするには、以下の手順に従います。

- 1. ビューを選択します。
- 2. ワークスペースツールバーで、**セットアップ**を選択します。
- 3. システム概要ペインでアラームを展開し、アラームリストをビューアイテムまでドラッグします。
- 4. **[アラームプレビュー**]を異なるビューアイテムにドラッグします。
- 5. もう一度[設定]を選択して設定モードを終了し、変更を保存します。

アラームリストの設定

設定モードで、ナビゲーションツリーでアラームまたはイベントをサーバー別にグループ化して表示するかどうか、 また同時にいくつのアラームやイベントをリストで表示するかを選択できます。ここで、アラームリストにアラーム やイベントを表示するかどうかを指定することもできます。

名前	説明
ナビゲー ションツ リーを表示	選択すると、アラームリストの左側にナビゲーションツリーを表示します。ナビゲーションツ リーでは、異なる状態のアラームでサーバーとフィルター別にグループ化されたアラームまた はイベントを表示できます。
フェッチす る最大行数	取得してアラームリストに表示する最大行数を制御します。デフォルトで、アラームリストに は一度に最高100のアラームまたはイベントが表示されます。これにより反応時間が向上しま す。より多数のアラームまたはイベントの取得と表示には時間がかかるためです。アラームま たはイベントが100以上ある場合は、以下のボタンをクリックすると次の100件のアラームを表 示して取得できます。 1-100 > このフィールドでは、最大行数を設定できます(1~999)。
データソー ス	アラームリスト で、アラームやイベントのリストを表示するかどうかを選択します。 イベントリストには、モーション検知やアーカイブ障害などのシステムやユーザーが生成する イベントは表示されません。

アラームプレビューの設定

アラームまたはビデオに関連付けられたビデオがある場合は、**アラームリスト**で特定のアラームを選択すると、選択 されたアラームまたはイベントの録画済みビデオがアラームプレビューに表示されます。アラームに複数のカメラが 関連付けられている場合、あるいは複数のアラームを選択した場合、複数のプレビューが表示されます。アラームに 関連付けられているビデオがない場合は、アラームプレビューは灰色で表示されます。アラームプレビューのプロパ ティは、設定モードで変更できます。

名前	説明
同じカメ ラを表示	選択すると、アラームプレビューに同じカメラを複数回表示します。アラームプレビューは、ア ラームリストで選択されているものを反映します。複数のアラームまたはイベントを選択するこ とが可能であるため、選択したアラームまたはイベントが同じカメラに関連付けられている場合 は、同じカメラからのビデオがアラームプレビューに何回も表示されることがあります。
イベント ソースカ	選択すると、監視システムサーバーでアラームまたはイベントが設定されたカメラからのビデオ (ある場合)を表示します。
メラを表 示	✓ このフィールドをクリアすることは、お勧めいたしません。
関連する カメラを 表示	選択すると、アラームプレビューに関連するカメラからのビデオを表示します。1つのアラームま たはイベントにつき最大16台の関連カメラからの関連ビデオを表示することが可能です。 XProtect Smart Clientでは、関連するカメラの数を指定できません。数はアラームによって異な り、監視システム設定の一部として指定されます。
オーバー レイを表 示	移動しているオブジェクトの経路を追跡する線などのオーバーレイ情報を表示できるプラグイン とアラームプレビューを使用している場合のみ該当します。これは、XProtect Smart Clientのデ フォルト機能ではありません。

ビューにスマートマップを追加する

XProtectVMSに追加されたすべてのカメラやセキュリティデバイスのロケーションを含め、あるエリアのバーチャ ルマップを作成した場合、このスマートマップをビューに追加して状況認識を高めることができます。

- 1. ビューを選択します。
- 2. ワークスペースツールバーで、**セットアップ**を選択します。
- 3. [システム概要] ペインで、既存の[スマートマップ] アイテムをビューのビューアイテムにドラッグします。
- 4. もう一度[設定]を選択して設定モードを終了し、変更を保存します。

Smart Mapをビューに追加する。

XProtectVMSに追加されたすべてのカメラやセキュリティデバイスのロケーションを含め、あるエリアのバーチャ ルマップを作成した場合、このマップをビューに追加して状況認識を高めることができます。

- 1. ビューを選択します。
- 2. ワークスペースツールバーで、**セットアップ**を選択します。
- 3. [システム概要] ペインで、[マップ] アイテムをビューのビューアイテムにドラッグします。
- [新規マップを作成]または [既存のマップを使用]のいずれかを選択します。三角記号がマップ名の横に 付いている場合は、マップに1つ以上のサブマップがある可能性があることを示します。サブマップも追加さ れます。
- 5. [新しいマップの作成]を選択した場合、[名前]フィールドにマップの名前を入力します。
- 6. **[ブラウズ]**を選択して、マップとして使用したい画像ファイルを見つけ、選択します。
- 7. もう一度[設定]を選択して設定モードを終了し、変更を保存します。



ビューにマップビューアイテムが含まれている場合、ホットスポットビューアイテム もあると、ユーザーはマップ上の異なるカメラを素早く選択し、ホットスポットにあ るビデを表示することができます。

ビューにウェブページを追加する

ビューに、カメラからのビデオや他のコンテンツに加えて、オンラインインストラクションや企業のウェブページな どのウェブページを埋め込むことができます。

サポートされている形式はHTML、PHP、ASPです。



- 1. ビューを選択します。
- 2. ワークスペースツールバーで、**セットアップ**を選択します。
- 3. [システム概要] ペインで [HTMLページ] アイテムを選択し、ビューアイテムのいずれかにドラッグします。



- 4. WebページのWebアドレスを入力します。
- 5. [プロパティ] ペインを展開し、ウェブページのプロパティを検証し、必要に応じて変更します。Webページ のプロパティ on page 268をご参照ください。
- 6. もう一度[設定]を選択して設定モードを終了し、変更を保存します。

ナビゲーション用のHTMLページのスクリプト on page 329もご参照ください。

Webページのプロパティ

プロパティ	説明			
表示モード:標準	HTTPまたはHTTPSを使用しているウェブサーバーにあるウェブページのMicrosoft Edgeを使用します。			
表示モード:互換 モード	次のウェブページにはInternet Explorerを使用してください: ローカルな場所にあるもの(コンピューター、ネットワーク、またはFTPサーバー) HTTPとHTTPS以外のネットワーク プロトコルを使用しているもの インタラクティブになるよう意図されたスクリプトが含まれているXProtect Smart Client HTMLの古いバージョンを使用している 			
スケーリング	Webページのスケーリングを選択します。 このオプションは表示モードが [互換性] に設定されている場合 にのみ使用できます。			
ツールバーを隠す	ナビゲーションツールバー 💙 🖌 🎓 s非表示にするために選択します。			

トラブルシューティング:ビューにウェブページを追加する

これらのシナリオは、ウェブページをビューアイテムに追加したときに発生する可能性があります。

Webページをビューに追加すると、スクリプト エラーが発生します

そのWebページは、Webページの表示で使用されるブラウザーにサポートされていないスクリプト使っています。 ウェブページのプロパティで**[表示モード]** を変更すると、この問題が解決する場合があります。

Webページが含まれているビューを読み込むと、スクリプト エラーが発生します

そのWebページは、Webページの表示で使用されるブラウザーにサポートされていないスクリプト使っています。 ウェブページのプロパティで**[表示モード]** を変更すると、この問題が解決する場合があります。

スクリプトを使用して、ナビゲーションボタンやクリック可能な画像をHTMLページに追加しましたが、HTMLページが思い通りに機能しません。以下を検討してください。

- [表示モード]は[互換性]に設定されていますか? スクリプトをサポートできるのは、[互換性]だけです。
- HTMLコードで正しい構文を使用しましたか?
- HTMLスクリプトがXProtectManagementClientまたはClient.exe.configファイルで有効になっていますか?
- 対象となるオーディエンスは、特定のカメラ、ビュー、機能、またはXProtect Smart Client内のタブにアク セスするためのユーザー権限を持っていますか?

ビューにテキストと画像を追加する

ビュー内のビューアイテムにテキストコンテンツや静止画像を追加することができます。

たとえば、メッセージまたは運用手順をオペレータに送信したり、セキュリティ担当者の作業スケジュールを投稿することもできます。文字数の制限は1,000字です。静止画像は、容疑者のスナップショットや非常口のあるマップなどがあります。

- 1. ビューを選択します。
- 2. ワークスペースツールバーで、**セットアップ**を選択します。
- 3. システム概要ペインで、テキストと画像アイテムをビューアイテムにドラッグします。



- 4. エディタにテキストを入力し、関連する画像ファイルを追加します。
- 5. プロパティペインで、[画像を埋め込む]を選択します。これでファイルはシステム内に保存されます。
- 6. もう一度[設定]を選択して設定モードを終了し、変更を保存します。

ビューを保存した後にテキストや画像を変更する場合は、もう一度 [**セットアップ**] を選択し、プロパティペインに ある [テキストと画像の編集] を選択します。



Microsoft WordやMicrosoft Excelなどの製品から表を挿入することはできますが、表に変更 を加えることはできません。

すべてのユーザーの機能を設定する

XProtect Smart Client: すべてのユーザーの機能を設定する

XProtect Smart Client: [すべてのユーザーの機能を設定する] は、XProtect Smart Clientの設定と最適化に関する包括的なガイドを提供します。

対象のトピック

このガイドを使用して XProtect Smart Clientを構成すれば、特定のニーズに対応し、同時にシステムのパフォーマンスと利便性を高めることができます。

このガイドでは、以下を取り上げています。

- アダプティブストリーミングの有効化
- ハードウェアアクセラレーションの設定
- パトロール設定の設定
- マップの作成
- デバイスとオーバーレイの管理

対象者

このガイドの対象者には、組織内でのXProtect Smart Clientの設定と管理に責任を負うシステム管理者、IT担当者、 セキュリティ担当者、オペレータ、技術スタッフが含まれています。

セットアップモード

セットアップモード

セットアップモードでは、デバイスと他のタイプのコンテンツ向けにビューを作成できます。また、オーバーレイ ボタンを追加し、カメラや他のタイプのデバイスのプロパティを設定できます。

ユーザーマニュアル | XProtect® Smart Client 2025 R2



番号	名前	説明
1	設定	セットアップモードに入ると、ユーザー インターフェイスの一部がハイライトされ ます。
2	ビュー	ビューと、ビューのグループを作成します。ビューの作成 on page 249をご参照く ださい。
3	システム概 要	カメラと他のタイプのデバイスおよびコンテンツをビューに追加します。コンテン ツをビューに追加 on page 250をご参照ください。
4	オーバーレ イボタン	補助コマンドを起動するため、オーバーレイ ボタンをカメラに追加します。オー バーレイボタン on page 255をご参照ください。
5	プロパティ	カメラのプロパティを設定します。カメラ設定(プロパティペイン) on page 262 をご参照ください。

アダプティブストリーミングの有効化

アダプティブストリーミングの利点と要件

アダプティブストリーミングはXProtect Smart Clientを実行しているコンピュータのデコーディング能力とパフォー マンスを向上させます。これは同じビューで複数のライブビデオストリーミングを視聴する場合に便利です。

アダプティブストリーミングを活用するには、カメラに解像度の異なる複数のストリームを設定する必要がありま す。これでXProtect Smart Clientにより、ビューアイテムによって要求された解像度に最も近い解像度が自動的に選 択されます。その結果、XProtect Smart Clientによって不必要に解像度が高いデフォルトのストリームをスケールダ ウンする必要がなくなります。これによりCPUとGPUのデコードリソースへの負荷が軽減し、ネットワークの負荷 が軽減されます。

ビデオの画質を維持するため、最も近い解像度は(可能であれば)ビューアイテムによって要求された解像度と同じ かそれ以上のものと定義されます。これはストリームのアップスケーリングを避けるためです。下記の表には、 XProtect Smart Clientからのビューアイテムの要求にもとづいて、アダプティブストリーミングにおいてどのビデオ ストリームが選択されるのかが示されています。

ビューアイテムによって要求される解像 度	利用可能なビデオストリームの中で最も近いもの			
636 x 477	ビデオストリーム1	640 x 480 (VGA)		
644 x 483	ビデオストリーム2	1280 x 720 (WXGA-H)		
1920 × 1080	ビデオストリーム3	1920 x 1080 (FHD)		
1920 x 1440	ビデオストリーム4	3840 x 2160 (4K UHD-1)		

ズーム中は、常に最高解像度のライブビデオストリームが要求されます。

帯域幅の使用はたいてい、要求したストリームの解像度が下げられるのに併せて減少しま す。帯域幅の使用は、定義したストリーム構成の他の設定にも依存します。

アダプティブストリーミングを有効にする

アダプティブストリーミングを有効にして、XProtect Smart Clientを実行しているコンピューターのパフォーマンス を向上させます。

۲

- 1. [設定とその他]のメニューから、[設定]を選択します。
- 2. [詳細設定] タブで、[アダプティブストリーミング] を選択します。
- 3. アダプティブストリーミングには2つの設定があります。無効と有効です。

有効を選択します。

Settings			
Application	Option	Setting	Follow server
Panes	Multicast	Enabled	
Functions	Hardware acceleration	Auto	
	Maximum decoding threads	Auto	
Timeline	Adaptive streaming	Enabled 🔹	
Export	Deinterlacing	No filter	
Smart map	Video diagnostics overlay	Level 2	
Shart nap	Time zone	Local	
Search	Custom time zone	(UTC+01:00) Brussels, Copenhagen, Ma 🔻	
Joystick	PDF report format	A4	
Kevhoard	PDF report font	Microsoft Sans Serif	
	Logging (for technical support)	Disabled	
Access control			
Alarm Manager			
Advanced			

- 4. ビデオ診断オーバーレイに進みます。
- 5. ストリームの現在のビデオ解像度を可視化するには、レベル2を選択します。



6. これでビデオ診断オーバーレイが有効になるはずです。

ビューウィンドウのサイズを小から大に、そして大から小に変更して、**ビデオ解像度**の値が変化するか確認 します。



値が変化しない場合は、可能であれば、アダプティブストリーミングを有効にできるよう、カメラで利用可 能なライブビデオストリームの監視を続行します。

利用可能なビデオストリームの確認

アダプティブストリーミングを活用するためには、カメラ設定で解像度の異なる2つ以上のストリームを設定する必要があります。



アダプティブストリーミングでサポートされている唯一のビデオ解像度形式は、width x heightです。720p、mode2、 VGAといったカメラからのビデオ解像度形式はサポートされ ていません。



マルチストリーミングにより、サーバーでデバイスごとに複数のストリームを設定できます。複数のストリームが設 定されてアダプティブストリーミングが有効になれば、**アダプティブストリーミング**または利用可能な他のストリー ムのいずれかひとつを選択できます。

ビューで**アダプティブストリーミング**が設定されていることを確認するには:

- 1. 設定をクリックしてビューを設定します。
- 2. **プロパティでライブストリーム**ドロップダウンリストをクリックすると、利用可能なライブビデオストリームのリストが表示されます。
- 3. 2つ以上のライブビデオストリームが利用できるかどうか確認してから、**アダプティブストリーミング**を選択 します。



1つのライブビデオストリームしか利用できない場合は、XProtect Management Clientでカメラにライブビデオストリームを追加します。

4. 設定をクリックしてビュー設定を閉じます。

ライブビューアイテムで**アダプティブストリーミング**が選択されていることを確認するには:

- 1. 詳細ドロップダウンリストをクリックします。
- 2. ライブストリームを選択すると、利用可能なライブビデオストリームのリストが表示されます。
- 3. 2つ以上のライブビデオストリームが利用できるかどうか確認してから、**アダプティブストリーミング**を選択 します。

*	Camera	•		
	Live Stream	•	\checkmark	Adaptive streaming
	Sound Notifications	×		Video stream 1
F	Send to Window	•		Video stream 2
	Send to Matrix			Video stream 3
	Digital Zoom			

ハードウェアアクセラレーションの有効化

ハードウェアアクセラレーションの利点と要件

ハードウェアアクセラレーションはXProtect Smart Clientを使用しているコンピュータのデコーディングの能力、お よびパフォーマンスを向上させます。主に、高フレームレートおよび高解像度のビデオストリームを、複数閲覧する 場合に便利です。

×

XProtect Smart Clientは、Intel[®]およびNVIDIA[®] GPUを使用したハードウェア アクセラレー ションによるデコーディングに対応しています。Milestoneは、NVIDIAディスプレイアダプ タのスケーラブルリンクインターフェイス(SLI)構成の使用を推奨していません。

ハードウェアアクセラレーションは、オペレーティングシステムMicrosoft[®] Windows[®] 10(ビルド1809)、 Windows[®] Server 2016、またはそれ以降のバージョンでのみ使用できます。



非仮想環境のみがサポートされています。

ハードウェアアクセラレーション設定をチェックします

- 1. [設定]>[詳細]>[ハードウェアアクセラレーション]の順に移動します。
- 2. ハードウェアアクセラレーション用に2つの設定があります:自動およびオフ。

デフォルトの設定自動を選択します。

Settings		_	
Application	Option	Setting	Follow server
Panes	Multicast	Enabled 💌	
Functions	Hardware acceleration	Auto 👻	
	Maximum decoding threads	Auto 👻	
Timeline	Adaptive streaming	Disabled	\checkmark
Export	Deinterlacing	No filter 👻	
Smart man	Video diagnostics overlay	Hide 🗸	
Sindicinap	Time zone	Local	
Search	Custom time zone	(UTC+01:00) Brussels, Copenhagen, Ma 🔻	
Joystick	PDF report format	A4 ~	
Keyboard	PDF report font	Microsoft Sans Serif 🛛 🗸	
Reybourd	Logging (for technical support)	Disabled 🗸	
Access control			
Alarm Manager			
Advanced			

- 3. ビデオ診断オーバーレイに進みます。
- ハードウェアアクセラレーションに使われたGPUリソースを含む、ストリームの現状を閲覧するには、レベ ル2を選択します。



ハードウェアアクセラレーションのための、ビデオ診断オーバーレイステイタスは以下のいずれかで す:Intel、NVIDIAまたはOff。



ステータスが [**オフ**] の場合は、可能であればハードウェアアクセラレーションを有効にできるようコン ピュータの調整し、すべてのハードウェアアクセラレーションリソースが活用されていることを確認してく ださい。

5. [システムモニター] を使用して、現在のXProtect Smart Clientデコーディングパフォーマンスを確認しま す。クライアントリソースのモニター on page 245をご参照ください。

CPU Quick Syncのサポート確認

プロセッサがIntel Quick Sync Videoをサポートしているか確認するために:

- IntelのWebサイト
 (https://www.intel.com/content/www/us/en/ark/featurefilter.html?productType=873&0_ QuickSyncVideo=True)にアクセスします。
- 2. メニューで、プロセッサーそしてIntel Quick Sync Videoフィルターがはいに設定します。
- 3. CPUをリストで見つけます。

## Filters				×	Clear filters	
Processors Server Pro	ducts	•	Solid Stat	e Drives		
RAID Products						
Choose a Filter Intel® Quick Sync Video		>	Intel® Quick Yes	c Sync Video	~ ×	6
Choose a Filter	~					
Product Name		St	atus	Launch Date	Compare All None	
Intel [©] Core™ i7-8700K Processor	Laur	ched		Q4'17	\bigcirc	
Intel [®] Core™ i7-8700 Processor	Laur	ched		Q4'17		

デバイスマネージャの確認

IntelまたはNVIDIAディスプレイアダプターが、Windowsデバイスマネージャーにて表示されていることを確認して ください。



ディスプレイを使用可能な任意のディスプレイアダプタに接続します。コンピュータ上でよ り強力なディスプレイアダプターが可能な場合、通常NVIDIA あるいは AMD®,のディスプレ イをこのアダプターがデコーディングとレンダリングを補助するハードウェアに関連づけさ れている全てのGPUリソースへアクセスできるようにしてください。



すべてのNVIDIAディスプレイがハードウェアアクセラレーションをサポートしているわけで はありません。NVIDIAハードウェアアクセラレーションを確認します。 on page 279をご参 照ください。

Intelディスプレイアダプターが存在しない場合、BIOSでIntelディスプレイアダプターを有効にします。BIOSでIntel ディスプレイ アダプタを有効にする on page 280をご参照ください。

NVIDIAハードウェアアクセラレーションを確認します。

NVIDIA 製品の演算能力は、さまざまです。



NVIDIA GPUを使用するハードウェア アクセラレーションによるデコーディングでは、バー ジョン 6.x (Pascal) 以降が必要です。

お使いのNVIDIA製品の演算能力は、NVIDIAのウェブサイト(https://developer.nvidia.com/cuda-gpus/)で確認で きます。

BIOSでIntel ディスプレイ アダプタを有効にする

例えば、NVIDIAまたはAMDなど、ご使用のコンピュータに別のディスプレイアダプタカードが搭載されている場合 は、ボード上のIntelディスプレイアダプタが無効になっていることがあり、その場合は有効にする必要があります。

Intelディスプレイアダプタは、CPUの一部としてマザーボード上に配置されています。有効化するためには、コン ピュータのBIOSで、グラフィックス、CPUまたはディスプレイの設定をご覧ください。関連設定を見つけるには、 ベンダーのマザーボードマニュアルが役立つこともあります。



設定を変更してもボード上のIntelディスプレイアダプタが有効化されない場合は、ディスプレイアダプタカードを別のスロットに移動し、マザーボードへのディスプレイの接続をお試しください。これによってボード上のディスプレイアダプタが有効になる場合があります。

ビデオドライバを更新します

お使いのすべてのディスプレイアダプタのためのドライバのバージョンがIntel、あるいはNVIDIAが提供している最 新のバージョンに更新されていることを確認してください。



PCベンダーの提供するドライババージョンが古く、Intel Quick Sync Videoをサポートしてい ない可能性があります。

ドライバの更新方法は次の2つです。手動でダウンロードしてインストールするか、ドライバアップデートユーティ リティを使用します。

Intel

手動でのダウンロードとインストール:

- Intelダウンロードウェブサイト (https://www.intel.com/content/www/us/en/downloadcenter/home.html) にアクセスします。
- 2. 一体型のディスプレイアダプタの名前を入力します。
- 3. ドライバを手動でダウンロードし、インストールします。

Intelコンポーネントおよびドライバの自動検出と更新:

- インテルドライバーおよびサポートアシスタント (https://www.intel.com/content/www/us/en/support/detect.html) をダウンロードします。
- 2. ドライバのための自動サーチに対し、アシスタントを実行します。
- 3. グラフィックスのドライバの更新を選択します。

NVIDIA

オプション1:NVIDIA製品のためのドライバを手動で見つけます。

- 1. NVIDIAダウンロードドライバーWebサイト (https://www.nvidia.com/Download/index.aspx/) にアクセス します。
- 2. お使いの製品の名前、およびオペレーティングシステムを入力します。
- 3. ドライバを手動でダウンロードし、インストールします。

オプション2:NVIDIA製品のためのドライバを自動で見つけます。

- 1. NVIDIAダウンロードドライバーWebサイト (https://www.nvidia.com/Download/index.aspx/) にアクセス します。
- 2. グラフィックドライバーを選択します。
- 3. お使いのシステムがスキャンされます。
- 4. ドライバをダウンロードおよびアップデートします。

モジュール設定の確認

システムでサポートしているのが、1つのメモリチャネルである場合は、最低2つのチャネルでメモリモジュールが正 しいDIMMスロットに挿入されていることを確認することで、システムパフォーマンスを上げることができる場合が あります。正しいDIMMスロットを見つけるにはマザーボードのマニュアルを参照してください。

例:

メモリチャネルがつあるシステムで、メモリの合計量が8GBあるときは、2 x 4GBのメモリモジュール構成を使用したときに最高のパフォーマンスを得ることができます。

カメラビューを新規フローティングウィンドウに送る。

パトロール設定の設定

パトロールプロファイル

パトロール設定では、パトロールの実行方法を定義します。これには、カメラがプリセット位置間を移動する順序 や、カメラが各位置に停止する時間が含まれます。作成できるパトロール設定の数に制限はなく、作成したパトロー ル設定はルールで使用できます。例えば、1つのパトロール設定が日中の営業時間中に使用され、別のプロファイル が夜間に使用されるように指定するルールを作成できます。

監視システムによっては、パトロール設定を作成、編集、削除できます。組織の XProtect 製品と拡張機能 on page 27をご参照ください。

パトロールプロファイルを追加する

パトロールプロファイルを追加した場合は、自分と他のユーザーはPTZメニューで新しいパトロールプロファイルを 確認できます。

- 1. ビューで、該当するPTZカメラを選択し、新しいパトロールプロファイルを追加します。
- 2. カメラツールバーで、PTZアイコン ↔ をクリックし、PTZメニューを開きます。
- 3. パトロールプロファイルの管理をクリックすると、ダイアログボックスが表示されます。
- 4. 次の手順に従い、**OK**をクリックして**パトロールプロファイルの管理**ウィンドウを閉じます。
- 5. **パトロールプロファイル**で^{**}をクリックし、新しいパトロールプロファイルを追加します。
- 6. プロファイル名を入力し、Enterキーを押します。この名前は後からいつでも変更できます。

Patrolling profiles:	
Weekday patrolling Weekend patrolling	

新しいパトロールプロファイルが**パトロールプロファイル**リストに追加されます。これで、位置とパトロー ルプロファイルの他の設定を指定できます。

パトロールプロファイルで位置を指定する

1. パトロールプロファイルを選択します:

Patrolling profiles:	
Weekday patrolling	
Weekend patrolling	

2. 位置リストの下で ** をクリックし、PTZ プリセットを追加します。

PTZプリセットはシステム管理者が定義します。ユーザー権限がある場合は、[PTZプリセットの管理]を選択 すればPTZプリセットを定義できます。PTZカメラのプリセット位置を定義するonpage109をご参照ください。

3. リストでPTZプリセットを選択します。

4. パトロールプロファイルですべての必要な位置を選択するまで、プリセットを追加し続けます。

Positions:	
Window	-
Door	<u> </u>
Clock	•
+	^ ~

5. 上下矢印を使用して、リスト内でPTZプリセット位置を移動します。

カメラはリストの最上位のPTZプリセット位置を、カメラがパトロールプロファイルに従ってパトロールを 行うときの最初の停止位置として使用します。上から2番目の位置のPTZプリセット位置は、2番目の停止位 置というようになっています。

パトロール設定の各位置における時間を指定します

パトロール時に、PTZカメラはパトロールプロファイルで指定された各位置にデフォルトで5秒間とどまります。 秒数を変更するには、以下を実行します。

- 1. パトロール設定リストでパトロール設定を選択します。
- 2. 位置リストで時間を変更するPTZプリセット位置を選択します。

Window	•	
Door	-	
Clock	-	~

- 3. 位置時間(秒)フィールドに任意の時間を入力します。
- 4. 必要に応じて、他のプリセットでも繰り返します。

パトロール設定の終了位置を指定してください

パトロールが終了するときにカメラを特定の位置に移動するように指定できます。この場合は、パトロールプロファ イルで終了位置を選択します。

- 1. パトロール設定リストでパトロール設定を選択します。
- 2. 終了時に移動で、ドロップダウンリストから終了位置としてプリセットのいずれかを選択します。

任意のカメラのPTZプリセットを終了位置として指定できます。パトロールプロファ イルで使用するプリセットに制限はありません。終了位置を指定せず、デフォルトの 設定をそのまま使用することもできます。**終了位置がありません**。

パトロールプロファイルの削除

既存のプロファイルを削除するには、プロファイルを選択し、

地理的概要の作成

Ì

マップとスマートマップの違い

XProtectSmartClientは、監視システムを視覚化し、インシデントに迅速に対応する上で役立つマップ機能を備えて います。

- マップ:この種類のマップは地理参照を含まない静止画像に基づいています。カメラ、マイク、レコーディングサーバーなどのデバイスを追加できます。マップから監視システムを直接操作できるアラーム、イベント、および入退室管理などの機能も追加できます。デバイスおよび機能の要素をマップ上に手動で配置する必要があります。詳細については、マップ on page 133をご参照ください。
- スマートマップ:このタイプのマップでは地理情報システムを使用して、実世界の地理を正確に反映します。これらの高度な機能により、複数のロケーションにあるカメラのオーバービューがより正確なものになります。

以下も実行可能です。

- Bing MapsおよびGoogle Mapsサービスを使用します (XProtect[®] CorporateおよびXProtect Expert でのみ利用可能)。
- 地理的背景としてMilestone Map Serviceを使用する。
- 地理的背景としてOpenStreetMapマッププロジェクトを使用する。
- コンピュータ支援設計(CAD)図面、シェイプファイル、および画像をオーバーレイとして追加する (CADファイルはXProtect® Corporateおよび XProtect Expertでのみ使用できます。)

マップとスマートマップの間には互換性はありません。マップを使用している場合は、ス マートマップとして画像ファイルを使用できますが、再度デバイスを追加する必要がありま す。デバイス内のマップをスマートマップに転送することはできませんが、スマートマップ をマップにリンクすることはできます。詳細については、スマートマップ上のリンク on page 304をご参照ください。

スマートマップの作成

スマートマップの使用

スマートマップ機能を利用する前に、XProtect Smart Clientでいくつかの設定タスクを完了する必要があります。

スマートマップは、ビューに追加されている場合にのみ表示できます。

ビューにスマートマップを追加する on page 285もご参照ください。詳細については、スマートマップ on page 120 をご参照ください。

ビューにスマートマップを追加する

XProtectVMSに追加されたすべてのカメラやセキュリティデバイスのロケーションを含め、あるエリアのバーチャ ルマップを作成した場合、このスマートマップをビューに追加して状況認識を高めることができます。

- 1. ビューを選択します。
- 2. ワークスペースツールバーで、**セットアップ**を選択します。
- 3. [システム概要] ペインで、既存の[スマートマップ] アイテムをビューのビューアイテムにドラッグします。
- 4. もう一度[設定]を選択して設定モードを終了し、変更を保存します。

地理的背景

スマートマップの地理的背景として以下のサービスを利用できます。

- Bing マップ
- Google マップ
- Milestone Map Service
- OpenStreetMap

地理的背景を選択後、デバイス(カメラなど)とカスタムオーバーレイ(シェープファイルなど)を追加できます。 詳細については、カスタムオーバーレイ on page 292をご参照ください。

地理的背景の種類

ビューにスマートマップを追加すると、以下の地理的背景のいずれかを使用できます。

- 基本的な世界地図:XProtect Smart Clientで提供されるデフォルトの地理的背景を使用します。このマップ は一般的な参照として使用することを意図しており、国境や都市、その他の詳細などの機能は含まれていま せん。ただし、他の地理的背景と同様、地理参照データは含まれています。
- **Bing Maps**: Bing Mapsに接続します。

• Google Maps: Google Mapsに接続します。



Bing MapsとGoogle Mapsは、XProtect[®] CorporateおよびXProtect Expertでのみ利 用できます。どちらのサービスもインタネットアクセスが必要です。

 Milestone Map Service - 無料のマッププロバイダーに接続します。Milestone Map Service を有効にする と、追加の設定は不要です。

Milestone Map Serviceを有効にする on page 287を参照

- OpenStreetMap 次に接続します:
 - 選択したコマーシャルタイルサーバー
 - ユーザー、オンライン、またはローカルのタイルサーバー

OpenStreetMapタイルサーバーの変更 on page 288を参照

• なし:このオプションを選択すると、地理的背景が非表示になります。地理参照データは残る点に留意して ください。スマートマップのレイヤー on page 289もご参照ください。

デフォルトで、Bing MapsとGoogle Mapsは衛星画像を表示します。画像は、航空画像や地形表示などに変更して、 他の情報を表示することもできます。

スマートマップの地理的背景を変更する

デフォルトで、スマートマップをビューに追加すると、基本的な世界地図が表示されます。スマートマップをビュー に追加すると、さまざまな地理的背景を選択できるようになります。スマートマップを使用している各ユーザーが次 回そのビューを開くと、新しい背景が表示されます。

要件

Bing MapsおよびGoogle Mapsの地理的背景はXProtect[®] CorporateとXProtect Expertでのみ利用できます。システム管理者は、それらをXProtect Management Clientで利用できるようにする必要があります。

背景を変えるには、次のことをする必要があります。

- 1. スマートマップを含むビューを選択します。
- 2. ツールバーで、 [ビレイヤーとカスタムオーバーレイを表示または非表示にする] をクリックします。
- 地理的背景で、背景と表示したい詳細情報を選択します。例えば、地形に関する情報を表示したい場合は、 地形を選択します。道路を表示したい場合は、道路を選択します。

Milestone Map Serviceを有効にする

Milestone Map Serviceは、Milestone Systemsのタイルサーバーに接続できるオンラインサービスです。このタイ ルサーバーは無料の市販マップサービスを使用しています。

スマートマップでMilestone Map Serviceを有効にすると、スマートマップは地理的背景としてMilestone Map Serviceを使用します。

要件

Milestone Map Serviceフィールドがグレーで表示されている場合、このサービスを有効/無効に設定するために必要 なユーザー権限が付与されていません。この機能をXProtect Management Clientで有効にしたい場合は、システム 管理者に連絡してください。



Timeline	Bing Maps key		$\overline{\mathbf{V}}$
Export	Client ID for Google Maps		
Survey and	Private key for Google Maps		
smart map	URL signing secret for Google Maps		\square
Search	Remove cached smart map files	When not used for 30 days 🔹 🔻	
Joystick			
Keyboard			
Research and and			
Alarm Manager			
Advanced			
Language			
Help			Close

2. 左側のセクションでスマートマップをクリックします。

- 3. Milestone Map Serviceフィールドで、利用可能を選択します。
- 4. [**閉じる**] をクリックします。次回スマートマップを読み込むと、地理的背景としてMilestone Map Serviceが 使用されます。

OpenStreetMapタイルサーバー

スマートマップの地理的背景としてOpenStreetMapを使用する場合は、タイルサーバーを指定する必要がありま す。所属組織に空港や港といった地域の独自の地図がある場合などはローカルタイルサーバーを指定できます。ま た、コマーシャルタイルサーバーを使用することも可能です。

ローカルタイルサーバーを使用する場合、インターネットアクセスは不要です。

タイルサーバーのアドレスは以下の2つの方法で指定できます。

- XProtect Management Clientでは、タイルサーバーのアドレスをSmart Clientプロファイルで設定します。
 このサーバーアドレスは、Smart Clientプロファイルに割り当てられているすべてのXProtect Smart Client ユーザーに適用されます
- XProtect Smart Clientでは、タイルサーバーのアドレスを**設定**ダイアログで設定します。サーバーアドレス は、そのインストールにのみ適用されます。

OpenStreetMapタイルサーバーの変更

要件

サーバー側の指定タイルサーバーに編集ロックがかかっている場合、このフィールドはグレー表示となり、サーバー アドレスの変更は不可能になります。この機能をXProtect Management Clientで有効にしたい場合は、システム管 理者に連絡してください。

手順:
1. グローバルツールバーで [設定とその他] 、次に [設定] を選択します

Settings				
Application	Option	Setting		Follow Server
Panes	Manage May Server	Unavailable	•	
Functions	OpenStreetMap server	https://maps.wikimedia.org/com-		
T directority	Create location when custom overlay is add	No	•	
Timeline	Bing Maps key			
Export	Client ID for Google Maps			
-	Private key for Google Maps			
Smart map	URL signing secret for Google Maps			\square
Search	Remove cached smart map files	When not used for 30 days	•	\checkmark
Joystick				
Kevboard				
Alarm Manager				
Advanced				
Language				
Language				
Help				Close

- 2. 左側のセクションでスマートマップをクリックします。
- 3. **OpenStreetMapサーバー**フィールドで以下のいずれかを実行します。
 - サーバーアドレスを入力します。フィールドがグレー表示になっている場合は、サーバー側でロック されています
 - サーバー側の指定サーバーを使用するには、サーバーに従うチェックボックスを選択します
- 4. [**閉じる**]をクリックします。次回スマートマップを読み込むと、指定したOpenStreetMapサーバーが使用されます。

サーバーアドレスが指定されていない場合や、サーバーアドレスが無効な場合は、 OpenStreetMapを地理的背景として使用することはできません。

スマートマップでレイヤーを表示または非表示する

スマートマップのレイヤー

表示したいものに応じて、スマートマップ上のレイヤーをオン/オフにできます。

289 | すべてのユーザーの機能を設定する

スマートマップには複数のレイヤーがあります。各レイヤーには異なる要素が含まれています。

スマートマップレイヤー上の要素は非表示にすることができます。この機能を使用すると、特定のエレメントに フォーカスしたり、スマートマップ上の表示を簡素化したりすることができます。

レイヤー	要素
システム要素	カメラ、入退室管理ユニット、その他のデバイス。 リンクとロケーション。
カスタムオーバーレイ	ビットマップ画像、CAD図面、およびシェープファ イル。
地理的背景	基本的な世界地図または以下のサービスのいずれか: • Bing マップ • Google マップ • Milestone Map Service • OpenStreetMap

Bing MapsとGoogle Mapsは、システム管理者がXProtect Management Clientで有効にしている場合に限り、地理的背景として使用できます。詳細については、地理的背景 on page 285をご参照ください。

レイヤーの順番

Ì

それぞれ同じタイプのシステム要素はすべて、同一レイヤーにあります。例えば、カメラはすべて、同じレイヤーに あります。カメラレイヤーを非表示すると、すべてのカメラが非表示になります。上から順に、システムエレメント のレイヤーは、次の順に配列されています:ロケーション、カメラ、リンク、地理的背景。この順番を変更すること はできません。

地理的背景は、スマートマップ内で常に一番下のレイヤーに位置しています。異なる地理的背景の間を切り替えることはできますが、一度に1つの地理的背景しか選択することはできません。

カスタムオーバーレイは、個別のレイヤーとして追加され、スマートマップに追加された順に積み重ねられます。順 番を変更するには、マップのデフォルト設定を構成します。

例

都市計画では、それぞれの市境を示すシェープファイルと市内の全ての主要道路を含むシェープファイルがありま す。この計画では、レイヤーの順番を変更することにより、道路が市境の上に表示されるようにすることができま す。こうすることにより、市内のどこにカメラがあるかを把握することができ、また、ズームインして特定のカメラ が配置されている番地を表示することができます。

スマートマップ上のレイヤーを表示または非表示にする

地理的背景を含め、スマートマップ上のレイヤーを表示または非表示にすることができます。この機能を使用する と、特定のエレメントにフォーカスしたり、スマートマップ上の表示を簡素化したりすることができます。

- 1. スマートマップを選択します。
- ツールバーで、 [[レイヤーとカスタムオーバーレイを表示または非表示にする] をクリックします。
- 3. [システムエレメント]と[カスタムオーバーレイ]を含むレイヤーを表示または非表示にするには、チェック ボックスを選択又は選択解除します。

システムエレメントレイヤーを非表示にすると、レイヤーを再度表示するまですべて のマイクがミュートされます。手動で消音されたマイクは消音されたままになりま す。

4. 地理的背景レイヤーを非表示にするには、なしを選択します。

地理的背景レイヤーが非表示になった場合でも、地理参照はスマートマップに適用されます。

スマートマップのデフォルト設定を指定する

ビューにスマートマップを追加して、オーバーレイ、カメラ、リンクが追加された後、カスタムオーバーレイのデフォルト設定を指定できます。カスタムオーバーレイを削除してクリーンアップすることもできます。

1. **設定**をクリックします。

Ì

- 2. 「デフォルト設定の管理をクリックします。
- 3. 以下のいずれかを実行します。
 - オーバーレイを表示または非表示にするには、チェックボックスを選択または選択解除します
 - 並べ替えを行うには、オーバーレイ前部のドラッグハンドルを使い、オーバーレイをリスト内の新しい位置にドラッグします。レイヤーはリスト内で上から順に並べられます。
 - オーバーレイを削除するには、ポインターをカスタムオーバーレイ上に移動し、削除をクリックします。
- 4. [保存]をクリックします。

カスタムオーバーレイの追加、削除および編集

カスタムオーバーレイ

XProtect Smart Clientではスマートマップ上のカスタムオーバーレイとして、次の種類のファイルを追加することができます。

- シェープファイル:点、線、多角形などの地理空間ベクトルデータ、および壁、道路などマップ上のオブジェクトを表す属性、または川や湖などの地理的特徴を含むことができます。例えば、ズームイン時とズームアウト時に拡大縮小がしやすく、CAD図面またはビットマップ画像よりもファイルのサイズが小さいので、都市計画事務所や管理事務所などは、よくシェープファイルを利用します。
- CAD:コンピュータ支援設計(CAD)図面は、シェープファイルのように、座標系や空間参照を使って正確な地理コンテキストを提供することができるので、スマートマップのオーバーレイとして便利です。例えば、あるロケーションの詳細な航空地図または道路地図を使うことができます。
- 画像:建物の間取り図などの画像ファイルがある場合、スマートマップ上のオーバーレイとして追加することができます。次のタイプの画像ファイルを使用できます:PNG、BMP、GIF、JPG、JPEG、PHG、TIF、 TIFF



カスタムオーバーレイおよびロケーション

スマートマップ上でカスタムオーバーレイへ移動する on page 127で説明されているように、スマートマップにすで に追加したカスタムオーバーレイへすばやくジャンプできます。ただし、カスタムオーバーレイとロケーションの接 続は、設定で確立できます。つまり新しいカスタムオーバーレイを追加した場合はいつでも、XProtect Smart Client はマップ上の全く同じスポットにあるオーバーレイと同じ名前のロケーションを作成します。これで、カスタムオー バーレイのロケーションが、**ロケーションを選択**リストで使用可能になります。



オーバーレイとロケーションは、リンクしていません。例えば、オーバーレイを変更せずに、ロケーションの名前を 変更したり削除することができ、またその逆もできます。



この機能を有効にするには、カスタムオーバーレイヘロケーションを追加する(スマート マップ) on page 293を参照してください。 スマートマップにカスタムオーバーレイを追加する

カスタムオーバーレイを追加することにより、スマートマップの詳細レベルを上げます。カスタムオーバーレイを追加すると、XProtect Smart Clientは、そのオーバーレイと同じ名前のロケーションを作成します。

手順:

- 1. スマートマップを含むビューを選択し、[設定]をクリックします。
- 2. [
 カスタムオーバーレイを追加] をクリックします。
 - 追加するオーバーレイが地理参照されている場合、スマートマップの任意のロケーションをクリック します。XProtectSmartClientは、地理参照情報を使って、オーバーレイを正しい地理的位置に配置 します。さらに、スマートマップは、デフォルトのズームレベルでオーバーレイを中心に位置させま す。
 - 追加するオーバーレイが地理参照されていない場合、地図上の要素を追加したい位置に移動し、ス マートマップ上の点をクリックします。



オーバーレイを追加する前に、マップ上の希望するロケーションにズームイン しておくことをお勧めします。そうすることにより、オーバーレイを正確に位 置させやすくなります。

- 3. オーバーレイの名前を入力します。
- 4. 選択したファイルの種類に応じて:
 - **画像**:画像ファイルを選択し、**OK**をクリックします。
 - シェープファイル: SHPファイルを選択します。PRJファイルがある場合は、OKをクリックするだけで、XProtectSmartClientは画像ファイルを見つけることができます。PRJがない場合、追加後に、手動でオーバーレイの位置を変更することができます。塗りつぶしや色付きの線を適用することもできます。色を追加することにより、スマートマップ上のシェープファイルをより目立たせることができます。
 - CAD: DWGファイルを選択します。PRJがある場合、OKをクリックします。PRJファイルがない場合で、地理参照を使ってスマートマップ上にファイルを位置させたい場合、空間参照系識別子 (SRID)を入力し、OKをクリックします。PRJファイルまたはSRIDがない場合、追加後に、手動で オーバーレイの位置を変更することができます。

オーバーレイの種類の詳細については、カスタムオーバーレイ on page 292を 参照してください。

カスタムオーバーレイヘロケーションを追加する(スマートマップ)

場所が自動的にスマートマップのカスタムオーバーレイに追加されるようXProtect Smart Clientを構成できます。これにより、**ロケーションを選択**リストからカスタムオーバーレイに移動できるようになります。

手順:

- 1. グローバルツールバーで [設定とその他] 、次に [設定] を選択します
- 2. スマートマップタブへ移動します。

۲

- 3. カスタムオーバーレイ追加時にロケーションを作成リストで、はいを選択します。
- 4. ダイアログを閉じると変更が保存されます。

詳細については、カスタムオーバーレイおよびロケーション on page 292をご参照ください。

スマートマップ上のカスタムオーバーレイを削除する

- 1. スマートマップを含むビューを選択し、[設定]をクリックします。
- ツールバーで、「「「デフォルトの設定を管理する」をクリックします。
- 3. ポインターをカスタムオーバーレイ上に移動し、削除をクリックします。
- 4. 保存をクリックすると、カスタムオーバーレイが削除されます。
- 5. オプション:カスタムオーバーレイ用のロケーションが作成されていた場合、これも削除してください。詳細については、スマートマップ上のロケーション on page 305をご参照ください。

シェープファイル上のエリアをより見やすくする(スマートマップ)



スマートマップで近接した多角形から構成されるシェープファイルを使用したい場合は、お互いの多角形を個々に識 別しなければならない場合があります。これを行うには、シェープファイルに対して選んだ色の不透明度を減少させ ます。多角形の枠線が目立つようになります。

- 1. スマートマップにカスタムオーバーレイを追加する on page 293で説明されている手順に従います。
- 2. 色を選択する際には、希望の透明度になるまで不透明度スライダーを左にドラッグします。



3. [**保存**] をクリックします。

カスタムオーバーレイの位置、サイズ、または配置の調整をする

オーバーレイは、マップ上の別の位置に移動したり、拡大または縮小、回転させることができます。例えば、オー バーレイが地理参照されていない場合や、オーバーレイが地理参照されているのに何らかの理由で地理的背景ときれ いに揃わない場合に便利です。

手順:

- 1. スマートマップを含むビューを選択し、[設定]をクリックします。
- 2. オーバーレイを右クリックし、位置を編集を選択します。
- 3. オーバーレイをサイズ変更または回転するには:
 - 次に角のハンドルをクリックしてドラッグします。
 - オーバーレイを特定のポイント周辺で回転するには、ピボットポイントをマップ上で動かします。次に角のハンドルをクリックしてドラッグします。



- 4. マップ上のオーバーレイを移動させる場合、オーバーレイをクリックしてドラッグします。
- 5. 変更を保存するには、保存をクリックします。

スマートマップ上のデバイスの追加、削除、編集

スマートマップ上のデバイス

デバイスの実際の位置を、スマートマップに追加することができます。これにより、監視システムの概要を把握でき るようになり、有事の際の対応力も高めることができます。例えば、発生中の事件について容疑者を追跡したい場 合、マップ上のカメラをクリックして映像を確認することができます。

スマートマップにカメラを追加した後は、カメラアイコンの視界を調整することにより、実際のカメラの視界を反映 させることができます。こうすることにより、特定地域を監視しているカメラを探しやすくなります。さらに、アイ コンを選択してマップ上にカメラを表示することにより、マップ上のカメラの種類を特定しやすくなります。

スマートマップでは以下のタイプのデバイスを使用できます。

- カメラ
- 入力デバイス
- 出力デバイス
- マイク

スマートマップにデバイスを追加する

XProtect Management Clientでシステム管理者がデバイスの地理座標を指定した場合、デバイスを追加すると、自動的にスマートマップ上に配置されます。そうならない場合は、自分でデバイスを正確な地理的位置に配置しなければなりません。



システム管理者がデバイスの地理的座標を指定した場合、簡単にスマートマップ上でデバイ スを見つけることができます。システム管理者に連絡して、スマートマップをXProtect Smart Clientで有効にします。 1. スマートマップを含むビューを選択し、[**設定**]をクリックします。

2. 個別のデバイスまたはデバイスのグループを追加するには:



デバイスを追加する前に、マップ上の場所にズームインしておくことをお勧めしま す。この機能を使うと、デバイスに地理座標が無い場合でも正確にそのデバイスを配 置することができます。

- システム概要ウィンドウを展開して個別のデバイスまたはデバイスのグループを探し、スマートマップ上の表示させたい点までドラッグします。後からデバイスをドラッグして位置を変更することができます。
- スマートマップのツールバーで [**デバイスを追加**]を選択し、デバイスタイプを選択します。

● 例:カメラの場合は、■● カメラを追加を選択し、カメラを選択します。



• デバイスをスマートマップにドラッグします。

3. 変更を保存するには、[設定]をクリックして設定モードを解除します。

カメラの視野および方向を変更する

カメラがスマートマップに追加されると、カメラアイコンを調節することで視野および方向を変更できます。



1. 使用したいスマートマップが含まれているビューを選択します。

- 2. カメラアイコンを編集するには、設定をクリックします。
- 3. カメラアイコンをクリックします。



- 4. 回転ハンドルを使って、カメラを正しい方向に向けます。
- 5. 視野の幅、長さ、角度を調整するには、視野の先端にあるハンドルをクリック&ドラッグします。
- 6. 変更を保存するには、[設定]をクリックして設定モードを解除します。

デバイスアイコンを選択または変更する

使用しているデバイスの種類に一致するデバイスアイコンを選択できます。

- 1. 使用したいスマートマップが含まれているビューを選択します。
- 2. 設定をクリックし、マップ上でデバイスアイコンをダブルクリックします。



- 3. 選択アイコンをクリックし、デバイスのアイコンを選択します。
- 4. 設定を再度クリックして変更を保存します。

デバイス情報を表示または非表示にする

スマートマップ上ではデバイスに関する情報を表示または非表示にすることができます。これは、マップ上のコンテ ンツを増やしたり減らしたりしたい場合などに便利です。 1. 使用したいスマートマップが含まれているビューを選択します。

2. [ジレイヤーとカスタムオーバーレイを表示する、または非表示にする] をクリックします。

3. 情報を表示または非表示するには、チェックボックスを選択または選択解除します。

スマートマップからデバイスを削除する

不要なデバイス(物理的に除去されたデバイスや誤って追加されたデバイスなど)は削除できます。デバイスを削除 すると、そのデバイスの位置情報(地理的座標など)はVMSシステムから削除されます。

要件

以下のためのユーザー権限は、XProtect Management Clientで有効にする必要があります。

- スマートマップの編集
- デバイスの編集

手順:

- 1. 削除したいデバイスまで移動します。
- 2. ワークスペースツールバーで、**セットアップ**を選択します。
- 3. 単一のデバイスを削除するには、そのデバイスを右クリックして**削除**をクリックします。

例:カメラの場合は、カメラを削除をクリックします。



- 4. 複数のカメラを削除するには:
 - 1. スマートマップのツールバーで、[複数のカメラを選択] をクリックします。 - ← **#** Select a location ... × ଡ଼⁺ • H 10 \$ Train station - Input 1 Mo. Wedeholz Train station 10 Passing cars - Input 1 Beauty shop
 - 2. クリックしてドラッグし、複数のカメラを選択します。他のタイプのデバイス(入力デバイスなど) は選択肢に含まれていません。
 - 3. 右クリックしてカメラを削除を選択します。
- 5. カメラではない複数のデバイスを削除するには:
 - 1. スマートマップ上で、Ctrlを長押しします。
 - 2. Ctrlを押している間に、削除したいデバイスをクリックします。
 - 3. 選択したデバイスの1つを右クリックし、削除を選択します。
- 6. もう一度[設定]を選択して設定モードを終了し、変更を保存します。



スマートマップ上のリンクの追加、削除および編集

スマートマップ上のリンク

スマートマップ上のロケーションに移動したり、XProtect Smart Clientの静的マップに移動するリンクを追加したり できます。これにより、迅速にロケーションにアクセスしたり、別のビューに変更することなく別のタイプのマップ を表示したりすることができます。他のスマートマップへはリンクできません。詳細については、マップとスマート マップの違い on page 284をご参照ください。

リンクでは次のように場所とマップが表示されます。

- ロケーションへのリンクでは、現在のビュー内のロケーションが表示されます。以前表示したロケーション
 に戻るには、スマートマップのツールバーにある [
- マップへのリンクでは、サブウィンドウにマップが表示されます。これにより、両方のタイプのマップに同時にアクセスすることができます。サブウィンドウでは、マップを表示して操作できますが、カメラの追加などの変更を行うことはできません。

リンクを色分けしたり、マップ上でより見やすくする必要がある場合は、リンクの色を指定 できます。デフォルトでは、スマートマップのロケーションへのリンクは青で、従来のマッ プへのリンクは赤になっています。他の色を使用する場合は、リンクのタイプごとに同じ色 を使用することをお勧めします。同じ色を使用することで、レイヤーを使用してマップ上の アイテムをフィルターするなどの場合にリンクの区別がよりつきやすくなります。

スマートマップのロケーションまたはマップヘリンクを追加する

これにより、すばやくロケーションにアクセスしたり、別のビューに変更することなく別の種類のマップを表示する ことができます。

手順:

- 1. スマートマップを含むビューを選択し、[設定]をクリックします。
- 2. リンクを追加するマップ上のポイントに移動します。
- 3. マップツールバーで、[^{**} **リンクを追加**]をクリックして、リンクしたいマップ上のポイントをクリックしま す。
- 4. スマートマップのロケーションまたはマップにリンクするかどうかを指定し、追加をクリックします。
- 5. リンクの名前を入力します。

表示スタイルとして**アイコンとテキスト**を選択した場合は、スマートマップ上のリン クのタイトルを表示できます。通常、名前によりリンク先が示されます。

6. 宛先フィールドでリンク先のマップまたはロケーションを選択します。

- 7. 表示スタイルフィールドでは、名前とリンクアイコンを表示するか、マップ上のリンクアイコンのみを表示 するかを指定します。
- 8. オプション:リンクの色を指定するには、色をクリックします。

スマートマップ上のリンクを編集または削除する

スマートマップにリンクが追加されると、編集や削除することができます。

手順:

- 1. ワークスペースツールバーで、**セットアップ**を選択します。
- 2. リンクを編集するには、リンクを右クリックして、[リンクを編集]を選択します。
- 3. リンクを削除するには、以下のいずれか1つを実行します。
 - リンクを右クリックして**リンクを削除**を選択します。
 - リンクを選択し、キーボードのDELETEキーを押します。

スマートマップ上のロケーションの追加、削除および編集

スマートマップ上のロケーション

関心のあるスマートマップ上のポイントにロケーションを作成することができます。例えば、本社や出張所のロケー ションを作成することができます。ロケーションは環境の全体像を示すだけでなく、スマートマップのナビゲーショ ンにも役立ちます。

設定によってはカスタムオーバーレイを追加する場合、XProtect Smart Clientがオーバーレ イと同じ名前のロケーションを追加することがあります。このことにより、例えば、ズーム アウト時に、スマートマップ上のオーバーレイに移動しすくなります。ただし、オーバーレ イとロケーションは、リンクしていません。例えば、オーバーレイを変更せずに、ロケー ションの名前を変更したり削除することができ、またその逆もできます。詳細については、 スマートマップ上のロケーション on page 305をご参照ください。

スマートマップのホームロケーション

ホームロケーションはそれを設定したビューアイテムに対して特有のものです。異なるビューアイテムに、異なる ホームロケーションを設定できます。ビューアイテムにホームロケーションが指定されていない場合、ビューアイテ ムは、使用している背景の種類に関わらず、全世界を表示します。これは、ホームロケーションを削除した場合も同 様です。

スマートマップで作業している間は、[**□□ ホーム**]をクリックするとホームロケーションに戻ります。これは、 ビューでスマートマップのリセットするのと同様です。ビューアイテムの設定をデフォルトに戻すと、システムによ り、閲覧したロケーションの履歴は削除されます。 新しいホームロケーションを選択した場合、ビューアイテムを使用する全員が影響を受けま す。誰かが別のロケーションをホームとして設定していた場合、その人の設定を変更するこ とになります。

スマートマップにロケーションを追加する

関心のある場所の履歴を残すために、スマートマップ上ですばやく検索できるロケーションを追加することができます。

- 1. スマートマップを含むビューを選択し、[設定]をクリックします。
- 2. 必要な場合は、スマートマップ上でロケーションを追加したいポイントを、パンまたはズームインします。
- 3. ツールバーで、[^{♀^{*}}場所を追加] をクリックし、スマートマップ上のポイントをクリックします。
- 4. そのロケーションに名前を付けて、必要に応じて以下の詳細を追加します。
 - 誰かがスマートマップ上で該当場所に行った際に適用されるズームレベルを指定する
 - ロケーションアイコン用の色を選択します。ロケーションの色分けは、例えば、ロケーションのタイプを見分ける際に便利です。これは、ロケーションの機能やタイプ、または優先度を示す基準となります。
 - オプション:その場所をホームロケーションにします。スマートマップはこのロケーションが中心となり、「一ホーム」をクリックすると、デフォルトのズームレベル設定を適用します

スマートマップ上のロケーションを追加、編集または削除する

スマートマップにロケーションが追加されると、例えば、ホームロケーションの削除のような、ロケーションの削除 や設定の編集ができます。

手順:

- 1. ワークスペースツールバーで、**セットアップ**を選択します。
- 2. ロケーションを編集するには、該当するロケーションを右クリックして**ロケーションを編集**を選択します。
- 3. ロケーションを削除するには、以下のいずれか1つを実行します。
 - ロケーションを右クリックして、**ロケーションを削除**を選択します。
 - ロケーションを選択し、キーボードの**DELETE**を押します。

ロケーション同士のリンク

例えば、異なるロケーション同士の一連のリンクを作成することにより、巡回経路を作成することができます。ロ ケーションAからロケーションBへのリンクを作成し、ロケーションBからロケーションCへのリンクを作成する、と いった具合にリンクを作成していきます。詳細については、スマートマップ上のリンクonpage304をご参照くださ い。 スマートマップへの建物の追加、削除および編集

スマートマップ上の建物

スマートマップ上の建物は4つの端のあるポリゴンとして描写されます。一度追加されると、建物の実際の形状と位置に合うよう、面積、アングル、サイズを調整することができます。

もし建物に複数の階がある場合、まず階を追加し、そしてそれぞれの階に対してカメラを追加します。これにより、 各階にカメラをナビゲートできます。

建物のインテリアを描写しやすくするために、各階に平面図をカスタムオーバーレイとして追加することが可能で す。詳細については、平面図を階に追加(スマートマップ) on page 311をご参照ください。

建物は、**Building 4**といったように自動的に名前が振り分けられます。Milestoneは名前を変更することを推奨しま す。これにより、他の建物と区別しやすくなります。



スマートマップに建物を追加する

建物の内観を解説する目的でイメージやシェープファイルを使用する代わりに、建物のアウトラインを追加することができます。後から、建物の実際の形状と位置に合うよう、面積、アングル、サイズを調整することができます。

要件

スマートマップの編集は、お使いのXProtect Management ClientにおけるSmart Clientプロファイルで有効でなけれ ばなりません。

手順:

- 1. ワークスペースツールバーで、**セットアップ**を選択します。
- 2. スマートマップ上で建物を配置したい場所に移動します。
- 3. レックし、スマートマップ上で関連する位置にカーソルを合わせます。
- 4. もう一度クリックします。スマートマップに長方形が追加されます。ズームアウトすると、ズームレベルが

自動的に引き上げられます。

- 5. 必要な場合は、コーナーハンドルを用い、実際の建物の形状と位置を調整してください。
- 6. もう一度[設定]を選択して設定モードを終了し、変更を保存します。

スマートマップ上の建物を編集する

ー度建物がスマートマップ上に追加されると、建物の名前の変更、位置、サイズ、面積、アングルの調整が可能にな ります。さらに、階の追加、削除、並べ替えが可能になります。

要件

スマートマップの編集は、お使いのXProtect Management ClientにおけるSmart Clientプロファイルで有効でなけれ ばなりません。

手順:

- 1. スマートマップ上で建物まで移動します。必要な場合、ズームインします。
- 2. ワークスペースツールバーで、**セットアップ**を選択します。
- 3. 建物内の任意の場所をクリックします。青の枠線は建物を編集できることを示します。



- 4. 建物の名前を変更するには、右側のペインの一番上で をクリックします。名前を変更し、 ✓をクリック します。キャンセルするにはEscを押します。
- 5. 角の調整には、新しい位置までクリック&ドラッグします。
- 6. 階を追加または削除するには、建物の階を追加または削除する on page 310を参照してください。
- 7. もう一度[設定]を選択して設定モードを終了し、変更を保存します。

スマートマップ上の建物を削除する

建物が不要になった場合は、削除できます。次回、誰かがXProtect Smart Clientにログインまたは再読み込みすると、削除された建物が消えます。

要件

スマートマップの編集は、お使いのXProtect Management ClientにおけるSmart Clientプロファイルで有効でなけれ ばなりません。

手順:

- 1. スマートマップを開きます。
- 2. ワークスペースツールバーで、**セットアップ**を選択します。
- 3. 以下のいずれか1つを実行します。
 - 建物を右クリックし、[削除]を選択します
 - 建物を選択し、キーボードのDELETEキーを押します

建物を削除する別の方法: 「デフォルト設定の管理で、建物セクションまで下にスクロー ルし、建物の上にカーソルを置いた状態で[削除]をクリックしてから[保存]をクリックしま す。

建物の階とデバイスの管理(スマートマップ)

建物のデバイスと階

建物にデバイスを追加すると、階が指定されていない限り、デバイスはデフォルトの階に関連付けられます。その他の場合、デバイスは1番目のレベルに関連付けられます。ただし、この関連付けを変更し、デバイスをその他の階、あるいは一度に複数の階と関連付けることも可能です。

追加情報

Ó

- 階が選択されていなければ、すべての階でデバイスを表示できます。
- すでに配置されているデバイスの上に建物を追加すると、デフォルトで、デバイスはすべての階に関連付けられます。
- すでに配置されているデバイスが含まれるように建物の境界線を拡大すると、デバイスは選択されている階にのみ関連付けられます。

建物の平面図とデバイス

建物のすべての階におけるインテリアの描写をしやすくするために、各階に平面図をカスタムオーバーレイとして追加することが可能です。平面図があれば、デバイスの正確な配置が容易になります。詳細については、平面図を階に追加(スマートマップ) on page 311をご参照ください。

デバイスをカメラを含まないように建物の境界線を調整すると、デバイスは建物と関連付ら れなくなります。

配置したデバイスが関連付けられるのは階であり、カスタムオーバーレイではありません。デバイスとカスタムオー バーレイを含む建物内の階を削除すると、デバイスは地理的位置にはとどまりますが、階との関連付けはなくなりま す。ただし、カスタムオーバーレイは階と一緒に削除されます。

階を並べ替えた場合、デバイスとカスタムオーバーレイは両方とも、その階にとどまります。デバイスはそれぞれの 地理的位置を維持します。

建物の階を追加または削除する

スマートマップに建物を追加したあと、階数を追加することができます。一番はじめの階はナンバー1として関連付けられ、次は2、その後も順に続きます。最終的には、それぞれの階の名前を変更し、並べ替えることができます。

要件

スマートマップの編集は、お使いのXProtect Management ClientにおけるSmart Clientプロファイルで有効でなけれ ばなりません。

手順:

- 1. スマートマップ上で建物まで移動します。必要な場合、ズームインします。
- 2. 建物を選択します。右側にペインが表示されます。
- 3. [設定] ボタンをクリックして設定モードに移ります。
- 4. 「レベルを追加 [●] Add level</sup>] をクリックします。
- 5. レベルの名前を編集するには:
 - 2
 …

 1. 点線
 2

 をクリックし、名前を変更を選択します。
 - 2. 新しい名前を入力します。
- 6. 階を削除するには、点線 をクリックし、**削除**を選択します。この階のデバイスは個々の地理的位置にとどまりますが、階との関連付けはなくなります。
- 7. 設定をクリックし、設定モードを終了します。

建物内の階の並べ替え(スマートマップ)

要件

スマートマップの編集は、お使いのXProtect Management ClientにおけるSmart Clientプロファイルで有効でなけれ ばなりません。

手順:

- 1. スマートマップ上で建物まで移動します。必要な場合、ズームインします。
- 2. 建物を選択します。右側に建物の階を示すペインが表示されます。
- 3. ワークスペースツールバーで、**セットアップ**を選択します。

- 4. 点線で囲まれたエリア を正しい位置にクリック&ドラッグします。関連付け のあるデバイスとカスタムオーバーレイは、同じ階にとどまります。
- 5. もう一度[設定]を選択して設定モードを終了し、変更を保存します。

建物のデフォルトの階を設定する(スマートマップ)

もし、例えば地下など、建物内の特定の階が他の階より関連性が強い場合、その階をデフォルトの階として設定する ことが可能です。スマートマップを開き、建物に移動すると、自動的にデフォルトの階が選択されます。

もし建物からカーソルを離してまた戻った場合、XProtect Smart Clientは、その離した階まで戻ります。

要件

スマートマップの編集は、お使いのXProtect Management ClientにおけるSmart Clientプロファイルで有効でなけれ ばなりません。

手順:

- 1. スマートマップ上で建物まで移動します。必要な場合、ズームインします。
- 2. 建物を選択します。右側に建物の階を示すペインが表示されます。デフォルトの階はハイライトで表示され ます。



- 5. デフォルトとして設定を選択します。
- 6. もう一度[設定]を選択して設定モードを終了し、変更を保存します。

平面図を階に追加 (スマートマップ)

カスタムオーバーレイの追加が可能です。例えば、平面図イメージを建物の階に追加することで、建物内のその階の インテリアを描写するのに役立ちます。階をナビゲートするにおいて、関連付けられた平面図が自動的に表示されま す。

要件

スマートマップの編集は、お使いのXProtect Management ClientにおけるSmart Clientプロファイルで有効でなけれ ばなりません。

手順:

- 1. スマートマップ上で建物まで移動します。必要な場合、ズームインします。
- 2. 建物を選択します。右側に建物の階を示すペインが表示されます。
- 3. ワークスペースツールバーで、**セットアップ**を選択します。

311 | すべてのユーザーの機能を設定する

- 4. カスタムオーバーレイを追加したい階を選択します。
- 5. 左上コーナーで、[*****カスタムオーバーレイを追加]をクリックし、その後建物のアウトライン内をクリック します。ウィンドウが表示されます。
- 6. カスタムオーバーレイのタイプを選択します。詳細については、カスタムオーバーレイ on page 292をご参 照ください。
- 7. コンピュータ上でファイルが保存されている場所を選択し、**続行**をクリックします。カスタムオーバーレイ は青のアウトラインで表示されます。



- 8. それを建物のアウトラインまでドラッグし、ピボットポイントとコーナーハンドルを用いてカスタムオー バーレイを回転、および位置を変更します。
- 9. 上部のバーで、保存をクリックします
- 10. もう一度[設定]を選択して設定モードを終了し、変更を保存します。

平面図の削除 (スマートマップ)

建物内の階上の平面図が変更された場合は、その平面図を描写するカスタムオーバーレイを置き換えなければならない可能性があります。Milestoneは、新しい平面図を追加する前に以前の平面図を削除するよう推奨しています。

要件

スマートマップの編集は、お使いのXProtect Management ClientにおけるSmart Clientプロファイルで有効でなけれ ばなりません。

手順:

- 1. スマートマップ上で建物まで移動します。必要な場合、ズームインします。
- 2. 建物を選択します。右側に建物の階を示すペインが表示されます。
- 3. ワークスペースツールバーで、**セットアップ**を選択します。
- 4. カスタムオーバーレイがある階を選択します。
- 5. カスタムオーバーレイ上のどこかを右クリックし、カスタムオーバーレイを削除を選択します。
- 6. もう一度[設定]を選択して設定モードを終了し、変更を保存します。



平面図の位置やサイズを変更するには、カスタムオーバーレイを右クリックし、**位置を編集** を選択します。これで、カスタムオーバーレイの移動、回転、そしてサイズの変更が可能に なりました。

建物にデバイスを追加する(スマートマップ)

建物を作成して階を追加した後、デバイスを建物に追加できます。デフォルトの階を指定すると、デバイスはその階 に紐付けられます。その他の場合、デバイスは1番目のレベルに関連付けられます。階は変更が可能で、建物内のど の階にでもデバイスを関連付けることができます。

要件

スマートマップの編集は、お使いのXProtect Management ClientにおけるSmart Clientプロファイルで有効でなけれ ばなりません。

手順:

- 1. スマートマップ上で建物まで移動します。必要に応じてズームインします。
- 2. ワークスペースツールバーで、**セットアップ**を選択します。
- 3. デバイスを追加するには、このアイコンをクリックします。

例:カメラの場合は、[**■ カメラを追加**] をクリックします。

- 4. デバイスを配置する場所を再度クリックします。ウィンドウが表示されます。
- 5. デバイスを選択して、**OK**をクリックします。追加する各デバイスに対し、ステップ3~5を繰り返します。
- 6. デバイスを単一または複数の階と関連付けるには、デバイスを右クリックし、必要な階を選択します。
- 7. もう一度[設定]を選択して設定モードを終了し、変更を保存します。

階を選択しなかった場合は、すべての階でデバイスが表示されます。

FAQ:スマートマップ

Ì

スマートマップからデバイスを削除することはできますか?

可能。スマートマップからデバイスを削除する on page 302をご参照ください。

建物内の複数のレベルで同じデバイスを表示することはできますか?

はい。まず、1つのレベルにデバイスを配置してください。次に、デバイスを右クリックして**複数レベルで**[デバイ **ス**]を表示を選択し、そのデバイスを関連付けたいレベルを追加指定します。

ビルのアウトラインを円形に合わせることはできますか?

スマートマップでは、ビルのアウトラインは正方形です。コーナーハンドルでビルの形を調整して実際のビルをカ バーするようMilestoneではおすすめしています。

ビルの平面図に使えるファイルのタイプは何ですか?

対応するカスタムオーバーレイであれば、どれでも使用できます。

- Shapefiles
- CADの描画
- 画像

カスタムオーバーレイ on page 292をご参照ください。

カスタムオーバーレイの最大サイズは?

カスタムオーバーレイの最大サイズは次のとおりです。

- CAD図面:100MB
- 画像: 50MB

Ì

• シェープファイル:80MB

最大サイズは、client.exe.configファイルで値を変更すると調整できます。システム管理者 にご連絡ください。

同一のレベルに複数の平面図を追加できますか?

はい、同じレベルにいくつもの平面図を追加することができます(例:北ウィングと南ウィング1つずつ)。

建物内のデバイスがどのレベルにも関連付けられていない場合はどうなりますか?

その場合、デバイスはすべてのレベルで表示されます。

デバイスがエレベーター内にある場合などは、建物内のレベルとデバイスの関連付けを解除します。デバイスを建物 に追加すると、そのデバイスは選択したレベルに自動的に関連付けられます。デバイスの関連付けを解除するには、 セットアップモードでデバイスを右クリックし、**複数レベルで**[デバイス]を表示を選択して、どのレベルも選択さ れていないことを確認します。

平面図でビルを移動すると、平面図もそれに伴って移動しますか?

いいえ。平面図は元の地理的位置に留まり、セットアップモードだけで見えるようになります。平面図は手動で位置 修正してください。

建物内でレベルを並べ替えると、デバイスはそのレベルにとどまりますか?

はい、デバイスは同じレベルのままになります。

建物を削除すると、平面図とデバイスはどうなりますか?

平面図は削除されますが、デバイスは残ります。

トラブルシューティング:スマートマップ

問題

スマートマップにデバイスが表示されていません

スマートマップにカメラやその他のデバイスが表示されていない場合、システム要素のレイヤーが非表示に設定され ている可能性があります。有効にするには、スマートマップ上のレイヤーを表示または非表示にする on page 291を 参照してください。

デバイスがスマートマップに表示されません

スマートマップに1つ以上のデバイスが表示されるはずなのに表示されない場合は、デバイスの地理的な位置が定 まっていない可能性があります。

この問題を解決するには次のいずれかを実行します:

- 階層表示されたデバイスのリストから、スマートマップにデバイスをドラッグしてください。このアクションは、ユーザープロファイルでデバイスの編集が有効になっている場合にのみ実行できます。
- または、XProtect Management Clientでデバイスプロパティの地理座標を指定するようシステム管理者に依頼してください

エラーメッセージと警告

マップの保存ができません。 操作の一部または全部を実行できません。

XProtect Smart Clientでスマートマップに手動でデバイスを追加しようとしています。XProtect Corporate2017 R2 インストールに対してXProtect Smart Client2017 R1を実行していることが原因です。XProtect Smart Clientはイベ ントサーバーでデバイスの位置を探しますが、XProtect Corporateの2017 R2以降のバージョンではマネジメント サーバーに地域座標が保存されています。

問題を解決するには、XProtect Smart Clientを2017 R2以降のバージョンにアップグレードします。

このデバイスはまだスマートマップに配置されていません

検索結果が選択されていますが、関連デバイスがプレビューエリアのスマートマップに表示されていません。デバイ スが位置情報と併せて配置されていないためです。この問題を解決するには、以下のいずれかの処理を行ってください。

- スマートマップに移動してデバイスを追加します。スマートマップにデバイスを追加する on page 297をご 参照ください。
- XProtect Management Clientでデバイスプロパティの地理的座標を指定するようシステム管理者に依頼して ください。

マップの作成

マップをビューに追加

既存のマップをビューに追加するか、新しいマップを作成することができます。

- 1. ワークスペースツールバーで、**セットアップ**を選択します。
- 2. [システム概要] ペインで、[マップ] アイテムをビュー内の特定の位置にドラッグします。 ウィンドウが表示 されます。
- 3. **[新規マップを作成]**または**[既存のマップを使用]**のいずれかを選択します。三角記号がマップ名の横に 付いている場合は、マップに1つ以上のサブマップがある可能性があることを示します。含まれるサブマップ と要素も追加されます。
- 4. [名前] フィールドにマップの名前を入力します。名前はその位置のタイトルバーに表示されます。



[名前] フィールドを空欄にし、[**ブラウズ**] をクリックすると、[名前] フィールドに選 択した画像ファイルの名前が表示されます。

- 5. [**ブラウズ**]をクリックして、マップとして使用したい画像ファイルを参照します。
- 6. **開く**をクリックして、画像ファイルを選択します。
- 7. [**OK**] をクリックします。
- 8. もう一度[設定]を選択して設定モードを終了し、変更を保存します。



Milestone Federated Architectureをサポートしている監視システムに接続している場合、追加できるのはログインしている監視システムサーバーからのマップだけであることに注意してください。

マップ設定

セットアップモードで、**プロパティ**ペインを使用して、各マップに対するさまざまな設定を調整できます。

名前	説明
ホーム	選択しているマップビューの基本に設定するマップを表示します。このフィールドは読み取り専
マップ	用ですが、選択ボタン ・ をクリックすると、 マップを設定する ウィンドウが開いて、マップを

316 | すべてのユーザーの機能を設定する

名前	説明
	変更できます。
マップの 名前変更	マップ名を編集します。
バックグ ラウンド の変更	マップを変更しますが、マップ上のエレメントの位置の互いの相対関係を保持します。
アイコン サイズ	アイコンサイズ ドロップダウンリストでは、マップに追加する新しいエレメントのサイズを、 極 小から特大まで選択できます。アイコンの角にあるサイズ変更ハンドルを引っ張ると、マップに あるアイコンのサイズを変更できます。
名前を表 示	名前 チェックボックスでは、新しいエレメントを追加するときに、エレメントの名前を表示する かどうかを有効、または、無効にできます。
	マップにエレメントを追加しているがエレメント名が表示されない場合は、必要なエレメントを右クリックし、名前を選択します。エレメント名を表示しない場合は、名前を右クリックし、テキストの削除を選択します。アイコンサイズドロップダウンリストでは、マップに追加する新しいエレメントのサイズを、極小から特大まで選択できます。アイコンの角にあるサイズ変更ハンドルを引っ張ると、マップにあるアイコンのサイズを変更できます。
パンと ズームを 許可	選択すると、ライブモードでマップのパンとズームが可能になります。
マップを 自動最大 化	選択すると、XProtect Smart Clientタイムアウト に定義されている秒数の間、 が使用されない と、ライブモードでマップが自動的に画面全体に最大化されます。タイムアウトの最長秒数は 99,999秒です。
マウス オーバー 時	選択すると、マウスをカメラの上へ移動させたときに、ライブビデオのプレビューを表示しま す。

名前	説明
デフォル トの表示 設定を使 用する	選択すると、プレビューウィンドウが他のビューと同じように表示されるように定義します。こ のチェックボックスをオフにすると、プレビューのタイトルバーおよびライブインジケータの設 定を定義できます。 タイトルバー:選択すると、カメラの名前がタイトルバーに表示されます。 ライブインジケータ:選択すると、ライブビデオのインジケータが表示され、画像が更新される と緑色に点滅します。ライブビデオのステータスを表示する on page 87をご参照ください。ライ ブインジケータを選択できるのは、タイトルバーも選択している場合のみです。
ステータ ス可視化	選択すると、マップに追加されたエレメントのステータスが図示されます。マップにステータス の詳細情報を表示する on page 139をご参照ください。
詳細ス テータス サポート を有効化	オンになっている場合、ライブモードおよび再生モードでカメラとサーバーの詳細ステータスを 表示できます。
アラーム のマップ の自動変 更	選択すると、アラームが関連しているカメラのマップを表示するためにアラームを選択するとき に、プレビューのマップを自動的に変更できます。
上に重ね た場合に のみ表示	カメラ、ビューゾーン、または、プリセットの上にマウスを動かしたときにのみ、カメラビュー ゾーンとPTZプリセットを表示するように選択します。この設定は、ビューゾーンが重複してい たり、複数のプリセットがあるマップ上に複数のカメラがある場合に便利です。デフォルトで は、ビューゾーンとプリセットを表示します。

マップツールボックスの中のツール

マップのツールボックスは、マップを設定するための複数のツールで構成されています。**カメラ、サーバー、マイ ク、スピーカー、イベント**、または**出力**のいずれかを選択すると、カメラ、サーバー、マイク、スピーカー、イベン ト、出力をそれぞれ一覧表示した**エレメントの選択**が表示され、エレメントをマップに配置できます。

マップの右クリックメニュー

セットアップタブでマップまたはマップのエレメントを右クリックして、ショートカットメニューにアクセスできま す。

マップの背景を変更する

マップを更新するが、その中のすべての情報を保持する必要がある場合は、マップの背景だけを交換できます(マッ プの編集に必要な権限がある場合)。これにより、新しいマップで、カメラや他のエレメントを同じ相対位置に保持 できます。マップを右クリックするか、プロパティペインで、マップの背景を変更するを選択します。

マップの削除

ビューのマップを右クリックして、マップを削除を選択します。これにより、カメラ、マイク、スピーカーなどの追加されたエレメントを含むマップ全体が削除されます。マップはビューからのみ削除されます。画像ファイルは監視システムにまだ存在しており、新しいマップを作成するために使用できます。

マップはマップ概要からも削除できます。

マップのエレメントの追加と削除

- 1. セットアップモードで、マップを右クリックして、ツールボックスを選択します。
- ツールボックスで、必要なエレメントアイコンをクリックすると、エレメントの選択ウィンドウが開きます。
- 3. 必要要素を素早く見つけるために、フィルターを使用します。検索条件を入力すると、検索条件に合わせ て、表示されるエレメントの一覧が絞られます。
- 4. エレメントを選択し、マップにドラッグします。
- 5. エレメントを削除するには、必要のないエレメント(カメラ、ホットゾーン、サーバー、イベント、出力、マ イク、またはスピーカー)を右クリックして、 [エレメント] を削除を選択します。
- 6. エレメントを移動させるには、エレメントをクリックして、マップ上の新しい位置にドラッグします。
- エレメントの方向を変えるには、エレメントを選択し、エレメントのサイズ変更ハンドルの1つの上へマウス を移動させます。マウスポインタの形が、曲がった矢印に変わったら、エレメントをクリックしてドラッグ し、新しい位置へ回転させます。

J.



ツールボックスの選択ツールを使用して、エレメントを選択し、マップで移動させるか、 マップをパンします。



マップが、マップ上のエレメントが見えにくい色になっている場合は、テキストボックスを 作成して、マップに対比して見やすい色で塗りつぶします。マップに必要なエレメントを追 加し、それをテキストボックスにドラッグします。



ホットゾーンをマップに追加

- 1. セットアップモードで、マップを右クリックして**ツールボックス**を選択します(マップツールボックスの中のツール on page 318を参照)。
- 2. ツールボックスで、**ホットゾーン**ツールを選択します。



 マウスポインタをマップに移動します。マウスポインタがホットゾーンアイコンとして表示され、ホット ゾーンの描画ができることを示す小さな白い十字が表示されます。



ホットゾーンを描画するには、ホットゾーンの描画を開始するマップをクリックします。アンカーと呼ばれ る大きな青い点によって、開始点がマップに表示されます:



ホットゾーンの描画ツールで作成できるのは、直線のみです。

 ホットゾーンの境界線を曲線にする場合は、短い直線を多数使用します。ホットゾーンの開始点をクリック して、ホットゾーンの描画を完了します。これでホットゾーンの外形が点線で描かれて、サブマップがホッ トゾーンに添付されていないことを示します。

ホットゾーンの輪郭は、ホットゾーンアンカーを引っぱることで変更できます。

5. サブマップをホットソーゾンに追加するには、点線で描かれたホットソーゾンをダブルクリックして、マッ プ設定ウィンドウに追加します。

カラーツールを使用してホットゾーンの色を変更できます。異なる色をホットゾーンに使用することで、隣接する ホットゾーンを区別できます。 Milestone Federated Architectureをサポートする監視システムに接続している場合(組織の XProtect 製品と拡張機能 on page 27を参照)、単一のマップ上で最大20のホットゾーンが他 の監視システムサーバーからのマップを示すこともできます。ログインしているサーバーに 属するマップに対するホットゾーンには、このような制限はありません。

マップのエレメントの外観の変更

マップ上のテキスト、背景、ホットゾーンなどの色を変えて、マップエレメントを互いに区別することができます。

- 1. セットアップモードで、マップを右クリックして、ツールボックスを選択します。
- 2. 変更するエレメントを選択します。
- 3. ツールボックスで、色塗りつぶしツール 💊 を選択します。これにより、**色の選択**ウィンドウが開きます。

カラーピッカーツール
を使用してマップから既存の色を使用します。

- テキストエレメントにのみ適用されます:色の変更をテキストまたは背景に適用するかを選択します。カ ラーパレットから色を選択します。
- 5. 選択した色のプレビューが[EXAMPLE]ボックスに表示されます。
- 6. マップエレメントをクリックし、新しい色で塗りつぶします。

階調の調整

階調スライダーを使用して、エレメントの色を左から右にどのように薄めるかを調整します。

右端にスライダーをドラッグすると、エレメントの右側がフェードがかかり薄くなります。左端にスライダーをド ラッグすると、エレメントの色はほとんどフェードがかかりません。

階調スライダーを必要なレベルにドラッグし、マップエレメントをクリックして、色と階調を適用します。

A < > ⊕ GlostrupCenter	Carriera 4		
Tools a	Color Selection		E
	Apply color selection to	-	
	 Background Text 	EXAMPLE	
	Adjustments		
		Gradient	
		Opacity	^
· • • • • • • • • • • • • • • • • • • •			
	0	RGB HE	5V
		R 255 н	340
Camera 1	and the second se	g o s	100
	and the second se	8 83 V	100
			100000000000000000000000000000000000000
		Hexadecimal notation	
Camera 3		#FFFF0053	
			100
The A Real Provention and	Simple		
Camera 3	Simple	G 0 S B 83 V Hexadecimal notation #FFFF00S3	100

不透明度の調整

不透明度スライダーを使用して、塗りつぶし色の透明度を調整します。

不透明度スライダーを右端にドラッグすると、色が完全に透明になり、**不透明度**スライダーを左端にドラッグすると 色が完全に不透明になります。

不透明度スライダーを必要なレベルにドラッグし、マップエレメントをクリックして、色と不透明度を適用します。



詳細な色変更

マップエレメントは、任意の色で塗りつぶすことができます。**色の選択**ウィンドウの**詳細**ボタンをクリックして、色の詳細選択オプションにアクセスします。以下のいずれか1つを実行します。

- 色スライドを使用して、主な色合いを選択し、色彩円をドラッグして必要な色調を選択します。
- 16進表記フィールドに16進数の色コードを入力します。

マップ上でのラベルの編集と回転

マップのすべてのエレメントには、識別用のラベルが付けられています。

マップ上に多数のエレメントがある場合、すべてのラベルに十分な場所を確保することが難しい場合があります。デバイス名を編集するには、ラベルを選択し、デバイスの新しい(短い)名前を入力します。



ラベルの名前を変更すると、マップ上のラベルのみが変更され、システムのカメラまたはエ レメントの名前は変わりません。

また、ラベルを回転して、ラベルが重複しないようにすることもできます。マップのラベルを回転するには、以下の 操作を実行します。

ラベルを選択し、サイズ変更ハンドルのいずれかの上にマウスを置きます。マウスポインタの形が、曲がった矢印に変わったら、ラベルをクリックしてドラッグし、新しい位置へ回転させます



マップのスペースを無駄にしないもう1つの方法として、ビューゾーンとPTZプリセットを重 ねた場合にのみ表示するよう選択することができます(マップ設定 on page 316を参照)。

マップのテキストを追加/編集

テキストはマップの任意の場所に挿入できます。たとえば、メンテナンスについてユーザーに情報を提供する場合な ど。

- 1. セットアップモードで、マップを右クリックして、ツールボックスを選択します。
- 2. ツールボックスで、テキストツールを選択します。



3. フォントの選択ウィンドウで、テキスト設定を編集します。



テキスト設定はいつでも編集できます。必要なテキストボックスをクリックし、ツー ルボックスからテキストツールを選択して、選択したテキストボックスのテキスト設 定を変更します。

- 4. マップ上のテキストを挿入する場所をクリックします。
- 5. テキストを入力します。キーボードのENTERを押すと、テキストボックスが下方に拡張します

●塗りつぶしツールを使用して、テキストの色と背景を変更することができます。



テキストボックスは移動させることができます。選択ツールを選択し、マップ上のテキスト ボックスをつかみ、テキストボックスを移動させます。

$FAQ: \neg \neg \neg$

マップに使用できる画像ファイルの形式とサイズは?

マップにはbmp、gif、jpg、jpeg、png、tif、tiff、およびwmpのフォーマットのファイルを使用できます。

画像ファイルサイズと解像度は、10MGおよび10メガピクセル以下にすることをお勧めします。大きな画像ファイル を使用すると、XProtect Smart Clientのパフォーマンスが低下することがあります。20MBまたは/および20メガピ クセル、またはその両方以上の画像は使用できません。

マップは、グラフィックファイルのプロパティに基づき、Microsoftの標準に従って、XProtect Smart Clientに表示 されます。マップが小さく表示される場合は、ズームインできます。

マップの背景を変更しても、カメラの相対位置を保つことはできますか?

可能。マップを更新するが、その中のすべての情報を保持する必要がある場合は、マップの背景だけを交換できます (マップの編集に必要な権限がある場合)。これにより、新しいマップで、カメラや他のエレメントを同じ相対位置に 保持できます。マップを右クリックするか、プロパティペインで、マップの背景を変更するを選択します。

マップからスマートマップへの移行

マップからスマートマップへの移行

マップ移行ツールを使用して、数回の手順でマップ機能をスマートマップに移行することができます。マップ移行 ツールを使用すると、マップ機能から既存のマップ画像をスマートマップに転送できるため、手動でアイテムをス マートマップに追加する必要がありません。スマートマップは従来のマップよりも高度な機能を備えています。ス マートマップは高度なマルチサイト設定でGoogle MapsやBing Mapsといったマップサービスと接続することがで き、一元的なロケーションから複数のサイトを監視することができます。

スマートマップを使用すると次のことができます。

- 既存のオフラインマップをGoogle Maps、Bing Maps、OpenStreet Map、またはMilestone Map Serviceな どのオンラインマップに接続することができます。
- お客様のMilestone XProtect VMSがMilestone Federated Architecture設定の一部である場合、XProtect
Smart Clientで一つの一元化されたマップから他のロケーションのマップにアクセスできます。

ビジュアルフィードバックを直ちに取得:アラームがトリガーされるとスマートマップ上に正確なアラームのロケーションが表示されるため、状況をすばやく評価して対応することができます。

マップ移行ツールを用いたマップからスマートマップへの移行

マップ移行ツールを使用してマップ画像デバイスおよび入退室管理ユニットの位置を既存のマップからスマートマップへ移行します。

前提条件:

- お客様が意図せずスマートマップ上のアイテムを移動してしまう事態を避けるために、マップ移行を開始する前に設定をバックアップすることをお勧めします。
- 新しいスマートマップを設定するには、無料のビューアイテムを使用して少なくとも1つのビューを設定する 必要があります。
- XProtect Smart Clientの設定モードにアクセスできる権限が必要です。

マップからスマートマップへアイテムを移行するには:

- 1. XProtect Smart Clientの上部リボンで設定モードに入ります。
- スマートマップの左側のツールバーで、[カスタムオーバーレイの追加またはマップのインポート]をクリックします。
- 3. マップ画像を追加したいスマートマップの位置にマウスカーソルを合わせ、その場所をクリックします。
- 4. カスタムオーバーレイの追加ウィンドウで、以下を指定します
 - (オプション)マップ画像に名前を付けます。マップオーバーレイの名前を入力しなかった場合、 マップには自動的にマップオーバーレイのファイル名と同じ名前が付与されます。
 - オーバーレイタイプとしてMapsを選択し、ドロップダウンリストから追加するマップを選択します。
- 5. 情報メッセージを確認します。システム設定が既にバックアップされているか確認してください。
- インポートしたマップオーバーレイを地理的に正しいコンテキストでスマートマップに配置します。マップ オーバーレイのサイズを変更したり、移動・回転させたりして、スマートマップの適正な位置に合うよう に、あるいはビルのレイアウトに合うように調整できます。

マップオーバーレイのサイズや位置が満足できるものになった後、変更を保存します。

- マップにデバイスまたは入退室管理ユニットが含まれている場合は、画像マップのみを移行するか、すべてのアイテムを移行するかを選択します。
- 8. すべてのアイテムのインポートを選択し、一部のアイテムがスマートマップにすでに追加されている場合 は、位置を変更する必要があります。現在の位置を保持するか、変更するかを選択します。

選択を終えると、Windowsデスクトップ通知によりアイテムを追加したことを確認する通知が表示されます。

各マップ画像に対してこの手順を繰り返し、スマートマップに追加します。スマートマップ上の既存のアイテムを アップデートする場合など、必要に応じて、同一のマップ画像をスマートマップに再度追加できます。

スクリプトの作成

ログインスクリプト

XProtect Smart Clientヘログインするためのスクリプト

スクリプトを使用すると、XProtect Smart Clientでログイン手順の一部またはすべてをコントロールできます。

- 基本認証またはWindows認証を使用している場合、XProtect Smart Clientログインウィンドウに、あらかじめ情報が入力されたサーバーアドレスフィールドとユーザー名フィールドを表示できます。これで、ユーザーはパスワードを入力するだけでログインできます。
- Windows認証(現行ユーザー)を使用している場合、ユーザーの現在のWindowsログインにもとづいて XProtect Smart Clientを監視システムに自動的に接続できます。

基本的な認証またはWindows認証に基づいてログイン手順のスクリプトを作成するには、暗 号化されていない機密情報を、XProtect Smart Clientプログラム ファイルでローカルに保存 されているSCSファイルに追加する必要があります。

- ホスト名
- ユーザー名
- パスワード



暗号化されていない情報を保存すると、システムのセキュリティまたはGDPRコンプライア ンスに支障をきたす可能性があります。SCSファイルの情報を読み取ることができます。

- ファイルにアクセスできる任意の人物
- SCSファイル、またはユーザー名とパスワードを提供するコマンドラインで開始され たXProtect Smart Clientアプリケーションのメモリフットプリント

Milestoneでは、Windows認証(現在のユーザー)を使用するようお勧めしています。基本的 な認証またはWindows認証を使用する必要がある場合は、SCSファイルへのアクセスを限定 しなくてはなりません。

ログインのスクリプト-パラメータ

次のパラメータを使用できます:

ServerAddress

XProtect Smart Clientが接続する管理サーバーのURLを参照します。

次の例は、**サーバーアドレス**フィールドに*http://ourserver*と入力された場合のXProtect Smart Clientログインウィ ンドウを示しています。

Client.exe -ServerAddress="http://ourserver"

デフォルト認証タイプは**Windows認証(現行ユーザー)**です。これを変更しない限り、**AuthenticationType**パラメー タ(以下のセクションで説明)を使用すると、ログインウィンドウの**ユーザー名**フィールドに現在のWindowsユーザー の名前が自動的に表示されます。

UserName

特定のユーザー名を指します。

次の例は、ダイアログのXProtect Smart Clientサーバーアドレスフィールドにhttp://ourserver、ユーザー名**フィー ルドに**Tommy**と入力された**のログインウィンドウを示しています。

Client.exe -ServerAddress="http://ourserver" -UserName="Tommy"

このパラメータは、Windows認証および基本認証にのみ適用されます。どの認証方法を使用 するかは、AuthenticationTypeパラメータを使って指定します。

パスワード

Ì

特定のパスワードを参照します。

次の例は、ダイアログのXProtect Smart Clientサーバーアドレスフィールドにhttp://ourserver、ユーザー名フィー ルドにTommy、パスワードフィールドにT0mMy5Pa55w0rDと入力されたのログインウィンドウを示しています。

Client.exe -ServerAddress="http://ourserver" -UserName="Tommy" -Password="TOmMy5Pa55w0rD"

このパラメータは、Windows認証および基本認証にのみ適用されます。どの認証方法を使用 するかは、AuthenticationTypeパラメータを使って指定します。

AuthenticationType

+XProtect Smart Clientで使用できる3つの認証方法、Windows認証(現行ユーザー) (起動スクリプトでは WindowsDefaultと呼ばれる)、Windows認証(起動スクリプトではWindowsと呼ばれる)、または基本認証(起 動スクリプトではSimpleと呼ばれる)のうち1つを指します。

次の例は、ダイアログのXProtect Smart Clientサーバーアドレスフィールドにhttp://ourserver、認証フィールドに 基本認証、ユーザー名フィールドにTommy、パスワードフィールドにT0mMy5Pa55w0rD(アスタリスクでマスキ ング)と入力されたのログインウィンドウを示しています。 Client.exe -ServerAddress="http://ourserver" -UserName="Tommy" -Password="TOmMy5Pa55w0rD" -AuthenticationType="Simple"

Windows認証を使用する場合、例は次のようになります:

```
Client.exe -ServerAddress="http://ourserver" -UserName="Tommy" -
Password="TOmMy5Pa55w0rD" -AuthenticationType="Windows"
```

Windows認証(現行ユーザー)を使用している場合、**UserName**パラメータと**Password**パラメータは不要となる ため、例は次のようになります。

```
Client.exe -ServerAddress="http://ourserver" -
AuthenticationType="WindowsDefault"
```

スクリプト

.scsスクリプト(XProtect Smart Clientを制御するスクリプトタイプ)への完全なパスを指します。

次の例では、.scsスクリプトを使ってログインします:

Client.exe -Script=c:\startup.scs

現在のWindowsユーザーを使用して*http://ourserver*ヘログインする.scsは次のようになります。

<ScriptEngine>

<Login>

<ServerAddress>http://ourserver</ServerAddress>

<AuthenticationType>WindowsDefault</AuthenticationType>

</Login>

</ScriptEngine>

XProtect Smart Clientの関数呼び出しを使用して(関数呼び出しのリストを見る、を参照)、.scsスクリプトへ機能 を追加できます。以下の例では、以前の例からの.scsスクリプトもXProtect Smart Clientアプリケーションを最小化 するように、行を追加しています。

<ScriptEngine>

<Login>

<ServerAddress>http://ourserver</ServerAddress>

<AuthenticationType>WindowsDefault</AuthenticationType>

</Login>

<Script>SCS. Application.Minimize();</Script>

</ScriptEngine>

フォーマット

有効なパラメータフォーマットは次のとおりです:

```
{-,/,--}param{ ,=,:}((".')value(",'))
```

例:

-UserName Tommy

--UserName Tommy /UserName:"Tommy" /UserName=Tommy -Password 'Tommy'

ナビゲーション用のHTMLページスクリプト

ナビゲーション用のHTMLページのスクリプト

スクリプトを使用すると、ビューを切り替えられるHTMLページを作成できます。HTMLページをビューに追加する と、カメラのビデオとともに表示できます。

329 | すべてのユーザーの機能を設定する

例えば、HTMLページにはクリック可能な平面図を挿入できます。オペレータは平面図の一部をクリックするだけで、すぐにビューを切り替えて建物の該当部分のビデオを表示できます。

要件

- お使いのXProtect VMSシステムがSmart Clientプロファイルに対応している場合、Smart Clientにおいて、 必要なXProtect Management ClientプロファイルでHTMLスクリプトを有効にする必要があります。
- お使いのXProtect VMSシステムがSmart Clientプロファイルに対応していない場合、Client.exe.configファ イルでHTMLスクリプトを有効にする必要があります。

ボタンを使ったHTMLページのナビゲーション例

簡単な解決策として、ナビゲーションボタンのあるHTMLページを作成する方法があります。HTMLページでは、さ まざまなボタンを作成できます。この例では、2種類のボタンを作成しています。

• のビューを切り替えるボタンXProtect Smart Client

使用するHTML構文:

<input type="button" value=" Buttontext" onclick="SCS. Views.SelectView ('Viewstatus.Groupname. Viewname');">

ここで、**Viewstatus**はビューが共有ビューか個人ビューかを示します(HTMLページを複数のユーザーへ配 信する場合は、ビューが共有である**必要があります**)。

実際のボタンの例:

<input type="button" value="Go to Shared Group1 View2" onclick="SCS. Views.SelectView('Shared.Group1. View2');">

このボタンを使って、ユーザーは**Group1**という名前の共有グループにある**View2**というビューへ移動することができます。

ライブモードと再生モードを切り替えるボタン:ユーザーの権限によっては、モードに切り替えることがで きないユーザーもいることに注意してください。

ライブモードに必要なHTML構文:

```
<input type="button" value="Buttontext" onclick="SCS. Application.ShowLive ();">
```

再生モードに必要なHTML構文:

<input type="button" value="Buttontext" onclick="SCS. Application.ShowBrowse();"> Ø

上級ユーザーの場合、XProtect Smart Clientで提供されているおよそ100種類の関数呼び出し を使って、他にも多くの種類のボタンを作成できます。

ここでは、XProtect Smart Clientで2つの共有グループを作成します。この2つのグループを**Group1**と**Group2**とします。各グループには、**View1**と**View2**という2つのビューがあります。

4つの異なるビューの間、および、ライブと再生モードの間で切り替えられるボタンが付いたHTMLページも作成しました。ブラウザで開くと、作成したHTMLページは次のようになります:



ビューとタブの間を移動するためのボタンが付いたHTMLページ

HTMLページをローカル(ここではユーザーのC:ドライブ)に保存します。HTMLページを使ってナビゲートする場合、互換性モードで開けるようにするにはHTMLページをローカルに保存する必要があります。ビューにウェブページを追加する on page 266をご参照ください。

HTMLページをローカルに保存する場合、一意のパスを定義できる場所へ保存します。例えば、ユーザーのC:ドライ ブ内のフォルダー (例:C:\myfolder\file.htm)。ユーザーのデスクトップやマイドキュメントフォルダーに HTMLページを保存すると、Windowsがその場所へのパスを構築する方法が原因で正しく動作しない場合がありま す。

次に、必要なXProtect Smart ClientビューへHTMLページをインポートします。

画像マップ付きのHTMLページのナビゲーション例

ビューを切り替えるためのイメージマップなど、より高度なコンテンツを含むHTMLページを作成することができま す。

次の例では、前述の例で使用した2つのグループと2つのビューを使用します。ボタンを使用する代わりに、平面図の 画像のあるHTMLページを作成し、その平面図に基づいてイメージマップを作成します。ブラウザで開くと、作成し たHTMLページは次のようになります。



ビューをナビゲートするためのイメージマップを含むHTMLページ

この例では、平面図を4つに色分けし、それぞれのゾーンにイメージマップエリアを定義しています。ゾーンをク リックするだけで、そのゾーンのカメラが表示されたビューへ移動することができます。

たとえば、このイメージマップの赤いゾーンは、前述の例の共有Group2のView2へ移動ボタンに該当します。赤い ゾーンをクリックすると、Group2のView2へ移動します。

HTMLページのインポート

ナビゲーションHTMLページをビューにインポートする操作は、基本的には他のタイプのHTMLページをXProtect Smart Clientのビューにインポートする操作と変わりません。ビューにウェブページを追加する on page 266をご参 照ください。

HTMLページは、オペレータのコンピュータにローカルで保存する必要があります
 ナビゲーションが正常に機能するよう、HTMLページを複数のビューにインポートするようお勧めします

システム管理者のためのチェックリスト

ナビゲーションHTMLページを作成してXProtect Smart Clientオペレータに配布するには、以下の手順に従います:

- 必要なHTMLページを作成します。HTMLページに含まれているナビゲーションコントロールは、XProtect Smart Clientでユーザーに表示されるビューと一致している必要があります。たとえば、View1へ移動するボ タンを動作させるには、View1という名前のビューがユーザーのXProtect Smart Clientインストールに含ま れていなくてはなりません。HTMLページをユーザーのグループへ送信する場合は、HTMLページで使用する ビューがシェアードグループになければなりません。
- HTMLページを使用するコンピュータに、HTMLページをローカルに保存します。HTMLページをローカルに 保存する場合、一意のパスを定義できる場所へ保存します。例えば、ユーザーのC:ドライブ内のフォルダー (例: C:\myfolder\file.htm)。ユーザーのデスクトップやマイドキュメントフォルダーにHTMLページを 保存すると、Windowsがその場所へのパスを構築する方法が原因で正しく動作しない場合があります。
- 3. XProtect Smart Client内の該当するビューにHTMLページを**インポート**します。ビューにウェブページを追

加する on page 266をご参照ください。

4. インポートされたHTMLページのナビゲーションコントロールが正しく動作するかどうかテストします。

トラブルシューティングの詳細については、トラブルシューティング:ビューにウェブページを追加する on page 268を参照してください。

ユーザーアシスタンスへのアクセス

ユーザーアシスタンスへのアクセスを有効または無効にする

システム管理者から権限を付与されている場合は、XProtect Smart Client 内のユーザーアシスタンスへの直接のア クセスを有効または無効にすることができます。

1. グローバルツールバーで [設定とその他] 、次に [設定] を選択します



2. [アプリケーション] タブのヘルプリストで、以下のいずれかのオプションを選択します。

• [使用不可]を選択してユーザーアシスタンスを無効化します。

F1を押しても何も起こらなくなります。XProtect Smart Client 内のコンテキスト依存リンクと [ヘル プ] ボタンが非表示になります。

• [利用可]を選択してユーザーアシスタントを有効にします。

F1を押すと、XProtect Smart Client ユーザーアシスタンス内の関連するトピックが開きます。コン テキスト依存リンクと [**ヘルプ**] ボタンが使用できます。

XProtect Smart Client 設定の概要

XProtect Smart Client:設定の概要

XProtect Smart Client: 「設定の概要」は、XProtect Smart Clientの設定を構成およびカスタマイズする方法に関するガイドです。

対象のトピック

このガイドの目的は、特定のニーズと希望に応じて作業環境を調整することで、XProtect Smart Clientの使用を最適 化できるようにすることです。

このガイドは、アプリケーション内のタブ設定に応じて次のカテゴリに分類されます。

- 一般アプリケーション設定、ペイン、タイムライン、ジョイスティック、キーボード、言語
- エクスポート、マップ、検索、アラーム、入退室管理のオプション

対象者

このガイドの対象者には、組織内でのXProtect Smart Clientの管理と設定に責任を負うシステム管理者、IT担当者、 技術スタッフが含まれています。

設定ウィンドウを開く

[設定] ウィンドウが表示されます。

設定ウィンドウによって、たとえば、言語の選択、ジョイスティックの設定、キーボードショートカットの設定など それぞれのタブで使用する機能や要素を管理できます。

• グローバルツールバーで [設定とその他] 、次に [設定] を選択します



異なる設定タブ

アプリケーション設定

アプリケーションの設定を使用すると、XProtect Smart Clientの全体的な動作や外観をカスタマイズできます。

サーバーに従う列に入力できる場合は、XProtect Smart Clientがサーバーの推奨設定に従うように指定することがで きます。一部の設定はサーバーによって制御されます。ユーザーが設定を上書きできるかどうかはサーバーでの設定 によって決まります。

名前	説明
アプリケー ションの最 大化	最大化ボタンをクリックした場合のXProtect Smart ClientでのWindowsの反応を指定します。 ウィンドウを最大化した場合にWindowsのタスクバーが隠れることを防ぐため、[通常のウィ ンドウとして最大化]を選択します。
カメラエ ラーメッ セージ	XProtect Smart Clientによってカメラ関連のエラーメッセージの表示方法を指定します。これ らは、カメラ画像の上に重ねて、または黒い背景上に表示するか、あるいは、非表示にできま す。
	カメラのエラーメッセージを 非表示 にすると、カメラへの接続が失われ たことをオペレータが見落としてしまうリスクが生じます。
サーバーエ ラーメッ セージ	XProtect Smart Clientによってサーバー関連のメッセージテキスト表示方法を指定します。こ れらは、カメラ画像の上に重ねて、または黒い背景上に表示するか、あるいは、非表示にでき ます。
ライブビデ オのメッ セージが停 止しました	カメラが接続されているが、カメラがライブビデオを送信していない場合に、XProtect Smart Clientがメッセージを表示するかどうかを指定します。メッセージは、カメラ画像の上に重ね て、または黒い背景上に表示するか、あるいは、非表示にできます。
カメラのタ イトルバー のデフォル ト	カメラのタイトルバーを表示するか、または、非表示にするかを選択します。タイトルバーに は、カメラの名前が表示され、色付きのインジケータは際立ったイベント、検出されたモー ションやビデオを意味します。
	 セットアップモードでは、カメラに対してカメラプロパティを調整する ことで、カメラごとにこの設定を上書きすることができます。
タイトル バーに現在 の時刻を表 示	タイトルバーに(XProtect Smart Clientを実行しているコンピュータの) 現在の日付と時刻を 表示するかどうかを指定します。

名前	説明	
空のビュー 位置に表示	ビュー内に空白のビューアイテムがある場合、何を表示するか(ロゴを選択できるようにする か、または単に黒い背景を表示するかなど)を指定します。	
画面境界の 表示	ビュー内でそれぞれのビューアイテムを隔てる境界線の幅を指定します。	
デフォルト の画質	XProtect Smart Clientで表示するデフォルトの画質の指定は、JPEGストリームを見る場合にのみ使用できます。H264およびH265など他のコーデックを見ている場合に画質を落とすと、JPEGに再エンコードする際の帯域幅やCPU、GPUの使用量が増えます。	
	画質は帯域幅の使用にも影響する点に注意してください。XProtect Smart Clientをインター ネットや低速ネットワーク接続で使用しているか、その他の理由で帯域幅の使用を制限しなけ ればならない場合、 低 または 中 を選択してサーバー側で画質を低くすることができます。	
	 セットアップモードでは、カメラに対してカメラプロパティを調整する ことで、カメラごとにこの設定を上書きすることができます。 	
デフェルト	XProtect Smart Clientで表示されるビデオのデフォルトフレームレートを選択します。	
テフォルト のフレーム レート	 セットアップモードでは、カメラに対してカメラプロパティを調整する ことで、カメラごとにこの設定を上書きすることができます。 	
	ライブビデオをジッターなく滑らかに表示するためのビデオバッファを指定できます。	
デフォルト のビデオ バッファ	ビデオバッファによって、ビューに表示されるそれぞれのカメラのメモ リ使用が大幅に増加します。大きなビデオバッファを必要としない場合 は、バッファリングレベルをできるだけ低く保ってください。	
デフォルト	お使いのPTZカメラのデフォルトのPTZクリックモードを指定します。オプションは、クリッ	

名前	説明
のPTZク リックモー ド	ク箇所を中央へ、または、仮想ジョイスティックです。個々のカメラで異なるデフォルトPTZ クリックモードを選択すると、個々のカメラの設定を上書きできます。
メインウィ ンドウの開 始モード	ログイン後に開くXProtect Smart Clientのメインウィンドウのスクリーンモードを指定しま す。オプションは、 フルスクリーン、最大化、ウィンドウ、最後 です。
	最後にXProtect Smart Clientからログアウトしたときに開いていたウィンドウやタブを復元す るかどうかを指定します。選択肢は以下のとおりです:
ウィンドウ トクゴ ち 復	 最後:XProtect Smart Client からログアウトしたときに開いていたすべてのウィンドウとタブを常に復元します。
とタブを復 元	 該当なし:XProtect Smart Clientからログアウトしたときに開いていたすべてのウィンドウとタブを復元しません。
	 尋ねる:ログインすると、前回のセッションから XProtect Smart Client ウィンドウと タブを復元するかどうか尋ねられます。
	操作が一定時間行われない際に、マウスポインターを非表示にするかどうかを指定します。マ ウスポインタを非表示にするまでの経過時間を指定できます。デフォルトオプションは5秒後 です。選択肢は以下のとおりです:
	 設定しない
マウスポイ ンタを非表	• 5秒後
示	• 10秒後
	• 20秒後
	 30秒後
	アイドル時間の後にマウスを動かすと、ただちに有効になります。
スナップ ショット	スナップショットを撮って共有する on page 145。
スナップ	スナップショットを保存する場所を指定します。

名前	説明
ショットの 保存パス	
ヘルプ	XProtect Smart Clientでヘルプを利用できるかどうかを選択します。無効にすると、F1キーを 押しても何も起こらず、状況に応じたリンクは消え、 設定その他 メニューからヘルプにアクセ スできなくなります。
スナップ ショットの タイムスタ ンプ	スナップショット上でタイムスタンプを表示するか非表示にするかを選択します。 表示 を選択 した場合、印刷およびコピーされたスナップショットにもタイムスタンプが表示されます。
スナップ ショットの カメラ名	スナップショット上でカメラ名を表示するか非表示にするかを選択します。 表示 を選択した場 合、印刷およびコピーされたスナップショットにもカメラ名が表示されます。
ビデオ チュートリ アル	ユーザーが 設定その他 メニューからXProtect製品のビデオチュートリアルにアクセスできるか どうかを指定します。

ペイン設定

ペインの設定では、特定のタブでペインを表示するかどうかを指定できます。

ー部のペインには使用できない機能も含まれていますが、これはユーザー権限か、接続して いる監視システムのどちらかが原因です。

モード列には、ペインがどこで使用可能であるかが表示され、**機能**列には、ペインの名前が一覧表示されます。さら に、**設定**列では、ペインを使用できるか、できないかを指定します。

サーバーに従う列に入力できる場合は、XProtect Smart Clientがサーバーの推奨設定に従うように指定することがで きます。一部の設定はすでにサーバーから設定されいる場合があります。この場合はサーバーでの設定によって、 ユーザーがこれらの設定を上書きできるかどうか決まります。

機能設定

機能の設定では、特定のXProtectSmartClientタブに表示する機能(たとえば、ライブモードで再生)を指定できます。

[モード]列には、ペインがどこで使用可能であるかが表示され、[機能]列には、機能の名前が一覧表示されます。さらに、[設定]列では、ペインを使用できるかどうかを指定します。

サーバーに従う列に入力できる場合は、XProtect Smart Clientがサーバーの推奨設定に従うように指定することがで きます。一部の設定はすでにサーバーから設定されいる場合があります。この場合はサーバーでの設定によって、 ユーザーがこれらの設定を上書きできるかどうか決まります。

名前	説明
ライブ> カメラ再 生	ライブモードで、個別のカメラで録画されたビデオを再生できる機能。
ライブ> オーバー レイボタ ン	スピーカーの起動、イベント、出力、PTZカメラの移動、カメラからのインジケーターを消去す る等の機能を持つ、ライブモードのオーバーレイボタンを表示および使用する機能。
ライブお よび再生 >ブック マーク	ライブまたは再生モードで、ビューアイテムのツールバーから、または設定済みのオーバーレイ ボタンを通して、クイックブックマークまたはブックマークの詳細を追加するかどうかを選択し ます。 再生モードでこのオプションを有効/無効にすると、検索 タブで、対応するボタンを有効 にするかどうかを制御できます。
	 ユーザー権限によっては、一部のカメラからブックマーク追加機能にア クセスできない場合があります。
ライブ お よび 再生 > 印刷	ライブまたは再生モードで印刷する機能。 再生モードでこのオプションを有効/無効にすると、 検索 タブで、対応するボタンを有効にするかどうかを制御できます。
ライブ お よび 再生	すべてのカメラで、バウンディングボックスをライブモードでライブビデオに表示する、もしく は再生モードで録画済みビデオで表示する機能。バウンディングボックスは、たとえば対象物を

名前	説明
	追跡する場合などに便利です。
>バウン ディング ボックス	バウンディングボックス機能が使用できるのは、特定の監視システムおよびメタデータをサポートしているカメラに接続されている場合だけです。ユーザー権限によっては、一部のカメラからバウンディングボックスへのアクセスが制限される場合があります。
再生>独 立再生	デフォルトではビュー内のすべてのカメラが同じ時刻(再生時刻)から録画を再生するのに対 し、再生モードで個別のカメラの録画を独立した形で再生する機能です。 録画したビデオをメインのタイムラインとは別に表示 on page 176をご参照ください。
設定> オーバー レイボタ ンの編集	セットアップモードで、新規または既存のオーバーレイボタンを追加する機能。オーバーレイボ タンを追加するには、 オーバーレイボタン のリストが 利用可能 に設定されている必要があります (これは 設定 ウィンドウの ペイン タブで行います)。
設定>ビ デオバッ ファリン グの編集	ビデオバッファを編集する機能は、セットアップモードのカメラプロパティの一部です。ライブ ビデオバッファを編集するには、 セットアップ タブの プロパティ ペインが利用できるようになっ ていなければならない点に注意してください(これは、 設定 ウィンドウズのダイアログの ペイン タブで設定します)。

タイムライン設定

タイムライン 設定では、XProtect Smart Clientのタイムラインの標準設定を指定することができます。

サーバーに従う列に入力できる場合は、XProtect Smart Clientがサーバーの推奨設定に従うように指定することがで きます。一部の設定はサーバーによって制御されます。ユーザーが設定を上書きできるかどうかはサーバーでの設定 によって決まります。

名前	説明
受信音声	タイムライン追跡に表示するものを設定 on page 99をご参照く

名前	説明
送信音声 追加情報 追加マーカー ブックマーク モーション表示 すべてのカメラのタイムライン	ださい。
再生	録画間のギャップの再生を設定する on page 99をご参照くださ い。
操作がない場合はタイムラインを非表示に する Smart Wallビューでタイムラインを非表示 にする	メインタイムラインを非表示にする on page 100を参照

エクスポート設定

エクスポートの設定では、一般的なエクスポートの設定を指定できます。

サーバーに従う列に入力できる場合は、XProtect Smart Clientがサーバーの推奨設定に従うように指定することができます。一部の設定はすでにサーバー制御であり、この場合、サーバーの設定によって、ユーザーがこれらの設定を上書きできるかどうかが決まります。

名前	説明
エクスポート 先	エクスポート先のパスを選択します。
プライバシー マスク	エクスポートしたビデオで、プライバシーマスクで特定の領域をカバーするか否かを選択 します。

名前	説明
	ここで追加したプライバシーマスクは、現行のエクスポート、および選択されたビデオに のみ適応されます。エクスポートは、システム管理者によってプライバシーマスクが設定 されたビデオをすでに含んでいる可能性があります。これらのプライバシーマスクは、 Management Client> デバイス >カメラ> プライバシーマスク で設定されています。
メディアプ レーヤーの フォーマット	Media Player形式でのエクスポートを可能にするか不可にするかを選択します。
メディアプ レーヤーの フォーマッ ト:ビデオの テキスト	Media Player形式でエクスポートする場合、ビデオのテクストをオプション、必須、使用 不可のどの設定にするか選択します。ビデオテキストにより、ユーザーはエクスポートさ れた録画にオーバーレイテキストを追加することができます。
メディアプ レーヤーの フォーマッ ト:ビデオ コーデックの プロパティ	Media Player形式でエクスポートする場合、コーデック設定を利用可能にするか利用不可 にするかを選択します。コーデックのプロパティは、選択されたコーデックに依存しま す。すべてのコーデックがこのオプションをサポートしているわけではありません。
XProtect フォーマット	XProtect形式でのエクスポートを可能にするか不可にするかを選択します。
XProtect フォーマッ ト:プロジェ クトのコメン ト	XProtect形式でエクスポートする場合、プロジェクトのコメントをオプション、必須、使 用不可のどの設定にするか選択します。
XProtect フォーマッ ト:デバイス のコメント	XProtect形式でエクスポートする場合、デバイスのコメントをオプション、必須、使用不 可のどの設定にするか選択します。
静止画像エク スポート	静止画像をエクスポートできるかどうかを選択します。

スマートマップ設定

Bing Maps APIもしくはGoogle Maps APIを使用するために、Bing Mapsキー、または、Google Mapsクライアント IDを入力します。



これらの設定は、管理者によってXProtect Management Clientで許可されている場合に限り 編集できます。

名前	説明
Milestone Map Service	Milestone Map Serviceを地理的背景として使用できるかどうか指定します。 [利用不 可]を選択すると、XProtect Smart Clientはオプションとして表示しません。
OpenStreetMapサー バー	システム管理者が指定したものとは別のタイルサーバーを使用する場合は (OpenStreetMapタイルサーバーの変更 on page 288を参照)、ここにサーバーア ドレスを入力します。
レイヤー追加時にロ ケーションを作成す る	ユーザーがカスタムオーバーレイを追加時、ロケーションを作成するかどうかを指定 します。詳細については、スマートマップにカスタムオーバーレイを追加する on page 293をご参照ください。
Bing マップキー	Bing Maps API用に生成したプライベート暗号化キーを入力または編集します。
Googleマップ用クラ イアント ID	Google Static Maps API用に生成したクライアントIDを入力または編集します。
Google マップ用プラ イベートキー	Google Static Maps API用に生成したプライベート暗号化キーを入力または編集しま す。
Google MapsのURL 署名シークレット	Google Static Maps APIで取得したサイン認証を入力します。
キャッシュされたス	地理的背景としてGoogle Mapsを使用している場合、ファイ ルはキャッシュされません。
マートマッフファイ ルを削除する	スマート マップはローカルコンピュータのキャッシュ フォルダーに保存されるた め、より早く読み込めます。キャッシュされたファイルをどのくらいの頻度で削除す るかを指定する際、この設定を利用します。

検索設定

検索設定では、検索機能の特定部分の動作(通常は[検索]タブ)をカスタマイズできます。

名前	説明
プレビューエリアで ビデオクリップを自 動再生	デフォルトでは、検索結果を選択すると、プレビューエリアのビデオがイベント時 刻にて一時停止します。再生を自動的に再開させる場合は、 [はい]を選択しま す。
プレビューエリアで ビデオクリップを ループ	検索結果からビデオをプレビューした場合、デフォルトではビデオシーケンスは1度 しか再生されません。これをループ再生させるには[はい]を選択します。

ジョイスティック設定

ほとんどのPTZカメラはジョイスティックで制御できますが、すべてのPTZカメラがジョイ スティックによる制御に対応しているわけではありません。

新しいジョイスティックを追加する場合は、カスタマイズ可能なデフォルトのパン/チルト/ズーム (PTZ) 構成が提供されています。

名前	説明
すべての ジョイス ティックを 無効にする	すべてのジョイスティックを無効にする場合に選択します。
追加	ビデオやユーザーインターフェースでナビゲーション用にジョイスティックを追加したい場合 に選択します。ビデオとユーザーインターフェースナビゲーションのためにジョイスティック を追加する on page 81をご参照ください。

名前	説明
ジョイス ティックの 選択	使用可能なジョイスティックのリストから選択します。
軸の設定: 名前	次の3つの軸があります。 • X軸 (水平) • Y軸 (垂直) • Z軸 (奥行きまたはズームレベル)
軸の設定: 反転表示	選択すると、ジョイスティックを移動するときにカメラが移動するデフォルトの方向を変更し ます。例えば、ジョイスティックを右へ動かすとPTZカメラが左へ移動し、ジョイスティック を手前へ動かすとPTZカメラは下へ移動するよう選択します。
軸のセット アップ絶対 的	選択すると、相対位置方式(ジョイスティックを移動すると、オブジェクトの現在の位置に基 づいて、ジョイスティック制御オブジェクトが移動)ではなく、固定位置を使用します。
軸の設定: アクション	軸の機能を選択します。 ・ カメラPTZパン ・ カメラPTZチルト ・ カメラPTZズーム ・ アクションなし
軸の設定: プレビュー	選択した設定の効果をテストできます。テストする軸の機能を選択したら、ジョイスティック を該当する軸に沿って動かすと、青のバーの動きによって効果を確認できます。
デッドゾー ン設定:パ ン/チルト	ジョイスティックのパンおよびチルト機能のデッドゾーンを指定できます。スライダーを右へ ドラッグするほど、デッドゾーンが拡大し、情報をカメラに送信するために必要なジョイス ティックの動きが大きくなります。スライダーを左端の方へドラッグすると、デッドゾーンが 無効になります(高精度のジョイスティックの場合にしか推奨できません)。軸設定プレビューを 使って、デッドゾーンの設定の効果を確認してください。

名前	説明
デッドゾー ン設定: ズーム	ジョイスティックのズーム機能のデッドゾーンを指定できます。スライダーを右へドラッグす るほど、デッドゾーンが拡大し、情報をカメラに送信するために必要なジョイスティックの動 きが大きくなります。スライダーを左端の方へドラッグすると、デッドゾーンが無効になりま す(高精度のジョイスティックの場合にしか推奨できません)。軸設定プレビューを使って、デッ ドゾーンの設定の効果を確認してください。
ボタン設 定:名前	ボタンの名前。
ボタン設 定:アク ション	目的のジョイスティックボタンのうち、使用可能なアクションを1つ選択します。
ボタン設 定:パラ メータ	該当する場合、コマンドまたはアクションのパラメータを指定します。例えば、 選択されたカ メラビューアイテムをコピーする パラメータのウィンドウとビューアイテムを指定する場合、 2;1を入力すると、最初のビューアイテム(ビューアイテム1)で、カメラがフローティング ウィンドウ(ウィンドウ2)にコピーされます。
	デバイスの製造元がキーシーケンスサポートのためにボタンを設定しており、選択したアク ションがそれをサポートしている場合、 設定 ウィンドウのパラメータフィールドは空白のまま にすることができます。そのような場合は、デバイスでキーシーケンスを入力し、アクション をトリガーするボタンを押して、パラメータをその場で入力します。
ボタン設 定:プレ ビュー	適切なボタンを設定しているか確認するには、ジョイスティックで該当するボタンを押しま す。関連するボタンが、プレビュー列で青色で表示されます。

キーボード設定

キーボードの設定によって、XProtect Smart Clientの特定の操作に対して独自のショートカットキーの組み合わせを 割り当てることができます。XProtect Smart Client には少数のデフォルトのキーボードショートカットも含まれて おり、すぐに使用できます。デフォルトのキーボードショートカット on page 101をご参照ください。

名前	説明
ショート カットキー を押す	特定のアクションに対するショートカットとして使用するキーの組み合わせを入力します。
新しい ショート カットを使 用	選択すると、ショートカットの適用方法を定義します。 • グローバル:XProtect Smart Clientのすべてのタブで有効です。 • 再生モード:ビューのあるタブのみ • ライブモード:ビューのあるタブのみ • セットアップモード:セットアップモードでのみ
カテゴリと コマンド	コマンドカテゴリを選択してから、関連付けられたコマンドを1つ選択します。すべてのビュー を一覧表示して、個々のビューのキーボードショートカットを作成する場合は、 ビュー:すべ て カテゴリを選択します。
	コマンドの中には、特定の条件でキーボードショートカットを使用した ときだけ動作するものがあります。例えば、PTZ関連のコマンドに割り 当てたキーボードショートカットは、PTZカメラを使用しているときに しか機能しません。
パラメータ	該当する場合、コマンドまたはアクションのパラメータを指定します。例えば、 選択されたカ メラビューアイテムをコピーする コマンドのウィンドウとビューアイテムを指定する場合、2;1 を入力すると、最初のビューアイテム(ビューアイテム1)で、カメラがフローティングウィン ドウ(ウィンドウ2)にコピーされます。

アラームマネージャー設定

名前	説明
アラームが発生	アラームが起動される前にビデオ再生を開始します。これは、ドアが開く前の瞬間を閲覧 したい場合などに便利です。

名前	説明
した数秒前のビ デオの再生を開 始する	
最新のアラーム をプレビュー	このチェックボックスを選択すると、新しいアラームが起動した場合にアラームリストの 選択肢が最新のリストアイテムに変わります。このチェックボックスを選択しなければ、 新しいアラームが起動してもアラームリストの選択肢は変わりません。
	アラーム発生時に音声通知を再生するかどうかを指定します。
アラームの音声 通知を再生する	フィールドがグレー表示されている場合は、XProtect Management Clientでシステム管理者によってフィールドがロッ クされています。
アラームのデス	アラームのデスクトップ通知を表示させるかどうかを指定します。これらは、XProtect Smart Clientの稼働時にしか表示されません。
クトップ通知を 表示	フィールドがグレー表示されている場合は、XProtect Management Clientでシステム管理者によってフィールドがロッ クされています。
サーバー設定を 使用	このチェックボックスは、システム管理者がXProtect Management Clientで指定した設 定を使用したい場合に選択します。

拡張設定

[詳細]設定では、XProtect Smart Clientの設定を詳細にカスタマイズできます。詳細設定とその操作方法がよく分か らない場合は、デフォルト設定のままにしてください。一部の監視システムに接続すると、サーバーに従う列が表示 されることがあります。この列を使用すると、XProtect Smart ClientがSmart Clientのプロファイルで設定されてい るサーバーの推奨設定に従うようにすることができます。一部の設定はすでにサーバーから設定されいる場合があり ます。この場合はサーバーでの設定によって、ユーザーがこれらの設定を上書きできるかどうか決まります。

名前	説明
	録画サーバーからクライアントへのライブストリームのマルチキャストをサポートしていま す。複数のXProtect Smart Clientユーザーが同じカメラからのライブビデオを再生しようとす る場合に、マルチキャストによってシステムリソースの消費量を大幅に低減できます。マルチ キャストは、複数のクライアントが同じカメラからのライブビデオを頻繁に要求し、Matrix機 能を使用する場合に特に有益です。
スト	マルチキャストは、録画されたビデオ/音声ではなく、ライブストリームでのみ可能です。
	[有効] がデフォルトの設定です。サーバーからクライアントへのマルチキャストを使用可能にす るには、XProtect Management Clientで、録画サーバーおよびカメラの機能を有効にする必要 があります。
	[無効] :マルチキャストは使用できません。
ハードウェ アアクセラ レーション	 ハードウェアアクセラレーションデコードが使用するかどうかを制御します。多数のカメラがあるビューでは、CPUの負荷が高くなります。ハードウェアアクセラレーションは、一部のCPU負荷をグラフィックスプロセッシングユニット(GPU)に移動します。これにより、コンピュータのデコード能力とパフォーマンスが上がります。これは主に高フレームレートおよび高解像度の複数のH.264/H.265ビデオストリームを表示する場合に便利です。 [自動]がデフォルトの設定です。コンピュータのデコードリソースをスキャンし、使用可能な場合は常にハードウェアアクセラレーションを有効にします。 [オフ]はハードウェアアクセラレーションを無効にします。CPUのみでデコードを処理します。
最大デコー ドスレッド	ビデオストリームのデコードに使用されるデコードスレッドの数を制御します。このオプショ ンによって、マルチコアコンピュータを使用して、ライブおよび再生モードのパフォーマンス が改善できます。実際のパフォーマンスの改善は、ビデオストリームによって異なります。こ の設定は、H.264/H.265のような高度にコード化された高解像度ビデオストリームを使用してい る場合に主に適用されます。この場合、大幅なパフォーマンスの改善が見られる可能性があり ます。たとえば、JPEGまたはMPEG-4などを使用している場合は効果が低くなります。マルチ スレッドでのデコードには一般的に大量のメモリが必要になることに注意してください。最善 の設定は、使用しているコンピュータのタイプ、表示する必要のあるカメラの数、これらのカ メラに使用される解像度およびフレームレートによって異なります。 標準では、コンピュータのコア数にかかわらず、カメラがある1つのビューアイテム当たり1つ のコアのみが使用されます。

名前	説明
	 [自動]がデフォルトの設定です。自動では、コンピュータはカメラのビューアイテムごとにコアと同じ数のスレッドを使用します。ただし、最大スレッド数は8であり、実際に使用されるスレッド数は、使用するコーデック(圧縮/解凍テクノロジー)によってこれより少なくなることがあります。 上級ユーザーは、8スレッドを上限に、使用するスレッド数を手動で選択できます。選択する数は最大数を表し、実際に使用されるスレッド数は、使用するコーデック(圧縮/解凍テクノロジー)によってこれより少なくなることがあります。
	この設定は、すべてのビュー、ライブおよび再生モードで、すべてのカ メラのビューアイテムに影響を与えます。カメラのビューアイテムまた はビューの設定を個別に指定することはできません。この設定は、すべ てのカメラのビューアイテムおよびビューに対し同様に適しているとは 限らないため、効果を監視し、必要に応じて、パフォーマンスの改善と メモリー使用量との最適なバランスを達成するよう設定を再調節するこ とをお勧めします。
アダプティ ブストリー	アダプティブストリーミング使用の有無を制御します。多数のカメラがあるビューでは、CPU とGPUの負荷が高くなります。アダプティブストリーミングを使用すれば、ビューアイテムに よって要求された解像度に最も近い解像度がXProtect Smart Clientによって自動的に選択され ます。これによってCPUとGPUの負荷が軽減するため、結果としてコンピュータのデコード能 力とパフォーマンスが上がります。 [無効]がデフォルトの設定です。自動ストリーム選択は行われていません。 [有効]に設定すると、利用可能なストリームのXProtectシステムの設定がスキャンし、選択した ビューに最も近いものが選択されます。
ミング	 アダプティブストリーミングは、ひとつのストリームしか利用できない 場合にも有効にできますが、アダプティブストリーミングを活用するに はカメラ1台につき2つ以上のストリームが必要です。
	▶ この設定は、ライブモード時にすべてのビューに適用されます。

名前	説明
インター レースの解 除	インターレースは、画面で画像をどのように更新するかを決定します。まず画像の奇数行をス キャンして画像を更新し、次に偶数行をスキャンします。スキャン時に処理する情報が少なく なるため、より高速のリフレッシュレートが可能になります。ただし、インターレースによっ てちらつきが発生したり、画像のラインの半分だけが変化する場合があります。インターレー スを無効化すると、ビデオはノンインターレース形式に変換されます。多くのカメラでイン ターレースビデオが生成されません、そして、このオプションはインターレースされていない ビデオの質やパフォーマンスに影響を与えることはありません。
	フィルターなし がデフォルト設定です。インターレースの無効化が適用され、オブジェクトを 移動したときの画像の端が特徴的なギザギザ状に表示されます。これは、画像全体の偶数およ び奇数の行を組み合わせて完全な解像度の画像が構成されるためです。ただし、これらは同時 にカメラによってキャプチャされないので、物体が動いていると、2本の行間で調整されないた め、端がギザギザに見えます。パフォーマンスへの影響:なし。
	トップフィールドの垂直伸張:このオプションでは、偶数行のみを使用します。各奇数行は前 の(偶数)行から「コピー」されます。効果として、ギザギザ状の端がなくなりますが、垂直 解像度が減少します。パフォーマンスへの影響:ポスト処理が必要な行数が半分になるため、 [フィルターなし]オプションと比較してパフォーマンスへの影響は少なくなります。
	ボトムフィールドの垂直伸張:このオプションでは、奇数行のみを使用します。各偶数行は前 のライン(奇数)から「コピー」されます。効果として、ギザギザ状の端がなくなりますが、 垂直解像度が減少します。パフォーマンスへの影響:ポスト処理が必要な行数が半分になるた め、[フィルターなし]オプションと比較してパフォーマンスへの影響は少なくなります。
	コンテンツの適応型:このオプションでは、端がギザギザに表示される画像部分にフィルター を適用します。端がギザギザに表示される領域が検知されなければ、画像は処理されず渡され ます。端のギザギザがなくなり、端がギザギザになる傾向がない画像部分では完全垂直解像度 が維持される効果があります。パフォーマンスへの影響:デコードおよびレンダリングされる フレーム当たりの総CPU使用量がおよそ10%上がるため、[フィルターなし]オプションに比べ 影響が大きくなります。
	選択したビューでビデオストリームの設定とパフォーマンスレベルを表示します。設定の検証 または問題の診断を行う必要がある場合に便利です。
こティ 診断 オーバーレ イ	次のオプションから選択します。
1	非表示 :ビテオ診断オーバーレイはありません。デフォルト設定。 レベル1:フレーム数/秒、ビデオコーデック、およびビデオ解像度を表示します。

名前	説明
	レベル2 :フレーム数/秒、ビデオコーデック、ビデオ解像度、マルチキャスト、およびハード ウェアアクセラレーション状態を表示します。
	レベル3:デバッグレベル。主にシステム管理者がシステムパフォーマンスをトラブルシュー ティングまたは最適化するための使用します。
	例えば、カメラのタイトルバーに表示されている時刻が現在の時刻と一致しない場合は、タイ ムゾーンを変更します。事前に設定されたタイムゾーンまたはカスタムタイムゾーンを選択し ます。
タイムゾー	 ローカル:対象を実行しているコンピューターのタイムゾーン。対象:XProtect Smart Client
ン	 サーバーのタイムゾーン:サーバーのタイムゾーン
	• 協定世界時
	 カスタムタイムゾーン:特定のタイムゾーンを使用する場合は、このオプションを選択し、[カスタムタイムゾーン]フィールドで、利用できるタイムゾーンのリストから希望のタイムゾーンを選択します。
カスタム時 間ゾーン	時間帯フィールドでカスタムを選択していると、コンピュータに知られている任意の時間帯を 選択できます。別の時間帯にいる2人のユーザーがインシデントを表示したい場合、同じ時間帯 にすれば同じインシデントを見ていることを簡単に確認できるので、これが便利です。
PDFレ ポートの フォーマッ ト	PDFレポートのフォーマットとして、A4またはレターを選択します。イベントのレポートを作 成できます。
PDFレ ポートの フォント	PDFレポートで使用するフォントを選択します。
ロギング (技術サ ポート向 け)	アプリケーション イベントのロギングを有効にします (たとえば、アラームが起動された場 合)。これは主にテクニカル サポートがXProtect Smart Clientで発生した問題のトラブルシュー ティングを行う際に役立ちます。

名前	説明
	ログ ファイルには、以下の3種類があります。
	ClientLogger.log
	MIPLogger.log
	MetadataLogger.log
	ログは、XProtect Smart Clientがインストールされているマシンの以下のパスにあります。
	C:\ProgramData\Milestone\XProtect Smart Client\Logs。
	これらのログは、XProtect Management Clientのシステム ログとは異なります。

言語設定

XProtect Smart Clientの言語を指定します (ユーザー インターフェイス要素を右から左に表示するかどうかなど)。 使用できる言語のリストから選択し、XProtect Smart Clientを再起動して変更を反映します。XProtect Smart Client の言語の変更 on page 80をご参照ください。

入退室管理の設定

XProtect Smart Clientでアクセスリクエスト通知をポップアップ表示させるかどうかを選択します。

×

サーバーに従うフィールドが選択されている場合は、システム管理者が**アクセスリクエスト 通知を表示する**設定を制御します。

用語集

Α

AVI ビデオでよく使用されるファイル形式。この形式の ファイルには.aviというファイル拡張子が付いていま す。

С

CPU

「Central Processing Unit(中央処理装置)」の略 語。OS とアプリケーションを実行するコンピュータ のコンポーネント。

D

DirectX

高度なマルチメディア機能を提供するWindowsの拡張 機能。

F

FIPS

「連邦情報処理規格」の略語。

FIPS 140-2

ソフトウェアまたはハードウェアを米国政府機関に販 売する前にベンダーが暗号化で使用する必要のある重 要なセキュリティパラメータを定義する米国政府規 格。

FPS

フレーム数/秒。ビデオに含まれている情報量を示す 単位。各フレームは1つの静止画像を表しますが、数 多くのフレームを連続して表示することでモーション を見ているように見えます。FPSの値が高いほど、よ り滑らかなモーションになります。ただし、FPSが高 くなるとビデオを保存したときのファイルサイズも大 きくなります。

G

GOP

画像グループ(GOP、Group Of Pictures) : 個別のフ レームをグループ化し、ビデオモーションのシーケン スを形成します。

GPU

「Graphics Processing Unit(画像処理装置)」の略 語。画像の処理を扱う演算装置。

Н

H.264/H.265

デジタルビデオの圧縮規格。MPEG と同様、この規格 には不可逆圧縮が使用されます。

L

丨フレーム

イントラフレームの略語。デジタルビデオ圧縮の MPEG規格で使用されます。Iフレームは指定された間 隔で保存される単一のフレームです。Iフレームはカメ ラのビュー全体を録画しますが、その後のフレーム (Pフレーム)は変化したピクセルのみを録画しま す。これにより、MPEGファイルのサイズを大幅に縮 小できます。Iフレームはキーフレームと類似していま す。

J

JPEG

画像圧縮方法の1つで、JPG または Joint Photographic Experts Group とも呼ばれます。この方 法はいわゆる不可逆圧縮で、画像詳細の一部が圧縮時 に失われることを意味します。この方法で圧縮した画 像は、通常 JPG または JPEG と呼ばれます。

L

LPR

「License Plate Recognition(ナンバープレート認 識)」の略語。

Μ

MAC アドレス

メディアアクセスコントロールアドレスの意味で、 ネットワーク上の各デバイスを一意に識別する 12 桁 の 16 進数です。

Matrix

一部の監視システムに組み込まれている製品で、分散 表示を可能にするためにリモートコンピュータ上でラ イブカメラビューを制御できます。Matrixによってト リガーされたビデオを表示する、Matrix 受信 PC と呼 ばれるコンピュータ。

Matrix 受信 PC

Matrix によってトリガーされたビデオを表示するコン ピュータ。

MIP

「Milestone Integration Platform」の略語。

MIP SDK

「Milestone Integration Platformソフトウェア開発 キット」の略語。

MIP エレメント

MIP SDK を介して追加されたプラグインエレメント。

MKV

「Matroska Video」の略語。MKV ファイルは、 Matroska マルチメディアコンテナ形式で保存される ビデオファイルです。複数のタイプの音声およびビデ オのコーデックに対応します。

MP4

ビデオでよく使用されるファイル形式。この形式の ファイルには.mp4というファイル拡張子が付いていま す。

MPEG

Moving Pictures Experts Group (MPEG) によって開 発された、デジタルビデオの圧縮規格とファイル フォーマットの集合。MPEG 規格は不可逆圧縮を使用 しており、キーフレーム間の変化のみを保存し、冗長 する情報の多くを除外します。キーフレームでは指定 された間隔でカメラのビュー全体のデータを保持しま すが、他のフレームは変化したピクセルデータのみを 保持します。これにより、MPEG ファイルのサイズを 大幅に縮小できます。

Ρ

P フレーム

予測フレームの略語。デジタルビデオ圧縮のMPEG規 格は、PフレームとIフレームを使用します。Iフレー ムはキーフレームとも呼ばれ、指定した間隔で保存さ れる単一のフレームです。Iフレームはカメラのビュー 全体を録画しますが、その後のフレーム(Pフレー ム)は変化したピクセルのみを録画します。これによ り、MPEGファイルのサイズを大幅に縮小できます。

PoS

「Point of Sale(販売時点管理)」の略語。通常は小 売店などのレジまたはレジカウンターを指します。

PTZ

パン/チルト/ズームの意味で、動きと柔軟性に優れた カメラです。

PTZ パトロール 複数のプリセット位置間での自動的なPTZカメラワー ク。

Q

QVGA

320×240 ピクセルのビデオ解像度。QVGAは 「Quarter Video Graphics Array」の略語です。 320×240 ピクセルの解像度は標準的な VGA 解像度 (640×480 ピクセル)の4分の1なので、この名前 が付けられました。

S

SCS

XProtect Smart Client の制御を目的としたスクリプト タイプで使用されるファイル拡張子(.scs)。

Smart Wall コントロール

さまざまなモニターに表示される内容を制御できるビ デオウォールを説明した図。

Smart Wall プリセット

XProtect Smart Client で1台以上の Smart Wall モニ ターに事前に設定したレイアウト。プリセットによ り、ビデオウォールの各モニターに表示されるカメラ とコンテンツの構成が決まります。

Т

ТСР

Transmission Control Protocol (伝送制御プロトコ ル):ネットワーク上でデータパケットを送信する際 に使用するプロトコル(規格)。TCP は多くの場合、 別のプロトコルである IP (インターネットプロトコ ル)と組み合わせて使用されます。この組み合わせを TCP/IP と呼び、ネットワーク上の2つのポイント間 でデータパケットを長時間にわたって送受信すること ができます。コンピュータとインターネット上にある 別のデバイスの接続でも使用します。

TCP/IP

Transmission Control Protocol/Internet Protocol の 略で、インターネットを含むネットワーク上でコン ピュータと他のデバイスを接続する際に使用するプロ トコル(規格)の組み合わせです。

V

VMD

ビデオモーション検知。IP ビデオ監視システムでは、 多くの場合、モーションを検知するとビデオの録画が 開始されます。これにより不必要な録画を防ぐことが できます。ビデオの録画は、その他のイベントおよび /または時間スケジュールによって開始されることも あります。

VMS

「ビデオ管理ソフトウェア」の略語。

Х

XProtect Transact

監視システムのアドオンとして使用できる製品。 XProtect Transact では、時間にリンクした PoS また は ATM トランザクションデータとビデオを組み合わ せることができます。

あ

アーカイブ

カメラのデフォルトのデータベースから、別の場所へ 自動的に録画を転送します。これにより、保存できる 録画の量は、カメラのデフォルトのデータベースの最 大サイズによる制限を受けません。アーカイブによっ て、任意のバックアップメディアに録画データを保存 することもできます。

アスペクト比

画像の高さと幅の比率。

アダプティブストリーミング

映像デコーディング能力を向上させることで、 XProtect Smart Client または他のビデオ閲覧クライア ントが実行されているコンピュータのパフォーマンス 全般を高める機能。

アラーム

XProtect Smart Client でアラームをトリガーするよう に監視システムで定義したインシデント。組織でこの 機能を使用している場合、トリガーされたアラーム は、アラームのリストまたはマップを含んでいる ビューで表示されます。

い

イベント

監視システムで発生する定義済みの状態で、これを基 に監視システムはアクションをトリガーします。監視 システムの設定によっては、外部センサーからの入 力、モーションの検知、あるいは他のアプリケーショ ンから受け取ったデータによって、イベントが発生し ます。イベントの発生は、例えば、特定のフレーム レートでのカメラ録画、出力の開始、電子メールの送 信や、それら操作の組み合わせに使用できます。

え

エビデンスロック 保護され削除できないビデオシーケンス。

お

オーバーレイボタン

ライブモードでカメラがある個別のビューアイテムに マウスのカーソルを移動させた時に、ビデオの一番上 のレイヤーとして表示されるボタン。オーバーレイボ タンは、スピーカーの起動、イベント、出力、PTZ カ メラの動作、録画開始、カメラからの信号の消去に使 用します。

オペレータ

XProtect クライアントアプリケーションのプロフェッ ショナルユーザー。

か

カードホルダー

入退室管理システムで認識できるカードを所有し、1 カ所以上のエリアや建物などの場所への立ち入りの権 限を与えられている人物。入退室管理も参照。

カスタムオーバーレイ

建物内の平面図を示したり、区画の間に境界線をマー クするなど、ユーザーがスマートマップに追加できる ユーザー定義のグラフィック要素。カスタムオーバー レイには、画像、CAD 図面、あるいはシェープファイ ルなどがあります。

き

キーフレーム

デジタルビデオ圧縮の規格(MPEG など)で使用され ます。キーフレームは指定された間隔で保存される単 ーのフレームです。キーフレームはカメラのビュー全 体を録画しますが、その後のフレームは変化したピク セルのみを録画します。これにより、MPEG ファイル のサイズを大幅に縮小できます。キーフレームは|フ レームに類似しています。

<

クラスター

デバイスまたはプラグイン要素の集合(または組み合わせ)。スマートマップ上では数字を囲む丸いアイコンとして表示されます。クラスターは特定のズームレ

ベルで現れ、特定の地理的エリア内のデバイスまたは プラグイン要素の数を示します。

Ξ

コーデック

エクスポートされた AVI ファイルなど、音声とビデオ データを圧縮および解凍するテクノロジー。

L

シーケンスエクスプローラー

シーケンスエクスプローラーは、ビュー内の各カメラ またはすべてのカメラからの録画シーケンスを表わす サムネイル画像を一覧表示します。サムネイル画像を ドラッグして簡単に時間を移動でき、サムネイル画像 を隣り合わせて比較できるため、多数のシーケンスに すばやくアクセスでき、最も適切なシーケンスを特定 して、すぐに再生できます。

す

スナップショット 特定の時点におけるビデオフレームのインスタント

キャプチャ。

スマートサーチ

1台以上のカメラが録画した1つ以上の選択されたエリ アでモーションの検知されたビデオを見つける検索機 能。

スマートマップ

地理的情報システムを使用して、地理的に正確かつ実 世界のイメージで、監視システムのデバイス(カメ ラ、マイクなど)、構造、およびトポグラフィカル要 素を視覚化するマップ機能。この機能の要素を使用す るマップは、スマートマップと呼ばれます。

τ

デッドゾーン

デッドゾーンは、情報をシステムに送信するための ジョイスティックハンドルの動作範囲を決定します。 ジョイスティックのハンドルは、使用していない時は 完全に垂直なのが理想的ですが、多くの場合、少し傾 いています。PTZ カメラの制御にジョイスティックを 使用している場合、ジョイスティックが少しでも傾い ていると PTZ カメラが動きます。このため、デッド ゾーンを設定可能としておくことが望ましい場合があ ります。

は

パトロール設定

PTZ カメラを用いたパトロール実行方法の正確な定義 (プリセット位置間の移動シーケンス、タイミング設 定など)。「パトロールスキーム」とも呼ばれます。

ひ

ビュー

1台または複数のカメラからのビデオ群で、XProtect SmartClientで一緒に表示されます。ビューには、 HTMLページや静止画像など、カメラからのビデオ以 外のコンテンツが含まれている場合もあります。 ビューには、個人ビュー(作成したユーザーのみ閲覧 可能)と他のユーザーと共有できる共有ビューがあり ます。

.ŝ.

ブックマーク

ビデオ録画の中の重要な時点で、ユーザーやユーザー の同僚が後から簡単に見つけられるように、ある時点 にマークを付け、オプションとして注記を付けること もできます。

プライバシーマスク

カメラビュー内のビデオの領域をカバーするぼかし、 あるいは単色。定義されたエリアは、クライアントの ライブ、再生、ホットスポット、画面自動切替、ス マートマップ、スマートサーチ、エクスポートモード で、ぼかされるか、隠されます。

プリセット位置

特定のイベントが発生したときに PTZ カメラが定義 された異なる方向に自動的に向くようにしたり、PTZ パトロール設定を指定するために使用できます。

フレームレート

モーションビデオに含まれている情報量を示す単位。 通常、FPS(フレーム数/秒)で計算します。

^

ペイン

XProtect Smart Client ウィンドウの左側にあるボタ ン、フィールドなどの小さな集まり。ペインでは、 XProtect Smart Client のほぼすべての機能にアクセス できます。表示されるペインは、設定およびタスクに より異なります。例えば、ライブモードでライブビデ オを見る場合と、再生モードで録画されたビデオを見 る場合ではペインが異なります。

ほ

ポート

データトラフィックの論理的エンドポイント。ネット ワークでは、データトラフィックの種類ごとに異なる ポートが使用されます。そのため、場合によっては、 特定のデータ通信でどのポートを使用するかを指定す る必要があります。ほとんどのポートは、通信に含ま れるデータの種類に基づいて自動的に使用されます。 TCP/IPネットワークの場合、ポート番号は0~65536 ですが、0~1024までは特定用途向けです。例えば、 ポート 80 は Web ページの表示に使用される HTTP トラフィック用です。

ホットスポット

XProtectSmartClientのビューで拡大したカメラ画像 や高画質のカメラ画像を表示する特定のビューアイテム。

ŧ

マップ

 XProtect Smart Clientナビゲーションやステータ スの可視化により、マップ、平面図、写真などを使用 する機能。2) ビューで使用される実際のマップ、平面 図、写真など。

れ

レイヤー

スマートマップ上の地理的背景、カスタムオーバーレ イ、あるいはカメラなどのシステム要素。レイヤー は、スマートマップ上に存在するすべての地理的要素 です。

漢字

画面自動切替

XProtect Smart Client のビューで、複数のカメラからのビデオを次々に再生できる特定の位置。

外部 IDP

XProtect VMS に関連付けてユーザー ID 情報を管理 し、ユーザー認証サービスを VMS に提供できる外部 エンティティ。

魚眼レンズ

360°のパノラマ画像を作成、表示できるレンズ。

出力

コンピュータから送られるデータ。IP 監視システム で、出力はゲートやサイレン、ストロボなどのデバイ スを起動するため、頻繁に使用されます。

静止画像

単一の静止画像。

入退室管理

建物や敷地に侵入する人物や車両、その他の存在をコ ントロールするセキュリティシステム。

録画

IP ビデオ監視システムでは、録画とはビデオを保存す ることを意味し、該当する場合、カメラからの音声を 監視システムのデータベースに保存することも意味し ます。多くの IP 監視システムでは、カメラから受信 したビデオと音声のすべてを保存する必要はありませ ん。ビデオと音声の保存は、多くの場合、モーション の検知、特定のイベントの発生、あるいは特定の時間 帯などの理由がある場合にのみ開始されます。そのた め、モーションが検知されなくなったり、他のイベン トが発生しなくなってから一定の時間が経つと、録画 は停止します。録画という用語は、録音/録画ボタン を押すまでビデオや音声をテープに保存できなかった アナログ時代の用語に由来しています。



helpfeedback@milestone.dk

Milestone について

Milestone Systems はオープンプラットフォームのビデオ管理ソフトウェア(VMS)の世界有数のプロバイダー です。お客様の安全の確保、資産の保護を通してビジネス効率の向上に役立つテクノロジーを提供しています。 Milestone Systems は、世界の 15 万以上のサイトで実証された高い信頼性と拡張性を持つソリューションによ り、ネットワークビデオ技術の開発と利用におけるコラボレーションとイノベーションを促進するオープンプ ラットフォームコミュニティを形成しています。Milestone Systems は、1998 年創業、Canon Group 傘下の独 立企業です。詳しくは、https://www.milestonesys.com/をご覧ください。

